

高等専門学校機関別認証評価

# 自己評価書

平成19年6月

米子工業高等専門学校



## 目 次

I	高等専門学校の現況及び特徴	1
II	目的	2
III	基準ごとの自己評価	
	基準1 高等専門学校の目的	5
	基準2 教育組織（実施体制）	17
	基準3 教員及び教育支援者	35
	基準4 学生の受入	53
	基準5 教育内容及び方法	65
	基準6 教育の成果	131
	基準7 学生支援等	147
	基準8 施設・設備	177
	基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム	209
	基準10 財務	227
	基準11 管理運営	233



## I 高等専門学校の現況及び特徴

### 1 現況

#### (1) 高等専門学校名

米子工業高等専門学校

#### (2) 所在地

鳥取県米子市彦名町4448

#### (3) 学科等の構成

学 科：機械工学科，

電気情報工学科（電気工学科），

電子制御工学科，物質工学科，

建築学科

専攻科：生産システム工学専攻，物質工学専攻，

建築学専攻

#### (4) 学生数及び教員数（平成19年5月1日現在）

学生数： 1,106人

単位：人

準学士課程	1年	2年	3年	4年	5年	合計
機械工学科	48	40	41	41	42	212
電気情報工学科	45	44	36	44	39	208
電子制御工学科	45	39	42	45	41	212
物質工学科	45	49	36	40	41	211
建築学科	44	44	42	36	42	208
計	227	216	197	206	205	1,051

※電気情報工学科は4年まで進行。5年は電気工学科

専攻科課程	1年	2年	合計	
生産システム工学専攻		20	15	35
物質工学専攻		5	2	7
建築学専攻		10	3	13
計		35	20	55

教員数： 77人

単位：人

	教授	准教授	講師	助教	助手	合計
一般科目	9	9	6	0	0	24
機械工学科	3	4	1	2	0	10
電気情報工学科	3	6	1	1	0	11
電子制御工学科	4	4	1	1	0	10
物質工学科	5	3	1	2	0	11
建築学科	6	2	0	3	0	11
計	30	28	10	9	0	77

### 2 特徴

米子工業高等専門学校（以下「本校」という）は、昭和39年に機械工学科・電気工学科・工業化学科の3学科構成で設置された。順調な経済成長の下支えにより、山陰地区でも建築技術者養成の要望が起こり、昭和44年に建築学科を増設した。その後、急速に発展したメカトロニクス分野の中堅技術者育成に対する社会的要請に応え

るため、昭和62年、電子制御工学科を増設し、現在の5学科体制が整った。

平成6年には、ファインケミカルとバイオテクノロジーに即応する人材養成のため、工業化学科を、材料工学コースと生物工学コースの2コースを有する物質工学科へと改組した。また、平成16年には電気工学科を慢性的な不足状態にある情報技術者養成を行うことができるよう情報関連授業を拡充した電気情報工学科とした。

平成16年度には、生産システム工学専攻、物質工学専攻及び建築学専攻の3専攻からなる専攻科を設置し、準学士課程5学科・専攻科課程3専攻、総学生定員1,040名の現体制となった。

本校の目的は、学則第1条に「教育基本法」の精神にのっとり、学校教育法に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」と定めている。この目的のために、「ものづくり」に興味関心をもつ中学卒業生を受け入れ、低学年では社会人、技術者としての基礎教育と「ものづくり」や実験・実習を通して基礎力の育成と専門に対する動機付けを行い、高学年では専門の体系的な教育を行い、基礎力を育成し、実験・実習や演習で応用力やコミュニケーション力、地域の実務経験者の講義や校外実習（インターンシップ）で課題探求・解決能力（発展力・創造性）を持つ実践的な技術教育を目指している。さらに、高度な技術者を育成するため2年間の専攻科教育にも力を入れている。

また、本校では、技術者として社会活動する際に必要な人間性向上のために、種々の課外活動を活発に行っている。体育系及び文化系クラブ・同好会を、それぞれ18部及び20部置き、指導教員が活動を支援している。クラブ・同好会活動のほか、ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、デザインコンペティションなどへの学生の参加も積極的に支援しており、優秀な成績を修めてきたことも特筆すべき点の一つである。これらの課外活動で優秀な成績を修めた者に対しては校内表彰を行い、その功績を称え、活動を奨励している。

## II 目的

### 1. 学則に定めている目的

- ・学則第1条 「米子工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、教育基本法（昭和22年法律第25号）の精神にのっとり、学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」
- ・学則第47条 「専攻科は、高等専門学校における教育の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授研究し、もって広く産業の発展に寄与する創造性豊かな人材を育成することを目的とする。」

### 2. 教育理念

「我が国の将来を担うものづくりの基盤技術を支える創造性に富んだ技術者を養成するため、地域社会と連携し、実験・実習を重視した実践的な技術教育を行う」を教育理念として掲げている。

### 3. 養成する人材像

本校では、教育理念に基づき、次のような人材を養成することを目標にしている。なお、これらの養成する人材像は、準学士課程、専攻科課程に共通のものである。

- ① 豊かな感性と高い倫理観に裏打ちされた幅広い教養を持つ人材
- ② 専門的知識と技術を活用して、実践的なものづくりを行える人材
- ③ 主体的に問題を発見し、それを解決して行く能力を有する人材
- ④ 環境保全も視野に入れて国際的に活動するとともに、地域への貢献が果たせる人材
- ⑤ 幅広い工学知識を複合させ、活用できる人材

### 4. 学習・教育目標

本校では、上記の人材を養成するため、学生が身につけるべき能力として以下の学習・教育目標を定めている。

- ① 技術者としての基礎力
- ② 持てる知識を使う応用力
- ③ 社会と自らを高める発展力
- ④ 地球の一員としての倫理力
- ⑤ 社会とかかわるためのコミュニケーション力

### 5. 達成目標

本校では、上記の学習・教育目標に基づき準学士課程卒業時及び専攻科課程修了時において、学生が具体的に身に付けておく能力として以下のような達成目標を定めている。

#### 準学士課程学生の達成目標

- ① 学び習得した知識を適切に表現し、活用することができる。
- ② 実験等で得られた結果について、すでに学んだ知識をもとに分析し、報告することができる。
- ③ 関心のある分野について継続的に学習していくことができる。
- ④ 地球や地域の環境保全を念頭に置きながら、社会生活を送ることができる。
- ⑤ 日本語及び英語の資料等を読み、適切に理解することができる。
- ⑥ 自らの考え等について分かりやすく関係者に説明することができる。

#### 専攻科課程学生の達成目標

- ① 工学に関する様々な問題等を自ら発見することができる。
- ② 発見した問題を解析し、自ら設定した行動計画のもとに解決することができる。
- ③ 専門的な英語の文献等を読み、理解することができる。
- ④ 自らの専門的知識・技術及び関連する分野の知識について、時代の進展に対応し、フォローアップすることができる。
- ⑤ 持続可能な社会を念頭に置きながら、仕事その他の社会生活を送ることができる。
- ⑥ 問題解決に向けて、チームの中で自己の意見を述べ、また他者の意見を聞きながら適切に作業を進めることができる。

⑦ 専門分野の課題について報告書等を作成し、適切な資料を用いて関係者に分かりやすく説明することができる。

## 6. 学科及び専攻の教育目標

本校では、中期計画において、各学科および各専攻の教育目標を以下のように定めている。

### (準学士課程)

#### ・一般科目

人格の形成を促し、社会人・国際人として必要な知識・技術を付与するとともに、専門教育を受けるための基礎を築くことを目標とする。

#### ・機械工学科

機械工学科は、機構、構造、材料などの運動や力学に関する基礎知識を基に、機械システムを設計・開発する能力を有し、更にこのシステムをコントロール可能な機械制御システムとして扱うことができる実践的技術者の養成を目標とする。

#### ・電気情報工学科（電気工学科）

平成16年度より電気工学科を電気情報工学科に時代の要請に基づき名称変更する。いずれも電気主任技術者認定校の資格は継続維持するとともに、電気・情報通信関連の幅広い分野で活躍できる十分な基礎学力を具備した実践的技術者の養成を目標とする。

#### ・電子制御工学科

電子制御工学科は、コンピュータによる制御技術を習得し、制御回路、制御プログラム、機械システムの開発、設計ができる実践的技術者の養成を目標とする。

#### ・物質工学科

物質工学科は、化学及び生化学を基盤とし、それらから派生する工学の基礎知識と技術を備えた実践的技術者の養成を目標とする。

#### ・建築学科

建築学科は、社会環境及び建築技術の革新に合わせた知識・技術を習得し、建築の企画、設計、生産に従事する創造的な実践的技術者の養成を目標とする。

### (専攻科課程)

#### ・生産システム工学専攻

生産システム工学専攻は、本科で学んだ機械工学、電気、電子制御工学分野の基礎知識と技術を基に、他分野の幅広い知識を修得し、学際的な技術分野における問題解決能力を備えた実践的技術者の養成を目的とする。

#### ・物質工学専攻

物質工学専攻は、材料及び生物に関する基礎的な知識・技術と、それらを個別の問題に対して応用・発展させることのできる力を身につけ、幅広い視野に立って総合的な問題解決ができる実践的開発型技術者の養成を目標とする。

#### ・建築学専攻

建築学専攻は、建築・都市・地域計画、建築環境及び建築構造に関する高度な知識と技術を身につけ、幅広い視野に立って問題解決できる創造力に富んだ実践的開発技術者を養成することを目標とする。





### Ⅲ 基準ごとの自己評価

#### 基準 1 高等専門学校の目的

##### (1) 観点ごとの分析

観点 1-1-①： 目的として、高等専門学校の使命，教育研究活動を実施する上での基本方針，及び、養成しようとする人材像を含めた，達成しようとしている基本的な成果等が，明確に定められているか。

(観点到に係る状況)

本校の目的は、準学士課程については学則第 1 条に、専攻科課程については学則第 47 条に明確に定めている(資料 1-1-①-1)。

本校では、「我が国の将来を担うものづくりの基盤技術を支える創造性に富んだ技術者を養成するため、地域社会と連携し、実験・実習を重視した実践的な技術教育を行う」を教育理念として掲げており、目的と教育理念のもとに、養成すべき人材像、学習・教育目標、準学士課程卒業時及び専攻科課程修了時に達成すべき目標を設定している(資料 1-1-①-2)。また、入学志願者に対し受け入れ側から意思表示を行う「アドミッション・ポリシー」(資料 1-1-①-3)を定めている。アドミッション・ポリシーの詳細については基準 4 で述べる。

#### 資料 1-1-①-1 本校目的に関する学則規定

米子工業高等専門学校学則(抜粋)

##### 第 1 章 本校の目的

(目的)

第 1 条 米子工業高等専門学校(以下「本校」という。)は、教育基本法(昭和 22 年法律第 25 号)の精神にのっとり、学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

(中略)

##### 第 8 章 専攻科

(目的)

第 47 条 専攻科は、高等専門学校における教育の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授研究し、もって広く産業の発展に寄与する創造性豊かな人材を育成することを目的とする。

(後略)

(出典 米子工業高等専門学校規則集データベース)

#### 資料 1-1-①-2 本校の教育理念，養成すべき人材像，学習・教育目標，達成目標

##### 1 本校の教育目標

###### 1. 教育理念

我が国の将来を担うものづくりの基盤技術を支える創造性に富んだ技術者を養成するため、地域社会と連携し、実験・実習を重視した実践的な技術教育を行う。

###### 2. 養成する人材像

本校では、この教育理念に基づき、次のような人材を養成することを目標にしています。

- ① 豊かな感性と高い倫理観に裏打ちされた幅広い教養を持つ人材
- ② 専門的知識と技術を活用して、実践的なものづくりを行える人材
- ③ 主体的に問題を発見し、それを解決していく能力を有する人材
- ④ 環境保全も視野に入れて国際的に活動するとともに、地域への貢献が果たせる人材
- ⑤ 幅広い工学知識を複合させ、活用できる人材

###### 3. 学習・教育目標

本校では、上記の人材を養成するため、学生が身につけるべき能力として以下の学習・教育目標を定めています。

- ① 技術者としての基礎力
- ② 持てる知識を使う応用力
- ③ 社会と自らを高める発展力
- ④ 地球の一員としての倫理力
- ⑤ 社会とかわるためのコミュニケーション力

###### 4. 達成目標

本校では、上記の学習教育・目標に基づき本科卒業時及び専攻科修了時において、学生が具体的に身に付けておきたい能力として以下のような達成目標を定めています。

##### 【本科学生の達成目標】

- ① 学び習得した知識を適切に表現し、活用することができる。
- ② 実験等で得られた結果について、すでに学んだ知識をもとに分析し、報告することができる。
- ③ 関心のある分野について継続的に学習していくことができる。
- ④ 地球や地域の環境保全を念頭に置きながら、社会生活を送ることができる。
- ⑤ 日本語及び英語の資料等を読み、適切に理解することができる。
- ⑥ 自らの考え等について分かりやすく関係者に説明することができる。

## 【専攻科学生の達成目標】

- ① 工学に関する様々な問題を自ら発見することができる。
- ② 発見した問題を解析し、自ら設定した行動計画のもとに解決することができる。
- ③ 専門的な英語の文献等を読み、理解することができる。
- ④ 自らの専門的知識・技術及び関連する分野の知識について、時代の進展に対応し、フォローアップすることができる。
- ⑤ 持続可能な社会を念頭に置きながら、仕事その他の社会生活を送ることができる。
- ⑥ 問題解決に向けて、チームの中で自己の意見を述べ、また他者の意見を聞きながら適切に作業を進めることができる。
- ⑦ 専門分野の課題について報告書等を作成し、適切な資料を用いて関係者に分かりやすく説明することができる。

(出典 平成 19 年度学生便覧 pp. 1～2)

## 資料 1-1-①-3 準学士課程アドミッション・ポリシー

学生募集要項 (抜粋)

## I アドミッションポリシー

本校の入学者に期待される人間像は、次のとおりです。

- ・ものづくりに関心があり、基礎学力を持った人
- ・自ら見つけた目標を達成するために挑戦していきける人
- ・文化や自然環境を大切にすること

(出典 平成 19 年度学生募集要項)

(分析結果とその根拠理由)

本校は、使命、教育研究活動を実施する上での基本方針、養成しようとする人材像を含めた達成しようとしている基本的な成果等を明確に定めている。

その根拠理由として、学則で目的を定め、さらに理念や人材像などをより平易な表現で学生便覧等の冒頭に掲げている。

**観点 1-1-②：** 目的が、学校教育法第 70 条の 2 に規定された、高等専門学校一般に求められる目的から、はずれるものでないか。

(観点到に係る状況)

学校教育法第 70 条の 2 は、「高等専門学校は、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする」と定めている。この精神に則り、資料 1-1-①-1 (5 ページに前出) に示すように、学則第 1 条に目的を定めている。この目的を基礎として、教育理念、教育研究活動上の基本方針、学習・教育目標を定めており、平成 18 年度には準学士課程卒業時及び専攻科課程修了時の学生の達成目標を新たに設定し、平成 19 年度学生便覧等に記載した(資料 1-1-①-2, 5～6 ページに前出)。また、各学科、専攻の目標を資料 1-1-②-1～3 のように定めており、各専門分野における深い専門教育を内容とし、工業技術者として職業に必要な能力の育成を目指している。

## 資料 1-1-②-1 準学士課程一般科目目標

(1) 教育の成果に関して達成すべき内容・水準

## ① 教養教育(一般科目)

人格の形成を促し、社会人・国際人として必要な知識・技術を付与するとともに、専門教育を受けるための基礎を築くことを目標とし、次のような能力を育成する。

- (1) 日本語による的確な読解力、表現力、思考力
- (2) 現代社会の成り立ちと課題を、歴史的、文化的背景とともに理解する力
- (3) 外国語によるコミュニケーション能力
- (4) 数学、自然科学及び情報技術に関する基礎的知識及びそれらを活用する能力
- (5) 自己の健康管理、能力開発を行い、自主的、継続的に活動する能力
- (6) 習得した知識を実践的かつ創造的に展開し、実際のものづくりに生かす能力

(出典 米子工業高等専門学校中期計画)

## 資料 1 - 1 - ② - 2 準学士課程専門学科目標

## ② 本科専門教育

実践的技術者として必要な次のような能力を育成する。

- (1) 基本的知識を基に、実験を計画・実行し、データを解析して結論を導く能力
  - (2) 経済性、安全性、信頼性、社会・環境への影響を考慮しながら、現実のシステムにおける問題点を見出し、解決する能力
  - (3) 常に問題意識を持ち、自分の個性を生かして自発的に問題を見つけ、解決する能力
- 各専門学科において目標とする具体的な能力は以下のとおりである。

なお、これらの能力の水準は、各学科に関連する日本技術者教育認定機構の分野別要件に準拠したものとす。

## 1 機械工学科

機械工学科は、機構、構造、材料などの運動や力学に関する基礎知識を基に、機械システムを設計・開発する能力を有し、更にこのシステムをコントロール可能な機械制御システムとして扱うことができる実践的技術者の養成を目標とする。

本学科の卒業生が備えるべき知識・技術は以下のとおりである。

- (1) 力学現象における材料と構造に関する基礎知識・技術
- (2) 力学現象におけるエネルギーと流れに関する基礎知識・技術
- (3) 機械システムの運動と振動・騒音に関する基礎知識・技術
- (4) 機械システムの設計とその生産・加工・管理に関する基礎知識・技術
- (5) 機械制御システムを扱うための情報と計測・制御に関する基礎知識・技術
- (6) 機械制御システムを構築する上での実践的ものづくりに関する基礎知識・技術

## 2 電気工学科及び電気情報工学科

平成 16 年度より電気工学科を電気情報工学科に時代の要請に基づき名称変更する。いずれも電気主任技術者認定校の資格は継続維持するとともに、電気・情報通信関連の幅広い分野で活躍できる十分な基礎学力を具備した実践的技術者の養成を目標とする。

## 電気工学科

本学科の卒業生が備えるべき知識・技術は以下のとおりである。

- (1) 電気エネルギーの発生と輸送に関する基礎知識・技術
- (2) 電気機器の設計や制御に関する基礎知識・技術
- (3) 電子デバイスや半導体集積システムに関する基礎知識・技術
- (4) 情報伝送や通信ネットワークに関する基礎知識・技術
- (5) 情報の処理、加工などの情報システムに関する基礎知識・技術

## 電気情報工学科

本学科の卒業生が備えるべき知識・技術は以下のとおりである。

- (1) 電力システムやエネルギー変換に関する基礎知識・技術
- (2) 電気・電子機器の設計や新制御方式に関する基礎知識・技術
- (3) 高速半導体デバイスや高密度集積回路に関する基礎知識・技術
- (4) 次世代のネットワークやデジタル通信に関する基礎知識・技術
- (5) インターネットのセキュリティに関する基礎知識・技術
- (6) 情報システム及びソフトウェア開発に関する基礎知識・技術

## 3 電子制御工学科

電子制御工学科は、コンピュータによる制御技術を習得し、制御回路、制御プログラム、機械システムの開発、設計ができる実践的技術者の養成を目標とする。

本学科の卒業生が備えるべき知識・技術は以下のとおりである。

- (1) 電子デバイス（トランジスタ、FET、デジタルIC等）の基礎特性及び動作を理解する能力
- (2) 電子回路や制御回路を理解するための基礎知識と開発・設計するための応用技術
- (3) コンピュータ、プログラム、情報ネットワークを理解するための基礎知識技術
- (4) コンピュータを応用した機械システムや電子制御回路を構築するためのシステム化技術
- (5) 機械システムの構造及び特性を理解するための基礎知識と開発・設計するための応用技術
- (6) 機械システムを制御・最適化するための応用技術

## 4 物質工学科

物質工学科は、化学及び生化学を基盤とし、それらから派生する工学の基礎知識と技術を備えた実践的技術者の養成を目標とする。

本学科の卒業生が備えるべき知識・技術は以下のとおりである。

- (1) 化学量論、熱力学、移動現象論に関する基礎知識と、それらを問題解決に応用できる技術
- (2) 有機化学、無機化学、物理化学、分析化学、高分子化学、材料化学、生化学、環境化学、化学工学、プロセス工学に関する基礎知識と、それらを問題解決に応用する技術
- (3) 化学プロセスに応用される情報処理、電気工学、機械工学を理解する能力

## 5 建築学科

建築学科は、社会環境及び建築技術の革新に合わせた知識・技術を習得し、建築の企画、設計、生産に従事する創造的な実践的技術者の養成を目標とする。

本学科の卒業生が備えるべき知識・技術は以下のとおりである。

- (1) 社会・環境に配慮して建築を企画・設計するために必要な基礎知識・技術
- (2) 安全な建築の構造を計画・設計するために必要な基礎知識・技術
- (3) 建築の生産を計画・管理するために、必要な基礎知識・技術

(出典 米子工業高等専門学校中期計画)

## 資料 1-1-②-3 専攻科課程目標

## ③ 専攻科専門教育

専攻科は、より高度な専門学術を教授するとともに、幅広い教養と優れた人格を備え、広く産業の発展に寄与することのできる自立した専門職業人としての技術者の養成を目標とする。専攻科各専攻は、日本技術者教育認定機構の教育プログラム認定を目指す。

各専攻は、以下の基本的能力を涵養し、その上に、各専攻の目指す能力を付与し、実践的開発型技術者を養成する。

- (1) 新たな技術を自主的に学習し、応用できる能力
- (2) 社会の要求を調査し、問題を発見し、習得した知識と技術を基にその問題を解決する能力
- (3) 習得した知識と技術の総合により、直面する課題の分析とそれを解決する能力及びその内容を第三者に伝達するコミュニケーション能力
- (4) 新たな技術が人間社会や自然環境に及ぼす影響を十分に予測できる能力

## 1 生産システム工学専攻

生産システム工学専攻は、本科で学んだ機械工学、電気、電子制御工学分野の基礎知識と技術を基に、他分野の幅広い知識を修得し、学際的な技術分野における問題解決能力を備えた実践的技術者の養成を目的とする。本専攻の修了生が備えるべき知識・技術は以下のとおりである。

- (1) 機械システム、電気機器、電子デバイスの要素技術に関する基礎知識・技術
- (2) 機械システム、電気機器、電子デバイスの材料と構造に関する応用知識・技術
- (3) 機械システムの運動と振動に関する応用知識・技術
- (4) エネルギーと流れに関する応用知識・技術
- (5) 機械システム、電気機器、電子デバイスの設計と生産に関する応用知識・技術
- (6) 機械システム、電力エネルギー、電気機器、電子デバイスを計測、制御するための応用知識・技術
- (7) 情報伝送や通信ネットワークに関する応用知識・技術
- (8) 情報の処理、加工、制御を行うための情報システムに関する応用知識・技術
- (9) 要素技術を組み合わせてシステムを構築するための応用知識・技術

## 2 物質工学専攻

物質工学専攻は、材料及び生物に関する基礎的な知識・技術と、それらを個別の問題に対して応用・発展させることのできる力を身につけ、幅広い視野に立って総合的な問題解決ができる実践的開発型技術者の養成を目標とする。本専攻の修了生が備えるべき知識・技術及び能力は以下のとおりである。

- (1) 有機化学反応を利用し、有機化合物の合成を設計する知識・技術
- (2) 無機化学反応を利用し、無機化合物の合成を設計する知識・技術
- (3) 測定原理を理解し、環境分析等に利用する知識・技術
- (4) 熱力学的諸量を用い、物質の性質を理解するとともに、化学反応予測に利用する知識・技術
- (5) 単位操作・分離技術を利用して、化学プラントを設計する知識・技術
- (6) 材料化学の知識に基づいて、材料設計に応用する能力
- (7) 生物機能について理解し、物質生産に応用する能力

## 3 建築学専攻

建築学専攻は、建築・都市・地域計画、建築環境及び建築構造に関する高度な知識と技術を身につけ、幅広い視野に立って問題解決できる創造力に富んだ実践的開発技術者を養成することを目標とする。本専攻の修了生が備えるべき知識・技術及び能力は以下のとおりである。

- (1) 建築・都市に関わる社会的・地域的な視点を養い、よりよい生活空間をその地域の風土を考慮し、機能的かつデザイン的に計画できる知識・技術
- (2) 建築の室内及び外部空間において、エネルギー負荷を考慮しつつ快適かつ適正な環境を保持するための環境要素の予測・評価・調整に関する知識・技術
- (3) 建築構造物の内外で安心して生活が営まれるよう、構造上安全かつ経済的な建築空間ならびに構造種別・形式を選択・計画できる知識・技術
- (4) 持続可能な社会を念頭におき、既存の建築・都市空間の保存再生、環境負荷の低減かつ防災を意図した評価・改修の計画技術
- (5) 建築設計及び建築現場で有効な実践的知識・創造力

(出典 米子工業高等専門学校中期計画)

(分析結果とその根拠理由)

本校の目的は、学校教育法第70条の2に規定された、高等専門学校一般に求められる目的からはずれるものではない。

その根拠理由として、学則、学科、専攻の目的が「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する」に一致している。

観点 1-2-①： 目的が、学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

(観点に係る状況)

本校の目的は学生便覧（資料 1-1-①-2、5～6 ページに前出）、学校要覧（資料 1-2-①-1）及び Web ページ（資料 1-2-①-2）に掲載している。学生便覧は全教員及び全学生に配布している。学校要覧は資料 1-2-①-3 のように校内、校外に配布されているほか、Web ページでも公開されている。また、学科及び専攻の目標（資料 1-1-②-1～3、6～8 ページに前出）は、校内 Web ページで閲覧できるほか、学生便覧及び学校要覧（資料 1-2-①-4～5）にわかり易い

形で掲載している。また、不定期ではあるが、広報誌「彦名通信」に記事を掲載するとともに、後援会総会や支部会を通じ学生やその保護者に教育目標などについて周知を図っている（資料1-2-①-6）。本校の学習・教育目標は玄関や学生昇降口の計3箇所にパネルで掲示している。また、本年4月から全教室にも掲示している。さらに、校内6箇所に設置した電子掲示板では学習・教育目標や学生の達成目標を定期的に表示している（資料1-2-①-7）。このほか、新入生のオリエンテーションにおいて学校の目的等を周知している（資料1-2-①-8）。また、学校の目的等の周知の度合いは、教職員及び学生へのアンケートで検証している（資料1-2-①-9）。このアンケート結果より、教職員については学校の目的が十分に周知できていると判断できる。また、学生については60%以上の学生が卒業時に達成すべき目標（学習・教育目標）を知っているが、まったく知らないとした学生も10%強いることから、さらに多くの学生に目的等を周知する方法を検討している。

### 資料1-2-①-1 学校要覧の目的の部分



校 長  
President

水 島 和 夫  
MIZUSHIMA Kazuo

#### 本校の教育目標

教育理念

我が国の将来を担うものづくりの基盤技術を支える創造性に富んだ技術者を養成するため、地域社会と連携し、実験・実習を重視した実践的な技術教育を行う。

養成すべき人材像

教育理念に基づき、次のような人材を養成する。

1. 豊かな感性と高い倫理観に裏打ちされた幅広い教養を持つ人材
2. 専門的知識と技術を活用して、実践的なものづくりを行える人材
3. 主体的に問題を発見し、それを解決して行く能力を有する人材
4. 環境保全も視野に入れて国際的に活動するとともに、地域への貢献が果たせる人材
5. 幅広い工学知識を複合させ、活用できる人材

学習・教育目標

本校では目指すべき技術者を養成するため、学生に以下の能力が身につくよう教育を行う。

1. 技術者としての基礎力
2. 持てる知識を使う応用力
3. 社会と自らを高める発展力
4. 地球の一員としての倫理力
5. 社会とかわるためのコミュニケーション力

— Goal of College education —

Educational Philosophy

Fostering creative engineers who promote fundamental technology for the future production system in Japan by providing technical education, with a lot of experiments and practical training, in close cooperation with the local community.

Ideal types of engineers to be fostered

To fulfill the above philosophy we aim to foster talented engineers as:

1. Engineers with a broad education bolstered by great sensitivity and ethics
2. Engineers with the ability to engage in practical production by making use of technical knowledge and skills
3. Engineers with the ability to discover and solve problems on their own initiative
4. Engineers with the ability to act internationally in consideration of the environmental protection, and to contribute to the local community
5. Engineers with the ability to compound and make use of broad engineering knowledge

Goals of Learning and Education

To foster the above engineers we provide students with education to have them develop these abilities:

1. Basic learning ability for engineers
2. Practical ability to make use of one's knowledge
3. Developmental ability to improve society
4. Ethical ability as a member of the earth
5. Communicative ability to interact with society

（出典 平成18年度 学校要覧）

## 資料 1 - 2 - ① - 2 目的を掲載した Web ページ

## ■教育理念

## ○教育理念

我が国の将来を担うものづくりの基盤技術を支える創造性に富んだ技術者を養成するため、地域社会と連携し、実験・実習を重視した実践的な技術教育を行う。

## ○養成すべき人材像

教育理念に基づき、次のような人材を養成する。

1. 豊かな感性と高い倫理観に裏打ちされた幅広い教養を持つ人材
2. 専門的知識と技術を活用して、実践的なものづくりを行える人材
3. 主体的に問題を発見し、それを解決して行く能力を有する人材
4. 環境保全も視野に入れて国際的に活動するとともに、地域への貢献が果たせる人材
5. 幅広い工学知識を複合させ、活用できる人材

## ○学習・教育目標

本校では目指すべき技術者を養成するため、学生に以下の能力が身につくよう教育を行う。

- A. 技術者としての基礎力
- B. 持てる知識を使う応用力
- C. 社会と自らを高める発展力
- D. 地球の一員としての倫理力
- E. 社会とかがわるためのコミュニケーション力

(出典 米子高専 Web ページ)

## 資料 1 - 2 - ① - 3 学校要覧配布物配布先一覧

配 布 先	部 数
職 員 等	38
名誉教授	27
国立高等専門学校	54
中国地区国立大学法人等	10
豊橋技術科学大学	1
長岡技術科学大学	1
文部科学省高等教育局専門教育課	1
国立学校財務センター	1
独立行政法人高等専門学校機構本部	10
鳥 取 県	1
米 子 市	1
境 港 市	1
鳥取県産業技術センター	3
(財)鳥取県産業振興機構	1
米子高専振興協会	100
教務係(進路指導用, 留学生用, 入試説明会用)	200
学生係(就職用)	200
後 援 会	50
P R 用	300
保 存 用	1
予 備	199
合 計	1,200

(出典 総務課資料)

資料 1 - 2 - ① - 4 各学科・専攻の目的  
(抜粋)II 教育課程  
(中略)

一般科目・各学科・専攻科の概要

一般科目

(中略)

これらの教育を通じて、わが国に、更に国際社会に役立つ有為な人材を育て送り出すことが、本校の一般科目の教育理念であり、目的である。

機械工学科

(中略)

本校の機械工学科では、まず学生がこの機械工学の「基礎知識」をしっかりと身につけること、そしてそれらの基礎を実際の場面で「応用」できる力を磨くことを大きな目標においている。その上に立って、より高度な機械を創り出す上で欠かせない、電気工学、電子工学、情報処理、さらにコンピュータによる機械の制御に関する基礎的内容も取り入れることにより、個々の機械だけでなく、より幅広い立場に立って「機械システム」を扱える技術者の養成を目指している。

(後略)

(出典 平成 19 年度学生便覧 pp. 5～12)

資料 1 - 2 - ① - 5 各学科・専攻の目的  
(抜粋)

専攻科は、高専5年間の教育課程の上に、より高度な専門的知識と技術を教授し、豊かな創造力と卓越した研究開発能力をもった高度実践的技術者を育成するために設けられた2年制の課程です。

専攻科の課程を修了すると、大学評価・学位授与機構の認定を得て、学士（工学）の学位を取得できます。これにより、大学卒業と同じ資格で就職したり、大学院への進学が可能となります。

**生産システム工学専攻** Production System Engineering Course

情報技術と異種分野の融合が拡大しつつある現在、高度に発達した情報システムによってネットワーク化された電気・電子、機械・制御技術に対応するために、柔軟な適応能力と広い視野を持った実践的技術者を育成します。

**物質工学専攻** Materials Science Course

材料工学及び生物工学に関する基礎的な知識・技術と、それらを個別の問題に対して応用・発展させることのできる力を身につけ、幅広い視野に立って総合的な問題解決ができる実践的技術者を育成します。

**建築学専攻** Architecture Course

建築学に関する幅広い教養と豊かな人間性を備え、建築・都市・地域計画、建築環境及び建築構造に関する高度な知識と技術を身につけ、幅広い視野に立って問題解決できる実践的で創造性に富んだ技術者を育成します。

(出典 平成 18 年度学校要覧 pp. 8～19)

資料 1 - 2 - ① - 6 広報誌「彦名通信」  
(抜粋)

**米子高専の充実に向けて、  
新年度からの取組**

校長 水島 和夫



平成18年度が始まっています。5月26日、設備面で後援会から貴重なご支援をいただいた専攻科棟の竣工式が行われました。昨年11月には実習工場が「ものづくりセンター」と名を改めてリニューアルされるなど、

平成14年の校舎全面改修以来続けてきた本校の施設面の充実は一歩進みました。これからは、本校の中身の一面の充実を図ることが求められ、そのための取組を進めています。取組の第一は、本校教育理念の徹底・実実です。平成18年度版の学生規程に明示しましたが、本校が「日本の将来を担うものづくりの基盤技術を支える創造性に富んだ技術者」として養成を目指す従前からの4つの人材像に、新たに、「幅広い工学知識を複合させ、活用できる人材」を加えました。今春第1回修了生を送り出した専攻科の教育に対処するもので、より高度な実践的開発型技術者の育成を図っていく取組です。

さらに、教育理念の中に新たに、「学習・教育目標」として、本校の教育の中で学生に身につけてもらう能力を掲げました。1.技術者としての基礎力、2.持てる知識を応用する力、3.社会と自らを高める発展力、4.地球の一員としての倫理力、5.社会と関わるためのコミュニケーション力、

の5つです。これは、国際的水準の技術者教育を行う高等専攻科として認められるために本校が目指す A B E E (日本技術者教育認定機構)の審査に対応するためのもので、この教育目標に沿ってカリキュラム等の改善・充実を進めており、この新学期から授業時間も従来の45分を50分に改めました。

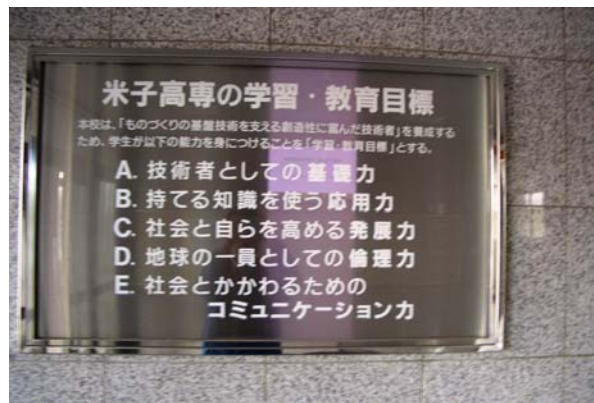
上記5つの能力は授業の中で培えるものではなく、課外活動その他5年間の学生生活の中で総合的に形成されるものです。中でも、「コミュニケーション力」については、学生が将来社会に出た時に必要とされ、今後一層重要性が増すと考えられますので、自らの考えや研究を相手に分りやすく表現し、質問にも適切に応じ得る能力、例えば卒業研究の口頭発表会を適切に行なうこととしたいと思えます。

以上のように、米子高専は教育面の充実と努力を継続していきませんが、学生の情熱についても一層の心配りが必要だと考えています。今年度から学校として試みる学生の取組会（劇団を招いての演劇鑑賞会を9月に予定。）は新しい取組の一つです。また、学生の心の相談にあたる専門のカウンセラーをこの4月から2名体制にしました。

(出典 平成 18 年 7 月 No. 145 彦名通信)

資料 1 - 2 - ① - 7 パネル掲示・電子掲示板

パネル掲示 (正面玄関)



電子掲示板 (正面玄関)



## 資料 1 - 2 - ① - 8 新入生オリエンテーション資料

## 平成 1 8 年度新入生オリエンテーション日程表

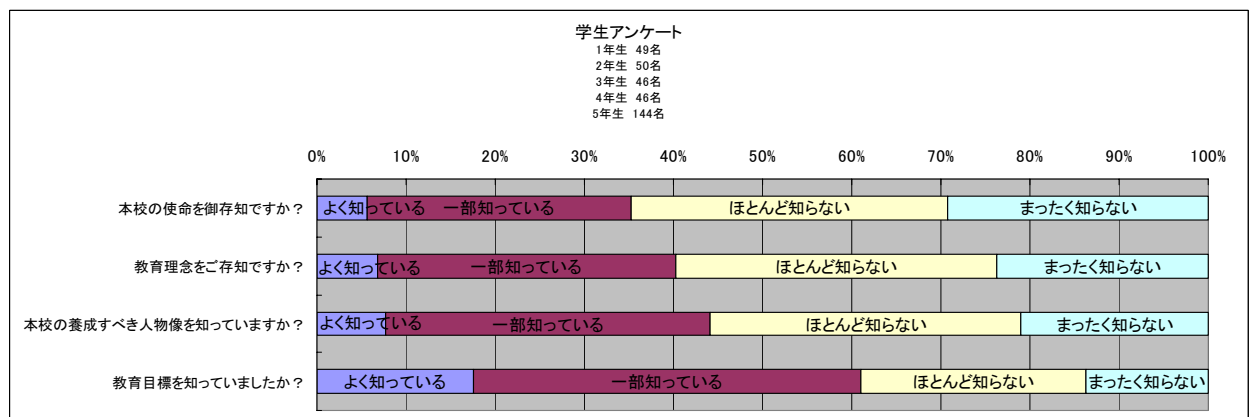
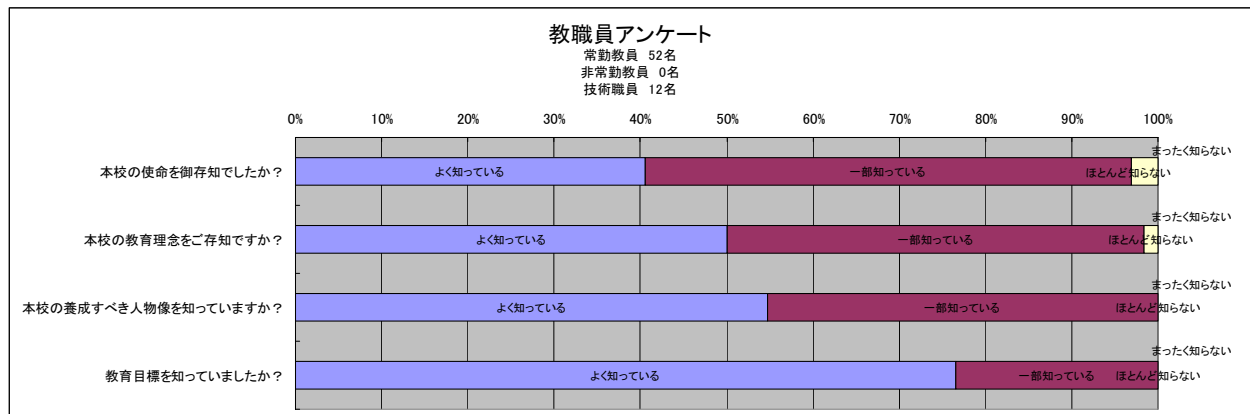
日 時 平成 1 8 年 4 月 6 日 (木) ~ 4 月 7 日 (金)  
場 所 本校・大山ホワイトパレス TEL (0859) 52-2721

4月6日(木)				4月7日(金)			
時刻	行 事	担 当	場 所	時刻	行 事	担 当	場 所
8:45	点呼 H・R			7:30	起床・洗面		
	合同講義室へ誘導	学級担任		8:00	点呼	室長・担任	
9:00	講話	教務主事 学生主事 学生相談室長	合同講義室	8:30	朝食		
	玄関前へ誘導			9:00	クラス別ミーティング	学級担任	
9:30	写真撮影(撮影の合間にH・R)	学生部	玄関前	10:30	大山寺まで散歩	学級担任	雨天時: クラス別ミーティング
11:00	学校出発			12:30	昼食 整理・清掃		
12:00	宿舎到着・身辺整理			13:30	感想文等作成	学級担任	食事の場所
12:30	昼食			14:00	点呼	学級担任	
13:30	講話	教務部 教務主事補		14:10	宿舎出発	室長・担任	
16:00	クラス別ミーティング	学級担任		15:00	学校到着(男子は米子駅のみで途中下車可)		
18:30	夕食			15:30	講話	学生部	合同講義室 (女子学生のみ)
19:30	入浴 男子 M科 19:30 ~ 22:00 地階浴室A E科 19:30 ~ 21:00 1階浴室E D科 19:30 ~ 21:00 地階浴室B C科 21:00 ~ 22:00 1階浴室E A科 21:00 ~ 22:00 地階浴室B 女子 M, E, D科 19:30 ~ 20:30 地階浴室C C科 20:30 ~ 22:00 地階浴室C A科 19:30 ~ 22:00 地階浴室D			16:00	解散		
22:10	点呼	室長・担任	廊下	◎食事場所: 当日指示			
23:00	消灯			◎クラス別ミーティングの内容及び場所 自己紹介 諸規則等の説明(学生便覧とシラバス) クラス役員の選出 健康の日の日程について 場所 当日指示			
				◎朝の点呼 晴天時: 前庭 雨天時: 食事の場所			

(出典 学生課資料)



資料 1-2-①-9 教職員・学生アンケート結果



(出典 平成 18 年度第 2 回評議員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校の目的は、学校の構成員に配布物により繰り返し周知しているほか、入学時のオリエンテーションで始めに周知している。また、校内への学習・教育目標の掲示を行い、常に学校の構成員が確認できるようにしている。

以上のように、構成員には様々な方法で周知を行っているが、約10%の学生には学習・教育目標等が認識されていないため、今後一層の周知努力が必要である。

**観点 1-2-②： 目的が、社会に広く公表されているか。**

(観点到に係る状況)

本校の理念、人材像、学習・教育目標等を掲載した学校要覧(資料1-2-①-1, 9ページに前出)を米子高専振興協力会、入試説明会、求人企業、後援会などに広く配布(資料1-2-①-3, 10ページに前出)することにより公表しているほか、年2回実施している学校見学会(オープンキャンパス)や県内外で行われる学校説明会で本校のアドミッション・ポリシーなどを記載した学校パンフレット(資料1-2-②-1)を中学生などに配布している。また、校外で実施している公開講座、ジョイント講座や出前講座にも学校要覧や学校パンフレット等を持参し、参加者に配布している。さ

らに、Webページに理念、人材像等を掲載したページを作成し（資料1-2-①-2，10ページに前出），学校要覧や学生募集要項（資料1-1-①-3，6ページに前出）などもWebページで公開することによって広く社会に公表している。また，学習・教育目標を校内玄関等に掲示し（資料1-2-①-7，11ページに前出），来校者に広く公開している。公表の度合い及び外部の認識度については，本校卒業生・修了生の就職先企業にアンケートを実施し，検証している（資料1-2-②-2）。

資料1-2-②-1 学校パンフレット

準学士課程学校パンフレット

15才から専門家を目指す

米子高専では次のような人を求めています。(タテマツルプロフェッショナル)

- 1.ものづくりに関心が多し、基礎学力を持った人
- 2.自ら見つけた目標を達成するために挑戦しつづける人
- 3.文化や自然環境を大切にできる人

5つの専門学科と専攻科

- M 機械工学科
- E 電気情報工学科
- D 電子制御工学科
- C 物質工学科
- A 建築学科
- S 専攻科

1学年：5学科×40名=200名  
1学年：3専攻科=20名

プロを育てる5年間一貫教育

**米子高専 2007**

ヨナゴ コサケン

米子工業高等専門学校  
〒683-8502 鳥取県米子市彦名町4448  
学生課 教務課 Tel.0859-24-5022  
E-mail: pr@yonago-k.ac.jp  
URL: http://www.yonago-k.ac.jp/

問い合わせ先

(資料1-2-②-1 学校パンフレット)

専攻科課程学校パンフレット

独立行政法人 国立高等専門学校機構  
**米子工業高等専門学校 2007**  
**専攻科** 生産システム工学専攻  
 物質工学専攻  
 建築学専攻

**米子で取れる大卒資格\***

※専攻科の課程を修了し、(注)大学評価・学位授与機構の審査に合格すると、大学卒業と同等の学位を得て、就職・進学することができます。

H18年度 専攻科棟 運用開始!

オープンキャンパスでの特別研究発表発表会

**専攻科とは**

専攻科は、高専本科5年間の教育課程の上により高度な専門的知識と技術を教授し、豊かな創造力と卓越した研究開発能力をもった高度実践的技術者を養成するために設けられた2年間の課程です。本専攻科では、特に以下の視点を備えた技術者の育成を行います。

(1)幅広い教養と豊かな創造性  
 (2)高度な実能力  
 (3)国際性

そのため、高い技術力に支えられた高専制度の特徴である、少人数教育による学習システムを推進しています。そして、実験・実習等の実践的教育に基づいた、豊かな創造力と卓越した研究開発能力及び問題解決能力を身に付けられるべく、地味的視点から歴史・文化や英語・資源に対する理解と国際的に通用するコミュニケーション能力を磨き、地域社会及び国際社会への貢献ができる技術者の育成を行います。

大学院  
 大学  
 高校

進学  
 就職  
 社会人

専攻科  
 高専 専攻科  
 高専 本科

専攻科の位置付け

平成19年度の入学試験概要

募集人数	●生産システム工学専攻 12名 ●物質工学専攻 4名 ●建築学専攻 4名		
選抜区分	出願期間	検査日	選抜方法
推薦選抜	平成18年5月15日(月)～5月18日(木)	平成18年5月27日(土)	面接検査
学力選抜	前期日程 平成18年6月12日(月)～6月15日(木)	平成18年6月24日(土)	学力検査・面接検査
社会人特別選抜	平成18年11月27日(月)～11月30日(木)	平成18年12月9日(土)	面接検査

- 検定料 16,500円
- 入学資格 (次のいずれかに該当する者)  
 (1)高等専門学校を卒業した者。  
 (2)短期大学を卒業した者。  
 (3)専修学校の専門課程を修了した者のうち大学に編入することができる者。  
 (4)外国の学校教育における14年の課程を修了した者。  
 (5)その他専攻科において、高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者。
- アドミッションポリシー  
 (1)基本的知識を有し、さらに高度な専門知識を学びたい人  
 (2)主体的に物事に取り組み、解決しようとする意欲のある人  
 (3)学んだ技術を生かして社会に貢献する意欲のある人  
 (4)他の人と協働しながら物事に取り組める人

卒業後の進路 (平成17年度)

- 専攻科修了者に対する企業及び大学院の評価は高く、希望する進路へ容易に進むことができます。
- 主な就職先  
 NITフロンティアズ  
 日産テクノ  
 セブテック建築研究所  
 日本セラミック  
 オムロン倉吉  
 鳥取三洋電機
- 主な進学先  
 奈良先端科学技術大学院大学  
 鳥取大学大学院  
 九州工業大学大学院

\*高専→大学院への最短コース!

勉学に必要な経費

項目	金額
入学科	84,600円
授業料	年額 234,600円
教科書代	別途各専攻から指示があります。

入学科・授業料は国立大学の半額以下!

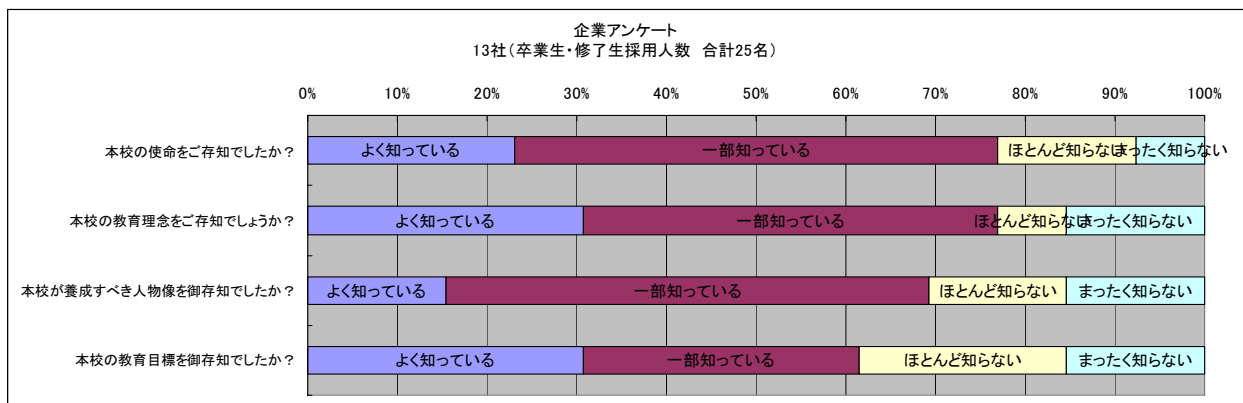


奨学金制度など

経済的理由により修学が困難な方については、日本学生支援機構等の奨学金制度があります。また、入学科、授業料の免除制度があります。専攻科の免除基準は本科のものよりも緩やかで、成績優良であれば、比較的免除しやすい傾向にあります。

(出典 平成18年度学校パンフレット)

資料1-2-②-2 企業アンケート結果



(出典 平成18年度第2回評議員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校の目的を社会に広く公表している。

その根拠理由として、上記に示す印刷物の配布、Webページによる公開を行っており、アンケート結果から広く社会に公表・認識されている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### (優れた点)

本校の学習・教育目標などは、学生便覧や学校要覧などに掲載し、玄関等複数箇所にパネルや電子掲示板で掲示しており、学校の構成員すべてに公表している。さらに、本校の入学希望者や求人企業等にも公表している。

### (改善を要する点)

本校の目的・学習教育目標が学生へ十分に周知されているとは言えず、より一層の周知努力が必要である。

## (3) 基準 1 の自己評価の概要

本校は、学校教育法第70条の2に基づき、本校の使命、教育研究活動上の基本方針、学習・教育目標及び学生の達成目標を明確に定めている。これらは高等専門学校一般に求められる目的からはずれたものではない。そして、これらを学生便覧など学生等に配布する資料、学校要覧などの広報資料あるいはWeb等に掲載するとともに、掲示板及び電子掲示板で表示し、学校構成員及び社会に対する周知を図る努力を行っている。

## 基準 2 教育組織（実施体制）

## （1）観点ごとの分析

観点 2-1-①： 学科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点到に係る状況）

本校では社会の要請に応じて順次学科を増設・改組し、現在では準学士課程は機械工学科、電気情報工学科、電子制御工学科、物質工学科、建築学科の5学科構成である（資料 2-1-①-1）。準学士課程では、学生定員は各学科、各学年で40名、総定員数1000名である。各学科の目的は、資料 1-1-②-1～2（6～7 ページに前出）のように設定しており、学則第1条の学校の目的「深く専門の学芸を教授し」及び「職業に必要な能力を育成する」（資料 1-1-①-1、5 ページに前出）と整合性のとれたものになっている。上記の目的を達成するため、本校では「わが国の将来を担うものづくりの基盤技術を支える創造性に富んだ技術者を養成するため、地域社会と連携し、実験・実習を重視した実践的な技術教育を行う」という教育理念を掲げ、それを具体化した学習・教育目標を設定し、教育を実施している。具体的には、低学年では社会人、技術者としての基礎教育と「ものづくり」や実験・実習を通して基礎力の育成と専門に対する動機付けを行い、高学年では体系的な専門の基礎力を育成し、実験・実習や演習で応用力やコミュニケーション力、地域の実務経験者の講義や校外実習（インターンシップ）で課題探求・解決能力（発展力・創造性）を持つ実践的な技術教育を目指している。

## 資料 2-1-①-1 準学士課程学科構成

第7条 学科、学級数及び入学定員は、次の表のとおりとする。

学科	学級数	入学定員
機械工学科	1	40人
電気情報工学科	1	40人
電子制御工学科	1	40人
物質工学科	1	40人
建築学科	1	40人

（出典 米子工業高等専門学校学則）

（分析結果とその根拠理由）

本校の学科の構成は、本校の教育の目的を達成する上で適切である。その根拠理由として、本校の準学士課程は工学全般にわたる機械工学科、電気情報工学科、電子制御工学科、物質工学科、建築学科の5学科構成であり、社会人及び技術者として必要な基礎教育及び各専門の体系的かつ実験・実習を重視した教育を行っている。

観点 2-1-②： 専攻科を設置している場合には、専攻科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点到に係る状況）

専攻科課程は生産システム工学専攻、物質工学専攻、建築学専攻の3専攻構成である（資料 2-1-②-1）。生産システム工学専攻は準学士課程の機械工学科、電気情報工学科、電子制御工学科を統合した学際的な専攻となっている。目的は、学則第47条に「専攻科は、高等専門学校における教育の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授研究し、もって広く産業の発展に寄

## 資料 2-1-②-1 専攻科課程専攻構成

（専攻及び入学定員）

第48条 専攻及び入学定員は、次の表のとおりとする。

専攻	入学定員
生産システム工学専攻	12人
物質工学専攻	4人
建築学専攻	4人

（出典 米子工業高等専門学校学則）

与する創造性豊かな人材を育成する」と定めている（資料1-1-①-1，5ページに前出）。この目的は学校教育法70条の6に沿ったものである。各専攻の目的は，資料1-1-②-3（8ページに前出）のとおりであり，これは学則第47条に合致したものである。

（分析結果とその根拠理由）

本校の専攻科の構成は，本校の教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。その根拠理由として専攻科は，産業界の必要分野を考慮した準学士課程専門5学科と関連させた3つの専攻からなっており，目的は学校教育法の目的に合致し，広く産業の発展に寄与する人材を育成するという本校の目的を達成する上で適切なものといえる。

**観点2-1-③： 全学的なセンター等を設置している場合には，それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。**

（観点に係る状況）

本校には，教育の目的を達成するための全学的に共通で使用できる施設として，図書館情報センター，技術教育支援センター，保健室，学生相談室，福利厚生施設がある。各施設の名称と役割を資料2-1-③-1に示す。また，これらの施設の規則を資料2-1-③-2～4に示す。

本校では平成16年度に図書館と情報処理センターを統合して図書館情報センターとした。この図書館情報センターは図書館及び情報処理教育を行う情報教育施設からなる全学科共通施設である。情報教育施設の授業における利用状況を資料2-1-③-5に示す。また，図書館情報センターは，インターネット受発信の窓口機能を有している。学生はインターネットを通して各種の情報を得ることができ，また就職活動にも利用している。なお，図書館情報センターの図書館に関する規則や利用実績については，基準8で述べる。

技術教育支援センターの主な業務は，一般科目，各学科，各専攻の実験実習時の教育支援と卒業研究・特別研究での支援であり，その中にもものづくりセンターも含まれ，ものづくりセンターでは上記教育支援のほか各種コンテストへの技術指導・支援，学生・教員が教育研究に必要な道具・器具の製作及び実験・実習に関する技術相談に応じている。授業支援及び技術支援の状況を資料2-1-③-6～7に示す。

資料2-1-③-1 主なセンター等一覧

施設の名称	主な役割
図書館情報センター	図書館及び情報処理教育施設・設備の管理運用を行う。
技術教育支援センター	技術に関する専門教育及び教育研究の支援を行う。
保健室及び学生相談室	学生生活の支援を行う。
福利厚生施設（白砂会館ほか）	学生及び教職員の研修等に使用する。

（出典 米子高専規則集などより抜粋）

## 資料 2-1-③-2

## 米子工業高等専門学校図書館情報センター規則（抜粋）

（設置）

第1条 米子工業高等専門学校に図書館情報センター（以下「センター」という。）を置く。

2 センターに図書館及び情報教育施設を置く。

（業務）

第2条 センターは、教育・研究資料の収集を行い、本校の有する教育・研究資源を円滑かつ効果的に管理運用し、有機的・効果的利用を図るため、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 図書館業務に関する事
- (2) 情報教育に関する事
- (3) 校内情報ネットワークに関する事

（出典 米子工業高等専門学校規則集データベース）

## 資料 2-1-③-3

## 米子工業高等専門学校技術教育支援センター規則（抜粋）

（設置）

第1条 米子工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、技術に関する専門的業務を円滑かつ効果的に処理するとともに、教育研究支援体制の充実に資することを目的として、技術教育支援センター（以下「センター」という。）を置く。

（業務）

第2条 センターの所掌業務は、次のとおりとする。

- (1) 教育及び研究に対する技術支援の基本計画の策定に関する事。
- (2) 学生の実験、実習、卒業研究等の準備等及び技術指導に関する事。
- (3) 技術の継承及び保存並びに技術向上のための技術研修、技術発表会及び技術講演会等の企画・実施等に関する事。
- (4) 技術支援に関する事。
- (5) 技術資料の作成、保管及び提供等に関する事。
- (6) 学科等の運営の支援に関する事。
- (7) その他のセンターの目的達成のため必要な事項に関する事。

（出典 米子工業高等専門学校規則集データベース）

## 資料 2-1-③-4 保健衛生・福利厚生施設案内

## V 保健衛生・福利厚生

保健衛生・福利厚生施設として、保健室、学生相談室および食堂・売店があります。学生が日常生活を安全で健康に過ごすことができるように配慮された施設です。

## 1. 保健室

学生や職員の健康診断、健康相談、救急処置を行っています。

常時看護師が待機しており、救急処置の医薬品も常備しています。

また、日本スポーツ振興センターの学校管理下での災害事故に関する医療費・見舞金等の請求手続き、連絡事務も行っていきます。

学校医が定期的に来校し健康相談を行っています。

（中略）

## 2. 学生相談室規則

学校生活を送る上での悩みを解決するために必要な援助とサービスを行っています。少しでも悩みが解決できるよう開室していますので、気軽に来室してください。

また、専門のカウンセラーに相談することもできます。その場合は、あらかじめ保健室で予約することが必要です。

相談内容については秘密を厳守します。

相談日時 相談室前に掲示

専用電話 (0859-24-5262)、相談ポスト

E-mail (sodan@yonago-k.ac.jp)でも相談を受け付けています。

## 3. 福利厚生施設

福利厚生施設（白砂会館）には、学生・職員のための食堂、集会・研修・課外活動等のための研修室等があります。

研修室の使用時間 9時～19時

研修室を使用する場合は、学生課学生係に使用許可願を提出してください。

## 4. 食堂・売店

営業時間

売店 8:00～17:00

食堂 9:00～14:00

（出典 平成19年度学生便覧 pp.18～19）

資料2-1-③-5 平成19年度図書館情報センター利用状況

		第1端末室	第2端末室
月	1	5M	2A
	2	1C	2A
	3	2C	4D
	4	1A	4D
	5		
	6	4E	
	7	4E	
	8		

火	1	2D	
	2	2D	
	3	3M	5E
	4	3M	5E
	5	1D	3E
	6		3E
	7	5E	3E
	8	5E	

水	1	3E	5D
	2	3E	5D
	3	3M	5M
	4	1E	5M
	5		2E
	6	1D	2E
	7	1D	
	8		

木	1	3D	
	2	3D	
	3		5E
	4		5E
	5	2M	3C
	6	2M	
	7		
	8		

金	1	1M	
	2		
	3	1E	
	4		
	5	2D	
	6	2D	
	7	1E	
	8		

Mは機械工学科, Eは電気情報工学科(電気工学科), Dは電子制御工学科, Cは物質工学科, Aは建築学科  
また, 数字は準学士課程の学年を示す。

	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	物質工学科	建築学科	専攻科
週当たり情報処理施設利用時間	9	18	13	3	3	0

(出典 教務係資料)



資料2-1-③-6 平成19年度教育支援時間

	六宮	横田	大塚	岡部	山根	和田	松原	大谷	景山	上田	ものづくりセンタ	遠藤	
月	1	5M情報		1D製図	1D製図					2A情報	1A物3		
	2	5M実験	5M実験	1D製図	1D製図		1E物3	1C情報		2A情報			
	3	5M実験	5M実験				1E実験	1M化1	2C情報		1E実験		
	4	5M実験	5M実験				1E実験	1M化5		1A情報	1A情報	1E実験	
	5		2M物4				2E物4	1C実験	1C実験	5A卒研/3Aテザ	5A卒研/3Aテザ	1M実験	
	6		2M物4	1D実験	1A化1		2E物4	1C実験	1C実験	5A卒研/3Aテザ	5A卒研/3Aテザ	1M実験	
	7			1D実験	1A化5			1C実験	1C実験	5A卒研	5A卒研	1M実験	
	8									5A卒研	5A卒研		
火	1			2D製図	2D製図				1A製図	4A製図			
	2			2D製図	2D製図			1C化1	1A製図	4A製図			
	3	3M製図	3M製図			5E設計		1C化5					
	4	3M製図	3M製図			5E設計					1D物3		
	5		1C物3		1D情報	3E実験	3E実験	4C実験	5I	4A製図/S1	3M実験		
	6	4E応物4		4E応物4		3E実験	3E実験	4C実験	5I	4A製図/S1	3M実験		
	7	4E応物4		4E応物4		3E実験	3E実験	4C実験	5I	4A製図/S1	3M実験		
	8									4A製図			
水	1					3Eテラ			3A情報	3A情報			
	2					3Eテラ	3C実験	3C実験	3A情報	3A情報			
	3	3M情報	3M情報				3C実験	3C実験			1M物3		
	4					1E情報	3C実験	3C実験			1A物1		
	5			3D実験			2Eテラ	2C実験	2C実験	2D化5	2A製図	2M実験	
	6			3D実験	1D情報	4D応物5	2Eテラ	2C実験	2C実験	4D応物3	2A製図	2M実験	1E物1
	7	1M W・S		3D実験	1D情報	4D応物5		2C実験	2C実験	卒研/4D応物3	2A製図/卒研	2M実験	
	8												
木	1				D3概論						1M物1		
	2				D3概論	4E実験		1D化1	3A製図				
	3	1M製図	1M製図		D2実験	4E実験		1D化5	3A製図		2D実験	2A物4	
	4	1M製図	1M製図		D2実験	4E実験			3A製図		2D実験	2A物4	
	5	2M図形W・S	2M図形W・S	4D実験	4D実験	5E実験	5E実験		3C情報	3A製図	2E化5	2D物4	
	6	2M図形W・S	2M図形W・S	4D実験	4D実験	5E実験	5E実験	2C演習	2C演習	3A製図		2D物4	
	7			4D実験	4D実験	5E実験	5E実験	2C演習	2C演習	3A製図			
	8												
金	1	1M情報	1M情報		1E化1				4ACAD				
	2	4M実験	4M実験	5D実験	1E化5	5E実験	3C実験	3C実験	4ACAD		4M実験		
	3	4M実験	4M実験	5D実験		5E実験	1E情報	3C実験	3C実験		4M実験		
	4	4M実験	4M実験	5D実験		5E実験		3C実験	3C実験		4M実験		
	5	4M製図	4M製図				2E実験	2A化5		5A卒研	5A卒研	5M卒研	
	6	4M製図	4M製図	2D情報			2E実験			5A卒研/S1	5A卒研/S1	5M卒研/2C物4	1D物1
	7	4M製図	4M製図	2D情報						5A卒研/S1	5A卒研/S1	5M卒研/2C物4	1C物1
	8									5I	5I	5M卒研	

※ 表中の着色部分は一般科目の支援授業を示す。

	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	物質工学科	建築学科	一般科目	専攻科
週当たり授業支援時間 (時間×人)	116	40	41	34	42	6.3(※1)	12
ものづくりセンター 利用時間(時間)	16	2	2	0	0	0	0

※1 一般科目の年間授業支援時間は130時間  
(出典 技術教育支援センター資料)

## 資料2-1-③-7

## 平成19年度技術支援・行事等運営支援依頼

平成19年4月1日

依頼元	内容	期間	職員
機械工学科	スターリングエンジンカーの設計・製作等の支援	通年	六宮, 横田
機械工学科	M科ホームページメンテナンス	通年	六宮, 横田
機械工学科	学科備品管理業務	通年	六宮, 横田
機械工学科	学科関係資料・教育教材等の不定期な印刷業務	通年	六宮, 横田
機械工学科	インターンシップ報告会運営支援	10月	六宮, 横田
機械工学科	卒業研究発表会(中間発表会も含む)運営支援	9月, 1月	六宮, 横田
機械工学科	オープンキャンパスに係る運営支援	7月~8月	六宮, 横田
電気情報工学科	高専ロボコン製作支援	5月~	山根, 和田
電気情報工学科	エンジョイサイエンス運営支援	8月	山根, 和田
電気情報工学科	オープンキャンパス運営支援	7月~8月	山根, 和田
電気情報工学科	卒業研究発表会(中間発表会を含む)運営支援	9月, 1月	山根, 和田
電気情報工学科	E科HPの管理(共通ページのみ)	通年	山根, 和田
電子制御工学科	工学実験(担当実験について)の開発, メンテナンス及びテキスト等印刷・製本	通年	大塚, 岡部
電子制御工学科	高専ロボコン製作の支援	5月中旬~	岡部
電子制御工学科	就職進学関係データベースの入力作業(電子制御工学科関係資料)	通年	大塚, 岡部
物質工学科	受託研究(中海水質汚濁状況の解析)	通年	松原, 大谷
物質工学科	米子湾の水質測定(週1回 中海ケーブルテレビへのデータ提供のため)	週1回, 通年	松原, 大谷
物質工学科	エンジョイサイエンス支援	8月	松原, 大谷
物質工学科	廃液ポリタンクの授受及び管理	通年	松原, 大谷
物質工学科	排水槽の水質測定	通年	松原, 大谷
物質工学科	卒業研究発表会運営支援(中間発表会を含む)	9月, 1月	松原, 大谷
物質工学科	オープンキャンパスに係る運営支援	7月~8月	松原, 大谷
物質工学科	C科教材作成(印刷, 製本等)	通年	松原, 大谷
物質工学科	C科ネットワーク管理(データの更新)	通年	大谷
建築学科	実験実習機械, コンピューター機器の操作指導・安全指導補助並びにメンテナンス	通年	景山, 上田
建築学科	製図室, CAD室, 実験室等の管理補助	通年	景山, 上田
建築学科	卒研指導補助 建物実測調査補助, 構造材料実験補助, 他	通年	景山, 上田
建築学科	コンペ等諸活動支援 図面製作・模型製作・プレゼンテーションに関する指導補助, 発表会運営補助	通年	景山, 上田
建築学科	環境教育に関連した支援 下草刈り, 間伐実習, 木工指導, 中海清掃など		
建築学科	教材等作成指導	通年	景山, 上田
建築学科	建築学科の定例的行事, PR活動における支援 全国高専デザインコンテスト, 卒研発表会, 科展, 講演会, 作品展等の準備 A科HP作成補助, 卒研梗概集, PRパンフレットの作成発送等	通年	景山, 上田
建築学科	建築学科の活動運営に関連して学科長の依頼する諸支援 備品類の管理・点検, 保存作品・書類などの管理点検	通年	景山, 上田
建築学科	建築学科が学校行事に参加するための諸準備等の支援 エンジョイ科学館, 学校見学会(準備進行撤去, 資料作成等)	7月上旬~8月	景山, 上田
建築学科	認証評価・JABEEに関連する支援 図形・模型写真撮影及び電子ファイル化等データ収集保存	通年	景山, 上田
学生主事	ロボコン大会出場ロボットの製作の支援 校内大会競技用装置の製作 中国地区大会, 全国大会出場ロボットの製作支援	6月~11月上旬	ものづくりセ
機械工学科	高専祭に関する科展, 設計, 製作支援	通年	ものづくりセ
機械工学科	スターリングエンジンカーの設計・製作等の支援	通年	ものづくりセ
機械工学科	オープンキャンパスに係る運営支援	7月~8月	ものづくりセ
図書館情報センター	校内ネットワークのユーザ情報のメンテナンス, トラブルシューティング 保守契約外のネットワーク機器の保守 情報教育機器の保守管理(別紙)	通年	遠藤

(出典 技術教育支援センター資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校の全学的なセンターは、教育の目的を達成する上で適切である。

全学の円滑な教育活動を達成するために教育上不可欠な支援業務を目的として全学的なセンター等を組織し、実際に全学的に利用している。

観点2-2-①： 教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制及び教育課程を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動を行っているか。

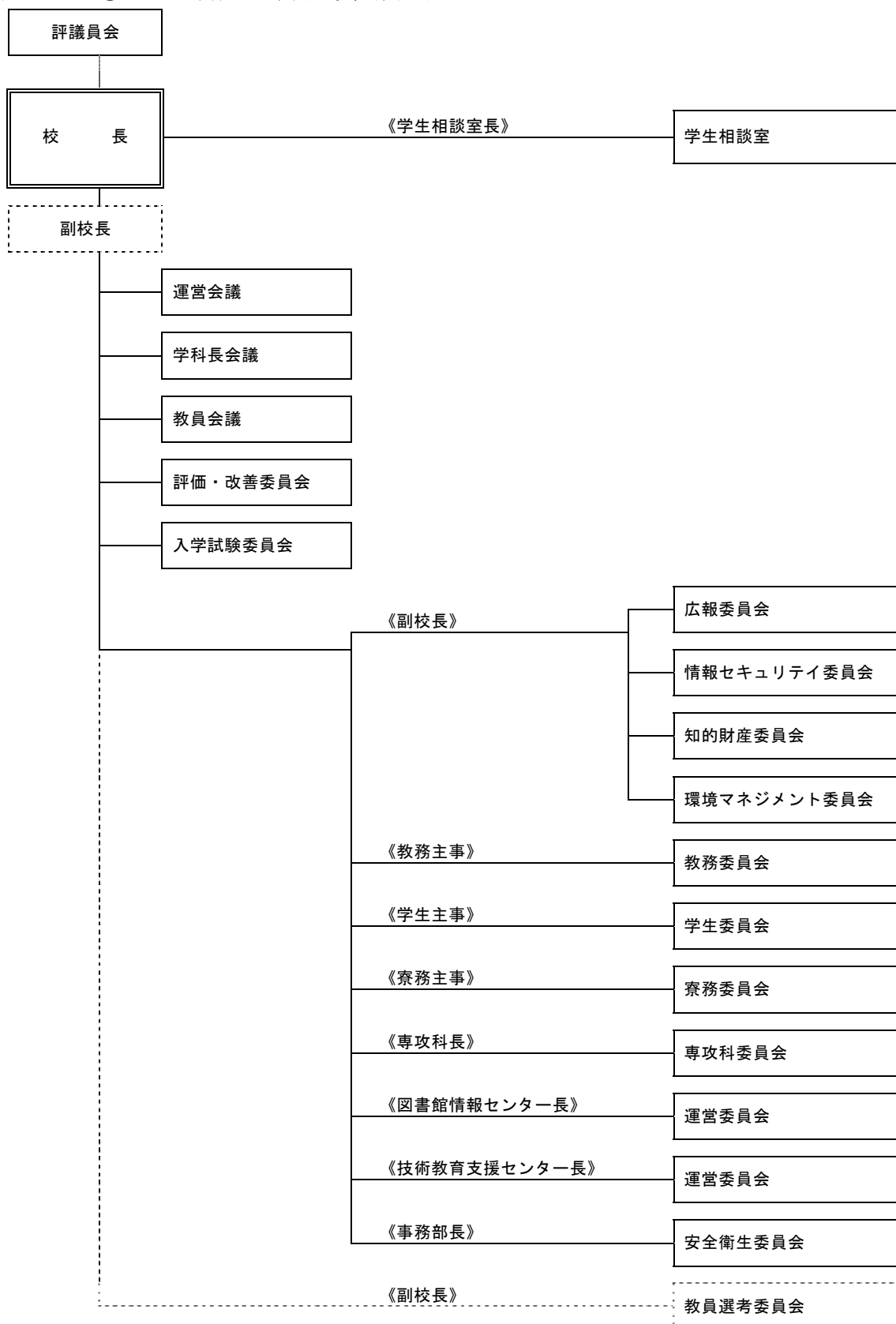
(観点に係る状況)

教育課程等を企画調整するための検討・運営体制として委員会を整備している。委員会関連図を資料2-2-①-1に示す。教育課程全体を企画調整するための組織として、「運営会議」、「評価・改善委員会」及び「学科長会議」があり、準学士課程を運営する組織として「教務委員会」、専攻科課程を運営する組織として「専攻科委員会」を設けている。また、学生支援に関する事項は「学生委員会」、「寮務委員会」などで審議する。検討した事項については、校長に報告する。また、「評議員会」は学校運営に関し、外部の意見を聞くために設置しており、「入学試験委員会」(以下、入試委員会と略す。)は、入学者選抜に関する審議を行うため設けている。

主要な委員会の体制及び審議事項を資料2-2-①-2～10に示す。

また、運営会議、学科長会議、教員会議は定期的に開催しており(資料2-2-①-11)、平成18年度は教務委員会や専攻科委員会もそれぞれ年間5回、12回開催している。これらの委員会、またはその委員会の中に組織した専門部会で教育活動に係る事項を審議している。これらの委員会の中で重要事項を審議した例を資料に示す(資料2-2-①-12～15)。

資料2-2-①-1 平成19年度委員会関連図



《 》は、主管者等

(出展 総務課資料)

## 資料2-2-①-2

## 米子工業高等専門学校運営会議規則（抜粋）

（設置）

第1条 米子工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、米子工業高等専門学校運営会議（以下「運営会議」という。）を置く。

（目的）

第2条 運営会議は、校長の諮問に応じ、本校の運営に関する重要事項について審議することを目的とする。

（構成員）

第3条 運営会議は、次の者をもって構成する。

- （1） 校長
- （2） 副校長
- （3） 教務主事、学生主事及び寮務主事
- （4） 事務部長及び各課長
- （5） その他校長が指名する者

（会議）

第4条 運営会議は、原則として月2回開催する。

（後略）

（出典 米子工業高等専門学校規則集データベース）

## 資料2-2-①-3

## 米子工業高等専門学校評価・改善委員会規則（抜粋）

（設置）

第1条 米子工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、米子工業高等専門学校評価・改善委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（目的）

第2条 委員会は、校長の諮問に応じて、自己評価及び機関別認証評価に関連した本校の教育研究及びその他の諸活動に憑いて評価・改善策を答申することを目的とする。

（審議事項）

第3条 委員会は、次の各号に掲げる事項の評価・改善策について審議する。

- （1） 本校の教育目的
- （2） 技術者教育認定申請
- （3） 教育実施体制
- （4） 教職員組織
- （5） 教育内容及び方法
- （6） 学生支援
- （7） 学生の受入
- （8） 施設・設備
- （9） 管理運営
- （10） その他本校における様々な教育活動

（構成員）

第4条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって構成する。

- （1） 副校長
- （2） 教務主事
- （3） 専攻科長
- （4） 各学科及び一般科目教員のうちから校長が指名する者
- （5） その他校長が指名する者

（後略）

（出典 米子工業高等専門学校規則集データベース）

## 資料2-2-①-4

## 米子工業高等専門学校入学試験委員会規則（抜粋）

- （設置）  
 第1条 米子工業高等専門学校に、入学者の選抜を行うため、米子工業高等専門学校入学試験委員会（以下「委員会」という。）を置く。  
 （審議事項）  
 第2条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。  
 (1) 入学者の募集に関する事項  
 (2) 入学者選抜試験の実施計画に関する事項  
 (3) 入学者の判定に関する事項  
 (4) 転学科生の認否に関する事項  
 (5) その他入学者選抜に関する重要事項  
 （組織）  
 第3条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。  
 (1) 校長  
 (2) 副校長  
 (3) 教務主事、学生主事及び寮務主事  
 (4) 教務主事補  
 (5) 一般科目長、各学科長及び専攻科長  
 (6) 事務部長  
 (7) 学生課長  
 （後略）

(出典 米子工業高等専門学校規則集データベース)

## 資料2-2-①-5

## 米子工業高等専門学校学科長会議規則（抜粋）

- （設置）  
 第1条 米子工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、米子工業高等専門学校学科長会議（以下「学科長会議」という。）を置く。  
 （目的）  
 第2条 学科長会議は、校長の諮問に応じ、本校の教育・研究に関する重要事項について審議することを目的とする。  
 （構成員）  
 第3条 学科長会議は、次の者をもって構成する。  
 (1) 校長  
 (2) 副校長  
 (3) 教務主事、学生主事及び寮務主事  
 (4) 専攻科長、各学科長及び一般科目長  
 (5) 図書館情報センター長  
 (6) 地域共同テクノセンター長  
 (7) 技術教育支援センター長  
 (8) 事務部長及び各課長  
 （会議）  
 第4条 学科長会議は、原則として月1回開催する。  
 （後略）

(出典 米子工業高等専門学校規則集データベース)

## 資料2-2-①-6

## 米子工業高等専門学校教務委員会規則（抜粋）

- 第1条 米子工業高等専門学校教務委員会（以下「委員会」という。）は、校長の諮問に応じ、教育計画の立案、教育課程等の編成、学習指導、その他教務に関する必要な事項について審議し、連絡調整することを目的とする。  
 第2条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。  
 (1) 教務主事  
 (2) 教務主事補  
 (3) 一般科目主任及び各学科主任  
 (4) 学級担任のうち各学年から選出された者各1人  
 (5) 学生課長  
 2 前項第4号に規定する委員は、校長が任命する。  
 （後略）

(出典 米子工業高等専門学校規則集データベース)

## 資料 2-2-①-7

## 米子工業高等専門学校専攻科委員会規則（抜粋）

（趣旨）

第 1 条 この規則は、米子工業高等専門学校専攻科規則第 4 条第 2 項の規定に基づき、米子工業高等専門学校専攻科委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定める。

（審議事項）

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教務に関すること。
- (2) 厚生補導に関すること。
- (3) 入学者選抜に関すること。
- (4) その他専攻科に関すること。

（後略）

（出典 米子工業高等専門学校規則集データベース）

## 資料 2-2-①-8

## 米子工業高等専門学校学生委員会規則（抜粋）

第 1 条 米子工業高等専門学校学生委員会（以下「委員会」という。）は、校長の諮問に応じ、学生の課外教育、厚生福祉、保健衛生、入学料免除者選考、授業料免除者選考及び日本育英会等に関する必要事項を審議し連絡調整することを目的とする。

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 学生主事
- (2) 学生主事補
- (3) 学級担任のうち各学年から選出された者各 1 人
- (4) 学生課長

2 前項第 3 号に規定する委員は、校長が任命する。

（後略）

（出典 米子工業高等専門学校規則集データベース）

## 資料 2-2-①-9

## 米子工業高等専門学校寮務委員会規則（抜粋）

第 1 条 米子工業高等専門学校寮務委員会（以下「委員会」という。）は、校長の諮問に応じ、本校学寮の運営及び寮生の生活指導等に関する必要事項を審議し、連絡調整することを目的とする。

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 寮務主事
- (2) 寮務主事補
- (3) 学級担任のうち各学年から選出された者各 1 人
- (4) 学生課長

（後略）

（出典 米子工業高等専門学校規則集データベース）

## 資料 2-2-①-10

## 米子工業高等専門学校評議員会規則（抜粋）

（設置）

第 1 条 米子工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、学校運営に関し、外部からの意見を聴くため、評議員会を置く。

（審議事項）

第 2 条 評議員会は、校長の諮問に応じて、次に掲げる事項について審議する。

- (1) 本校の教育研究活動に関する重要事項
- (2) 本校の地域貢献活動に関する重要事項
- (3) その他本校の運営に関する重要事項

（委員）

第 3 条 評議員会の委員は 10 名以内とし、本校の職員以外の者で高等専門学校に関し広くかつ高い識見を有する者の内から、校長が委嘱する。

（後略）

（出典 米子工業高等専門学校規則集データベース）

資料2-2-①-11

## 平成18年度 会議予定日

月	運営会議		教員会議			学科長会議		
	日	曜	開始時刻	行事等	日	曜	開始時刻	行事等
4	3, 19	3 月	16:00	春季休業中	19 水	16:30		
5	10, 17	10 水	16:30		17 水	16:30		
6	7, 21	7 水	16:30		21 水	16:30		
7	5, 19	5 水	16:30		19 水	16:30		補講
8	開催しない							
9	6, 20	6 水	16:30		20 水	16:30		
10	4, 18	4 水	16:30		18 水	16:30		特別行事
11	1, 15	1 水	16:30	木曜授業	15 水	16:30		
12	6, 20	6 水	16:30	後期中間試験中 1～3年	20 水	16:30		
1	10, 17	10 水	16:30		17 水	16:30		
2	7, 21	7 水	16:30		21 水	16:30		終業式
3	7, 20	7 水	13:30	臨時休業中	20 火	13:30		学年末休業

\*運営会議開始時刻 9:45～(4/3は13:30～)

(出典 総務課総務係校内 Web ページ)

資料2-2-①-12

## 運営会議議事概要(抜粋)

1 日時 平成19年2月7日(水) 9:45～11:45

2 議題

【審議事項】

(前略)

(4)平成19年度非常勤講師(継続雇用)の選考について

副校長から、資料3(非常勤講師(継続雇用)任用調書及び授業アンケート結果)に基づき、平成19年度継続雇用予定の非常勤講師について説明があり、その後、専攻科の非常勤講師に係る専攻科長の補足説明を経て、審議の結果、了承された。

(中略)

(6)技術教育支援センター職員の教育・研究支援について

事務部長から、資料5(技術教育支援センターの円滑な運営に向けて)に基づき、技術教育支援センター設置時の構想とその後の運営計画等の速やかな実施の要請及び技術教育支援センター職員の平成19年度からの教育・研究支援(実験・実習等)について説明があり、審議の結果、了承された。

なお、運営計画等及び平成19年度からの教育・研究支援の実施に当たっては、学科長会議において、一般科目長及び各学科長の協力要請を行うこととなった。

(7)平成19年度年間行事予定について

教務主事から、資料6(教務関係年間行事予定表)に基づき、1月10日(水)の本会議で了承された平成19年度年間行事予定について、一部変更したい旨説明があり、審議の結果、了承された。

(8)進路面談会について

学生主事から、3月25日(日)に進路懇談会と併せて実施する進路面談会について説明があり、審議の結果、了承された。

(後略)

(出典 平成19年2月7日運営会議議事録)



## 資料2-2-①-13

学科長会議議事概要（抜粋）

- 1 日時 平成18年11月15日（水）16:30～17:40  
 2 場所 小会議室  
 3 議題  
 (1) 平成18年度国立高等専門学校機構教員顕彰の推薦について  
 (2) 平成18年度後期非常勤講師の交代に係る選考の結果について  
 (3) 平成19年度高専間交流制度による推薦者の派遣決定について  
 (4) 平成19年度科学研究費補助金の申請について  
 (5) 本科カリキュラムの改訂について  
 (6) 平成18年度学生の進路状況について  
 (後略)

(出典 平成18年11月15日学科長会議議事録)

## 資料2-2-①-14

平成18年度第5回教務委員会議事要旨（抜粋）

日時：平成19年3月5日（月）15:00～16:00

場所：大会議室

議事要旨

(中略)

2. 改訂カリキュラム実施上の問題点への対応について

山口教務主事補から、資料により改訂カリキュラム実施上の問題点への対応について説明があり、資料のとおり対応することが承認された。

(中略)

4. 平成19年度授業時間割について

山口教務主事補から、資料により平成19年度授業時間割(案)の説明があり、この案をもとに今後修正を加える旨説明があった。

(後略)

(出展 平成18年度第5回教務委員会議事要旨)

## 資料2-2-①-15

平成18年度第1回米子工業高等専門学校評議員会議事要旨（抜粋）

日時 平成18年11月10日（金）14時00分～16時20分

場所 米子ワシントンホテルプラザ

出席者 委員：金田昭 副井裕 藤田教正 森脇孝 矢倉敏久 矢末誠 山口和彦

本校：校長 水島和夫 副校長 小田耕平 教務主事 香川律 学生主事 山藤良治 寮務主事 竹中敦司

事務部長 松本勤 庶務課長 渡邊正則 会計課長 阿部秀一 学生課長 山根茂雄

テーマ「平成17年度第1回（高専の地域貢献）・第2回（学生指導と課外活動）・第3回（教育研究活動）評議員会の意見・提言に対する対応状況等」

(後略)

(出典 平成18年度第1回米子工業高等専門学校評議員会議事要旨)

(分析結果とその根拠理由)

教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制及び教育課程を有効に展開するための検討・運営体制を整備し、教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動を行っている。

教育課程全体を企画調整するための組織として、運営会議、評価・改善委員会、学科長会議を整備し、また、教育課程を有効に展開するための組織として、教務委員会、専攻科委員会、学生委員会、寮務委員会等を整備している。また、教育活動に関する評価は、外部評価のための委員会（評議員会）を設置しており、活動の評価を行っている。上述したようにいずれの委員会も有効に機能している。

観点2-2-②： 一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が、機能的に行われているか。

(観点に係る状況)

一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携を密にするための組織として教員連携促進ワーキンググループ（以下教員連携促進WGという）がある。教員連携促進WGは平成17年度に一般教育と専門教育の連携業務を掌る組織として、評価・改善委員会の下部組織という位置づけで設置した。資料2-2-②-1は教員連携促進WGの活動実績を示している。また、特定の問題に対しては、資料2-2-②-2に示すようなワーキンググループを別途設置して対応している。

#### 資料2-2-②-1 教員連携促進ワーキンググループの活動実績

日時：平成18年2月10日（金）14時00分～16時00分

場所：小会議室

参加者：永井、松本至、千葉、雑賀、澤、川端、中井、布施、川邊、大庭、竹内

欠席者：大塚（代理で松本至先生が出席）、池本（出張のため）

##### 1. 専門学科長と一般科目教科代表の意見交換会

まず永井委員長から、本WGとしては認証評価基準2-2-①、②（教員連携を促すシステムがあり、それが機能していること）の根拠資料を残す必要がある、そのためには、専門学科長と一般科目教科代表間の意見交換会を企画・実行し、その結果に基づいてシラバス等を修正するという取り組みが必要であることが説明された。また、専門学科と一般科目の総あたり表が配布され、その表を埋めて行くという方法で会がすすめられた。

（後略）

（出典 第4回教員連携促進WG議事録）

#### 資料2-2-②-2 一般教育・専門連携ワーキンググループの例

ワーキンググループ名	審議内容
カリキュラム改訂	一般科目及び専門学科のカリキュラム改訂
現代GP	新教育方法、プログラムの内容検討及び一般科目及び専門学科の連携の検討

（出典 総務部資料）

（分析結果とその根拠理由）

一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携を行うために、教員連携促進WGなどを設置し、活動している。また、特定の問題に対して専門のワーキンググループを作成し、その対応及び一般科目と専門科目の連携を図っている。

#### 観点2-2-③： 教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

（観点到に係る状況）

準学士課程では、学級担任を配置しており（資料2-2-③-1）、担任は教育活動を円滑に実施するため担当するクラスの運営、学習指導及び生活指導を行っている。担任の業務は、教務便覧（別添資料2-2-③-1）及び学生生活指導の手引（別添資料2-2-③-2）などで規定している。担任の業務を支援する体制として、教務委員会（資料2-2-①-6、26ページに前出）、学生委員会（資料2-2-①-8、27ページに前出）、寮務委員会（資料2-2-①-9、27ページに前出）などがあり、各学年の担任の代表がこれらの委員会の委員として参加している。クラス運営上の問題点などについては、担任会で意見をまとめ、学年代表の委員が各種委員会で審議を行っている。また、全校で行う文化祭、第2学年で行う校外研修や第3学年で行う工場見学旅行等の学校行事では、ほとんどの教職員が参加し、担任業務を支援している。

専攻科課程では、専攻科委員会（資料2-2-①-7、27ページに前出）が教育活動全般にわたる内容について審議を行い、専攻科担当教員が円滑に学生を指導できるよう支援している。

資料 2-2-③-1 平成 19 年度校務分掌一覧

平成19年6月20日

平成 19 年度 教員 校務 分掌

(主事) 小田 香川 山藤 竹中 (教務) (学生) (寮務) 青木 竹内 河野 能登路 山本英 西垣 藤岡 岡 松本至* 高増 宮田 浅倉 榎田英 早水 小川和 大庭 北林 榎智 加藤 松本幸 黒川 榎田岳 田口 榎間 里村 井上	副校長	校長 補 佐	運営会議 校長 副校長 各主事 事務部長 各課長	専攻科 専攻科長 松原 松本至 副専攻科長 藤井 和田	地域共同 テクノセンター センター長 足立 手葉 副センター長 田中 兼子 センター員補	学科等 学科長等 機 械 工学部 大塚茂 電気情報 工学部 新田 電子制御 工学部 織賀 物 質 工学部 山本幸 建 築 工学部 福田 一 般 科 中井	学 科 学 級 担 任 (◎学年主任) 機 械 工学部 山口 川邊 矢壁 森田慎 ◎河 詒 電気情報 工学部 松本至 布施 ◎南 西尾 庄倉 電子制御 工学部 村側 原 加納 中山 青柳 物 質 工学部 平澤 中島 藤井 田原 池田彰 建 築 工学部 ◎山田 ◎酒井 西川 ◎片木 熊谷
	*特命(専攻科) 専任協中国地区体育大会担当 池本、南			図書館 情報センター センター長 水井 副センター長 倉田 坪井 センター員 小川寛 大塚宏 奥雲	技術教育 支援センター センター長 香川 同窓会校内委員 青柳 香川 大塚茂 福田 ◎矢壁 新田 松本正 青木 中山 榎田岳 松本幸 井上	学生相談室 室 長 大原 川端 和 田 相談員 田原	留学生 指導教員 代表 中山

各 種 委 員 会 委 員 等 (◎委員長)															
学年選出委員会委員				学科選出委員会委員				その他の委員会委員							
学年	教 務	学 生 (日本学生支援機構)	寮 務	学 科	専攻科	図書館情報センター運営	評価・改善	応 答	情報セキュリティ	入学試験	契約財産	技術教育支援センター運営	安全管理	環境マネジメント	
職 務	◎教務主事 教務主事補 学科(科目)長 専攻科長 学生課長	◎学生主事 学生主事補 学生課長	◎寮務主事 寮務主事補 学生課長	職 務	◎専攻科長 副専攻科長 学生課長	◎ソフト長 副ソフト長 ソフト長補 学生課長	職 務	副校長 教務主事 副専攻科長 専攻科長 地域共同	◎副校長 総務課長 学生課長	◎副校長 図書館情報 センター長 副センター長 図書館情報 センター長補 学生課長	◎校長 副校長 各主事 教務主事補 専攻科長 学科(科目)長 事務部長 学生課長	◎副校長 地域共同 ソフト長 長明会分所長 又は関係する学科長等 総務課長	◎ソフト長 学科(科目)長 学生課長 技術長	◎事務部長 庶務部長 衛生管理員 (事務部長兼) 安全管理者 (総務課長) 技術長	◎副校長 事務部長 総務課長 学生課長 契約係長 施設係長
1 学年	学年主任 (山 田)	松本至	平澤	機 械	松本至	矢壁	職 務								
2 学年	(酒 井)	中島	川邊	電 気	松本至	小川寛	◎ 委 員								
3 学年	(南)	藤井	西川	電 子	河野	中山		意田						池田	
4 学年	(片 木)	森田慎	中山	物 質	藤井	坪井		青木						兼子	
5 学年	(河 詒)	庄倉	青柳	建 築	和田	松本幸		織賀						加藤	
				一 般	南	意田									

【課外活動】

ク ラ ブ 指 導 教 員																							
種 目	バレーボール	バスケットボール	ソフトテニス	卓球	柔道	剣道	野球(高)	野球(専)	サッカー	ラグビー	ハンドボール	水泳	ヨット	テニス	バドミントン	空手道	吹奏楽	科学	文芸	軽音楽	放送	茶道・華道	スターリングエンジン
南	山本英	大庭	榎智	河野	水井	松原	森田典	松本至	田中	宮田	藤岡	池本	里村	榎田英	川邊	大塚茂	山田	竹内	平澤	山口	酒井	田原	森田慎
	庄倉	松本至	西尾	黒川	山本幸	西垣	加納	能登路	倉田	兼子	加藤	小川和	青柳	中島	足立	原	福田	青木		中井	片木	新田	和田
	熊谷	西川	藤井	大塚宏	川端	布施	浅倉	中山	奥雲	河詒	井上	村側	榎田岳	池田彰	大原	早水							
		小川寛	田口				北林																

同 好 会 指 導 教 員													
漫 画 研 究	物 質 工 学 研 究	書 道	インテ ィアクト	美 術	合 唱	コンピ ュータ	ソフト ボール	カー ホビー	演 劇	映 画 鑑 賞	建 築 研 究	将 棋	映 画 研 究
岡	里村	原	中井	松原	酒井	倉田	加藤	矢壁	酒井	田口	西川	松本至	小川和
				川邊									

(出典 総務課人事労務係校内 Web ページ)

また、人間の素養を涵養する教育として課外活動があり、課外活動を支援するためクラブ指導教員及び同好会指導教員を配置している(資料2-2-③-1)。クラブ指導教員を支援する体制として、体育系クラブ及び一部の文科系クラブで複数教員による指導やクラブ指導教員の重複の回避及び外部コーチの委嘱などがあり、クラブ指導教員の活動を支援している。また、クラブ・同好会指導教員間の意見交流、連絡調整、支援内容の検討などを行う場としてクラブ・同好会指導教員会議があり、長期休業中の課外活動等の支援方法の検討、整備などを行っている(資料2-2-③-2)。

## 資料2-2-③-2 長期休業中の課外活動等の支援

## クラブ・同好会指導教員会議議事録

期日 平成17年 4月21日

場所 大会議室

議題

(中略)

## 4. その他

## ① 長期休業中の課外活動等の支援について

学生主事より資料により説明があり了承された。

(後略)

## 学科長会議議事録

日時 平成17年6月15日(水) 16:00~19:25

場所 小会議室

欠席者 学生課長(出張)

議事

## 4. 長期休業中の課外活動等の支援について

校長及び学生主事から、資料に基づき説明があり、了承された。

また、本件については6月21日(火)に全教員に対して説明会を開催する旨報告があった。

(後略)

(出典 平成17年4月クラブ・同好会指導教員会議議事録及び  
平成17年6月学科長会議議事録)

その他の支援組織として、学生課、図書館情報センター、技術教育支援センターなどがある。学生課には、教務係、学生係、寮務係等があり、授業、教育課程、学業成績などについては教務係、生活指導、健康管理、課外活動などについては学生係、学生寮については寮務係が支援を行っている。また、図書館情報センター(資料2-1-③-2, 19ページに前出)及び技術教育支援センター(資料2-1-③-3, 19ページに前出)は、学生実験・実習、情報処理教育、卒業研究、特別研究等の授業支援やロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、デザインコンペティション等の課外活動支援を行っている。

## (分析結果とその根拠理由)

教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能している。

教育の支援体制として担任制がある。担当業務は整備・明文化されており、それに沿って担任業務を行っている。担任業務のうち学校行事に関するものについては担任以外の教員も参加し、担任の業務を支援している。また、同様の目的で課外活動を支援する体制として教員によるクラブ・同好会を指導する制度がある。体育系クラブ及び一部の文科系クラブで複数の指導教員を当て、また、担当クラブの重複を避ける措置をとって対外試合の引率、放課後のクラブ指導等を行いやすい環境を整備している。また、担任及びクラブ顧問の活動を支援する組織として担任会やクラブ・同好会指導教員会議がある。さらに、長期休暇中の課外活動等を支援する体制として、女性教員を除く全教員による宿直制度がある。また、事務的な側面から支援する組織として、学生課などがあり、各主事及び主事補と連携をとりながら機能している。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

## (優れた点)

学校行事や課外活動の支援を全教員が行う体制が整っており、また、事務部との連携も行われている。

(改善を要する点)

該当なし

### (3) 基準2の自己評価の概要

本校の準学士課程は機械工学科，電気情報工学科，電子制御工学科，物質工学科，建築学科の5学科で構成しており，工学全般にわたる技術者を育成することができる学科構成となっており，教育理念及び学習・教育目標との整合性も取れている。また，専攻科課程は生産システム工学専攻，物質工学専攻，建築学専攻の3専攻で構成しており，準学士課程で修得した専門をさらに深く教授するとともに，本校の教育理念に沿った幅広い能力を備えた技術者教育を行っている。

全学的なセンターとして，図書館情報センター，技術教育支援センター等を設置しており，それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。図書館情報センターは，情報処理教育をはじめ学生の自学自習センターとして，またインターネットを介した情報通信の重要な中継基地として適切に機能している。技術教育支援センターは実験実習，卒業研究，特別研究等を側面から支援し，教育目標達成のために機能している。

教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制として，運営会議，評価・改善委員会を整備しており，これらの委員会は機能している。また，教育課程を有効に展開するための検討・運営体制として，教務委員会と専攻科委員会を整備しており，これらの委員会も機能している。

一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携を図るために教員連携促進ワーキンググループを設け，適切な活動を行っている。

教育活動や課外活動を円滑に実施するための支援体制として担任制，教員によるクラブ・同好会を指導する制度を整備し，有効に機能している。また，事務的側面から学生課に教務係，学生係，寮務係等を組織しており，教育活動，課外活動，学生の学校生活，寮生活を支援している。



## 基準3 教員及び教育支援者

## (1) 観点ごとの分析

観点3-1-①： 教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点到に係る状況)

資料3-1-①-1に平成19年度の一般科目の教員数を示す。常勤教員24名及び非常勤教員17名の合計41名である。高等専門学校設置基準の第6条第2項は、「高等専門学校には、一般科目を担当する教員の数は、入学定員に係る学生を5学級に編成する場合、22人の専任教員（助手を除く）数を下回ってはいけない」と規定しているが、本校は、一般科目担当の専任教員24人すべてが講師以上であり、設置基準を満たしている。

また、本校の学習・教育目標（資料1-1-①-2，5～6ページに前出）のうち、「技術者としての基礎力」、「地球の一員としての倫理力」及び「社会とかかわるためのコミュニケーション力」を満たすため一般科目として、「人格の形成を促し、社会人・国際人として必要な知識・技術を付与するとともに、専門教育を受けるための基礎を築くこと」を目標に掲げ（資料1-1-②-1，6ページに前出），理数系科目及び人文社会系科目を一般科目教育課程に配置し、各教科の内容に相応する専門性を持つ常勤教員及び非常勤教員を開設単位数に見合う数で配置している（資料3-1-①-2）。なお、非常勤教員については「非常勤講師の採用に関する内規」に基づき、適格性を判定した上で、採用、配置している（資料3-1-①-3）。また、「専門教育を受けるための基礎を築く」ため、専門学科の目的に沿った生物学や自由選択科目である解析Ⅲを開設している（資料3-1-①-4）。

資料3-1-①-1 平成19年度一般科目分野別教員数

平成19年4月1日現在

	数学	英語	独語	国語	生物	物理	化学	社会	体育	音楽	合計
教授	1	3	1	1	0	1	0	1	1	0	9
准教授	2	1	0	2	0	1	1	1	1	0	9
講師	2	1	0	0	0	1	0	1	1	0	6
助教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
常勤計	5	5	1	3	0	3	1	3	3	0	24
非常勤教員	2	4	1	1	1	1	2	2	2	1	17
合計	7	9	2	4	1	4	3	5	5	1	41

(出典 総務課資料)

## 資料3-1-①-2 平成19年度一般科目開設単位数及び一般科目教員の学位・教職経験等

平成19年4月1日現在

	数学	英語	独語	国語	生物	物理	化学	社会	体育	音楽	合計
準学士課程 開設単位数	82	95	17	55	2	43	23	52	50	10	429
専攻科課程 開設単位数	4	4	0	2	0	2	2	4	2	0	20
教員数	7	9	2	4	1	4	3	5	5	1	41
博士	3	0	0	2	0	3	2	1	3	0	14
修士	2	4	2	1	0	0	0	1	0	0	10
企業経験者	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	3
中・高教職 経験者	3	6	0	2	0	1	1	3	2	0	18

(出典 学生課資料及び総務課資料)

## 資料3-1-①-3

## 米子工業高等専門学校非常勤講師の採用に関する内規

(趣旨)

第1条 米子工業高等専門学校（以下「本校」という。）における非常勤講師の採用に関しては、独立行政法人国立高等専門学校機構非常勤教職員就業規則（平成16年4月1日独立行政法人国立高等専門学校機構規則第11号）の定めによるほかこの内規の定めるところによる。

(採用基準)

第2条 本校の非常勤講師となることができる者は、次の各号のいずれにも該当する者とする。

- (1) 高等専門学校設置基準（昭和36年文部省令第23号）に定められた講師の資格を有する者
- (2) 本校の教育方針に沿った教育指導ができる者
- (3) 採用年度末の年齢が満68歳以下である者
- (4) 健康で勤務に支障のない者

2 前項第3号の規定にかかわらず、他に余人をもって替え難い等特別の理由があると校長が認めた場合は、採用年度末の年齢を満69歳以下である者とする事ができる。

(選考)

第3条 非常勤講師の採用は、選考により行うものとし、その方法は、次の各号に定めるところによる。

- (1) 選考は、校長、副校長、教務主事及び当該学科長又は一般科目長（以下「当該学科長等」という。）により行う。
- (2) 選考に当たっては、米子工業高等専門学校教員選考基準別紙1に掲げる業績等を総合的に評価するものとする。

2 前項の規定にかかわらず、継続して採用する者については、運営会議に諮り、前年度の教育評価（学生による授業評価等）をもとに選考するものとする。

3 本校教員を退職後に引き続き非常勤講師として採用する場合は、前項の規定に準じて取り扱うものとする。

(高年齢者雇用の理由書の提出)

第4条 当該学科長等は、採用年度末の年齢が満64歳以上となる者を採用しようとする場合は、選考に先立ち「高年齢者雇用の理由書」を校長に提出し、承認を得なければならない。

(出典 米子工業高等専門学校規則集データベース)



資料 3-1-①-4 一般科目教育課程表 (平成 19 年度以降入学生)

一般科目 教育課程表

(平成 19 年度入学生以降)

区分	授業科目	単位数	形態種別	学年別配当					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
必修 修科目	国語 I	4		4					
	国語 II	3			3				
	国語 III	2				2			
	現代社会	2			2				
	地理	2					2		
	歴史 I	2		2					
	歴史 II	2			2				
	数学 I	3		3					
	数学 II	3		3					
	微分・積分	3			3				
	代数・幾何	2			2				
	解析 I	3					3		
	解析 II	2					2		
	情報リテラシ	1		1					
	物理 I	2		2					
	物理 II	3			3				
	化学 I	3(0)		3(0)					
	基礎化学	(3)		(3)					
	化学 II	2(0)			2(0)				
	生物学	(2)		(2)					
	保健・体育 I	3		3					
	保健・体育 II	2			2				
	保健・体育 III	2				2			
	保健・体育 IV	2	実技				2		
	保健・体育 V	1	実技					1	
	音楽 I	1		1					
	音楽 II	1			1				
	英語総合 I	3		3					
	英語総合 II	3			3				
	英語総合 III	3				3			
	英語総合演習	2	演習				2		
	基礎英語演習 I	1		1					
	基礎英語演習 II	1			1				
	基礎英語演習 III	1				1			
	基礎英語会話 I	1		1					
	基礎英語会話 II	1			1				
	基礎英語会話 III	1				1			
	独語	3	講義					3	
	開設単位計	81		32	25	16	7	1	
	履修単位計	76		27(29)	25(23)	16	7	1	
選択 科目	文学 I	*2	講義				2	前期	このうちから、前後期で異なる 2 教科 4 単位を選択する。
	文学 II	*2	講義				2	前期	
	文学 III	*2	講義				2	後期	
	文学 IV	*2	講義				2	後期	
	社会科学 I	*2	講義				2	前後期	
	社会科学 II	*2	講義				2	前後期	
	社会科学 III	*2	講義				2	前後期	
	実用工業英語	2	講義					2	このうちから 1 科目 2 単位を選択する。
	英米文学	2	講義					2	
	英語会話	2	講義					2	
	英語演習	2	演習					2	
	時事英語	2	講義					2	
	コミュニケーション	2	講義					2	
	独語講読	2	講義					2	前期 自由選択
	解析 III	*2	講義				2		
	開設単位計	30					16	14	
履修単位計	6					4	2		
開設単位合計	111		32	25	16	23	15		
履修単位合計	82		27(29)	25(23)	16	11	3		

※1 表中の「化学 I」、「化学 II」、「基礎化学」、「生物学」及びそれぞれの計欄について、( )は物質工学科の単位数を示す。

※2 単位数欄に「\*」を記してある科目は学修単位を示し、記してない科目は履修単位を示す。

履修単位：1 単位の授業科目を 30 単位時間（1 単位時間は、標準 50 分）の履修とする単位。

学修単位：当該授業及び授業時間外の学修を含め、1 単位の授業科目を 45 時間の学修とするもの。

(出典 平成 19 年度学生便覧 P. 41)

(分析結果とその根拠理由)

観点に係る状況に示したとおり、本校は高等専門学校設置基準を満たすとともに、学校の目的、学科の目的に沿った教育課程の編成を行い、その教育課程に相応する専門性を持つ教員を配置している。以上のことより、教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員の配置は適切である。

**観点3-1-②： 教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。**

(観点に係る状況)

本校には、機械工学科、電気情報工学科、電子制御工学科、物質工学科及び建築学科の5つの学科を設置しており、各学科の目標を資料1-1-②-2(7ページに前出)のように定めている。これらの目標を達成するために、高等専門学校設置基準第6条第3項に定められている36名の専任教員を超える53名(助手を除く)の専任教員を配置している(資料3-1-②-1)。また、同基準第8条は、「専門科目を担当する教授及び准教授の数は、一般科目を担当する専任教員数と専門科目を担当する専任教員数との合計数の二分の一を下回ってはならない」と規定しているが、専任教員数総計77名に対し専門学科教授及び准教授合計40名になっており設置基準を満たしている。本校は、平成19年度当初に、設置基準第13条の2が規定する基準を満たす助手を助教に配置換した。その結果、現在、全専門学科に助手は配置していない。設置基準第7条は、「高等専門学校は、演習、実験、実習又は実技を伴う授業科目については、なるべく助手に補助させるものとする」と規定するが、これらの科目は必要に応じて技術職員を配置した上で助教以上の教員が担当している。

本校では「わが国の将来を担うものづくりの基盤技術を支える創造性に富んだ技術者を養成するため、地域社会と連携し、実験・実習を重視した実践的な技術教育を行う」(資料1-1-①-2, 5～6ページに前出)という教育理念を掲げ教育を行っていることから、常勤教員に学位取得者や実務経験者を多く配置し、また、実際に実務を行っている者を非常勤教員として迎えている(資料3-1-②-2)。

資料3-1-②-1 平成19年度専門学科教員数

						平成19年4月1日現在
	機械	電気情報	電子制御	物質	建築	合計
教授	3	3	4	5	6	21
准教授	4	6	4	3	2	19
講師	1	1	1	1	0	4
助教	2	1	1	2	3	9
助手	0	0	0	0	0	0
常勤計	10	11	10	11	11	53
非常勤教員	10	3	1	8	17	39
合計	20	14	11	19	28	92

(出典 総務課資料)

## 資料3-1-②-2 専門学科教員の学位・実務経験等

平成19年4月1日現在

	機械	電気情報	電子制御	物質	建築	合計
常勤教員数	10	11	10	11	11	53
博士	6	9	6	9	6	36
修士	2	1	1	2	3	9
企業経験者	5	2	5	1	5	18
非常勤教員数	10	3	1	8	17	39
博士	1	0	0	4	0	5
修士	0	1	0	1	3	5
企業経験者 (企業在職者を含む)	7	1	1	5	16	30

(出典 総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

観点に係る状況に示したとおり、本校は高等専門学校設置基準を満たすとともに、学校の目的、学科の目的に沿った教育課程の編成を行い、その教育課程に相応する専門性を持つ教員を配置している。以上のことより、教育の目的を達成するために必要な専門科目担当教員の配置は適切である。

**観点3-1-③：** 専攻科を設置している場合には、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

本校の専攻科には、生産システム工学専攻、物質工学専攻及び建築学専攻の3専攻を設置している。各専攻の目標は、資料1-1-②-3(8ページに前出)のように定めている。これらの目標を達成するために専攻科の授業科目担当教員は、少人数教育に相応しい数を配置し、ほとんどの教員が博士の学位を取得している(資料3-1-③-1)。また、これらの教員は大学評価・学位授与機構の審査認定を受けた者及び本校内規の基準を満たした者であり(資料3-1-③-2)、それぞれの専門分野において十分な知識と能力を有している。

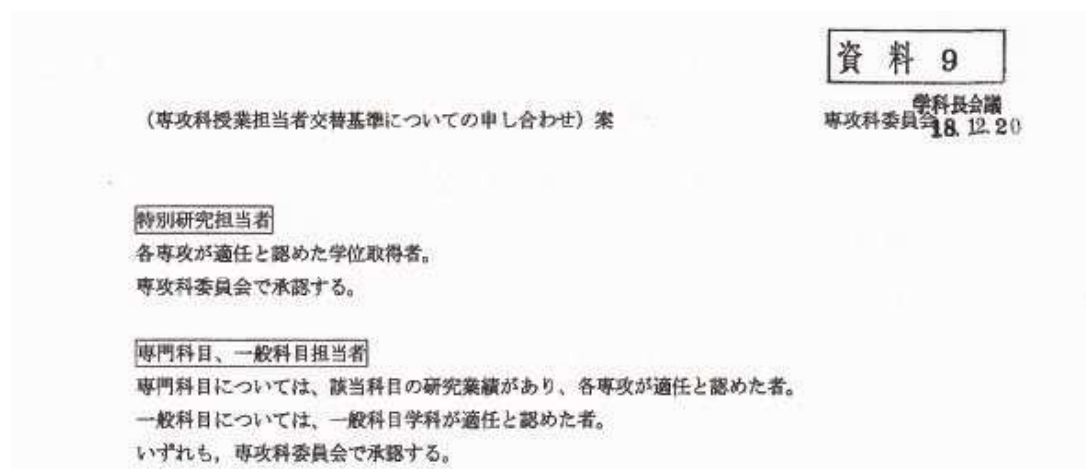
## 資料3-1-③-1 平成19年度専攻科担当教員数

平成19年4月1日現在

専攻名	生産システム工学専攻			物質工学専攻	建築学専攻	一般科目	合計
	機械系	電気情報系	電子制御系				
学生総定員(2学年)	24			8	8		40
常勤教員	10	9	7	9	10	14	59
博士	6	9	5	9	6	9	44
非常勤教員	0	0	0	0	2	2	4
博士	0	0	0	0	2	0	2

(出典 総務課資料)

## 資料3-1-③-2 専攻科担当教員に関する内規



(出典 平成18年12月学科長会議資料)

(分析結果とその根拠理由)

観点に係る状況に示したとおり、教員の資質については本校の基準を設定し、教育課程に相応する専門性と業績を併せ持つ教員を少人数教育の実施にふさわしい数で配置している。

以上のことより、専攻科の教育の目的を達成するために必要な専攻科授業科目担当教員の配置は適切である。

**観点3-1-④：** 学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置（例えば、均衡ある年齢構成への配慮、教育経歴や実務経歴への配慮等が考えられる。）が講じられているか。

(観点に係る状況)

本校の教育目標に沿った教育を行うための主な措置として、教員採用時における公募制を導入し、また、教員の学位取得に対する支援及び優秀教員評価制度を実施している。

教員の学位取得に対する支援では、大学院への社会人入学ができる措置を講じて、博士等の学位取得を推進しており、これまでに9名の教員が学位を取得し、現在5名が在学している。また、優秀教員の評価を行うため、国立高等専門学校機構による教員顕彰制度に参加し、学校として優秀教員の推薦を行っている。

教員の採用にあたっては、教員選考規則及び選考基準を定め、職位、専門分野、資格、実務経歴及び高等専門学校設置基準に規定されているように年齢等を考慮して公募し、採用を行っている（資料3-1-④-1～3）。

本校教員の年齢構成は資料3-1-④-4に示すとおりバランスの取れた構成になっており、教職経験者や実務経験者を積極的に採用し（資料3-1-④-5）、学校の理念（資料1-1-①-2、5～6ページに前出）に沿った人材を確保している。また、その他に教員の産前産後休暇、育児休暇に対する措置として、任期付教員の採用を平成18年度に行った。

## 資料3-1-④-1

## 米子工業高等専門学校教員選考規則（抜粋）

米子工業高等専門学校教員選考規則

（趣旨）

第1条 この規則は、米子工業高等専門学校における教授、准教授、講師及び助教（以下「教員」という。）の選考に関し必要な事項について定める。

（定義）

第2条 この規則において選考とは、教員を採用、昇任又は配置換するために行う選考をいう。

（公募の原則）

第3条 選考は、原則として公募とする。ただし、昇任及び配置換の場合は、公募によらず選考できるものとする。

（選考委員会）

第4条 校長は、教員の選考を行う場合は、米子工業高等専門学校教員選考委員会（以下「委員会」という。）を設置するものとする。

2 委員会に関し必要な事項は別に定める。

（選考の申し出）

第5条 各学科又は一般科目（以下「各学科等」という。）の長（以下「各学科長等」という。）は、各学科等の教員の定年による退職に伴い教員の補充等を行う必要がある場合は、当該退職年度当初に校長に申し出るものとする。

2 前項のほか、各学科等において教員の選考を行う必要がある場合は、各学科長等は速やかに校長に申し出るものとする。

（選考）

第6条 教員の選考は、委員会の議を経て校長が行う。

（後略）

（出典 米子工業高等専門学校規則集データベース）

## 資料3-1-④-2 米子工業高等専門学校教員選考基準

米子工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教授、准教授、講師及び助教（以下「教員」という。）の選考については、高等専門学校設置基準（昭和36年8月30日文科省令第23号）に定める教員の資格基準によるほか、次の基準に基づいて選考を行う。

1 公募による選考の場合は、公募の条件、選考対象候補者の人物及び別紙1に掲げる業績等を総合的に評価して選考する。

2 昇任による選考の場合は、選考対象候補者の人物、学科・科目の教員の年齢構成、別紙2に掲げる業績等を総合的に評価して選考する。

公募による選考については概ね次の業績を考慮する。

別紙1

1 企業・研究機関・官公庁等からの応募の場合は、次に掲げる研究・開発等の業績があること。

- (1) 製品開発・製法開発等職務上の業績
- (2) 特許等研究上の成果・表彰
- (3) 著書・研究論文発表
- (4) 大学等との共同研究による研究業績
- (5) 社会貢献活動

2 教育機関からの応募の場合は、次に掲げる教育・研究等の実績があること。

- (1) 教育・研究指導実績
- (2) 著書・研究論文・学会発表
- (3) 内地・在外研究員等留学実績
- (4) 特許・実用新案
- (5) 校務分掌実績
- (6) 課外活動指導実績
- (7) 共同研究・受託研究等の実績
- (8) 公開講座・技術指導等の地域協力及び社会貢献活動

内部昇任については概ね次の業績を考慮する。

別紙2

1 教授への昇任

准教授在任中に、次に掲げる業績があること。

- (1) 授業、実験実習、研究指導等において優れた教育実績があること。
- (2) 次の区分に応じた研究実績があること。

① 教育・実務重視の教授

- ・ 高専の教育についての審査論文があり、他に研究報告又は特許・実用新案が相当数以上あること。

② 研究業績重視の教授

- ・ 継続的な研究成果があること。
- ・ 学会等の審査論文が相当数以上あること。

(3) 教務、学生、寮務、専攻科、図書館情報センター及び地域共同テクノセンターのいずれかの校務を分掌したこと。

(4) 担任、クラブ顧問等、学生指導において優れた実績があること。

(5) 社会貢献活動において優れた実績があること。

2 准教授への昇任

助教から昇任する場合は採用後、講師から昇任する場合は講師在任中に、次に掲げる業績があること。

- (1) 授業、実験実習、研究指導等において優れた教育実績があること。
- (2) 学会等の審査論文が相当数以上あり継続的な学会活動を行っていること。
- (3) 担任、クラブ顧問等、学生指導において優れた実績があること。
- (4) 講師から昇任する場合は、教務、学生、寮務、専攻科、図書館情報センター及び地域共同テクノセンターのいずれかの校務を分掌したこと。

3 講師への昇任

採用後において、次に掲げる業績があること。

- (1) 授業、実験実習、研究指導等において、講師以上の教員への補助を十分に行っていること。
- (2) 審査論文を有しているか、口頭発表等継続的な学会活動を行っていること。
- (3) クラブ顧問等、学生指導において優れた実績があること。

（出典 米子工業高等専門学校規則集データベース）

## 資料3-1-④-3 教員公募の例

米子工業高等専門学校 建築学科教員公募要項

1. 職名・人員 助手 1名
2. 所 属 建築学科
3. 専門分野 地域づくり（農村計画・都市計画・建築計画分野のいずれでも可）
4. 担当予定授業科目 建築設計、農村計画・都市計画・建築計画分野に係る演習及び実験専門以外にCAD等
5. 応募資格
  - (1) 着任時30歳未満の方が望ましい
  - (2) 博士の学位を有する方、又は修士の学位を有し博士の学位取得に意欲的な方
  - (3) 一級建築士等の技術者資格を有していることが望ましい
  - (4) 高等専門学校の教育及び研究に熱意のある方
6. 採用予定日 平成18年4月1日
7. 応募書類
  - (1) 履歴書（市販用紙に本人の自筆、写真貼付、E-mail アドレスがあれば現住所欄に記入すること）
  - (2) 業績一覧（研究論文及び建築作品・コンペ入賞を含む：A4様式自由）
  - (3) 教育歴（非常勤講師等で担当した講義内容や、TAとして担当した内容等も含む）
  - (4) 着任後の教育研究及び学生指導についての抱負（A4用紙2000字程度）
  - (5) 推薦書（推薦書がない場合には、応募者に関する所見を伺える方の所属、氏名及び連絡先）
8. 応募期限 平成18年1月13日（金）（必着）
9. 採用決定方法 1次選考：書類審査  
2次選考：面接審査（1次選考合格者に対して実施日時をお知らせします。なお、面接に伴う旅費、宿泊費は応募者負担とします。）  
（後略）

（出典 総務課資料）

## 資料3-1-④-4 常勤教員の年齢構成（平成19年度）

平成19年4月1日現在

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳以上	合計
機械工学科	2	1	4	2	1	10
電気情報工学科	0	4	4	2	1	11
電子制御工学科	1	1	4	3	1	10
物質工学科	1	3	2	4	1	11
建築学科	1	3	2	2	3	11
一般科目	0	8	8	7	1	24
合計	5	20	24	20	8	77

（出典 総務課資料）

## 資料3-1-④-5 実務経験教員数・女性教員数・博士取得者数

平成19年4月1日現在

	一般科目	機械	電気情報	電子制御	物質	建築	合計
常勤教員数	24	10	11	10	11	11	77
企業等実務経験者数（%）	2(8)	5(50)	2(18)	5(50)	1(9)	5(45)	20(26)
中・高教育経験者数（%）	7(29)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(9)	8(10)
女性教員数（%）	2(8)	0(0)	1(9)	0(0)	1(9)	2(18)	6(7)
博士取得者数（%）	13(54)	6(60)	9(81)	6(60)	9(81)	6(54)	49(63)
専門学科博士取得者（%）		6(60)	9(81)	6(60)	9(81)	6(54)	36(68)

（出典 総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

観点に係る状況に示したとおり、教員の年齢構成は、バランスのとれたものになっており、学校、学科及び専攻の目的を達成するため、企業等の経験者を20名、中・高の教職経験者を8名配置している。これらの実務経験を有する常勤教員の教員全体に占める割合は36%であり、実践的技術者を養成するために十分な配置となっている。専門学科の博士取得率が68%であることから専攻科課程の目的を達成するための教員の数も十分である。さらに、女性教員の増員及び出産等への配慮、博士号取得の奨励などの努力も行っている。

以上のことより、教員組織の活動をより活発にするための適切な措置をとっている。

観点3-2-①： 教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされているか。

(観点に係る状況)

教員の欠員・定年退職者の補充及び教員の昇格については、米子工業高等専門学校教員選考規則(資料3-1-④-1, 41ページに前出)及び教員選考基準(資料3-1-④-2, 41ページに前出)に基づき、教員選考委員会の審議を経て、校長が決定している(資料3-2-①-1)。

教員の採用に当たっては公募制を採用しており(資料3-1-④-3, 42ページに前出)、応募してきた候補者に対して、書類審査、面接の他、必ず模擬授業を行わせるなど、本校の教育の目的を達成するために必要な専門性、能力などを持った教員を採用するシステムを構築している。また、昇格に当たっても書類審査を行い、本校の目的を達成するために必要な教員の専門性、能力などを審査している。

#### 資料3-2-①-1

##### 米子工業高等専門学校教員選考委員会規則(抜粋)

(趣旨)

第1条 この規則は、米子工業高等専門学校教員選考規則第4条第2項の規定に基づき、米子工業高等専門学校教員選考委員会(以下「委員会」という。)に関する事項について定める。

(組織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 副校長
- (2) 選考を行う必要がある学科又は一般科目(以下「学科等」という。)の長
- (3) 選考を行う必要がある学科等の教授 1名
- (4) 選考を行う必要がある学科等以外の教授 1名
- (5) その他校長が必要と認めたる者

(委員長)

第3条 委員会に委員長を置き、副校長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(委員以外の者からの意見聴取)

第4条 委員会は、必要に応じて委員以外の者から意見を聴取することができる。

(任務)

第5条 委員会は、昇任及び配置換の場合は選考対象候補者の資格審査を行い、公募の場合は応募者の中から候補者を選定する。

(選考基準)

第6条 前条の選考は、別に定める米子工業高等専門学校教員選考基準に基づいて行うものとする。

(結果の報告)

第7条 委員会は、第5条の審査の結果又は選定した候補者を校長に報告する。

(後略)

(出典 米子工業高等専門学校規則集データベース)

(分析結果とその根拠理由)

観点に係る状況に示したとおり、本校は教員選考規則、教員選考基準及び教員選考委員会規則を定めており、これらの規則等に基づき、委員会は必要とする教員の適格性を審査し、採用・昇格等を決定している。

以上のことより、教員の採用や昇格に関する規程を明確に定め、適切な運用を行っている。

観点3-2-②： 教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され、実際に評価が行われているか。また、その結果把握された事項に対して適切な取組がなされているか。

(観点に係る状況)

教員の教育活動の評価は、授業評価アンケートに代表される教育改善のために行う評価、教員個人が自身の活動を記録する教員業績調査及び国立高等専門学校機構による教員顕彰制度に関わる調査により行っている。

教員業績調査は、Webによる登録形式とし(資料3-2-②-1)、年度を通じて入力可能な状態になっている。調査項目及び教員等への入力依頼の例を資料3-2-②-2~3に示す。また、教員顕彰制度に関わる調査は、学生及び教員全員を対象として、平成18年度は10~11月に実施し、その結果を考慮して校長が推薦教員を決定している(資料3-2-②-4)。

授業評価アンケート等の「教育改善」のために行われる評価方法等の詳細は基準9で述べるが、授業評価アンケートの結果を基に、学生の評価の高い教員については、学内FD研修会での授業方法の工夫等に関する講演依頼や研究費の追加配分措置等を行い、評価の低い教員については副校長及び教務主事が直接指導を行うなど評価を基にした取組みを行っている。

資料3-2-②-1 教員業績調査入力画面

項目名	
必須記入項目(非公開)	本科担当授業・シラバス
	専攻科担当授業・シラバス
	学位の取得状況
	技術資格の取得状況
	研究発表業績(学術論文・総説・解説等)
	研究発表業績(著書・翻訳)
	研究発表業績(口頭発表)
	公開講座
	出前講座
	特別講演・非常勤講師
	連携イベントの企画・運営・参加状況
	各種委員会メンバー・アドバイザー・パネリスト等
	各種会議等への出席状況(上記委員等でない場合の会議等)
	技術相談
技術転移・実用化	
特許・実用新案	
国際協力	
必須記入項目(公開)	授業アンケート結果
	教育関連表彰

(出典 校内 Web ページ)



## 資料 3 - 2 - ② - 2 教員業績調査入力項目

大項目	小項目
必須記入項目（非公開）	本科担当授業・シラバス 専攻科担当授業・シラバス 学位の取得状況 技術資格の取得状況 研究発表業績（学術論文・総説・解説等） 研究発表業績（著書・翻訳） 研究発表業績（口頭発表） 公開講座 出前講座 特別講義・非常勤講師 連携イベントの企画・運営 各種委員会メンバー・アドバイザー・パネリスト等 各種会議等への出席状況（上記委員等でない場合の会議等） 技術相談 技術転移・実用化 特許・実用新案 国際協力
必須記入項目（公開）	授業アンケート結果 教育関連表彰 学術研究関連表彰
授業に関する活動状況	公開授業の実施状況 授業準備等 自主教材作成等（自主教材作成と工夫） 自主教材作成等（開発・改良・改善） オフィスアワー 補習授業 質問対応 学生の最終成績 指導学生の資格取得 留学生指導
ファカルティデベロップメント	FD活動
クラブ同好会指導状況	クラブ・同好会顧問活動 クラブ同好会の成績 加盟団体への貢献
コンテスト・弁論大会等クラブ・同好会以外に関する学生指導	コンテスト等に参加する学生の指導状況
学生の生活指導（学生寮での生活指導を含む）	生活指導
学校運営	校務分掌（学科長） 校務分掌（主事・主事補等） 校務分掌（各種委員会委員） 校務分掌（学級担任） 各種校内委員会 校内行事への参加 学科・科目内分掌 PR活動（発表等によるPR） PR活動（イベント等の参加によるPR）
学術研究・技術開発・外部資金の導入に関する活動	芸術・建築・体育関連業績（展覧会・演奏会・スポーツ大会・建築） 芸術・建築・体育関連業績（文化財の修復等） 研究に関する報道等 学協会活動（所属学協会） 学協会活動（学協会役員・委員） 学協会活動（学術講演会等での活動（役員・座長等）） 学協会活動（学術雑誌等の編集委員） 学協会活動（論文等の査読） 外部資金等導入申請実績（科学研究費補助金） 外部資金等導入申請実績（その他公募資金） 外部資金受入実績（科学研究費補助金） 外部資金受入実績（その他公募資金） 外部資金受入実績（受託研究・共同研究・委任経理金・校内プロジェクト）
自己採点	自己採点

(出典 校内 Web ページ)

## 資料 3-2-②-3 教員業績調査依頼（抜粋）

教員 各位  
技術職員 各位

副校長

## 教職員業績データベース入力について

大変遅くなりましたが、この度ようやく新しい教職員業績データベースシステムが完成致しました。新システムは、皆様からお寄せいただいた旧システムに対するご意見を可能な限り取り入れて機能強化をはかっています（例えば、入力補助機能として、シラバス内容の一部を自動入力させること等が可能になっています）。しかしながら、先日の教員会議で報告しました通り、システムのバージョンアップにともない、旧システムにすでに入力いただいた 2004 年度の業績データ（平成 17 年 3 月依頼分）が新システムに移行できておりません。そこで、まず、2004 年度の業績データを、添付マニュアル及び、旧システムにすでに入力戴いた業績データ（旧システム：http://[REDACTED]）を参照していただき、再入力していただきますようお願いいたします。

\*注）新システムは URL が異なります。http://[REDACTED]

入力期限：平成 18 年 2 月 28 日（火）

なお、2003、2005 年度分のデータ入力は、2004 年度の入力完了後、あらためてお願いすることになりますので、よろしくお願ひします。

（出典 平成 18 年 2 月 28 日 全教員、技術職員宛メール）

## 資料 3-2-②-4

## 平成 18 年度国立高等専門学校教員顕彰実施要項（抜粋）

平成 18 年 9 月 15 日

独立行政法人国立高等専門学校機構理事長裁定

## 1. 顕彰要項

## (1) 趣旨

高等専門学校教員は主として教育者の面を持つが、一方で研究者の面を持つとともに高等専門学校の管理運営にも果たすべき役割がある。高等専門学校教員個々に対する業績評価は、これらを総合して行われるべきものであるが、現状においては、ともしば専門の研究業績のみが重視され、学生教育や管理運営に係る業績が適正に評価されていない恐れがある。このような観点から、管理運営やFD活動を含み、学生教育を中心とする分野において顕著な業績を上げている教員を顕彰するとともに、顕彰を通じて高専における教育の充実・向上を目指すものである。

## (2) 顕彰基準

国立高等専門学校における教育活動、学生生活指導、地域社会への貢献等において顕著な功績があったと認められる者とする。

## (3) 賞の名称

国立高等専門学校教育業績賞とし、以下の賞を設ける。

文部科学大臣賞	1名
独立行政法人国立高等専門学校機構理事長賞	若干名
独立行政法人国立高等専門学校機構理事長奨励賞	若干名
独立行政法人国立高等専門学校機構教員顕彰選考委員会委員特別賞	若干名

## (4) 候補者の推薦

下記 2 の候補者推薦要領により、各国立高等専門学校校長が行う。

## (5) 顕彰対象者の決定

上記によって推薦された候補者の中から、下記 3 の顕彰対象者選考要領に基づいて選考委員会が顕彰教員を選考・決定し、文部科学省へ表彰の依頼をする。

## (6) 顕彰の時期

平成 19 年 3 月開催予定の校長会議の席上で行う。

（出典 総務課資料）

## (分析結果とその根拠理由)

観点に係る状況に示したとおり、教育活動に関する業績をまとめ、自己点検するシステムを構築し、運用している。また、授業評価アンケート結果については、その結果を用いて改善の取組みを行っている。さらに、国立高等専門学校機構による教員顕彰制度があり、校長が総合的に判断し、推薦教員を決定している。

以上のことより、教員の教育活動に関して定期的な評価を適切に実施するための体制を整備し、多角的な評価を行っており、当該評価は有効に活用されている。

観点3-3-①： 学校において編成された教育課程を展開するために必要な事務職員、技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

平成18年度までの事務職員及び技術職員の配置数を平成18年度事務職員・技術職員配置表(資料3-3-①-1)に、組織を平成18年度組織図(資料3-3-①-2)に示す。平成19年度からは、事務組織を2課体制に変更した。事務職員及び技術職員の配置は資料3-3-①-3のとおりであり、本校の業務運営上の組織における位置づけは、資料3-3-①-4のとおりである。

教育課程の展開を支援する事務組織として学生課及び技術教育支援センターを設置している。学生課には主として事務職員が所属し、学生課教務係は、教育課程、授業・試験、学籍等に関わる支援、学生課学生係は奨学金等、課外活動、健康管理、進路指導等に関わる支援、学生課学術情報係は図書館情報センター(資料2-1-③-2, 19ページに前出)に関する支援を行っている。支援組織で学生が行う諸手続きは、学生便覧に記載し、学生に開示している(資料3-3-①-5)。

技術教育支援センター(資料2-1-③-3, 19ページに前出)には技術職員を配置しており、実験・実習、卒業研究等の技術支援を行っている(資料2-1-③-6~7, 21~22ページに前出)。また、技術教育支援センターでは、定期的に研修会を行っている。

資料3-3-①-1 平成18年度事務職員・技術職員配置表

	課長	専門員	専門職員	係長	主任	係員	司書	看護師	計
庶務課	1	1	1	3	3	2	1	0	12
会計課	1	0	0	4	4	1	0	0	10
学生課	課長・専門職員	1	0	1	0	0	0	0	2
	教務係	0	0	0	1	1	0	0	3
	学生係	0	0	0	1	0	1	0	3
	寮務係	0	0	0	1	0	1	0	2

	技術専門員	技術専門職員	技術職員	計
技術教育支援センター	技術長	1	0	1
	第一技術班	1	4	8
	第二技術班	1	6	7

(出典 総務課資料)

資料 3 - 3 - ① - 2 平成 18 年度組織図



(出典 平成 18 年度学校要覧 P. 4)

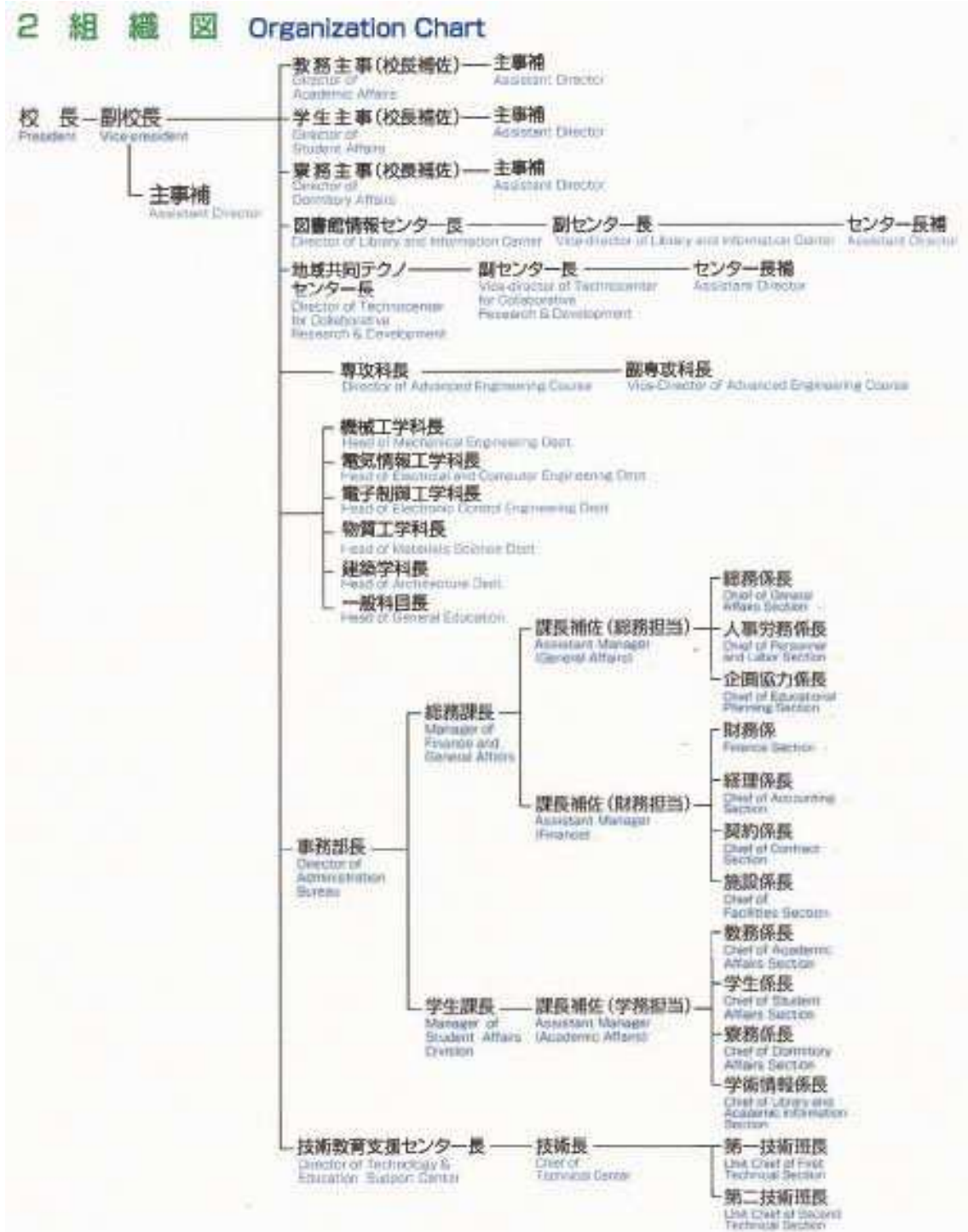
資料 3 - 3 - ① - 3 平成 19 年度事務職員・技術職員配置表

		課長	課長補佐	係長	主任	係員	司書	看護師	計
総務課		1	2	6	3	7	0	0	19
学生課	課長・課長補佐	1	1	0	0	0	0	0	2
	教務係	0	0	1	1	1	0	0	3
	学生係	0	0	1	0	1	0	1	3
	寮務係	0	0	1	0	1	0	0	2
学術情報係		0	0	1	0	0	1	0	2

		技術専門員	技術専門職員	技術職員	計
技術教育支援センター	技術長	1	0	0	1
	第一技術班	1	4	3	8
	第二技術班	1	6	0	7

(出典 総務課資料)

資料3-3-①-4 平成19年度組織図



(出典 平成19年度学校要覧 P.4)

資料3-3-①-5 諸手続き一覧（抜粋）

種 類	提出時期	提出先	備 考
休 学 願	その都度	教務係	学級担任を經由
復 学 願	〃	〃	〃
退 学 願	〃	〃	〃
学 生 証 再 交 付 願	〃	〃	〃
忌 引 願	〃	〃	〃
特 別 欠 席 ( 欠 課 ) 願	〃	〃	〃
保 証 人 変 更 届	〃	〃	〃
身 上 異 動 届	〃	〃	〃
住 所 届	〃	〃	〃
住 所 変 更 届	〃	〃	〃
欠 席 ( 欠 課 ) 届	〃	〃	〃
※ 居 残 届	〃	〃	指導教員を經由
時 間 外 使 用 届	〃	学生係	〃
学 生 団 体 結 成 願	〃	〃	学級担任又は指導教員を經由
校 外 団 体 参 加 願	〃	〃	学級担任又は指導教員を經由
対 外 試 合 参 加 許 可 願	〃	〃	〃
校 外 催 物 参 加 願	〃	〃	〃
集 会 等 許 可 願	〃	〃	〃
印 刷 物 発 行 ( 販 売 ) 許 可 願	〃	〃	〃
掲 示 許 可 願	〃	〃	学生主事を經由
車 両 通 学 許 可 願	〃	〃	学級担任を經由
施 設 ・ 設 備 使 用 許 可 願	〃	〃	学級担任又は指導教員を經由

(出典 平成19年度学生便覧P.24)

(分析結果とその根拠理由)

観点に係る状況に示したとおり、教育活動を展開するために各部署に必要な人数と高い技術を持つ人材を配置し、機能している。

以上のことより、本校は教育課程を展開するために必要な事務職員・技術職員などの教育支援者を適切に配置している。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

実務経験を有する常勤教員の教員全体に占める割合が36%であり、また、非常勤教員にも多くの実務経験者を採用しており、本校の目的のうち「実践的な技術者の育成」を達成するためにふさわしい配置となっている。

(改善を要する点)

該当なし

## (3) 基準3の自己評価の概要

本校は、一般科目・専門学科ともに、教育目的に沿った教育課程を遂行するために必要な教員を、高等専門学校設置基準に則り適正に配置している。また、実務経験を有する常勤教員の教員全体に占める割合が36%であり、専門学科の博士取得率が68%であることから教員の資質も適正である。

専門教育を担う非常勤教員の場合も、科目内容に応じて企業人・大学教員・教育経験者を採用しており配置は適正である。専攻科を担当する教員数は、常勤59名非常勤4名、合計63名で、専攻科学生一人当たり1.6名を配置し、少人数教育を実施するに十分な配置としている。

教員の採用や昇格については、高等専門学校設置基準に定める教員の資格基準及び国立高等専門学校教員選考方針を基礎として、米子工業高等専門学校教員選考規則、米子工業高等専門学校教員選考基準及び米子工業高等専門学校教員選考委員会規則を制定し、これら各基準・規則に則って適正に運用を行っている。

教員の教育活動に関して、授業評価アンケートに代表される教育改善のために行う評価、教員個人が自身の活動を記録する教員業績調査及び国立高等専門学校機構による教員顕彰制度に関わる調査を定期的実施して結果を公表し、教員の意欲と資質向上のために必要な施策を適切に行なっている。

また、教育課程を展開するために必要な事務職員・技術職員などの教育支援者についても、組織化して適正に配置している。





## 基準4 学生の受入

### (1) 観点ごとの分析

観点4-1-①： 教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜（例えば、準学士課程入学者選抜、編入学生選抜、留学生選抜、専攻科入学者選抜等が考えられる。）の基本方針などが記載された入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に公表されているか。

（観点到係る状況）

本校の入学者選抜は、準学士課程第1学年への準学士課程入学者選抜、同第4学年への編入学生選抜、専攻科課程第1学年への専攻科入学者選抜及び留学生選抜があり、準学士課程入学、専攻科入学の選抜にはそれぞれ、推薦選抜と学力選抜の区分がある。いずれの選抜についても、本校の教育の目的に沿った選抜の基本方針は、まず、学則に明確に定めている。準学士課程入学に関しては第18条・第19条に、編入学に関しては第20条に、留学生に関しては第61条、専攻科入学に関しては第49条・第50条に、入学資格や選抜方法を定めている（資料4-1-①-1）。

準学士課程第1学年への入学者選抜、同第4学年への編入学生選抜、専攻科課程第1学年への入学者選抜に関しては、出願資格・選抜の方法・アドミッション・ポリシー等を定め、それぞれの募集要項に記載している（資料1-1-①-3，6ページに前出，別添資料4-1-①-1～3）。このアドミッション・ポリシーは、本校の目的、理念等及び学科の目標をもとに、入学生として最低身につけておくべき事項をアドミッション・ポリシーとして定めたものである。

アドミッション・ポリシーの周知・公表については、次の通りである。出願資格・選抜の方法は、募集要項等の刊行物や本校のWebページに記載しており、さらに、本校のアドミッション・ポリシーは、それらに加えて、学生便覧（資料4-1-①-2）や学校パンフレット（資料1-2-②-1，14～15ページに前出）の刊行物やWebページ（資料4-1-①-3）により広く社会に公表公開している。とくに、本校教職員へは、学生便覧（資料4-1-①-2）の配布により周知をしているほか、入学試験前の入試担当者打合せ会等において実施要項（資料4-1-①-4，訪問調査時に提示）にアドミッション・ポリシーやそれに沿った面接質問項目を記載し、確認をしている。また、学校パンフレットについては、入試説明会や中学校訪問のほかにオープンキャンパスや公開講座等においても参加者に配布し、対象の人々にアドミッション・ポリシーの公表を行っている。アドミッション・ポリシーの認識度については、準学士課程入学生について調査し、検証している（資料4-1-①-5）。

## 資料 4-1-①-1 入学資格及び選抜方法

(入学資格)

第 18 条 本校に入学することのできる者は、次の各号の一に該当するものとする。

- (1) 中学校を卒業した者
- (2) 外国において、学校教育における 9 年の課程を修了した者
- (3) 文部科学大臣の指定したもの
- (4) その他相当年齢に達し、本校が中学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めたる者

(入学者の選抜及び入学許可)

第 19 条 校長は、入学を志願する者について、学力検査の成績、出身学校の長から送付された調査書その他必要な書類等を資料として入学者の選抜を行う。

2 校長は、前項の選抜方法によるほか、別に定めるところにより、入学定員の一部について、中学校長の推薦に基づき、学力検査を免除し、中学校長から送付された調査書を主な資料として入学者の選抜を行う。

3 校長は、前 2 項の選抜の結果に基づき、第 35 条に規定する入学料を納付した者に対して入学を許可する。ただし、入学料免除の申請書を受理された者にあつては、この限りではない。

4 第 1 項及び第 2 項に関し必要な事項は、別に定める。

(編入学の許可)

第 20 条 校長は、第 1 学年の途中又は第 2 学年以上に入学を志願する者があるときは、その者が相当年齢に達し、該当学年に在学するものと同程度の学力があると認められる場合に限り、相当学年に入学を許可することがある。

2 前項に関し必要な事項は、別に定める。

(入学資格)

第 49 条 専攻科に入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等専門学校を卒業した者
- (2) 短期大学を卒業した者
- (3) 専修学校の専門課程を終了した者のうち学校教育法第 8 2 条の 1 0 の規定により大学に編入学することができる者
- (4) 外国において、学校教育における 1 4 年の課程を修了した者
- (5) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 1 4 年の課程を修了した者
- (6) その他専攻科において、高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めたる者

(入学者の選抜及び入学許可)

第 50 条 校長は、入学を志願する者について、別に定めるところにより入学者の選抜を行う。

2 校長は、前項の選抜の結果に基づき、第 3 5 条に規定する入学料を納付した者に対して入学を許可する。ただし、入学料免除の申請書を受理された者にあつては、この限りではない。

(外国人留学生)

第 61 条 外国人で、高等専門学校において教育を受ける目的をもって、入国し、本校に入学を志願する者があるときは、校長は、選考の上外国人留学生として入学を許可することがある。

2 前項に関し必要な事項は、別に定める。

(出典 米子工業高等専門学校学則)

## 資料 4-1-①-2 学生便覧に記載されたアドミッション・ポリシー（抜粋）

## 6. アドミッションポリシー（入学者受入方針）

本校では、入学者として次のような人を広く求めています。

## 【本科】

- ①ものづくりに関心があり、基礎学力を持った人
- ②自ら見つけた目標を達成するために挑戦していける人
- ③文化や自然環境を大切にすること

## 【編入学】

## 機械工学科

- ①ものづくりに関心があり、機械工学を学ぶ上での基礎となる学力を有する人
- ②技術者として必要とされるコミュニケーション能力を持ち、解決すべき問題に自発的に取り組める人
- ③将来、技術者として国際社会に貢献する意欲がある人

## 電気情報工学科

- ①電気、電子、情報技術に関心があり、さらに深く学びたい人
- ②他人と協力し合って自主的に課題に取り組める人
- ③学んだ技術を社会に還元する意欲がある人

## 電子制御工学科

- ①電子制御技術に関心があり専門基礎学力を有する人
- ②自ら創意、工夫して物事に挑戦できる人
- ③文化や自然環境に対する広い視野を持ち、仲間と協調しつつ自らの意見を述べられる人

## 物質工学科

- ①化学および生物系分野の基礎となる学力を有する人
- ②種々の実験や実習に積極的に取り組める人
- ③周囲の人とコミュニケーションできる人

## 建築学科

- ①建築の基礎を学ぶうえで必要な知識を習得している人
- ②豊かで安全な生活空間の創造に意欲的に取り組める人
- ③建築の仕事を通して、社会に貢献しようと考えている人
- ④周囲の人とコミュニケーションできる人

## 【専攻科】

- ①基本的知識を有し、さらに高度な専門知識を学びたい人
- ②主体的に物事に取り組み、解決しようとする意欲のある人
- ③学んだ技術を生かして社会に貢献する意欲のある人
- ④他の人と協調しながら物事に取り組める人

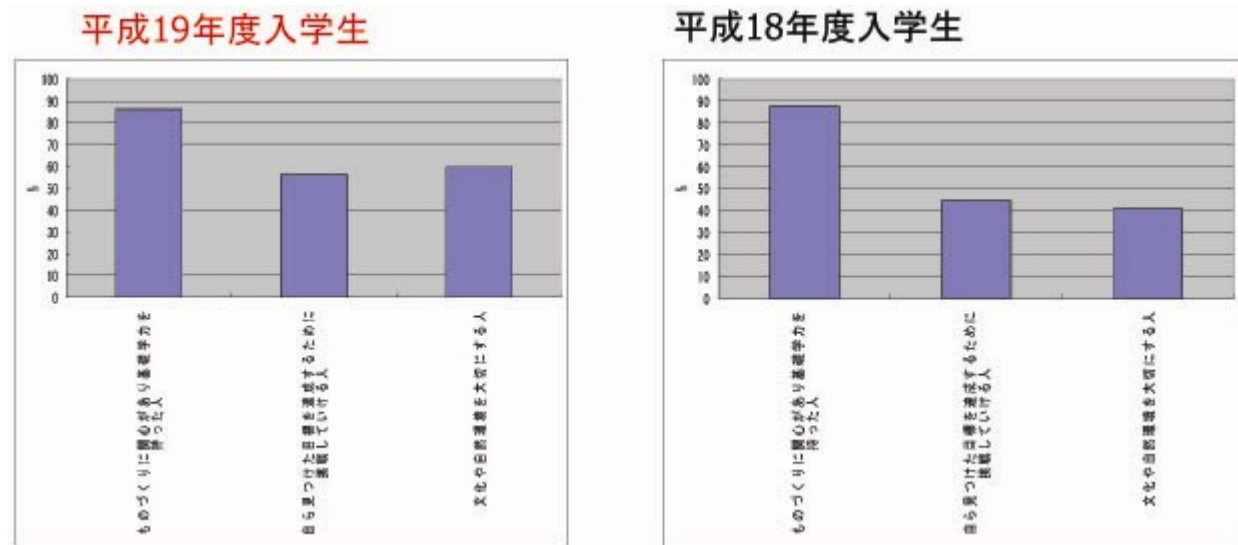
（出典 平成 19 年度学生便覧）

## 資料 4-1-①-3 本校 Web ページのアドミッション・ポリシー



（出典 米子高専 Web ページ）

資料 4-1-①-5 入学生を対象としたアドミッション・ポリシーの認識度調査結果



(出典 教務部資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校の教育の目的に沿ったアドミッション・ポリシーを明確に定めており、教職員に周知し、社会に公表している。本校の入学者選抜は、学生募集要項内で選抜の方法、出願資格、求める学生像を具体的に示している。また、本校の教職員に対しては、学生便覧等の配布物及びWebページにより周知をしており、さらにWebページ掲載等により広く一般にも公開している。とくに、学校説明会や中学校訪問時にはそれらを説明し、将来の学生に周知を図っている。

**観点 4-2-①：** 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

進学士課程第1学年への受入には、推薦選抜と学力選抜がある。この選抜の方法やアドミッション・ポリシー等は学生募集要項（別添資料4-1-①-1）に示してある。推薦選抜では、調査書、推薦書の内容及び3名の教員による面接検査の結果を総合的に判断し、アドミッション・ポリシーに沿った学生を定員の40%程度を受け入れている。学力選抜では、5教科（別添資料4-1-①-1）の学力検査の成績、調査書の内容及び面接検査の結果によって合格者を総合的に判断している。学力検査は、全国の国立高専共通の問題で実施している。面接検査は推薦選抜と同様に、3名の教員で評価している。

進学士課程第4学年への編入受入では、工業系高校及び普通科高校の卒業者（卒業見込みを含む）を対象として編入学選抜を行い（別添資料4-1-①-2）、学力試験、面接検査の結果及び調査書の内容を総合的に判断し、合格者を決定している。学力試験は工業系で英語、数学、専門科目、普通科系では英語、数学、物理（物質工学科のみ化学）の3科目を行っている。また、面接検査においては各学科の教員3名がアドミッション・ポリシーに沿って面接を行い、評価している。

専攻科課程への受入には、推薦選抜、学力選抜、社会人特別選抜がある（別添資料4-1-①-

3)。高専卒業見込を対象とした推薦選抜と社会人を対象とした社会人特別選抜では、面接検査の結果と志願調査書、調査書等をもとに本校のアドミッション・ポリシーへの適合性を評価し、選抜している。前期・後期の学力選抜では、英語・数学・専門科目の学力試験の結果と面接検査の結果及び調査書等をもとに、適性を評価し、選抜している。

上記のすべての試験において、試験方法やアドミッション・ポリシーに沿った内容の質問例などを示した実施要項（資料4-1-①-4，訪問調査時に提示）を事前に入試担当者打合せ会等で周知したうえで面接検査等を実施し、合格の判定は判定基準に従って入試委員会で厳正に審査し校長が決定を行っている。

（分析結果とその根拠理由）

アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入方法を採用しており、実際の入学者選抜も適切に実施している。各入学者選抜の募集要項においてアドミッション・ポリシーに沿った選抜方法を定めて公開し、入試委員会を中心に適切に実施している。特に、すべての入学者選抜において面接検査を実施しており、本校の求める学生像に沿った学生を選抜している。

**観点4-2-②： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証しており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。**

（観点に係る状況）

学生の受け入れ状況の検証・改善に関しては、入試委員会の主導のもとに行っている。全ての入学者選抜において、合格者の最終決定は、入試委員会で審議・決定する。そこでは、全ての受験者の面接時の面接教員の採点結果や試験成績、調査書の状況の一覧を提示し、とくに合格ボーダーラインの受験者に対しては、推薦選抜の場合は面接の評価点が、学力選抜の場合は科目の試験成績等が本校のアドミッション・ポリシーに適合しているかどうかを分析・審議し、合否の決定を行っている。

志願者数及び入学者の学力試験における各教科の得点分布等の調査を行っており、結果の分析や対策については学科長会議等で周知している（資料4-2-②-1～2）。具体的な入学者選抜の改善については、面接検査時の質問事項の整備（資料4-2-②-3）、15歳人口の減少に伴う志願者数の減少への対応として推薦選抜の定員30%から40%への拡大などがある。さらに、入学志願者の減少をくい止め、人材を確保するための広報活動に関しても、平成18年度にオープンキャンパスを2回に増やしたり、中学校連絡専門部会（資料4-2-②-4）を立ち上げたりするなどの改善を図っている。

資料4-2-②-1 平成18年度入学者選抜結果の分析

学科長会議議事概要

1 日時 平成18年12月20日（水）16:30～19:50

2 場所 小会議室

3 議題

（中略）

（16）平成18年度以前の入試データの分析と今後の対策

教務主事及び竹内教務主事補から、資料8（平成18年度以前の入試データの分析と今後の対策）に基づき、平成18年度以前の入試データの分析と今後の対策について説明があった。

（後略）

（出典 平成18年12月20日学科長会議議事録）

資料 4-2-②-2 平成 17 年度入学者選抜結果の分析

教職員各位

標記のことについて、8月22日(月)に開催しますのでご案内します。  
日程の詳細は下記のとおりです。

記

- 1 日 時 平成 17 年 8 月 22 日 (月) 13 時 30 分から
- 2 場 所 合同講義室
- 3 演 題 「入学試験結果の分析からわかること」  
一般科目 倉 田 久 靖

「電気情報工学科における教育改善の一例」  
電気情報工学科 新 田 陽 一

(出典 平成 17 年 8 月 15 日全教職員宛メール)

資料 4-2-②-3 入学者選抜における面接質問事項の整備

学科長会議議事録

日 時 平成 18 年 1 月 18 日 (水) 16 : 00 ~ 17 : 48

場 所 小 会 議 室

議 事

(中略)

3. 面接検査(推薦及び学力)での質問事項について

教務主事から、資料に基づき説明があり、特に質問禁止事項についてよく確認し、遺漏のないよう検査を実施してほしい旨依頼があった。

(後略)

(平成 18 年 1 月 18 日学科長会議議事録)

## 資料 4-2-②-4 中学校連絡専門部会の業務内容

平成 18 年 5 月 31 日

平成 18 年度入試委員会、中学校連絡部会の業務内容などについて学生課長、教務係長、学務担当専門職員、山田の 4 人で話し合いをした結果を報告します。

## 【1】 構成員

部会長 山田（A 科委員を兼ねる）、  
各科委員 M 科 山口、矢壁  
E 科 千葉、松本正  
D 科 能登路、中山  
C 科 小川、青木  
A 科 山田、松本幸  
G 科 竹内、南

## 【2】 入試 PR に関する仕事の内容

(中略)

## 2) 中学校における学校説明会への参加

17 年度の実績 (6/21 から 11/16 にかけて 35 回)

鳥取県 (西部 20 校、中部 11 校、東部 (八東) 1 校)

鳥根県 (安来 2 校、松江 (八東) 1 校)

## 18 年度の方針

呼んでもらえた学校にはすべて出向く。

事務担当は専門職員。

部会委員への割り振り担当は山田。

米子、境港地区以外へ出かける際には

出張手続きを行なう。

## 3) 中学校の進路指導担当の先生へ説明に出向く (7-11 月の間)

ここ数年は実施していなかった。

専門部会委員 12 名で中学校を割り振り、電話連絡して日時を決めた上で出向く。

対象は鳥取県内全校 (60 校)、中海圏域の学校 (9 校)

(中学校での学校説明会に呼んでもらえた学校にも出向く)

割り振り案を後ろに示します。

割り振りに案に関してご意見がありましたらお願いします。

## ☆ 持参する資料

学校便覧、入試パンフレット

当該中学校出身在学生の成績、卒業生の進路など

☆ 訪問後は報告書を提出する。(書式は以前の物を参考にこれから作成)

(後略)

(出典 中学校連絡専門部会打合せ報告書)

## (分析結果とその根拠理由)

学生の受入の実状を検証しており、入学者選抜の改善にも役立てている。合格者の決定は、入試委員会により、アドミッション・ポリシーに沿って、厳正に審査・審議し、最終決定している。また、学生の受入状況を検証し、本校のアドミッション・ポリシーに適合する人材を確保するため、入学者選抜制度の見直し及び広報活動の活性化等の改善を行っている。

**観点 4-3-①:** 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

## (観点に係る状況)

準学士課程の入学定員は各学科 40 名で合計 200 名である。また、専攻科課程の入学定員は生産システム専攻が 12 名、物質工学専攻と建築学専攻が各 4 名で計 20 名である。準学士課程入学者選抜・専攻

科入学者選抜における定員と志願者数及び実入学者数の推移をそれぞれ資料4-3-①-1～2に示す。この資料から分かるように、実入学者数は、入学定員に対して大幅に超えておらず、施設・設備の点でも対応できることから、適切な数となっている。特に、準学士課程においては、過去の入学辞退者数の推移を統計処理した結果から当年の辞退者数を推定し、各学科の合格者数を決定しているため、実入学者数は適正な数になっている。また、準学士課程の第4学年では、編入学生を受け入れているため、定員を超える場合もあるが、第3学年の学生数を考慮して編入学の募集を行っているため、大幅に定員を超えることはない。

専攻科については、実入学者数が定員を超える年度や若干下回る年度もあったが、専攻科1・2年を合わせた人数では適正な学生数となっている。また、本校準学士課程の第3、4学年の学生に専攻科についての説明会を実施する（資料4-3-①-3～4）などの広報活動の活性化を行い、専攻科課程の志願者の増加及び適正な実入学者の確保に努めている。

資料4-3-①-1 準学士課程入学者選抜における定員と実入学者数の推移

		機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	物質工学科	建築学科	計
H19年度	入学定員	40	40	40	40	40	200
	志願者数	96	66	82	117	89	450
	受検者数	95	66	81	117	89	448
	合格者数	69	66	79	98	84	396
	入学者数	46	44	42	41	44	217
H18年度	入学定員	40	40	40	40	40	200
	志願者数	87	80	88	98	107	460
	受検者数	85	78	86	98	106	453
	合格者数	64	70	74	92	73	373
	入学者数	43	46	43	48	45	225
H17年度	入学定員	40	40	40	40	40	200
	志願者数	111	71	90	110	113	495
	受検者数	108	71	89	108	111	487
	合格者数	60	66	79	83	77	365
	入学者数	42	41	42	40	40	205
H16年度	入学定員	40	40	40	40	40	200
	志願者数	85	101	107	119	146	558
	受検者数	83	100	107	116	138	544
	合格者数	49	65	73	82	73	342
	入学者数	40	40	44	40	40	204
H15年度	入学定員	40	40	40	40	40	200
	志願者数	81	71	113	90	107	462
	受検者数	79	69	111	85	105	449
	合格者数	60	53	86	68	74	341
	入学者数	41	43	49	45	44	222

(出典 教務部資料)



## 資料 4-3-①-2 専攻科入学者選抜における定員と実入学者数の推移

		生産システム専攻	物質工学専攻	建築学専攻	計
H19 年度	入学定員	12	4	4	20
	志願者数	26	6	13	45
	受検者数	25	6	13	44
	合格者数	23	6	11	40
	入学者数	20	5	11	36
H18 年度	入学定員	12	4	4	20
	志願者数	14	3	4	21
	受検者数	14	3	4	21
	合格者数	13	3	4	20
	入学者数	13	3	2	18
H17 年度	入学定員	12	4	4	20
	志願者数	13	7	7	27
	受検者数	13	7	7	27
	合格者数	12	7	7	26
	入学者数	12	7	7	26
H16 年度	入学定員	12	4	4	20
	志願者数	15	3	5	23
	受検者数	15	3	5	23
	合格者数	14	3	5	22
	入学者数	14	3	5	22

(出典 教務部資料)

## 資料 4-3-①-3 専攻科課程広報活動の例 (準学士課程 4 年生対象)

平成 18 年度進路懇談会

- 1 日 時 平成 19 年 3 月 25 日 (日)  
       午前の部 9 時から  
       午後の部 13 時から
- 2 場 所 合同講義室
- 3 出席者 (学校側) 校長 学生主事  
       各学科就職・進学等担当教員 (19 年度 5 年担任)
- 4 進 行 (学生課長)
  - (1) 開会の辞
  - (2) 校長挨拶
  - (3) 学年主任説明
  - (4) 専攻科長説明
  - (5) 就職・進学等担当教員の紹介及び案内

(出典 平成 18 年度進路懇談会資料より抜粋)

## 資料 4-3-①-4 専攻科課程広報活動の例（準学士課程第3学年対象）

第3学年 木曜7時間目		
月日	内容	担当
10月5日		
10月10日	球技大会	
10月12日	工場見学旅行結団式	学年
	10/18~20 工場見学旅行	
10月26日		
11月1日		
	11/2~11/5 文化祭、片づけ	
11月9日		
11月16日	環境。ごみ問題	学生部
	11/30~12/6 後期中間試験	
12月7日		
12月14日	インターンシップ講演会	教務部
12月21日		
	12/23~1/8 冬休み	
1月11日		
1月18日	インターンシップ講習会	教務部
1月25日	専攻科説明会	専攻科委員
2月1日		
	2/5~2/9 学年末試験	
2月15日	交通安全講習	学生部
2月21日	終業式	

(出典 平成18年度第3学年ホームルーム年間計画より抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程の実入学者数は、入学定員に対し適正な数になっている。専攻科課程でもほぼ入学定員を確保している。実入学者が定員より若干少ない年度もあるが、これに対しては前述の広報活動の活性化等の改善を行っている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

すべての入試において基準に沿って面接を行っており、複数の教員により面接結果を定量的に評価し、合格判定に用いている。

(改善を要する点)

該当なし

## (3) 基準4の自己評価の概要

学生の受入に関する入学者選抜の基本方針や求める学生像などのアドミッション・ポリシーは、準学士課程入学者選抜・第4学年編入学生選抜・専攻科入学者選抜のいずれにおいても明確に定めており、募集要項、学校パンフレットの刊行物及び本校のWebサイトに記載している。特に求める学生像については、学校及び学科が求める学生像を平易な文章で記述し、学生便覧にも記載している。本校教職員には学生便覧を配布して周知するとともに、社会に対しては、上記の刊行物やWebページでの公開の他に、学校説明会・中学校訪問などで説明を行っている。

入学者の選抜は、準学士課程第1学年・準学士課程第4学年編入学・専攻科課程の全ての選抜において、募集要項に記載しているアドミッション・ポリシーの選抜方法に則して実施している。また、

実際の運用も、入試委員会で定めた実施体制により適切に実施している。

学生の受入の実状がアドミッション・ポリシーに沿っているかどうかの検証は、入試委員会で行っている。入学者選抜の改善についても、同委員会主導で実施している。準学士課程選抜における推薦選抜の定員増など改善を行ってきた。加えて、本校の求める学生像に適合する人材の確保のための広報活動も、オープンキャンパスの回数の増加や中学校連絡専門部会の立ち上げ等で年々改善・充実を図っている。

入学者数と定員との関係は、準学士課程第1学年・準学士課程第4学年編入学・専攻科課程の全ての推薦・学力選抜において適切である。専攻科では、実入学者が定員より少ない年度もあるが、広報活動の活性化などで改善を行っている。



## 基準5 教育内容及び方法

### (1) 観点ごとの分析

#### <準学士課程>

観点5-1-①： 教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置（例えば、一般科目及び専門科目のバランス、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。）され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

（観点に係る状況）

本校の準学士課程では、高専の特色である5年間にわたる一貫教育システムを有効に活用し、段階的に本校の教育目的を達成することを主眼として教育課程を編成している。特に平成19年度からは本校の教育目的をより適切に達成するために、準学士課程の教育課程を大幅に改訂して実施している（資料5-1-①-1、別添資料5-1-①-1）。改訂の例としては、本校が教育目的として掲げる「地球の一員としての倫理力を身に付ける」ことを積極的に達成するために第1学年に「情報リテラシ」、第5学年に「環境科学」、「技術者倫理」の3科目を新たに開設している。また、新たに必修得科目を設定し、準学士課程修了生が本校の教育目的を達成しているという保証をより明確なものとしている。

専門性の違いから、改訂後は全履修単位数が学科によって異なるが、各学科とも低学年に一般科目を多く配置し、学年が上がるに従って専門科目の比重が高まる、いわゆる楔形の科目配置になっている（資料5-1-①-2）。また、全修得単位数に占める一般科目の割合は45～47%となっている。高等専門学校の設置基準によれば一般科目を75単位（45%）以上、専門科目を82単位（55%）以上修得することが義務づけられているが、資料5-1-①-3に示す本校の課程修了要件は設置基準に沿っており、準学士課程も課程修了要件を適切に満たすように編成している。

一方、各学科の教育目標（資料1-1-②-1～2、6～7ページに前出）の観点からみると、全学科とも第1学年で導入科目をおき、基礎的な内容から始めて、次第に深めていくような科目配置であり、また実験・実習・演習科目をまんべんなく配置していることから、各学科の目標を達成するために十分な教育課程となっている（資料5-1-①-4～9）。

次に本校準学士課程の教育目標に沿った体系性について分析する。例として、一般科目及び機械工学科の科目系統図を、それぞれ資料5-1-①-10～11に示す。教育目標のうち「(A) 技術者としての基礎力」を持たせるために、一般理数系科目や各学科の専門科目を配置している。「(B) 持てる知識を使う応用力」を持たせるために、主に各学科の専門科目を配置している。「(C) 地域と自らを高める発展力」を持たせるために、卒業研究や校外実習などを配置している。「(D) 地球の一員としての倫理力」を持たせるために、前述のように、全学科共通科目として情報リテラシ、環境科学、技術者倫理を設置して対応している。「(E) 社会とかかわるコミュニケーション力」を持たせるために、一般文系科目がその中心を担っている。

上述のように、本校の教育課程は体系的に編成されており、卒業時までには教育目標を十分に達成できるようになっている。

## 資料5-1-①-1 本科カリキュラム改訂答申

米子工業高等専門学校  
本科カリキュラム改訂答申

平成18年7月  
カリキュラム検討委員会

(出典：本科カリキュラム改訂答申，平成18年7月)

## 資料5-1-①-2 各学年・学科の開設単位数と履修単位数

一般科目	開設単位数	履修単位数 (物質工学科以外)	履修単位数 (物質工学科)
1学年	32	27	29
2学年	25	25	23
3学年	16	16	16
4学年	23	11	11
5学年	15	3	3
合計	111	82	82

機械工学科	開設単位数	履修単位数
1学年	7	7
2学年	8	8
3学年	19	19
4学年	27	26
5学年	39	36
合計	100	96

電気情報工学科	開設単位数	履修単位数
1学年	7	7
2学年	9	9
3学年	18	18
4学年	30	28
5学年	42	33
合計	106	95

## 資料5-1-①-2 各学年・学科の開設単位数と履修単位数

電子制御工学科	開設単位数	履修単位数
1学年	7	7
2学年	9	9
3学年	18	18
4学年	27	26
5学年	39	35
合計	100	95

物質工学科	開設単位数	履修単位数
1学年	5	5
2学年	11	11
3学年	18	18
4学年	42	41
5学年	31	25
合計	107	100

建築学科	開設単位数	履修単位数
1学年	7	7
2学年	9	9
3学年	18	18
4学年	27	26
5学年	36	34
合計	97	94

(出典 平成19年度学生便覧より抜粋)

## 資料5-1-①-3 準学士課程の課程修了要件

第11条 学年の課程修了は、校長が認定する。

2 次の各号の一に該当するものは、原則として課程の修了を認めない。

- (1) 評価しない科目のある者
- (2) 次の表の学年に対応する単位を修得できなかった者

学年	単位数
1学年	27以上（うち一般科目20以上）
2学年	61以上（うち一般科目46以上，専門科目5以上）
3学年	95以上（うち一般科目61以上，専門科目24以上）
4学年	130以上（うち一般科目70以上，専門科目50以上）
5学年	167以上（うち一般科目75以上，専門科目82以上）

- (3) 欠課時数（学校行事・特別活動の欠課時数を含む。）を1日7時間の割で換算した日数が、出席すべき日数の5分の1を超える者

ただし、病気その他の理由により、やむを得ないと認められた場合にあつては、3分の1を超える者（長期にわたる病気による欠席日数が、3分の1を超える場合であっても、特別な状況にあると認められた者を除く。）

- (4) 特別活動の履修状況及び学校行事への参加状況が著しく不良の者

(出典 学業成績の評価及び課程修了の認定に関する内規より抜粋)

資料5-1-①-4 一般科目課程表

一般科目 教育課程表

(平成19年度入学生以降)

区分	授業科目	単位数	形態種別	学年別配当					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
必修 修科目	国語 I	4		4					
	国語 II	3			3				
	国語 III	2				2			
	現代社会	2			2				
	地理	2				2			
	歴史 I	2		2					
	歴史 II	2			2				
	数学 I	3		3					
	数学 II	3		3					
	微分・積分	3			3				
	代数・幾何	2			2				
	解析 I	3					3		
	解析 II	2					2		
	情報リテラシ	1		1					
	物理 I	2		2					
	物理 II	3			3				
	化学 I	3(0)		3(0)					
	基礎化学	(3)		(3)					
	化学 II	2(0)			2(0)				
	生物学	(2)		(2)					
	保健・体育 I	3		3					
	保健・体育 II	2			2				
	保健・体育 III	2				2			
	保健・体育 IV	2	実技				2		
	保健・体育 V	1	実技					1	
	音楽 I	1		1					
	音楽 II	1			1				
	英語総合 I	3		3					
	英語総合 II	3			3				
	英語総合 III	3				3			
	英語総合演習	2	演習				2		
	基礎英語演習 I	1		1					
基礎英語演習 II	1			1					
基礎英語演習 III	1				1				
基礎英語会話 I	1		1						
基礎英語会話 II	1			1					
基礎英語会話 III	1				1				
独語	3	講義				3			
開設単位計	81		32	25	16	7	1		
履修単位計	76		27(29)	25(23)	16	7	1		
選択 科目	文学 I	*2	講義				2	前期	このうちから、前後期 で異なる2教科4単位 を選択する。
	文学 II	*2	講義				2	前期	
	文学 III	*2	講義				2	後期	
	文学 IV	*2	講義				2	後期	
	社会科学 I	*2	講義				2	前後期	このうちから1科目2単位を 選択する。
	社会科学 II	*2	講義				2	前後期	
	社会科学 III	*2	講義				2	前後期	
	実用工業英語	2	講義				2		
	米文	2	講義				2		
	英語会話	2	講義				2		
	英語演習	2	演習				2		
	時事英語	2	講義				2		
	コミュニケーション	2	講義				2		
	独語講読	2	講義				2		
解析 III	*2	講義				2	前期	自由選択	
開設単位計	30					16	14		
履修単位計	6					4	2		
開設単位合計	111		32	25	16	23	15		
履修単位合計	82		27(29)	25(23)	16	11	3		

※1 表中の「化学I」、「化学II」、「基礎化学」、「生物学」及びそれぞれの計欄について、( )は物質工学科の単位数  
 ※2 単位数欄に「\*」を記してある科目は学修単位を示し、記してない科目は履修単位を示す。

履修単位：1単位の授業科目を30単位時間(1単位時間は、標準50分)の履修とする単位。

学修単位：当該授業及び授業時間外の学修を含め、1単位の授業科目を45時間の学修とするもの。

(出典 平成19年度学生便覧)



資料5-1-①-5 機械工学科課程表

機械工学科 教育課程表

(平成19年度入学生以降)

区分	授業科目	単位数	形態種別	学年別配当					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
必修得科目	設計製図Ⅰ	2				2			
	設計製図Ⅱ	3	演習				3		
	設計製図Ⅲ	3	演習					3	
	機械工学実験実習Ⅰ	3		3					
	機械工学実験実習Ⅱ	3			3				
	機械工学実験実習Ⅲ	3				3			
	機械工学実験実習Ⅳ	3	実験				3		
	機械工学実験実習Ⅴ	3	実験					3	
卒業研究	8	その他						8	
必修履修科目	応用数学Ⅰ	2	講義				2		
	応用数学Ⅱ	2	講義				2		
	応用物理Ⅰ	2				2			
	応用物理Ⅱ	2	講義				2		
	工業英語	1	講義					1	
	材料力学Ⅰ	2				2			
	材料力学Ⅱ	2	講義				2		
	工業力学	2				2			
	機械振動学	2	講義				2		
	機械動力学	2	講義					2	
	水力学	2	講義				2		
	流体力学	2	講義					2	
	工業熱力学	2	講義				2		
	熱工学	2	講義					2	
	機械工学演習Ⅰ	1	演習				1		
	機械工学演習Ⅱ	1	演習					1	
	機械材料学Ⅰ	2				2			
	機械材料学Ⅱ	1	講義				1		
	機械工作法Ⅰ	1			1				
	機械工作法Ⅱ	1				1			
	機械工作法Ⅲ	1	講義				1		
	生産システム工学	2	講義					2	
	基礎電気電子工学	1				1			
	メカトロニクス	1	講義				1		
	アクチュエータ工学	1	講義					1	
	計測工学	2	講義					2	
	制御工学	2	講義					2	
	情報処理	1				1			
	図形情報ワークショップⅠ	1		1					
	図形情報ワークショップⅡ	2			2				
	ものづくりワークショップ	1		1					
	機構学	2				2			
	機械設計法	2	講義				2		
	基礎製図Ⅰ	2		2					
	基礎製図Ⅱ	2			2				
	機械工学セミナー	1				1			
	環境科学	*2	講義					2	
	技術者倫理	*2	講義					2	
	履修単位計	93			7	8	19	26	33
	選択科目	校外実習	1	実習				1	
材料力学Ⅲ		*2	講義					2	
エネルギー機械		*2	講義					2	
材料工学		1	講義					1	
応用情報処理		1	講義					1	
開設単位計		7						1	6
履修単位計	3							3	
開設単位合計	100			7	8	19	27	39	
履修単位合計	96			7	8	19	26	36	

※ 単位数欄に「\*」を記してある科目は学修単位を示し、記してない科目は履修単位を示す。

履修単位：1単位の授業科目を30単位時間（1単位時間は、標準50分）の履修とする単位。

学修単位：当該授業及び授業時間外の学修を含め、1単位の授業科目を45時間の学修とするもの。

(出典 平成19年度学生便覧)

資料5-1-①-6 電気情報工学科課程表

電気情報工学科 教育課程表

(平成19年度以降入学生)

区分	授業科目	単位	形態種別	学年別配当					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
必修 得科目	電気情報応用実験Ⅰ	3	実験				3		
	電気情報応用実験Ⅱ	3	実験					3	
	卒業研究	8	その他					8	
必修 修科目	応用数学Ⅰ	2	講義				2		
	応用数学Ⅱ	2	講義				2		
	応用物理Ⅰ	2				2			
	応用物理Ⅱ	2	講義				2		
	電気数学Ⅰ	1		1					
	電気製図	2		2					
	電気磁気学Ⅰ	2			2				
	電気磁気学Ⅱ	2			2				
	電気磁気学Ⅲ	*2	講義				2		
	電気回路Ⅰ	2			2				
	電気回路Ⅱ	2				2			
	電気回路Ⅲ	*2	講義				2		
	電気計測Ⅰ	1			1				
	電気計測Ⅱ	1				1			
	電子デバイスⅠ	2				2			
	電子デバイスⅡ	*2	講義				2		
	電気機器Ⅰ	2				2			
	電気機器Ⅱ	*2	講義				2		
	デジタル回路	2				2			
	電子回路Ⅰ	2	講義				2		
	電子回路Ⅱ	*2	講義					2	前期開講
	電力工学	*2	講義					2	
	制御工学	*2	講義					2	
	電気材料	*2	講義					2	
	情報処理	2		2					
	プログラミングⅠ	2			2				
	プログラミングⅡ	2				2			
	コンピュータ工学	2	講義				2		
	情報ネットワーク工学	*2	講義					2	後期開講
	信号処理	2	講義					2	
	電気情報英語	1	演習					1	
	電気情報基礎実験Ⅰ	2		2					
	電気情報基礎実験Ⅱ	2			2				
電気情報基礎実験Ⅲ	3				3				
電気情報工学演習	2	演習				2			
環境科学	*2	講義					2		
技術者倫理	*2	講義					2		
履修単位計	85			7	9	18	27	24	
選択 科目	校外実習	1	実習				1		
	パワーエレクトロニクス	*2	講義					2	前期開講
	ソフトウェア工学	*2	講義					2	1科目2単位を選択する。
	エネルギー変換工学	*2	講義					2	前期開講
	通信工学	*2	講義					2	1科目2単位を選択する。
	高電圧工学	*2	講義					2	後期開講
	数値計算工学	*2	講義					2	1科目2単位を選択する。
	電気機器設計	3	講義					3	1科目3単位を選択する。
	電子回路設計	3	講義					3	1科目3単位を選択する。
	電気法規	1	講義				1		1科目1単位を選択する。
情報通信法規	1	講義				1		1科目1単位を選択する。	
開設単位計	21					3	18		
履修単位計	10					1	9		
開設単位合計	106			7	9	18	30	42	
履修単位合計	95			7	9	18	28	33	

※ 単位数欄に「\*」を記してある科目は学修単位を示し、記してない科目は履修単位を示す。

履修単位：1単位の授業科目を30単位時間（1単位時間は、標準50分）の履修とする単位。

学修単位：当該授業及び授業時間外の学修を含め、1単位の授業科目を45時間の学修とするもの。

(出典 平成19年度学生便覧)

資料 5 - 1 - ① - 7 電子制御工学科課程表

電子制御工学科 教育課程表

(平成 19 年度入学生以降)

区分	授業科目	単位	形態種別	学年別配当					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
必修 得科目	工学実験実習Ⅳ	3	実験				3		
	工学実験実習Ⅴ	3	実験					3	
	卒業研究	8	その他					8	
必修 修科目	応用数学Ⅰ	2	講義				2		
	応用数学Ⅱ	2	講義				2		
	応用物理Ⅰ	2				2			
	応用物理Ⅱ	2	講義				2		
	情報処理Ⅰ	2		2					
	情報処理Ⅱ	2			2				
	計算機概論	2				2			
	電磁気学Ⅰ	2			2				
	電磁気学Ⅱ	*2	講義				2		
	デジタル回路Ⅰ	1			1				
	デジタル回路Ⅱ	2				2			
	電気回路Ⅰ	2				2			
	電気回路Ⅱ	*2	講義				2		
	電子デバイス	*2	講義				2		
	電子計測	2				2			
	電気・電子回路演習	1				1			
	電子回路Ⅰ	2				2			
	電子回路Ⅱ	*2	講義				2		
	電子制御基礎	1		1					
	パルス回路設計	1	講義				1		
	電子制御設計	*2	講義					2	
	自動制御	*2	講義					2	
	マイコン制御	*2	講義					2	
	計算機工学Ⅰ	*2	講義				2		
	計算機工学Ⅱ	*2	講義					2	
	情報伝送	*2	講義					2	
	材料力学Ⅰ	2				2			
	材料力学Ⅱ	*2	講義				2		
	機械設計法	*2	講義				2		
	機械運動学	*2	講義				2		
	電気電子材料	*2	講義					2	
	基礎製図	2		2					
	設計製図	2			2				
ロボット制御工学	*2	講義					2		
工業数学	2	演習					2		
工学実験実習Ⅰ	2		2						
工学実験実習Ⅱ	2			2					
工学実験実習Ⅲ	3				3				
環境科学	*2	講義					2		
技術者倫理	*2	講義					2		
履修単位計	91		7	9	18	26	31		
選択 科目	校外実習	1	実習				1		
	熱流体工学概論	2	講義					2	1科目2単位を選択する。
	ソフトウェア工学	2	講義					2	
	電子物性	2	講義					2	1科目2単位を選択する。
	システム工学	2	講義					2	
	開設単位計	9					1	8	
履修単位計	4						4		
開設単位合計	100		7	9	18	27	39		
履修単位合計	95		7	9	18	26	35		

※ 単位数欄に「\*」を記してある科目は学修単位を示し、記してない科目は履修単位を示す。

履修単位：1単位の授業科目を30単位時間（1単位時間は、標準50分）の履修とする単位。

学修単位：当該授業及び授業時間外の学修を含め、1単位の授業科目を45時間の学修とするもの。

(出典 平成 19 年度学生便覧)

資料5-1-①-8 物質工学科課程表

物質工学科 教育課程表

(平成19年度以降入学生)

区分	授業科目	単位	形態 種別	学 年 別 配 当					備 考	
				1年	2年	3年	4年	5年		
必修 得科目	物質工学基礎実験	3		3						
	分析化学基礎実験	3			3					
	有機化学基礎実験	3				3				
	生化学・微生物学基礎実験	3					3			
	物質工学実験Ⅰ	3	実験				3			
	物質工学実験Ⅱ	3	実験					3		
	卒業研究	12	その他						12	
	共通 必修科目	工業数学Ⅰ	*2	講義				2		前期開講
		工業数学Ⅱ	*2	講義				2		後期開講
		応用物理Ⅰ	2				2			
		応用物理Ⅱ	2	講義				2		
		情報科学Ⅰ	1			1				
		情報科学Ⅱ	1				1			
		物質工学概論	1		1					
		物質工学基礎演習	1		1					
		基礎化学演習	1			1				
		物質工学創造実習	2			2				
		分析化学基礎	1			1				
		分析化学基礎演習	1				1			
		分析化学Ⅰ	*2	講義				2		前期開講
		分析化学Ⅱ	*2	講義				2		後期開講
		無機化学基礎	1			1				
		無機化学・物理化学基礎演習	1	演習				1		
		無機化学Ⅰ	*2	講義				2		前期開講
		無機化学Ⅱ	*2	講義				2		後期開講
		有機化学基礎	1			1				
		有機化学基礎演習	1				1			
		有機化学Ⅰ	*2	講義				2		前期開講
		有機化学Ⅱ	*2	講義				2		後期開講
		物理化学基礎	1				1			
		物理化学Ⅰ	*2	講義				2		前期開講
		物理化学Ⅱ	*2	講義				2		後期開講
		化学工学基礎	1				1			
		化学工学Ⅰ	*2	講義				2		前期開講
		化学工学Ⅱ	*2	講義				2		後期開講
		生化学基礎	1			1				
		生化学基礎演習	1				1			
		生化学Ⅰ	*2	講義				2		前期開講
		生化学Ⅱ	*2	講義				2		後期開講
		微生物学基礎	1			1				
		高分子化学基礎	1				1			
		材料・生物工学概論	1				1			
		情報工学Ⅰ	*2	講義				2		前期開講
		情報工学Ⅱ	*2	講義				2		後期開講
		環境科学基礎	1				1			
生産工学		1	講義					1		
機械工学概論		1	講義					1		
電気工学概論		1	講義					1		
環境科学		*2	講義					2		
技術者倫理		*2	講義					2		
履修単位計		94		5	11	18	41	19		
コース 必修科目		無機材料	*1	講義					1	前期開講
	有機材料	*1	講義					1	前期開講	
	高分子化学	*2	講義					2	前期開講	
	材料プロセス工学	*2	講義					2	前期開講	
	履修単位計	6						6		
	分子生物学	*2	講義					2	前期開講	
	酵素化学	*2	講義					2	前期開講	
	細胞工学	*1	講義					1	前期開講	
	応用微生物学	*1	講義					1	前期開講	
	履修単位計	6						6		
選択科目	校外実習	1	実習				1			
	開設単位計	1					1			
履修 単位 合計	開設単位合計	107		5	11	18	42	31		
	コース別開設単位合計	101		5	11	18	42	25		
	履修単位合計	100		5	11	18	41	25		

※ 単位数欄に「\*」を記してある科目は学修単位を示し、記してない科目は履修単位を示す。  
 履修単位：1単位の授業科目を30単位時間（1単位時間は、標準50分）の履修とする単位。  
 学修単位：当該授業及び授業時間外の学修を含め、1単位の授業科目を45時間の学修とするもの。

(出典 平成19年度学生便覧)

資料5-1-①-9 建築学科課程表

建築学科 教育課程表

(平成19年度以降入学生)

区分	授業科目	単位	形態種別	学年別配当					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
必修 科目	卒業研究	6	その他					6	
	応用数学	2	講義				2		
	応用物理	2	講義				2		
	デザイン基礎Ⅰ	2		2					
	デザイン基礎Ⅱ	2			2				
	デザイン基礎Ⅲ	2				2			
	構造力学Ⅰ	2				2			
	構造力学Ⅱ	2					2		
	構造力学Ⅲ	2	講義					2	
	建築構造Ⅰ	2		2					
	建築構造Ⅱ	2			2				
	建築入門	1		1					
	建築材料	2	講義				2		
	木質構造	1	講義						1
	建築設備	2	講義						2
	鋼構造	2	講義						2
	鉄筋コンクリート構造	2	講義						2
	基礎構造	1	講義						1
	構造計画	2	講義						2
	建築計画Ⅰ	2				2			
	建築計画Ⅱ	2	講義				2		
	建築環境	2	講義				2		
	建築史Ⅰ	2				2			
	建築史Ⅱ	2	講義				2		
	都市計画Ⅰ	2	講義				2		
	都市計画Ⅱ	2	講義						2
	建築生産	2	講義						2
	建築情報Ⅰ	2			2				
	建築情報Ⅱ	2				2			
	設計製図Ⅰ	2		2					
	設計製図Ⅱ	3			3				
	設計製図Ⅲ	6				6			
	設計製図Ⅳ	6	実習				6		
	設計製図Ⅴ	3	実習						3
創造実験・演習	3	実験						3	
CAD・CG	2	演習				2			
近代建築論	2	講義						2	
建築ゼミナール	2	演習				2			
環境科学	*2	講義						2	
技術者倫理	*2	講義						2	
履修単位計	92		7	9	18	26	32		
選択 科目	校外実習	1	実習				1		1科目2単位を選択する。
	構造解析	2	講義					2	
	建築意匠論	2	講義					2	
	開設単位計	5					1	4	
	履修単位計	2						2	
開設単位合計	97		7	9	18	27	36		
履修単位合計	94		7	9	18	26	34		

※ 単位数欄に「\*」を記してある科目は学修単位を示し、記してない科目は履修単位を示す。

履修単位：1単位の授業科目を30単位時間（1単位時間は、標準50分）の履修とする単位。

学修単位：当該授業及び授業時間外の学修を含め、1単位の授業科目を45時間の学修とするもの。

(出典 平成19年度学生便覧)

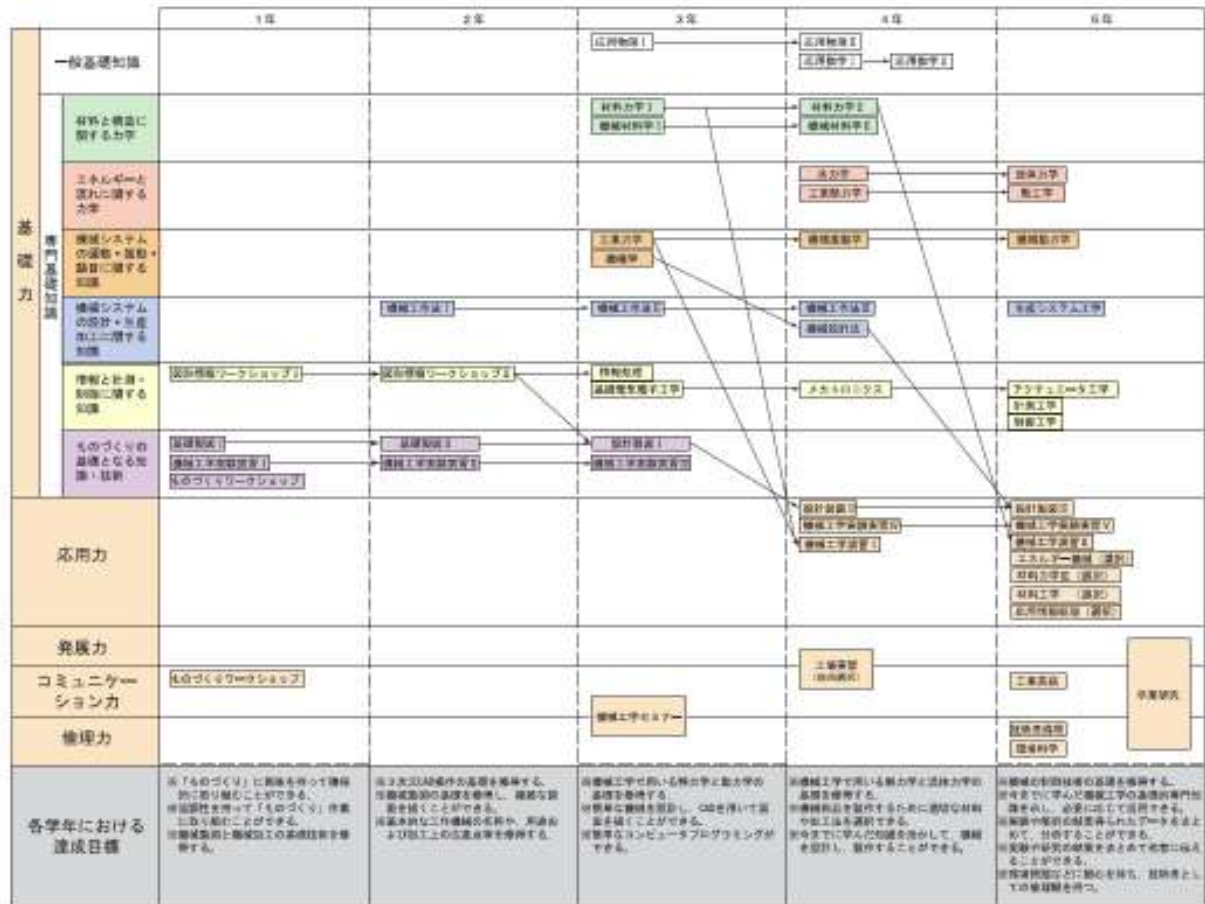
資料 5 - 1 - ① - 10 一般科目の科目系統図

学習教育目標	細目	授業科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
基礎力	一般基礎知識	数学 I 数学 II 歴史 I 物理 I 化学 I (G科以外) 保健体育 I 音楽 I 情報リテラシー	微分積分 代数幾何 歴史 II 現代社会 物理 II 化学 II (G科以外) 保健体育 II 音楽 II	解析 I 解析 II 地理 保健体育 III	解析 III 保健体育 IV	保健体育 V
応用力						
発展力						
倫理力					クリ科目講読 社会科学 I 社会科学 II 社会科学 III	
コミュニケーション力		国語 I 英語総合 I 基礎英語演習 I 基礎英語会話 I	国語 II 英語総合 II 基礎英語演習 II 基礎英語会話 II	国語 III 英語総合 III 基礎英語演習 III 基礎英語会話 III	文学 I 文学 II 文学 III 文学 IV 英語総合演習 独語	1科目講読 英米文学 実用工業英 英語演習 英語会話 コミュニケーション 時事英語 独語講読
各学年における達成目標		(数学) ・基礎的な数式の計算および応用ができること ・順列・組み合わせの計算ができること ・基礎的な関数の計算ができること (物理) ・運動方程式の基本的な計算ができること ・運動量、力学的エネルギーの保存則の基本的な計算ができること (化学) ・化学反応における簡単な量的関係を計算できること ・物質の変化、性質を、原子・分子などの微視的な視点から説明できること (体育) ・個人、集団スポーツの基礎技能を習得すること ・健康と体力に関する基礎知識を習得すること (社会) ・歴史的事実や現象を手がかりに日本地域における人類の進歩と発展の諸相を説明できること ・歴史のものの見方や考え方を習得すること (音楽) ・正しい発声と歌唱法を身につけること ・音楽の歴史、社会的背景、文化などを理解すること (国語) ・自分の考えを筋道を立てて述べられること ・相手に応じた効果的な表現ができること ・文章を的確に読みとり、要約できること (外国語) ・基礎的な語彙、文法、表現力を身につけること ・基礎的な英語を読んだり書いたりできること ・簡単な日常会話ができること (情報) ・OSの基本操作や基本的なアプリケーションの操作ができること ・情報化社会で必要とされるネットワークやセキュリティなどの基礎知識を身に付けること	(数学) ・基礎的な微分、積分について理解し、応用できること ・数列について理解し、計算できること ・ベクトルについて理解し、その応用ができること (物理) ・物や波の性質を理解し、簡単な計算ができること ・電磁気現象に関する簡単な計算ができること (化学) ・代表的な物質の性質を説明できること ・各物質の特性を活かした利用例を説明できること (体育) ・個人、集団スポーツの基礎技能と応用技能を習得すること ・乗物・タビの音や運動発現のしぐみを習得すること (社会) ・近代日本に関する歴史的事実を、世界史の動向とあわせて説明できること ・政治・経済・文化などとの関連や時代的因果関係において歴史を把握すること ・現代社会の諸問題に関する基礎概念を説明できること (音楽) ・ギターの基本的奏法を身につけること ・音楽に関する教養を身につけること (国語) ・目的や場に応じ、的確に話せること ・自分の考えを文章にまとめられること ・的確な文章の構成ができること (外国語) ・英文の概要や要点を読み取れること ・英語を聞き、書き、話し、聞く学習態度を身につけること ・会話に必要な語彙、会話表現を習得すること (外国語) ・新たな文法事項を修得し、語彙力を高めること ・英語を読み、書き、話し、聞くことにより、英語運用能力を高めること ・様々な英文にふれることで、異文化に対する理解を深めること	(数学) ・偏微分や2重積分の計算とその応用ができること ・固有値・固有ベクトルを理解し、その応用ができること ・行列式について理解し、その応用ができること (体育) ・個人、集団スポーツの応用技能と簡単なゲーム形式を習得すること ・運動技能の構造、運動と心理の関係、運動に関する知識を習得すること (社会) ・現代世界の地理的な諸課題を、地域性を踏まえて考察できること (国語) ・優れた表現に接し、自分の表現に役立てられること ・様々な文章を読んで、価値観の多様性が理解できること (外国語) ・幅広い敬業を養うこと ・日本語の読解力を身につけること ・レポート作成能力を身につけることが理解できること (外国語) ・総合的な基本的コミュニケーションができること ・幅広い敬業を養うこと ・日本語の読解力を身につけること ・レポート作成能力を身につけること	(数学) ・3重積分の計算とその覆うようができること ・基本的な微分方程式が解けること ・高次元関数について理解し、計算できること (体育) ・個人、集団スポーツの応用技能と正規のゲーム形式を習得すること ・運動処方に関する知識を習得すること (社会) ・社会が直面する諸問題の背景や課題について知見をえること ・社会文化・人間について幅広い見方を身につけること (社会) ・個人、集団スポーツのゲームを通して運籌方法や審判法を習得すること ・主場スポーツの実践に関する知識を身につけること (社会) ・社会が直面する諸問題の背景や課題について知見をえること ・社会文化・人間について幅広い見方を身につけること (国語) ・幅広い敬業を養うこと ・日本語の読解力を身につけること ・レポート作成能力を身につけること	

(出典 教務部資料)

資料 5-1-①-11 機械工学科の科目系統図

機械工学科専門科目系統図（平成19年度以降の入学者）



(出典 教務部資料)

(分析結果とその根拠理由)

教育の目的に照らして、学年毎に適切に配置された教育課程を編成している。この教育課程は本校の教育目標に沿っており、教育目標を十分に達成できるように各科目を設定・配置している。また、各学科の教育目標に照らして、専門科目を適切に配置しており、教育課程の体系的性を確保している。

**観点 5-1-②：** 学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば、他学科の授業科目の履修、他高等教育機関との単位互換、インターンシップによる単位認定、補充教育の実施、専攻科教育との連携等が考えられる。）に配慮しているか。

(観点に係る状況)

第4学年では夏季休業中に短期インターンシップ（校外実習）を実施しており、実働5日以上で1単位取得できる。校外実習に関する規定は別添資料5-1-②-1 (pp. 49-57)のように定めており、校外実習報告会は、公開して実施している。また、実習は県内外の企業をはじめ、大学等でも実施している。例として、平成18年度の実習先一覧を資料5-1-②-1に示す。

海外への留学に関する規定も備えており、年度途中から留学する場合でも、帰国後、出発前の在籍学年に復帰して進級できるように配慮している（資料5-1-②-2）。

補充教育は従来から各科目担当教員によって随時実施していたが、平成18年度からはオフィスアワーをシラバスに明記し、全学的に実施している（資料5-1-②-3）。

学習意欲のある学生に対しては、他高等教育機関での履修や単位認定ができるように別途規則を定めている（資料5-1-②-4）。



資料5-1-②-1 平成18年度校外実習先一覧

## 平成18年度機械工学科 校外実習先一覧

実 習 先	実習期間
鳥取オンキョー(株)	7/24-7/28
日本電産(株)	7/24-7/28
神鋼テクノ(株)	8/7-8/11
豊橋技術科学大学	7/24-7/28
(株)カネカ高砂工業所	8/21-8/30
パナソニックエレクトロニックデバイス津山(株)	7/24-7/28
(株)A&M	7/24-7/28
ファミリー(株)	8/21-8/25
鳥取電機製造(株)	8/21-8/30
スパイシーソフト(株)	8/21-8/25
(株)神鋼エンジニアリング&メンテナンス	8/21-8/30
鳥取県金属熱処理協業組合	7/24-7/28
鳥取県金属熱処理協業組合	7/24-7/28
日本電産(株)	7/24-7/28
スパイシーソフト(株)	8/21-8/25
(株)片木アルミニウム製作所	8/21-8/25
スパイシーソフト(株)	8/21-8/25
ムラテックCCS(株)	7/24-7/29
(株)小松製作所	8/21-8/25
鳥取ビブラスティック(株)	7/24-7/28
ユニチカ(株)	7/31-8/9
(株)小松製作所	8/21-8/25
三菱重工(株)高砂製作所	7/31-8/8
シチズン時計(株)	8/10-8/23
(株)名南製作所	7/24-8/4
丸京製菓(株)	7/24-7/28
ヤマトエスロン(株)	8/21-8/25
(株)アイ・エイチ・アイ・アムテック	8/22-8/31
(株)明治製作所	7/31-8/4
東レエンジニアリング(株)	7/31-8/4
(株)米子シンコー	7/24-7/28
中外製薬工業(株)	7/31-8/4
倉吉尾池工業(株)	7/24-7/28
(株)カンセツ	8/21-8/25
村田機械(株)	8/18-8/30
(有)あっぷるはうす	7/24-7/28
塩野義製薬(株)	7/31-8/4
三菱重工(株)広島製作所	7/31-8/12
(株)米子シンコー	7/24-7/28
鳥取県金属熱処理協業組合	7/24-7/28
Associated Steel Industries (M) SDN. BHD.	7/31-8/4
協業組合菊水フォーシング	7/26-7/30
(株)アイ・エイチ・アイ・アムテック	8/22-8/31
協業組合菊水フォーシング	7/26-7/30

(資料5-1-②-1 平成18年度校外実習先一覧)

## 平成18年度電気工学科 校外実習先一覧

実習先	実習期間
航空自衛隊美保基地	8/21-8/25
航空自衛隊美保基地	8/21-8/25
航空自衛隊美保基地	8/21-8/25
(株)米子シンコー	7/24-7/28
(株)神鋼エンジニアリング&メンテナンス	8/21-8/30
岡田電工(株)	7/24-7/28
(株)中海テレビ放送	7/25-7/29
豊橋技術科学大学	8/7-8/11
東燃ゼネラル石油(株)	8/22-8/30
豊橋技術科学大学	7/18-7/22
(株)アイ・エイチ・アイ・アムテック	8/22-8/31
矢崎部品(株) 新見工場	8/7-8/11
ヤマトエスロン(株)	8/21-8/25
(株)名南製作所	7/24-8/4
鳥取県熱処理協業組合	7/24-7/28
鳥取県産業技術センター 機械素材研究所	8/21-8/25
中部電力(株)	8/7-8/11
豊橋技術科学大学	8/7-8/11
(株)カネカ高砂工業所	8/21-8/30
鳥取オンキョー(株)	7/24-7/28
豊橋技術科学大学	8/7-8/11
豊橋技術科学大学	8/7-8/11
中外製薬工業(株)	8/28-9/1
(株)米子シンコー	7/24-7/28
鳥取県産業技術センター 機械素材研究所	8/21-8/25
(株)中電工	8/21-8/29
鳥取県産業技術センター 機械素材研究所	8/21-8/25
鳥取県産業技術センター 機械素材研究所	8/21-8/25
(株)アイ・エイチ・アイ・アムテック	8/22-8/31
ヤマトエスロン(株)	8/21-8/25
長岡技術科学大学	7/31-8/4
岡田電工(株)	7/24-7/28
富士電機システムズ(株)	8/16-8/25
中国電力(株)	8/21-8/30
長岡技術科学大学	8/7-8/16
鳥取県熱処理協業組合	7/24-7/28
日新電機(株)	8/21-8/31
NTTファシリティーズ 中国支店	7/31-8/4
松下モータエキスパート(株)	8/23-8/29

(資料5-1-②-1 平成18年度校外実習先一覧)

## 平成18年度電子制御工学科 校外実習先一覧

実習先	実習期間
(株)アクティス	7/31-8/4
(株)ニッポー 島根工場	8/21-9/1
(株)Wave Technology	7/24-7/28
鳥取オンキヨー(株)	7/22-7/28
(株)A&M	7/24-7/28
航空自衛隊美保基地	8/21-8/25
王子製紙(株) 米子工場	8/21-8/31
オムロン(株)	8/21-9/1
(株)米子総合印刷センター	8/11-8/19
(株)Wave Technology	7/24-7/28
豊橋科学技術大学	8/7-8/11
(株)米子総合印刷センター	8/11-8/19
(株)日本マイクロシステム	7/31-8/4
ダイキン工業(株)	8/21-8/29
丸京製菓(株)	7/24-7/28
日本たばこ産業(株) 米子工場	7/24-8/1
日本たばこ産業(株) 米子工場	7/24-8/1
豊橋科学技術大学	7/18-7/28
神鋼テクノ(株)	8/7-8/11
三菱電機ビルテクノサービス(株)	7/24-8/4
長岡科学技術大学	7/25-7/31
(株)日本マイクロシステム	7/31-8/4
シチズン電子(株)	7/31-8/11
中国電力(株)	8/21-8/30
航空自衛隊美保基地	8/21-8/25
カトーレック(株)	8/21-9/1
東レエンジニアリング(株)	8/7-8/11
航空自衛隊美保基地	8/21-8/25
(株)ワイエヌエス	7/31-8/11
中外製薬工業(株)	8/21-8/25
航空自衛隊美保基地	8/21-8/25
ヤマトエスロン(株)	8/21-8/25
大山電機(株)	8/7-8/11
古野電気(株)	8/21-8/25
パナソニックエレクトロニックデバイス松江(株)	8/28-9/8
東亜ソフトウェア(株)	7/31-8/4
日本たばこ産業(株) 米子工場	7/24-8/1
(株)ワイエヌエス	7/31-8/11
東亜ソフトウェア(株)	7/31-8/4
鳥取県産業技術センター 機械素材研究所	8/21-8/25

(資料5-1-②-1 平成18年度校外実習先一覧)

実 習 先	実習期間
アースサポート(株)	7/24-7/28
アースサポート(株)	7/31-8/4
倉吉尾池工業(株)	7/24-7/28
サンイン技術コンサルタント(株)	7/31-8/4
花王(株)和歌山工場	7/25-8/2
(株)カネカ高砂工業所	8/21-8/30
鳥取県産業技術センター(食品開発)	7/18-7/24
(株)さんれい製造	8/1-8/5
島根県農業技術センター	8/21-8/25
鳥取県産業技術センター(食品開発)	7/18-7/24
鳥取県園芸試験果樹研究室	8/25-8/31
長岡技術科学大学	7/24-7/28
豊橋技術科学大学	7/18-7/28
鳥取ビブラコスティック(株)	7/24-7/28
米子市水道局	8/21-8/25
塩野義製薬(株)	7/31-8/4
(株)氷温研究所	7/24-7/28
鳥取県金属熱処理協業組合	7/24-7/28
長岡技術科学大学	7/24-7/28
鳥取県産業技術センター(食品開発)	7/24-7/28
甲陽ケミカル(株)	7/24-8/4
(株)氷温研究所	7/24-7/28
ダイキン工業(株)	7/31-8/11
(株)ジェイベック	8/21-8/25
米子汽缶化学研究所	7/31-8/4
昭和化学工業(株)研究所	7/24-7/28
倉吉尾池工業(株)	7/24-7/28
(株)片木アルミニウム製作所	8/21-8/25
(株)氷温研究所	7/24-7/28
島根県産業技術センター	8/7-8/11
サンイン技術コンサルタント(株)	7/24-7/28
共栄樹脂(株)	7/24-7/28
甲陽ケミカル(株)	7/24-8/4
鳥取県産業技術センター(食品開発)	7/24-7/28
サンイン技術コンサルタント(株)	8/7-8/11
出光興産(株)徳山製油所	7/24-8/3
(株)氷温研究所	7/24-7/28
(財)日本きのこセンター 菌蕈研究所	7/24-7/28
(株)ジェイベック	8/21-8/25
サンイン技術コンサルタント(株)	7/24-7/28
東レ(株)	7/25-8/4
中外製薬工業(株)	8/28-9/1
(株)さんれい製造	8/1-8/5
(株)片木アルミニウム製作所	8/21-8/25

(資料5-1-②-1 平成18年度校外実習先一覧)

## 平成18年度建築学科 校外実習先一覧

実習先	実習期間
美保テクノス(株)	7/21-7/28
(株)フィディア(ホームデコ米子店)	7/24-7/29
(株)フィディア(ホームデコ米子店)	7/24-7/29
(有)竹山建築設計事務所	7/26-8/9
美保テクノス(株)	7/21-7/28
(株)桑本建築設計事務所	7/22-7/28
美保テクノス(株)	8/17-8/23
(有)やすのスペースデザイン	7/24-7/28
モノフ*デザイン	7/18-8/31
(株)伊東豊雄建築設計事務所	7/28-8/11
杵村建築設計事務所	7/24-7/31
(有)酒井建設	8/17-8/24
(株)大上建築	7/24-7/29
豊橋技術科学大学	7/31-8/11
豊橋技術科学大学	7/18-7/28
モノフ*デザイン	7/18-8/31
(株)白兔設計事務所	8/7-8/11
杵村建築設計事務所	7/24-7/31
モノフ*デザイン	7/18-8/31
モノフ*デザイン	7/18-8/31
豊橋技術科学大学	7/18-7/22
清水・株本・中村特別共同企業体	7/24-7/29
杵村建築設計事務所	7/24-7/31
モノフ*デザイン	7/18-8/31
(株)寺本建築・都市研究所	8/24-8/30
モノフ*デザイン	7/18-8/31
(有)やすのスペースデザイン	7/24-7/28
(有)江角建築事務所	7/24-7/31
モノフ*デザイン	7/18-8/31
モノフ*デザイン	7/18-8/31
(株)フィディア(ホームデコ境港店)	7/24-7/28
豊橋技術科学大学	7/18-7/28
(有)門脇構造研究所	7/24-7/28
豊橋技術科学大学	7/31-8/11
(有)石倉保富建築構造設計	7/24-7/28
(有)やすのスペースデザイン	7/22-7/28
エム・アイ・エー・アーキテツク(有)	7/31-8/12
美保テクノス(株)	7/21-7/28
モノフ*デザイン	7/18-8/31
(株)フィディア(ホームデコ松江店)	7/20-7/26
(有)ナック建築事務所	8/21-8/25
谷重義行+建築象形研究所	8/1-8/12
(有)松尾設計室	8/1-8/31
(株)マニエラ建築設計事務所	7/25-8/8

(出典 平成18年度教員会議資料より抜粋)

## 資料5-1-②-2 留学規則

## ○米子工業高等専門学校留学規則

## (趣旨)

第1条 この規則は、米子工業高等専門学校学則第30条第4項の規定に基づき、米子工業高等専門学校（以下「本校」という。）の学生の外国の高等学校又は大学（以下「外国の学校」という。）への留学の取扱いに関し、必要な事項を定めるものとする。

## (留学許可)

第2条 校長は、次の各号に掲げる要件を満たしている場合において、これを許可することができる。

- (1) 留学先の外国の学校が、正規の教育機関であり体系的な教育課程を有していること。
- (2) 前号の外国の学校に在籍することを許可されていること。
- (3) 留学の目的が当該学生にとって教育上有益であると認められること。

## (留学許可手続)

第3条 留学を希望する学生は、学級担任及び所属の学科主任を経て、原則として留学しようとする日の3箇月前までに留学願（別紙様式第1号）に、次の各号に掲げる書類を添えて校長に願出しなければならない。

- (1) 留学先の外国の学校の沿革、規模、教育方針及び教育課程等が記載されている書類
- (2) 前号に定める外国の学校への在学許可を証明する書類
- (3) その他校長が必要と認める書類

## (留学期間等)

第4条 当該学生の留学期間は、10箇月以上1年以内とする。ただし、留学期間中において、やむを得ない事情があると認められるときは、留学期間の短縮又は延長（1年以内に限る。）を許可することがある。

2 留学期間を短縮又は延長しようとするときは、学級担任及び所属の学科主任を経て、留学期間変更願（別紙様式第2号）を校長に提出し、その許可を得なければならない。

3 前2項による留学の期間は、本校の修業年限に含めるものとする。

## (終了報告)

第5条 当該学生は、留学期間が終了したときは、留学終了報告書（別紙様式第3号）、外国の学校の長が発行した単位修得証明書、成績証明書及び出席状況証明書等を速やかに所属の学生主任を経て校長に提出しなければならない。

## (単位修得認定及び評価)

第6条 留学期間中の単位の修得認定は、個々の科目については行わず、教務委員会が前条で提出された単位修得証明書、成績証明書及び出席状況証明書等に基づき良好に学習をしたと認める場合には、30単位を超えない範囲で一括認定し、評価は行わない。

2 第4条第2項の規定に基づき留学期間の短縮を許可された場合において、当該留学期間が10箇月に満たなくなったときは、原則として前項の単位の認定は行わないものとする。

## (課程修了の認定)

第7条 復帰の際の学年については、認定会議に付し校長が認定する。

## (留学取消し)

第8条 校長は、当該学生が次の各号の一に該当する場合は、当該外国の学校の長と協議の上、留学の許可を取り消すことができる。

- (1) 履修の見込みがないと認められるとき。
- (2) 当該外国の学校の規則等に違反し、留学の取り消しを求められたとき。

## 資料5-1-②-2 留学規則

(3) その他留学の目的に著しく反する行為があると認められたとき。

(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、この規則の実施に関し必要な事項は、別に定める。

附 則 (平成8年3月6日規則第13号)

この規則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則 (平成10年2月6日規則第1号)

この規則は、平成10年4月1日から施行する。

(出典 平成19年度学生便覧)

## 資料5-1-②-3 平成18年度オフィスアワーの実施科目数

学年	一般科目	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	物質工学科	建築学科
1	7	2	1	2		3
2	7	2	2	2	4	3
3	4	4	3	5	4	5
4	3	10	8	9	8	5
5	7	9	5	9	5	6

(出典 平成18年度シラバスより抜粋)

## 資料5-1-②-4 他高等教育機関における履修規則

## ○米子工業高等専門学校高等専門学校以外の教育施設等における学修等に関する規則

(趣旨)

第1条 この規則は、米子工業高等専門学校学則（以下「学則」という。）第15条第3項の規定に基づき、米子工業高等専門学校（以下「本校」という。）の学生の高等専門学校以外の教育施設等における学修等に関し、必要な事項を定める。

(学修手続)

第2条 学生は、大学における学修又は第3条第1号から第3号に規定する教育施設において学修しようとするときは、高等専門学校以外の教育施設等における学修許可願（別紙様式第1号）に関係文書を添えて、校長の許可を受けなければならない。

2 校長は、前項による願い出が教育上有益と認めたときは、認可するものとする。

(文部科学大臣が別に定める学修)

第3条 学則第15条第1項に規定する文部科学大臣が別に定める学修とは、次の各号に掲げる学修をいう。

(1) 大学又は短期大学の専攻科における学修

(2) 高等専門学校の専攻科における学修

(3) 専修学校の専門課程のうち修業年限が2年以上のものにおける学修で、本校において高等専門学校教育に相当する水準を有すると認めたもの

(4) 文部科学大臣の認定を受けた技能審査の合格に係る学修で、別表に定めるもの

(5) 前項の学修以外に、本校が適切と認める別表の技能検定及び資格試験で、教官の指導のもとで演習等を行い、合格したもの

(単位認定申請)

第4条 学生は、大学における学修又は前条各号の一に規定する学修を行い、単位の認定を受けようとするときは、高等専門学校以外の教育施設等における学修単位認定申請書（別紙様式第2号）に、当該学修を行った教育施設等の長の交付する単位修得証明書、成績証明書又は合格証書等を添えて校長に申請するものとする。

2 校長は、前項の規定により申請のあった学修について、認定会議に付し、相当する単位を本校における授業科目等の履修とみなし、単位の修得を認定することができる。

3 前条第4号及び第5号に規定する学修について認定することができる単位数は、別表に定める試験の種類ごとの級に対応する単位数とする。ただし、同一の試験の種類で複数の級に合格した場合は、上位の級に対応する単位数とする。

附 則（平成5年2月9日規則第3号）

1 この規則は、平成5年2月3日から施行する。

2 この規則施行の際現に在籍する学生で、在籍中に第3条第4号による技能審査に合格している者の修得単位の取扱いについては、本規則の規定により学修したものとみなす。

附 則（平成7年1月11日規則第1号）

この規則は、平成7年1月11日から施行する。

附 則（平成8年2月7日規則第9号）

この規則は、平成8年2月7日から施行する。

附 則（平成10年2月6日規則第1号）

この規則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則（平成13年4月2日規則第4号）

この規則は平成13年4月2日から施行し、平成13年1月6日から適用する。

附 則（平成16年1月21日規則第1号）

この規則は、平成16年1月21日から施行し、平成16年4月1日から適用する。



別表 英語自由選択

試験の種類	等級または点数	単位数	認定学年
実用英語技能検定試験	準2級	2	1～5学年
	2級	3	1～5学年
	準1級	6	1～5学年
	1級	8	1～5学年
工業英語能力検定試験	4級	1	1・2学年
	3級	2	1～5学年
	2級	4	1～5学年
	1級	6	1～5学年
TOEIC	400点	2	1～5学年
	500点	3	1～5学年
	600点	4	1～5学年
	700点	5	1～5学年
	750点	6	1～5学年
	800点	7	1～5学年
	900点	8	1～5学年

備考 1. 英語自由選択の単位として認定できるのは合計8単位を上限とする。

2. 工業英語能力検定試験4級の合格に係る学修は、第2学年までの合格者に限る。

(出典 平成19年度学生便覧)

(分析結果とその根拠理由)

第4学年の校外実習（インターンシップ制度）を実施することにより、教育効果を上げている。意欲をもった学生に対しては、留学制度や他高等教育機関における履修等を認めている。また、オフィスアワーも全学的に取り組んでおり、学生の多様な学習機会を確保している。

**観点5-2-①：** 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用、基礎学力不足の学生に対する配慮等が考えられる。）

(観点に係る状況)

資料5-2-①-1は、準学士課程における一般科目及び各専門科目の講義、演習、実験実習等の授業形態の内訳を示している。専門科目における実験・実習、演習及び卒業研究の単位数は、最も割合が少ない電気情報工学科でも開設単位数の25.5%、最も割合が多い建築学科では開設単位数の41.2%を配置している。また、これらの実験・実習、演習は特定の学年に集中することなく第1学年から第5学年にわたってバランスよく配分しており、高専の特色である5年間一貫教育システムを活かして、本校の教育理念である創造性の育成と実験・実習を重視した実践的技術教育が実現できるよう編成している。

一般科目においては、第1学年の数学Ⅰ、数学Ⅱ、第2学年の微分・積分、代数・幾何で習熟度別授業を実施している。例として、数学Ⅰのシラバスを資料5-2-①-2に示す。学生の習熟度に応じたクラス編成は25年以上前から実施しており、学科間の枠にとらわれない編成によって教育効果を上げている。さらに第4学年の英語総合演習では、eラーニング導入するなどの工夫を行っている（資料5-2-①-3）。

情報機器や視聴覚機器の活用も積極的に行っている。資料5-2-①-4は、平成16年度から19年度における情報端末室及び視聴覚機器を整備した教室、講義室等の稼働率を示している。それぞれ

の部屋の稼働率は平均して 60%前後であり，全授業時間の 25～30%程度が情報機器，視聴覚機器を備えた教室で実施している。また，平成 19 年度より供用が開始される e-L 教室も 1 週間あたり 17 時間の利用を予定している。

資料5-2-①-1 授業形態毎の開設単位数表

一般科目	講義	演習	実験・実習	実技	その他 (卒業研究)	開設 単位数
1学年	27	1		4		32
2学年	21	1		3		25
3学年	13	1		2		16
4学年	19	2		2		23
5学年	12	2		1		15
合計	92	7		12		111

機械工学科	講義	演習	実験・実習	実技	その他 (卒業研究)	開設 単位数
1学年	1	3	3			7
2学年	3	2	3			8
3学年	14	2	3			19
4学年	19	4	4			27
5学年	24	4	3		8	39
合計	61	15	16		8	100

電気情報 工学科	講義	演習	実験・実習	実技	その他 (卒業研究)	開設 単位数
1学年	3	2	2			7
2学年	7		2			9
3学年	15		3			18
4学年	24	2	4			30
5学年	30	1	3		8	42
合計	79	5	14		8	106

電子制御 工学科	講義	演習	実験・実習	実技	その他 (卒業研究)	開設 単位数
1学年	3	2	2			7
2学年	5	2	2			9
3学年	14	1	3			18
4学年	23		4			27
5学年	26	2	3		8	39
合計	71	7	14		8	100

物質工学科	講義	演習	実験・実習	実技	その他 (卒業研究)	開設 単位数
1学年	1	1	3			5
2学年	5	1	5			11
3学年	9	3	6			18
4学年	34	1	7			42
5学年	19				12	31
合計	68	6	21		12	107

建築学科	講義	演習	実験・実習	実技	その他 (卒業研究)	開設 単位数
1学年	3	2	2			7
2学年	4	2	3			9
3学年	10	2	6			18
4学年	16	4	7			27
5学年	22	2	6		8	38
合計	55	12	24		8	99

(出典 平成19年度学生便覧より算出)

## 資料5-2-①-2 数学Iのシラバス

対象学科	全学科	担当教員	■■■■■・■■■■■・■■■■■・■■■■■・■■■■■		
授業科目名	数学I	科目コード			
学年	1学年	開講学期	通年	単位数	3単位
区分	必履修	授業の形態			
単位種類					
授業概要	整式の計算、数、集合と命題、等式と不等式、点と直線、円と2次曲線、不等式と領域、図形の性質、場合の数と二項定理について学習する。				
関連する本校の学習教育目標	A	関連するJABEE学習教育目標	A		
到達目標	数式の基礎的な計算および応用ができること 方程式・不等式の解法を理解すること 平面2次曲線の性質を理解すること				
授業の進め方とアドバイス	習熟度別クラス編成をとっている。教科書を中心に講義を進め、教科書、問題集の間を割り当て、板書による添削を行う。質問は随時受け付ける。なお、担当教員以外に質問しても良い。				
授業内容スケジュール	回数	授業内容			
	第1週	1章 § 1 整式の加法・減法			
	第2週	整式の乗法			
	第3週	因数分解			
	第4週	整式の除法			
	第5週	整式の約数・倍数			
	第6週	有理式／繁分数式			
	第7週	1章 § 2 実数／実数の大小関係			
	第8週	※前期中間試験			
	第9週	平方根を含む式の計算			
	第10週	3章 § 6 集合			
	第11週	命題			
	第12週	3章 § 7 恒等式／因数定理			
	第13週	3次方程式・4次方程式			
	第14週	高次の不等式			
	第15週	等式・不等式の証明／組立除法			
		※前期末試験			
	第16週	6章 § 15 直線上の点の座標／平面上の点の座標			
	第17週	直線の方程式			
	第18週	2直線の関係			
	第19週	6章 § 16 円			
	第20週	2次曲線			
	第21週	6章 § 17 不等式の表す領域			
	第22週	領域における最大・最小			
	第23週	※後期中間試験			
	第24週	6章 § 18 三角形と比			
	第25週	円と角			
	第26週	重心・外心・内心・垂心			
	第27週	7章 § 19 場合の数			
	第28週	順列			
	第29週	組合わせ			
	第30週	二項定理			
		※学年末試験			
教科書	田代嘉宏ほか「新編高専の数学1」森北出版、田代嘉宏「新編高専の数学1問題集」森北出版				
参考書	三ッ廣 孝「大学・高専生のための 解法演習 基礎数学」森北出版				
関連教科	専門科目を含むほとんどの科目				
基礎知識	中学までの数学				
成績の評価方法	総合評価割合	成績は定期試験(70%)、演習など(30%)により評価する。			
	定期試験	70%			
	レポート	%			
	演習・小テスト	30%			
	その他	%			
		100%			
備考					

(出典 平成19年度シラバス)

## 資料 5 - 2 - ① - 3 総合英語演習のシラバス

対象学科	全学科		担当教員	一般科目 ■■■■	
授業科目名	英語総合演習		科目コード		
学年	4学年	開講学期	通年	単位数	2単位
区分	必修	授業の形態	演習	単位種類	履修
授業概要	e!教室において各自が端末を利用し、サーバー上にある英語学習ソフト(アルク・ネット・アカデミー・スーパー・スタンダードコース)を学習する。リスニング・リーディングを主体に、語彙を増やすための単語道場、TOEIC模擬試験なども実施する。				
関連する本校の学習教育目標	社会とかかわるためのコミュニケーション力を身につける	関連するJABEE学習教育目標	日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議などのコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力		
到達目標	1. 様々な場面での日常会話を的確に聞き取り、速やかに応答する能力を養う 2. 英文を素早く的確に読み取るための語彙力、文法力を高める 3. 積極的に英語で意思の疎通を図ろうとする態度を養う				
授業の進め方とアドバイス	各自が自分のペースで学習してよいが、決められた期日までに指定されたユニットの学習を終えていない場合は、水曜日の放課後にe!教室でオフィスアワーを実施するので、学習を終えること。				
授業内容	回数	授業内容			
スケジュール	第1週 : ガイダンス 第2週 : レベル診断テスト 第3週 : レベル1 リスニング1ユニット・リーディング1ユニット 第4週 : レベル1 リスニング2ユニット・リーディング1ユニット 第5週 : レベル1 リスニング1ユニット・リーディング2ユニット 第6週 : レベル1 リスニング2ユニット・リーディング1ユニット 第7週 : レベル1 リスニング1ユニット・リーディング2ユニット 第8週 : レベル1 リスニング2ユニット・リーディング1ユニット 第9週 : レベル1 リスニング1ユニット・リーディング2ユニット 第10週 : レベル1 復習テスト 第11週 : レベル1 復習テスト 第12週 : レベル2 リスニング1ユニット・リーディング1ユニット 第13週 : レベル2 リスニング2ユニット・リーディング1ユニット 第14週 : レベル2 リスニング1ユニット・リーディング2ユニット 第15週 : レベル2 リスニング2ユニット・リーディング1ユニット 前期期末試験 第16週 : レベル2 リスニング1ユニット・リーディング2ユニット 第17週 : レベル2 リスニング2ユニット・リーディング1ユニット 第18週 : レベル2 リスニング1ユニット・リーディング2ユニット 第19週 : レベル2 復習テスト 第20週 : レベル2 復習テスト 第21週 : レベル3 リスニング1ユニット・リーディング1ユニット 第22週 : レベル3 リスニング2ユニット・リーディング1ユニット 第23週 : レベル3 リスニング1ユニット・リーディング2ユニット 第24週 : レベル3 リスニング2ユニット・リーディング1ユニット 第25週 : レベル3 リスニング1ユニット・リーディング2ユニット 第26週 : レベル2 リスニング2ユニット・リーディング1ユニット 第27週 : レベル2 リスニング1ユニット・リーディング2ユニット 第28週 : レベル3 復習テスト 第29週 : TOEIC演習テスト 第30週 : TOEIC演習テスト 学年末試験				
教科書					
参考書					
関連教科	1・2・3年次の英語総合・英語基礎演習・基礎英会話				
基礎知識					
成績の評価方法	総合評価割合				
	定期試験	40%			
	レポート	%			
	演習・小テスト	40%			
	その他	20%			
		100%			
備考	演習・小テストは指定されたユニットの学習終了を意味し、その他はユニット中のアドバンスポイント、単語道場ポイントを意味する。				

(出典 平成 19 年度シラバス)

資料5-2-①-4 情報・視聴覚機器使用率表

	H16	H17	H18	H19
講義室1～3	65.7%	61.0%	75.2%	75.2%
選択教室1～3	62.9%	59.0%	62.9%	64.8%
合同講義室	60.0%	60.0%	62.9%	62.9%
第3ゼミ室	51.4%	65.7%	51.4%	51.4%
視聴覚教室	40.0%	40.0%	31.4%	34.3%
第1・第2端末室	64.3%	67.1%	78.6%	67.1%
e-L教室				48.6%
全授業に占める割合	26.3%	26.1%	28.4%	29.7%

(1週は35時間として算出)

(出典 時間割より抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

一般科目及び各専門科目の講義、演習、実験実習等の授業形態は、特定の学年に集中することなく第1学年から第5学年にわたってバランスよく配分しており、本校の教育理念である創造性の育成と実験・実習を重視した実践的技術教育が実現できるように編成している。また、低学年の数学系科目で習熟度別授業や高学年の英語系科目でe-ラーニングを導入するなどの工夫を行っている。さらに、情報機器や視聴覚機器の活用も積極的に行っている。

**観点5-2-②： 教育課程の編成の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。**

(観点に係る状況)

教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバス作成上の注意事項を教員に周知し、適切に作成している(別添資料5-2-②-1)。シラバスは統一した様式でまとめて校内Webページに掲載しており、学生は校内のパソコンから自由に閲覧できる状態にある(資料5-2-②-1)。また、平成19年度からは校外への公開を準備している。

各科目のシラバスには、授業の目標と内容、到達目標、学校の学習・教育目標との関連、評価方法などを明記している。授業内容は各科目の目標を達成できるように、担当教員によって設定されており、授業評価アンケート結果などを反映して毎年更新している。また、初回の授業では受講学生に対してガイダンスを行い、シラバスを用いて授業内容の説明を行っている。

シラバスは、学生が選択授業の内容確認や各授業の評価方法などの確認、大学編入学者が単位読み替えのときの提出資料として活用している。

## 資料5-2-②-1 シラバスの具体例

対象学科	機械工学科	担当教員	■■■■
授業科目名	機械工作法III	科目コード	
学年	4学年	開講学期	通年
区分	必修	授業の形態	講義
		単位数	1単位
		単位種類	履修
授業概要	本授業は機械工学を専攻する技術者として、生産加工技術、機械設計を志す場合は特に重要な科目となる。機械工作法の実践的な技術は日進月歩で、その発達の場合は驚くばかりである。あらゆる技術の最先端を述べることはできないので、機械工作の考え方の基本となる理論的な面を中心に理解を深め、機械加工においてより普遍的に応用ができるようにする。		
関連する本校の学習教育目標	(A)	関連するJABEE学習教育目標	(A)
到達目標	<p>切削および研削加工において、加工材料に適した工具で、理想的な切屑を出し、適度の工具寿命を保ち、能率よく、要求精度の製品を作り出すための基本的な考え方を習得する。具体的には</p> <p>(1) 切削理論、研削理論の基礎知識が理解されること。</p> <p>(2) 工具も摩耗し、どのようなときどのような摩耗・損傷をするか理解すること。</p> <p>(3) 製品の精度、加工の経済性について理解する。</p> <p>(4) 各種の加工の実際について概要を理解する。</p>		
授業の進め方とアドバイス	2、3年で学習した鋳物、溶接、鍛造、塑性加工に引続き、切削加工に代表される除去加工について学ぶ。ここでは主として、切削加工理論、加工法等につき座学によって授業を進めるが、すでに機械工作実験・実習にて基礎的な加工技術については習得しているため、そこで使用したテキストによる復習、また教科書以外の専門書による勉強等により自ら理解を深める努力も欲しい。		
授業内容スケジュール	回数	授業内容	
	第1週	機械加工法の分類、工作機械とその特質	
	第2週	切削工具材料、発達の歴史、工具材料各論	
	第3週	超硬合金、最近の超硬合金、被覆超硬合金	
	第4週	工具形状、切削工具の角度とその作用	
	第5週	切屑の生成と構成刃先、チッププレーカ	
	第6週	切屑生成における力と変形I(切削機構の解明、切削抵抗)	
	第7週	切屑生成における力と変形II(せん断面の平均せん断応力と垂直応力、せん断ひずみ)	
	第8週	前期中間試験	
	第9週	前期中間試験の復習	
	第10週	切削熱の発生と切削温度、切削熱による温度上昇の影響	
	第11週	工具の摩耗とその形態	
	第12週	工具寿命と寿命方程式、被削性と影響因子	
	第13週	機械加工の経済性と切削条件、旋盤による外丸削りの経済性	
	第14週	加工面の品位と表面あらさ	
	第15週	切削油剤	
		前期末試験	
	第16週	前期末試験の復習	
	第17週	旋盤作業と各種旋盤	
	第18週	穴あけ作業と各種ボール盤	
	第19週	ドリルとその切削機構、リーマ加工その切削機構	
	第20週	中ぐりと中ぐり盤	
	第21週	フライス盤作業と各種フライス盤フライス	
	第22週	フライス加工と切削	
	第23週	後期中間試験	
	第24週	後期中間試験の復習	
	第25週	歯車と歯切り法	
	第26週	研削加工と研削砥石	
	第27週	研削理論I(砥粒切込み深さと接触弧長さ)	
	第28週	研削理論II(砥粒切込み深さと接触弧長さの役割)	
	第29週	研削作業の形態と研削盤作業	
	第30週	総まとめ	
		学年末試験	
教科書	橋本文雄、朝倉健二「機械工作法II」共立出版		
参考書	藤村善雄「実用切削加工法 第2版」共立出版		
関連教科	機械工作法(2、3年)、機械材料学、機構学		
基礎知識	物理、化学、数学、機械工学実験・実習		
成績の評価方法	総合評価割合	本授業の到達目標を達成することができたかを左の割合で評価します。定期試験以外に、適宜レポートを課します。受講生の皆さんはレポートの作成を通じて、授業で学習した内容をより深く追求するように心がけてください。	
	定期試験	70%	
	レポート	30%	
	演習・小テスト	%	
	その他	%	
		100%	
備考			

(出典 平成19年度シラバス)

(分析結果とその根拠理由)

シラバスを適切に整備しており、授業開始時のガイダンスや選択授業の履修選択時において、広く活用している。

観点5-2-③： 創造性を育む教育方法（PBLなど）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

(観点に係る状況)

オープンエンド問題に対する課題達成型授業などを取り入れ、創造性を育む教育を試みている科目は資料5-2-③-1に示すとおりであり、創造性の育成は全学科で取り組んでいる。例として、機械工学実験実習Ⅳのシラバスを資料5-2-③-2に示す。

インターンシップは技術者教育にとって効果的な教育方法との認識のもと、本校では準学士課程において「校外実習」として第4学年の夏季休暇期間に実施し、その実施内容を規程(別添資料5-1-②-1, pp.49-57)に従って評価した後、単位を認めている。

資料5-2-③-1 創造性を育む教育を実施している科目名

学年	学科	科目名	学年	学科	科目名	学年	学科	科目名
1	M	ものづくりワークショップ	4	M	機械工学実験実習	5	全	英米文学
1	M	英語総合	4	E	電気工学演習	5	M	機械工学実験実習
1	C	基礎化学実験	4	E	保健・体育	5	E	電気工学実験Ⅰ
2	E	電気回路Ⅰ	4	D	設計製図	5	D	エネルギー工学
2	D	工学実験実習	4	D	電気回路	5	D	機器制御
2	A	建築設計製図Ⅰ	4	A	CAD	5	D	情報伝送
2	A	情報処理	4	A	建築ゼミ	5	A	建築設備
3	A	デザイン基礎	4	A	都市計画	5	A	都市計画特論
3	A	建築計画						
3	A	情報処理						

M：機械工学科，E：電気情報工学科，D：電子制御工学科，C：物質工学科，A：建築学科

全：以上5学科

(平成18年度シラバスより抜粋)



資料 5 - 2 - ③ - 2 機械工学実験実習Ⅳのシラバス

対象学科	機械工学科	担当教員	■■■■■, ■■■■■, ■■■■■, ■■■■■, ■■■■■, ■■■■■, ■■■■■, ■■■■■, ■■■■■, ■■■■■		
授業科目名	機械工学実験実習Ⅳ	科目コード			
学年	4学年	開講学期	通年	単位数	3単位
区分	必修得	授業の形態	実験	単位種類	履修
授業概要	<p>この講義は本校の教育目標のうち専門分野における「基礎力」、「応用力」を養う科目である。工学知識の実証(解析結果正否の実験による確認、各種センサ、アクチュエータなど応用技術の習得、規格による性能試験)、実証手段、方法の習得、知識理解の助長、実験報告書作成方法の習得、実証方法改善の模索など実験を通して教育をする。</p> <p>また、総合実習により創造性を高め、実験実習の総合判断を行う。</p>				
関連する本校の学習教育目標	(A)(B)	関連するJABEE	学習教育目標		
到達目標	<p>機械工学実験実習では専門教科の知識の理解と応用力を高め、また報告書作成能力を身につけることを目標とし、実験で経験した過程と、得た結果によって「考える」すなわち考察することで、創造力ある仕事ができるようにする。</p>				
授業の進め方とアドバイス	<p>クラスを5班に分け、ローテーションで各分野の実験を行う。それぞれの実験について、レポートを提出し、そのレポート内容について指導を毎回行う。実験を行わないとレポートを書くことができないので、必ず出席するように努力し、自ら考える力を養うよう努力すること。実験内容およびレポートに関する質問は随時受け付けるので、各実験担当教員の研究室を訪ねること。</p>				
授業内容スケジュール	回数	授業内容			
	第1週:	機械工学実験ガイダンス、レポートの書き方(全員)			
	第2週:	熱工学実験1			
	第3週:	熱工学実験レポート指導			
	第4週:	熱工学実験2			
	第5週:	熱工学実験レポート指導			
	第6週:	流体工学実験1			
	第7週:	流体工学実験レポート指導			
	第8週:	流体工学実験2			
	第9週:	流体工学実験レポート指導			
	第10週:	金属材料実験1			
	第11週:	金属材料実験レポート指導			
	第12週:	金属材料実験2			
	第13週:	金属材料実験レポート指導			
	第14週:	材料力学実験1			
	第15週:	材料力学実験レポート指導			
	第16週:	材料力学実験2			
	第17週:	材料力学実験レポート指導			
	第18週:	計測工学実験			
	第19週:	計測工学実験レポート指導			
	第20週:	機械力学実験1			
	第21週:	機械力学実験レポート指導			
	第22週:	機械力学実験2			
	第23週:	機械力学実験レポート指導			
	第24週:	総合実習1			
	第25週:	総合実習2			
	第26週:	総合実習3			
	第27週:	総合実習4			
	第28週:	総合実習5			
	第29週:	総合実習6			
	第30週:	総合実習7			
	(各々の実験ごとにローテーションを組み、実験を行う。)				
教科書	プリント				
参考書	専門科目に用いられる教科書すべて				
関連教科	機械工学科全教科				
基礎知識	機械工学科全教科				
成績の評価方法	総合評価割合	各々の実験ごとに100点満点(実験態度10点、レポート提出点20点、レポート点70点)で採点を行い、全実験について単純平均し、総合評価とする。			
	定期試験	0%	レポート未提出が1テーマでもあれば評価対象としないので必ずレポートを提出すること。		
	レポート	70%			
	演習・小テスト	0%			
	その他	30%			
備考	100%				

(平成18年度シラバスより抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

創造性の育成はあらゆる科目で配慮されており、ほぼ満足できる程度に実施している。インターンシップについてはその制度も確立され、十分活用できている。

**観点5-3-①：** 成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

成績評価や進級・卒業認定の判断基準は規則として制定している。成績評価や進級認定、卒業認定の規則などは学生便覧に記載しており、学生に周知している(資料5-3-①-1)。特に、入学生に対しては入学式後のオリエンテーション(資料1-2-①-8, 12 ページに前出)、4年次編入学生に対しては入学前の説明会で詳細に説明している(資料5-3-①-2)。

進級及び卒業の認定は、全教員が出席する進級認定会議により決定している。会議の席では、全学生の成績一覧を提示するとともに、進級及び卒業の規定に抵触する学生の一覧をもとに審議しており、適切に実施している(資料5-3-①-4~5, 訪問調査時に提示)。なお、第1~4学年の進級に関しては落差単位に関する内規(資料5-3-①-1)を設けており、厳正かつ慎重に運用している。また、欠課時数及び成績評価は、学生からの訂正等の申出期間を設けて最終確認している。不合格単位を持って進級した学生に対しては進級した学年で再学習を行い、その後の追認試験によって単位を再評価している(別添資料5-1-②-1, pp. 29-30)。追認試験の受験者数及び合格者数を資料5-3-①-3に示す。低学年ではほとんどの学生が追認試験で単位を取得している。

#### 資料5-3-①-1 学業成績の評価及び修了の認定に関する内規

##### ○米子工業高等専門学校学業成績の評価及び課程修了の認定に関する内規

(履修義務)

第1条 履修する授業科目(以下「科目」という。)は放棄を認めず、すべて課程修了認定の対象とする。

(学業成績の評価)

第2条 学業成績は、総合評価(定期・中間試験その他の試験のほかに、出席状況、学習態度、演習の成果等を総合的に判定した評価)とする。学年中途の成績についても、これに準じて評価し、欠課時数とともに学年始めからの総計とする。

2 学業成績は、優・良・可・不可の標語で評価し、科目担当教官が、その科目の評価を表示する場合(以下「評価点」という。)は、100点法によるものとし、次の区分とする。

標語	評価点
優	80点以上
良	70点以上80点未満
可	60点以上70点未満
不可	60点未満

3 校外実習の学業成績の評価は、前2項の規定にかかわらず、合格又は不合格とする。

4 米子工業高等専門学校高等専門学校以外の教育施設等における学修等に関する規則（以下「高専以外の学修等規則」という。）第4条第2項の規定により単位の認定を受けた科目の学業成績は、第1項及び第2項の規定にかかわらず、科目担当教官が合格の評価をする。

5 追認試験で合格と認定された未修得科目の学業成績の評価は、可（60点）とする。

（学業成績の評価をしない科目）

第3条 次の各号の一に該当する科目は、学業成績を評価しないものとする。

（1）欠課時数が年間授業時数の5分の1を超える科目。この場合においては、欠課時数のみを表示する。

（2）履修放棄と認めた科目

（特別に学修成績の評価ができる科目）

第4条 欠課時数が、年間授業時数の5分の1を超え3分の1以下の科目で、病気その他の理由（診断書等添付）により、やむを得ないと認定会議で認められたものについては、前条の規定にかかわらず、科目担当教官（非常勤講師の担当する科目は、当該非常勤講師の意を受けて、各教科代表又は学科主任等が代行する。）が、学業成績の評価をする。

ただし、長期にわたる病気による欠課時数が、年間授業時数の3分の1を超える科目であっても、特別な状況にあると認定会議で認められたものについては、学業成績の評価をすることができる。

（試験）

第5条 定期試験は、前期末及び学年末試験とし、年間各1回行う。その他の試験は、随時行うものとする。

2 平素の成績で学業成績を評価しうる科目については、試験を行わないことがある。

（追試験）

第6条 試験に欠席した者で、忌引、特別欠席・欠課及び病気その他の理由により、やむを得ないと認められる場合には、追試験を行うことがある。

（再試験）

第7条 試験の結果必要と認められる科目については、再試験を行うことがある。

（追認試験）

第8条 試験によって再評価しうる科目については、不可の科目の追認試験を行うことがある。

（試験中の不正行為）

第9条 試験中不正行為を行った者に対しては、その時間以降の受験を停止するとともに、当該試験期間中の全科目の試験を0点とする。

（修得科目）

第10条 次の各号の一に該当する科目は、修得科目と認める。

（1）学業成績が、可以上の科目

（2）第2条第3項の規定により、合格と評価された校外実習

（3）第2条第5項で合格と認定された科目

（4）第4条で可以上と認定された科目

（5）高専以外の学修等規則第4条第2項の規定により、単位の認定を受けた科目

（課程修了の認定）

第11条 学年の課程修了の認定は、認定会議に付し校長が認定する。

2 次の各号の一に該当するものは、原則として課程の修了を認めない。

（1）評価しない科目のある者

(2) 次の表の学年に対応する単位を修得できなかった者

学 年	単 位 数
1 学年	27以上 (うち一般科目20以上)
2 学年	61以上 (うち一般科目46以上, 専門科目 5 以上)
3 学年	95以上 (うち一般科目61以上, 専門科目24以上)
4 学年	130以上 (うち一般科目70以上, 専門科目50以上)
5 学年	167以上 (うち一般科目75以上, 専門科目82以上)

(3) 欠課時数(学校行事・特別活動の欠課時数を含む。)を1日7時間の割で換算した日数が, 出席すべき日数の5分の1を超える者

ただし, 病気その他の理由により, やむを得ないと認定会議で認められた場合にあつては, 3分の1を超える者(長期にわたる病気による欠席日数が, 3分の1を超える場合であっても, 特別な状況にあると認定会議で認められた者を除く。)

(4) 特別活動の履修状況及び学校行事への参加状況が著しく不良の者

(留年, 退学)

第12条 課程修了を認められないものは, 原学年にとどめる。

2 休学による場合を除き, 引き続き2回又は通算3回原学年にとどまる者は, 学則第45条の規定により退学しなければならない。

(学生の欠次)

第13条 学生の学級毎の欠次は, 第2条第2項の100点法による評価点の合計で示し, 卒業研究の評価点は加えない。

2 第4条で学業成績の評価が決定した場合は, 他の学生の席次は変更せず, 当該学生はその学業成績に相当する席次で示す。

3 学生の保護者に送付する学業成績の表示は, 評価点を用い席次は表示しない。

(指導要録等への記載方法)

第14条 卒業又は退学した学生に不可の科目があるときは, 指導要録は「履修」と記載する。成績証明書もこれにならう。

(雑則)

第15条 この内規に関し, 必要な事項は, 別に定める。

(出典 学業成績の評価及び課程修了の認定に関する内規)

資料5-3-①-2 編入学生に対する入学前説明会

## 平成19年度編入学生事前指導日程表

実施日 : 平成18年 9月25日 (月)

日 程

	時間	場所	担当者
入 寮 説 明	13時30分 ~ 14時00分	小会議室	寮務主事
教務主事挨拶 学校概要説明	14時00分 ~ 14時20分	小会議室	教務主事
数 学	14時20分 ~ 14時45分	小会議室	■■先生
英 語	14時45分 ~ 15時10分	小会議室	■■先生
理 科	15時10分 ~ 15時35分	小会議室	■■先生
各 該 当 学 科	15時45分 ~ 16時30分	各 科	各学科長

(出典 平成19年度編入学生事前指導日程表)

資料5-3-①-3 追認試験結果

	2年生			3年生		
	追認試験数	合格者数	合格率	追認試験数	合格者数	合格率
H17年度	42	33	78.6%	47	40	85.1%
H18年度	39	31	79.5%	46	33	71.7%
	4年生			5年生		
	追認試験数	合格者数	合格率	追認試験数	合格者数	合格率
H17年度	62	50	80.6%	106	81	76.4%
H18年度	57	36	63.2%	63	30	47.6%

(出典 平成17及び18年度追認試験結果より抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

成績評価や進級・卒業認定に関する規則を制定し、学生便覧に記載することで学生に周知している。また、追認試験の規定も定めており、厳正かつ慎重に運用している。

また、全教員が出席する進級・卒業認定会議において、成績評価・単位認定や進級・卒業認定を適切に行っている。

**観点5-4-①：** 教育課程の編成において、特別活動の実施など人間の素養の涵養がなされるよう配慮されているか。

(観点に係る状況)

本校の特別活動は、ロングホームルーム（以下LRHと略す）と球技大会や高専祭などの学生会企画の行事に大別できる。第1学年から第3学年の全クラスにおいて、週1時間実施しているLHRは、担

任裁量で行われるものと、教務部や学生部等の主催で実施される場合があり、いずれの場合においても必修の科目として全員が修得しなければならないように定めている（別添資料5-1-②-1, pp.23-26）。LHRの目標、学年ごとの目標は教務便覧に記載し、担任を中心として各クラスで年間計画を決めている（資料5-4-①-1）。

一方、学生会企画の活動は人間の素養の涵養において、特にその効果が期待できる活動と位置付けており、学生会と教職員が一体となって作る重要な活動行事である（資料5-4-①-2）。これらの行事は、企画・準備から実施に至るまで、学生の自主的活動が主体となっており、その活動の中で得られる人間関係、社会との対応、自己研鑽など、人間的資質を涵養するにふさわしい体験ができる状況になっている。

また、特別行事として、第2学年では1泊2日の校外研修旅行、第3学年では主に関西方面への工場見学旅行を実施している（資料5-4-①-3～4）。本校ではこれらの活動を通して、教育目標でもある倫理力やコミュニケーション力を育成している。

資料5-4-①-1 第1学年LHR年間計画表の例

月日	内容	担当
4月12日	校内探検	クラス
4月18日	開校記念日	
4月19日	演劇鑑賞会の時代背景解説、感想文	クラス
4月26日	健康の日	
5月10日	教務・学生主事の話	教務部
5月17日	室内ゲーム	クラス
5月24日	悪徳商法について	学生部
5月31日	勉強の仕方(数学・物理)	教務部
6/7~6/13 前期中間試験		
6月14日	ドッジボール	クラス
6月21日	球技大会選手決め	クラス
6月26日	球技大会	
6月28日	学校周辺の清掃	学年
6/30~7/1 保護者懇談会		
7月12日	性教育(避妊について)	学生部
7/14~8/31 夏休み		
9月6日	遠足の行き先決め	クラス
9月13日	クレープを作ろう	クラス
9月20日	期末試験に備えて	クラス
9/21~9/28 前期末試験		
10月4日	後期クラス役員決め	クラス
10月11日	未来への手紙(一筆啓上賞に応募)	クラス
10/17~10/19 特別行事、教員顕彰アンケート		
10月25日	高専祭準備	クラス
11/3~11/5 文化祭、片づけ		
11月8日	バスケットボール	クラス
11月15日	米子市海外研修員の話	教務部
11月22日	ホットケーキを作ろう	クラス
11月29日	リラクゼーション講習会	学生相談室
12/3~12/7 後期中間試験		
12月13日	飲酒・喫煙の害	学生部
12月19日	スポ・レク大会	
12月20日	教務部の話(成績)	教務部
12/22~1/6 冬休み		
1月10日	カードゲーム	クラス
1月17日	友達の良いところ探し	クラス
1月24日	お好み焼きを作ろう	クラス
1月31日	自転車置き場清掃	クラス
2月7日	1年間の反省	クラス
2/12~2/18 学年末試験		
2月19日	終業式	

(出典 平成19年度第1学年LHR年間計画表)

資料5-4-①-2 平成19年度年間行事予定表

平成19年度 行事予定

4月			5月			6月			7月			8月			9月					
日	曜日	本 科 専攻科	日	曜日	本 科 専攻科	日	曜日	本 科 専攻科	日	曜日	本 科 専攻科	日	曜日	本 科 専攻科	日	曜日	本 科 専攻科	日	曜日	本 科 専攻科
1	日	開校	1	火	臨時休業	1	金	土	1	日	臨時休業	1	水	木	1	土	日	臨時休業		
2	月	開校	2	水	臨時休業	2	土	日	2	月	臨時休業	2	木	金	2	日	臨時休業	臨時休業		
3	火	始業式・ガイダンス	3	木	憲法記念日	3	月	日	3	火		3	水	木	3	月	火	臨時休業		
4	水	入学式・ガイダンス	4	金	みどりの日	4	火	水	4	木		4	金	土	4	火	水	臨時休業		
5	木	入学式・ガイダンス	5	土	子供の日	5	水	木	5	金		5	土	日	5	水	木	臨時休業		
6	金	入学式・ガイダンス	6	日		6	木	金	6	土		6	日	月	6	木	金	臨時休業		
7	土		7	月		7	金	土	7	日		7	月	火	7	火	水	臨時休業		
8	日		8	火		8	土	日	8	月		8	水	木	8	水	木	臨時休業		
9	月		9	水		9	日	月	9	火		9	木	金	9	木	金	臨時休業		
10	火		10	木		10	月	火	10	水		10	土	日	10	土	日	臨時休業		
11	水		11	金		11	火	水	11	木		11	金	土	11	日	月	臨時休業		
12	木	運動会	12	土	前編入試	12	水	木	12	金		12	土	日	12	火	水	臨時休業		
13	金	運動会	13	日		13	木	金	13	土		13	日	月	13	水	木	臨時休業		
14	土		14	月		14	金	土	14	日		14	月	火	14	木	金	臨時休業		
15	日		15	火		15	土	日	15	月		15	水	木	15	土	日	臨時休業		
16	月		16	水		16	日	月	16	火		16	木	金	16	日	月	臨時休業		
17	火		17	木		17	月	火	17	水		17	土	日	17	火	水	臨時休業		
18	水		18	金		18	火	水	18	木		18	金	土	18	水	木	臨時休業		
19	木		19	土		19	水	木	19	金		19	土	日	19	木	金	臨時休業		
20	金		20	日		20	木	金	20	土		20	日	月	20	土	日	臨時休業		
21	土		21	月		21	金	土	21	日		21	月	火	21	日	月	臨時休業		
22	日		22	火		22	土	日	22	月		22	水	木	22	月	火	臨時休業		
23	月		23	水		23	日	月	23	火		23	木	金	23	水	木	臨時休業		
24	火		24	木		24	月	火	24	水		24	土	日	24	木	金	臨時休業		
25	水		25	金		25	火	水	25	木		25	金	土	25	土	日	臨時休業		
26	木		26	土		26	水	木	26	金		26	土	日	26	日	月	臨時休業		
27	金		27	日		27	木	金	27	土		27	日	月	27	月	火	臨時休業		
28	土		28	月		28	金	土	28	日		28	月	火	28	火	水	臨時休業		
29	日		29	火		29	土	日	29	月		29	水	木	29	水	木	臨時休業		
30	月		30	水		30	日	月	30	火		30	木	金	30	木	金	臨時休業		
31	火		31	木		31	月	火	31	水		31	土	日	31	土	日	臨時休業		

平成19年度 行事予定

10月			11月			12月			1月			2月			3月					
日	曜日	本 科 専攻科	日	曜日	本 科 専攻科	日	曜日	本 科 専攻科	日	曜日	本 科 専攻科	日	曜日	本 科 専攻科	日	曜日	本 科 専攻科	日	曜日	本 科 専攻科
1	日		1	木	入学式	1	土	日	1	火	祝日	1	金	土	1	土	日	臨時休業		
2	月		2	金	文化祭準備	2	月	日	2	水		2	土	日	2	日	月	臨時休業		
3	火		3	土	文化の日	3	火	水	3	木		3	日	月	3	火	水	臨時休業		
4	水		4	日	文化祭	4	水	木	4	金		4	月	火	4	水	木	臨時休業		
5	木		5	月	文化祭	5	木	金	5	土		5	火	水	5	木	金	臨時休業		
6	金		6	火	文化祭	6	金	土	6	日		6	水	木	6	土	日	臨時休業		
7	土		7	水	文化祭	7	土	日	7	月		7	木	金	7	日	月	臨時休業		
8	日		8	木		8	日	月	8	火		8	土	日	8	火	水	臨時休業		
9	月		9	土		9	月	火	9	水		9	日	月	9	水	木	臨時休業		
10	火		10	日		10	火	水	10	木		10	月	火	10	木	金	臨時休業		
11	水		11	月		11	水	木	11	金		11	火	水	11	土	日	臨時休業		
12	木		12	火		12	木	金	12	土		12	日	月	12	日	月	臨時休業		
13	金		13	水		13	土	日	13	月		13	火	水	13	火	水	臨時休業		
14	土		14	木		14	日	月	14	火		14	木	金	14	土	日	臨時休業		
15	日		15	金		15	月	火	15	水		15	土	日	15	日	月	臨時休業		
16	月		16	土		16	火	水	16	木		16	日	月	16	火	水	臨時休業		
17	火		17	日		17	水	木	17	金		17	月	火	17	水	木	臨時休業		
18	水		18	月		18	木	金	18	土		18	火	水	18	木	金	臨時休業		
19	木		19	火		19	土	日	19	月		19	水	木	19	土	日	臨時休業		
20	金		20	水		20	日	月	20	火		20	木	金	20	日	月	臨時休業		
21	土		21	木		21	月	火	21	水		21	土	日	21	火	水	臨時休業		
22	日		22	金		22	火	水	22	木		22	金	土	22	水	木	臨時休業		
23	月		23	土		23	水	木	23	金		23	土	日	23	木	金	臨時休業		
24	火		24	日		24	木	金	24	土		24	日	月	24	土	日	臨時休業		
25	水		25	月		25	火	水	25	木		25	月	火	25	日	月	臨時休業		
26	木		26	火		26	水	木	26	金		26	火	水	26	火	水	臨時休業		
27	金		27	水		27	土	日	27	月		27	木	金	27	水	木	臨時休業		
28	土		28	木		28	日	月	28	火		28	土	日	28	木	金	臨時休業		
29	日		29	金		29	月	火	29	水		29	日	月	29	土	日	臨時休業		
30	月		30	土		30	火	水	30	木		30	月	火	30	日	月	臨時休業		
31	火		31	日		31	水	木	31	金		31	火	水	31	土	日	臨時休業		

(出典 平成19年度年間行事予定表)

資料 5-4-①-3 平成 18 年度校外研修日程表

研修旅行活動計画

	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	物質工学科	建築学科
19日(木)					
9:00	(米子高専発)				
11:30	(青年の家着) オリエンテーション				
12:00	昼食 宿泊準備				
13:30	サイクリング 【雨天:キンボール】	テニス 【雨天:七宝焼】	サッカー 【雨天:バドミントン・卓球】	バドミントン 【雨天:バドミントン・卓球】	グラウンドゴルフ 【雨天:三瓶自然館】
16:30	(連絡会議)				
17:00	夕べのつどい				
17:30	夕食				
18:30	バドミントン		男子:入浴		女子:入浴
19:15			女子:入浴	男子:入浴	男子:入浴
20:00	入浴	女子:入浴		女子:入浴	
20:45		男子:入浴			
21:30					
22:00	点呼・就寝				
20日(金)					
6:30	起床・洗面				
7:00	朝のつどい				
7:45	朝食				
8:30	片付け・点検				
9:00	登山 (青年の家のバス利用で東の原-リフト利用で大平山-徒歩で女三瓶山・帰りはリフトを利用せず東の原-バス利用で青年の家着) 【雨天:三瓶自然館(プラネタリウム)】	グラウンドゴルフ 【雨天:バスケットボール・卓球】	ソフトボール 【雨天:バスケットボール・卓球】	テニス 【雨天:映画】	バスケットボール・卓球 【雨天:バスケットボール・卓球】
10:30	(青年の家発) いりすの丘 (昼食)	(青年の家発) 出雲大社 (昼食)	(青年の家発) いりすの丘 (昼食)	(青年の家発) いりすの丘 (昼食)	タッチオープン料理 (昼食)
12:00	青年の家(昼食)				
13:30	青年の家(発)				青年の家(発)
14:00	(いりすの丘発)	(出雲大社発)	(いりすの丘発)	(いりすの丘発)	(米子高専到着)
16:00	(米子高専到着)	(米子高専到着)	(米子高専到着)	(米子高専到着)	(米子高専到着)

(出典 平成 18 年度校外研修旅行日程表)

資料 5-4-①-4 平成 18 年度工場見学旅行日程表

	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	物質工学科	建築学科	
日程	10月18日 (水)	8:20 出発 JFEスチール 西日本製鉄所 (岡山県倉敷市)	8:30 出発 関西電力㈱ 南港発電所 (大阪府大阪市)	8:30 出発 大阪ガス 泉北製造所 (大阪府大阪市)	8:30 出発 東レ㈱ 滋賀事業所 (滋賀県大津市)	8:15 出発 積水ハウス㈱ なっとく工房 (京都府相楽郡)
	10月19日 (木)	三菱重工業 高砂工場 (兵庫県高砂市)	シャープ天理工場 歴史ホール & 技術ホール (奈良県天理市)	サントリービール 京都工場 (京都府長岡京市)	サントリービール 京都工場 (京都府長岡京市)	鹿島建設施工現場 「京阪神不動産 御堂筋ビル」
	10月20日 (金)	新明和工業 甲南工場 (兵庫県神戸市)	神戸市内 ハーバーランド	神戸市内自由散策	花王 和歌山工場 (和歌山県和歌山市)	人と防災未来センター (兵庫県神戸市) ※自由夕食
	三菱重工業 神戸造船所 (兵庫県神戸市)	古野電気㈱ 三木工場 (兵庫県三木市)	富士電機システムズ (兵庫県神戸市)	神戸市内 ハーバーランド周辺散策	本福寺 淡路夢舞台	
	神戸市内 ハーバーランド周辺散策	榊松下エコテクノロジー センター (兵庫県加東市)		※自由昼食	淡路ハイウェイ オアシス	
	19:00 到着	18:15 到着	17:40 到着	17:30 到着	17:00 到着	

(出典 平成 18 年度工場見学旅行日程表)



(分析結果とその根拠理由)

特別活動は人間性の素養を涵養できるように年間行事に計画し、教職員の全面的援助を得ながら実施している。

**観点5-4-②： 教育の目的に照らして、生活指導面や課外活動等において、人間の素養の涵養が図られるよう配慮されているか。**

(観点に係る状況)

本校の指導体制と指導方針については学生委員会(資料2-2-①-8, 27ページに前出)によって立てられており、全教員には「学生生活指導の手引」(別添資料2-2-③-2)を配布し、指導方針の統一を図っている。また、学生には「学生としての心得」を配布し、自律的な行動を促している(資料5-4-②-1)。さらに、周辺の高校、中学の生徒指導担当者との連携も行いつつ生活指導を行っている(資料5-4-②-2)。夏季休暇前には、休業中の心得としての特別な注意を促している(資料5-4-②-3)。特に新入生に対しては入学時にオリエンテーションを行い、本校の学生として学生生活に溶け込みやすいよう配慮している(資料1-2-①-8, 12ページに前出)。

保健衛生や交通安全に関しては、外部講師を招いて講習会を開催し、学年に応じた教育を行うよう心掛けている(資料5-4-②-4)。

課外活動としてのクラブ・同好会活動は、学生会の組織の中で活動している(資料5-4-②-5)。それぞれのクラブ・同好会には本校の指導教員を配置しており、学生の課外活動のみならず生活上の相談にも応じている。また、クラブ・同好会活動は年度初めに提出する計画に従って行われている(資料5-4-②-6)。

## 資料5-4-②-1 学生心得

**VI 学生としての心得**

大学と同じ高等教育機関である高専では、入学した諸君の自主性を尊重し、皆さんを生徒ではなく「学生」と呼びます。高専では小中学校のような細かい規制はありませんが、これは自由勝手な言動が許されるということではありません。自主性が重んじられるということは、「学生」自身の責任が重くなるということになります。

有意義な学生生活を送るためには、勉強はもちろんクラブ活動等に励むとともに、規律ある生活を心がけることが必要です。

**1. 学則・学生準則の遵守**

学則及び学生準則は、本校の学生として守るべき基本事項を示したものです。よく読んで理解してください。これらの規則を守らないことにより不利益な結果を招くことのないよう十分注意してください。

**2. 学生証と学籍番号**

学生証は、本校の学生であることを証明する大切な身分証明書です。常に携帯し提示を求められた場合に、いつでも見せることができるようにしておいてください。

住所等の記載事項に変更があった場合、破損や紛失した場合は、速やかに学生課教務係に届けてください。

学生証は毎年、新学期の始めに学生課教務係で検認を受け、有効期限の更新をしなければなりません。

また、第4学年には新たに学生証を交付します。

学籍番号は、在学中はもちろん卒業後も変わることはありません。上2桁は入学時の西暦を表し、次は学科を表し末尾の2桁が各自の番号になっています。諸手続を行う上で学籍番号は必要になりますので良く覚えておいてください。

**3. 制服**

男子 黒の標準学生服 ボタンは、本校所定のもの

襟の左側に学科章、右側に校章、左胸部に名札をつけること。

女子 本校指定のスリーピース、ブラウスは襟付きの白であれば、特に指定しない。

(冬はベストの代わりにセーターを着用してもよい。)

スカートのヒダ数は24本

襟の左側に学科章、右側に校章、左胸部に名札をつけること。

夏の服装 6月1日から9月30日(上着は着用しなくてもよい。)

男子 白の開襟シャツ又はワイシャツ

女子 白のブラウス

頭髪は清潔、清楚にし、本校の学生としてふさわしいように心がけましょう。

なお、体育及び実験実習時の服装について教科毎に決められている場合はその決まりによります。

(出典 平成19年度学生便覧より抜粋)

資料5-4-②-2 鳥取県指導部連盟会議資料

平成18年度鳥取県高等学校西部地区指導部連盟

第2回理事会

平成18年7月6日(木) 14:30～

県立武道館 研修室(2)

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 概況説明
  - ・米子警察署生活安全課より
  - ・鳥取県教育委員会より
  - ・その他
4. 協議事項
  - ・夏季休業中の生徒指導について
    - ① 夏季巡視計画
    - ② 確認事項に関すること
  - ・アルバイトに関する要望書の送付について
  - ・自動車学校への申し入れについて
  - ・学校祭について
    - ① 各校の日程確認
    - ② 確認事項に関すること
  - ・その他
5. 情報交換
6. その他
7. 閉会

(出典 平成18年度鳥取県高等学校西部地区指導部連盟 会議資料)

資料5-4-②-3 夏季休業中の心得

夏季休業中の心得

学生主事

長期休業の意義をよく理解し、自主的に学力補充、健康増進、読書等の計画を立て、また豊かな教養・趣味を身につけるなど十分に休暇を活用し、有意義な生活を送るよう心がける。

## 1. 学則・学生準則の遵守

米子高専の学生としての誇りを持ち、社会的に認められてない次のような行為は慎む。

- ・ 未成年者の飲酒・喫煙
- ・ 道路交通法に違反する行為
- ・ 校内、校外を問わず駐車違反
- ・ 万引き、自転車の無断使用などの窃盗罪に問われる行為
- ・ 深夜の外出
- ・ その他の反社会的な行為

## 2. アルバイトについて

アルバイトは許可制であることを念頭におき、保護者の許しを得た上で、学級担任とよく相談する。担任の許しがあれば許可願の用紙をもらい、各事項を記入し、学生係に提出すること（雇用者の保証書がないものは許可しない）。許可する場合には「許可証」を交付する。これを雇用者に提示し、アルバイトをはじめめる。

以下に該当する内容の場合は許可しない。

- ・ 夜間遅くなるもの
- ・ 危険を伴うもの
- ・ 酒を供する飲食店業
- ・ 風俗関係
- ・ 宿泊を伴う内容のもの（低学年の場合）
- ・ その他学生として相応しくない内容のもの

## 3. 交通事故・違反について

交通法規を守り、安全運転を心がけ、交通事故には特に注意する。万一、事故・違反にあったときは速やかに学級担任又は学生係に連絡する。

長距離ドライブ等、長時間の運転をする場合は、道路状況や交通量を考え十分にゆとりをもつ

た計画を立て、無理な運転や過労にならないようにする。また、出発前の車の整備、点検を確実にしておく。

## 4. 校内への立ち入り禁止と学生課等の窓口閉鎖について

8月12日(土)～16日(水)の期間、正門をはじめすべての出入り口が閉まり、敷地内への立ち入りが全面的に禁止となる。校舎も施錠され立ち入りが出来なくなるので、注意すること。また、教職員も不在のため電話の対応もできない。

## 5. その他

- (1) 外出時は清楚な服装に心掛け良識ある言動で対処する。特に訪問、外泊、交際等については家族にも相談しながら相手の都合を考えて行動する。
- (2) 事故等があった場合は、担任または学生係（0859—24—5023）に連絡する。
- (3) クラブ活動等以外で他の高等学校に無断で立ち入ることのないようにする。

(出典 夏季休業中の心得)

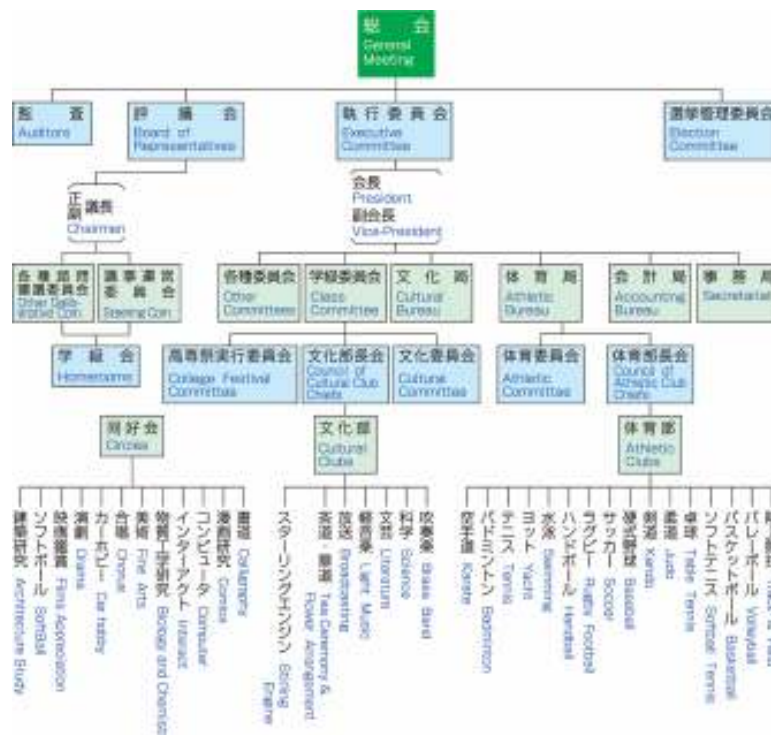
資料 5 - 4 - ② - 4 交通安全講習会

交通安全講習会及び二輪実技講習会

年 月 日	対象学生	講 演 内 容	講 師 等
平成15年6月24日	車両通学許可者	「いのちはひとつ」	自動車学校技能検定員 安田正氏
平成15年6月28日	二輪通学許可者	二輪実技講習	自動車学校教官(教習所で実施)
平成15年11月19日	車両通学許可者	「えっ?うそお~意外と知らない交通事情」	自動車学校技能検定員 安田正氏
平成15年11月22日	二輪通学許可者	二輪実技講習	自動車学校教官(教習所で実施)
平成16年4月21日	4年生	「交通安全について」	米子警察署
	5年生	「交通安全について」	米子警察署
平成16年12月11日	二輪通学許可者	二輪実技講習	自動車学校教官(教習所で実施)
平成17年4月27日	4年生	「交通安全について」	米子警察署
平成17年10月29日	二輪通学許可者	二輪実技講習	自動車学校教官(教習所で実施)
平成17年11月21日	3年生	「交通安全について」	米子警察署
平成18年11月11日	二輪通学許可者	二輪実技講習	自動車学校教官(教習所で実施)
平成19年2月15日	3年生	「交通安全について」	米子警察署

(出典 交通安全講習会及び二輪実技講習会)

資料 5 - 4 - ② - 5 学生会組織図



(出典 平成19年度学校要覧 p.34)

## 資料5-4-②-6 クラブ・同好会活動時間の年間計画

## クラブ・同好会活動時間の年間計画

平成19年度

( 吹奏楽 ) 部、同好会

記載責任者 ( 山田 祐司 )

※ 長期休業中を除いた通常時の予定を記入して下さい。

## 1. 平日

( 16 ) 時(30 )分 ~ ( 18 ) 時(30 )分

## 2. 休日

(1)土曜日 i.  する a. ほぼ毎週する b. ときどきする  
( 9 ) 時(00 )分 ~ ( 13 ) 時(00 )分ii.  しない(2)日曜日 i.  する a. ほぼ毎週する b. ときどきする  
( 9 ) 時(00 )分 ~ ( 16 ) 時(00 )分ii.  しない(3)祭 日 i.  する a. ほぼ毎回する b. ときどきする  
( ) 時( ) 分 ~ ( ) 時( ) 分ii.  しない

## 3. その他

※ シーズンオフ、冬季期間等、通常時と大きく異なる期間がある場合や、上記に記入できない場合は下に記入して下さい。

(出典 クラブ・同好会活動時間の年間計画届)

(分析結果とその根拠理由)

生活指導面における指導方針は統一されており、全教員は学生が人間としての基本的素養を身に付けることを目的として、日々の指導を行っている。また、外部講師による交通安全などの講演会も実施し、人間性の素養の涵養に努めている。

クラブ活動については学生会が中心となり、指導教員が課外活動に関わることで、学生の人間教育に全校体制で取り組んでいる。

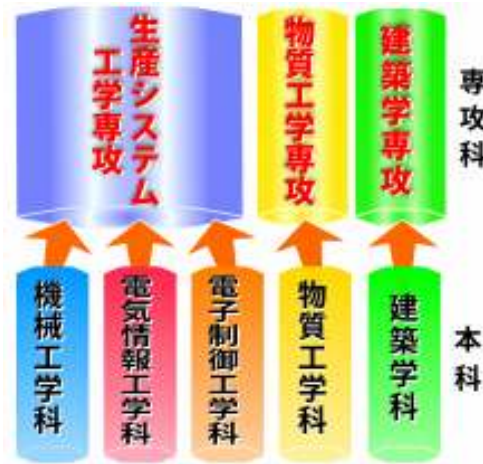
<専攻科課程>

観点5-5-①: 準学士課程の教育との連携を考慮した教育課程となっているか。

(観点に係る状況)

本校の準学士課程5学科と専攻科3専攻の関係は資料5-5-①-1に示すとおりであり、準学士課程との連携を考慮している。準学士課程及び専攻科の科目間の関連は資料5-5-①-2~6のとおりであり、専攻科は準学士課程の教育との連携を十分考慮した教育課程となっている。

資料5-5-①-1 本科・専攻科関連図



(出典 専攻科パンフレット)

資料5-5-①-2 機械工学科—生産システム工学専攻科目系統図

学習教育目標	科目	授業科目名									
		本科		専攻科1年		専攻科2年		前期		後期	
		1年	2年	3年	4年	5年	前期	後期	前期	後期	
基礎力	一般基礎知識			応用物理Ⅰ	応用物理Ⅱ		健康科学特論(選択)		近代物理(選択)		
	材料と構造に関する力学			材料力学Ⅰ	材料力学Ⅱ				材料工学(選択)		
	エネルギーと流れに関する力学			流体工学Ⅰ	流体工学Ⅱ				材料デザイン工学(選択)		
	機械システムの設計・生産加工に関する知識			工業力学	機械振動学	機械工学					
専門基礎知識	機械システムの設計・生産加工に関する知識		機械工作法Ⅰ	機械工作法Ⅱ	機械工作法Ⅲ	生産システム工学					
	情報と制御に関する知識		情報処理	基礎電気電子工学	マイクロロニクス	アクアエニクス工学					
	ものづくりの基礎となる知識・技術		基礎製図Ⅰ	基礎製図Ⅱ	設計製図Ⅰ						
			基礎工学実験実習Ⅰ	基礎工学実験実習Ⅱ	設計製図Ⅱ	機械工学実験実習Ⅰ					
応用力				設計製図Ⅱ	設計製図Ⅲ	応用物理学特論	応用物理学特論(選択)	応用物理学特論(選択)	応用物理学特論(選択)	応用物理学特論(選択)	
				機械工学実験実習Ⅱ	機械工学実験実習Ⅲ	システム制御特論(選択)	システム制御特論(選択)	システム制御特論(選択)	システム制御特論(選択)	システム制御特論(選択)	
					材料工学演習Ⅰ	材料工学演習Ⅱ	固体物理学(選択)	固体物理学(選択)	固体物理学(選択)	固体物理学(選択)	
						エレクトロニクス(選択)	情報技術特論(選択)	情報技術特論(選択)	情報技術特論(選択)	情報技術特論(選択)	
発展力						応用情報工学(選択)	応用情報工学(選択)	応用情報工学(選択)	応用情報工学(選択)	応用情報工学(選択)	
						応用情報工学(選択)	応用情報工学(選択)	応用情報工学(選択)	応用情報工学(選択)	応用情報工学(選択)	
						応用情報工学(選択)	応用情報工学(選択)	応用情報工学(選択)	応用情報工学(選択)	応用情報工学(選択)	
						応用情報工学(選択)	応用情報工学(選択)	応用情報工学(選択)	応用情報工学(選択)	応用情報工学(選択)	
コミュニケーション力	ものづくりワークショップ										
倫理力											
各学年における達成目標											

(出典 専攻科資料)

資料 5-5-①-3 電気情報工学科—生産システム工学専攻科目系統図

学習教育目標	細目	授業科目									
		1年	2年	3年	4年	5年	専攻科1年		専攻科2年		
基礎力	一般基礎知識	電気数学		応用物理Ⅰ	応用数学Ⅰ 応用数学Ⅱ 応用物理Ⅱ		健康科学特論(選択) 現代化学(選択)	現代物理(選択) 材料デザイン工学(選択)			
	電気情報工学の基礎知識	電気製図	電気図学Ⅰ 電気回路Ⅰ 電気計測Ⅰ	電気図学Ⅱ 電気回路Ⅱ 電気計測Ⅱ	電気図学Ⅲ 電気回路Ⅲ 電気計測Ⅲ						
	電子デバイス分野に関する知識			電子デバイスⅠ デジタル回路	電子デバイスⅡ 電子回路Ⅰ	電子回路Ⅱ 電気材料					
	電力エネルギー分野に関する知識			電気機器Ⅰ	電気機器Ⅱ	パワーエレクトロニクス 電力工学 制御工学					
専門基礎知識	通信・情報分野に関する知識	情報処理	プログラミングⅠ	プログラミングⅡ	コンピュータ工学	情報ネットワーク 信号処理					
応用力	X	電気基礎実験Ⅰ	電気基礎実験Ⅱ	電気基礎実験Ⅲ	電気応用実験Ⅰ 電気工学(選択) 電気回路(選択) 情報通信特論(選択)	電気応用実験Ⅱ 通信工学(選択) ソフトウェア工学(選択) 数値計算工学(選択) 電気機器設計(選択) 電子回路設計(選択)	応用数学特論 流体力学特論(選択) システム制御特論(選択) システム制御(選択) 固体物理学(選択) 情報処理特論(選択) 制御システム工学(選択) 電気計測工学(選択) 応用電気工学(選択)	物質工学(選択) 熱・物性特論(選択) 生産・精密加工工学(選択) 応用物理特論(選択) 計算機システム工学(選択) 電気材料特論(選択) デジタル回路(選択) システム工学(選択) 電気制御工学(選択) 電力システム工学(選択)	トライボロジー・物性特論(選択) 品質管理特論(選択) 材料強度・材料形成工学(選択) 応用ソフトウェア工学(選択) 情報通信特論(選択) 電気制御工学(選択) 電気計測工学(選択)	電気電子工学(選択) 応用ソフトウェア工学(選択) 電気制御工学(選択) 電気計測工学(選択)	
		校外実習(選択)									
		生産システム工学特別実験	前産・生産技術特別実験								
		インターンシップ(選択)	卒業研究	環境科学 技術者倫理	環境科学特論 技術者倫理						
発展力	X						生産システム工学特別実験 前産・生産技術特別実験				
コミュニケーション力	X										
倫理力	X										
各学年における達成目標	1. 電気工学の実験実習に使用する機器の基本操作に習熟する。 2. 工学的な思考法、表現法を習得する。 3. ものづくりに必要な各種工作の基礎を習得する。 4. 電気工学の基礎的知識を習得し、各種計測を正しく行うための技術を身に付ける。	1. 電子計算機の原理及びプログラミングの基礎を習得する。	2. 電気に関する諸現象を理解する。 3. 電気に関する諸現象を解析するための数学的手法を理解する。	1. 電子計算機を科学技術計算に利用できる能力を身に付ける。 2. 電気と磁気に関する諸現象及び、それらに応じた機器、電子部品の動作原理を理解する。 3. グループ単位で自主的に課題に取り組める能力を身に付ける。 4. 専門科目に興味を持ち、その結果を最終的に分析、評価できる能力を身に付ける。	1. 他の専門分野の現象を理解し、高い視点で考えられる能力を身に付ける。 2. 要求仕様に従って回路や機器を設計する能力を身に付ける。 3. 自ら問題点を見つけ、専門知識を活用して実践力をつける。 4. グループ単位での課題に取り組み、決められた期間内に結果をまとめる、報告できる能力を身に付ける。	1. 専門知識を駆使して問題解決をデザインし、それを実践できる能力を身に付ける。 2. 他の専門分野の知識を問題解決に応用できる能力を身に付ける。 3. 実験、研究の成果を日本語で論理的に記述でき、わかりやすく発表できる能力を身に付ける。 4. 科学技術が社会に与える影響、技術者としての責任を理解する能力を身に付ける。	1. 前産工夫を凝らして柔軟に問題を解決する能力を身に付ける。 2. 科学技術に関する英文を理解し、必要な情報を収集できる能力を身に付ける。 3. 技術者の倫理を理解し、環境に配慮したデザイン能力を身に付ける。 4. 電気工学、情報処理の知識を応用して、工学現象の解析に応用する能力を身に付ける。				

(出典 専攻科資料)

資料 5-5-①-4 電子制御工学科—生産システム工学専攻科目系統図

学習教育目標	細目	授業科目									
		1年	2年	3年	4年	5年	専攻科1年		専攻科2年		
基礎力	一般基礎知識			応用物理Ⅰ	応用物理Ⅱ 応用数学Ⅰ 応用数学Ⅱ	工業数学	健康科学特論(選択) 現代化学(選択)	現代物理(選択) 材料デザイン工学(選択)			
	電気・電子及び計測・制御に関する知識	電子制御基礎	電気図学Ⅰ デジタル回路Ⅰ	電気図学Ⅱ 電子回路Ⅰ 電気電子回路実習 デジタル回路Ⅱ 電子計測	電気図学Ⅲ 電子回路Ⅱ 電子計測Ⅱ 電子デバイス	電気電子材料 電子回路Ⅲ 自動制御					
	情報・コンピュータに関する知識	情報処理Ⅰ	情報処理Ⅱ	計算機特論	計算機工学Ⅰ	計算機工学Ⅱ 情報処理					
	機械システムとその制御に関する知識	基礎製図	設計製図	材料力学Ⅰ	材料力学Ⅱ	ロボット制御工学 システム工学(選択) 数値工学特論(選択)					
応用力	X	基礎実験	設計実験	工学実験Ⅰ	工学実験Ⅱ	工学実験Ⅲ					
		機械設計 ハルス回路設計	マシニング 電子制御設計	応用数学特論 応用電気工学(選択) 応用物理特論(選択) 応用ソフトウェア工学(選択) システム工学特論(選択) 流体力学特論(選択)	応用数学特論(選択) 応用電気工学(選択) 応用物理特論(選択) 応用ソフトウェア工学(選択) システム工学特論(選択) 流体力学特論(選択)	応用数学特論(選択) 応用電気工学(選択) 応用物理特論(選択) 応用ソフトウェア工学(選択) システム工学特論(選択) 流体力学特論(選択)	応用数学特論(選択) 応用電気工学(選択) 応用物理特論(選択) 応用ソフトウェア工学(選択) システム工学特論(選択) 流体力学特論(選択)	応用数学特論(選択) 応用電気工学(選択) 応用物理特論(選択) 応用ソフトウェア工学(選択) システム工学特論(選択) 流体力学特論(選択)	応用数学特論(選択) 応用電気工学(選択) 応用物理特論(選択) 応用ソフトウェア工学(選択) システム工学特論(選択) 流体力学特論(選択)		
		工学実験実習Ⅰ	工学実験実習Ⅱ	工学実験実習Ⅲ							
		生産システム工学特別実験	前産・生産技術特別実験								
発展力	X										
コミュニケーション力	X										
倫理力	X										
各学年における達成目標	※子作り製作を通して回路製作を体験し、ものづくりに対する興味を深める。 ※プログラミングの基礎を習得する。 ※基礎実験の基礎を習得する。	※電気図学・電子回路の基礎を習得する。 ※電子回路の基礎的な計算の基礎について理解する。 ※電子回路の基礎的な動作について理解する。 ※電子回路の基礎的な設計方法を習得する。	※電気図学・電子回路の基礎を習得する。 ※電子回路の基礎的な計算の基礎について理解する。 ※電子回路の基礎的な動作について理解する。 ※電子回路の基礎的な設計方法を習得する。	※電気図学・電子回路の基礎を習得し、ロボット制御などの応用分野で活用できる能力を身に付ける。 ※電子回路の基礎的な動作について理解する。 ※電子回路の基礎的な設計方法を習得する。	※電気図学・電子回路の基礎を習得し、ロボット制御などの応用分野で活用できる能力を身に付ける。 ※電子回路の基礎的な動作について理解する。 ※電子回路の基礎的な設計方法を習得する。	※コンピュータネットワークの運用技術を習得する。 ※固体物理学における各種現象を理解し、材料・物性・制御技術の発展について理解する。 ※応用ソフトウェア工学の基礎的な知識を身に付ける。 ※研究開発などの技術的表現技法を習得する。	※コンピュータネットワークの運用技術を習得する。 ※固体物理学における各種現象を理解し、材料・物性・制御技術の発展について理解する。 ※応用ソフトウェア工学の基礎的な知識を身に付ける。 ※研究開発などの技術的表現技法を習得する。	※コンピュータネットワークの運用技術を習得する。 ※固体物理学における各種現象を理解し、材料・物性・制御技術の発展について理解する。 ※応用ソフトウェア工学の基礎的な知識を身に付ける。 ※研究開発などの技術的表現技法を習得する。	※コンピュータネットワークの運用技術を習得する。 ※固体物理学における各種現象を理解し、材料・物性・制御技術の発展について理解する。 ※応用ソフトウェア工学の基礎的な知識を身に付ける。 ※研究開発などの技術的表現技法を習得する。		

(出典 専攻科資料)



資料5-5-①-5 物質工学科—物質工学専攻科目系統図

学習教育目標	細目	授業科目									
		1年	2年	3年	4年	5年	専攻科1年		専攻科2年		
							前期	後期	前期	後期	
基礎力	一般基礎知識	情報科学Ⅰ 基礎化学 生物学 物質工学基礎演習	情報科学Ⅱ	応用物理Ⅰ 工業数学Ⅰ	応用物理Ⅱ 工業数学Ⅱ		現代化学(選)	現代物理(選)			
	専門基礎知識	有機化学系	有機化学基礎	有機化学Ⅰ 高分子化学基礎	有機化学Ⅱ 高分子化学	有機化学Ⅲ 有機材料	有機化学(選)			有機化学特論(選)	
		無機化学系		無機化学基礎 無機化学Ⅰ	無機化学Ⅱ	無機化学Ⅲ 無機材料	無機化学(選)	無機化学(選)		セラミックス(選)	
		物理化学系		物理化学基礎	物理化学Ⅰ 物理化学Ⅱ		量子化学(選)		化学熱力学(選)		
		分析化学系		分析化学基礎	分析化学Ⅰ 分析化学Ⅱ				分析化学特論(選)	環境分析特論(選)	
		生物化学系		生化学基礎 微生物学基礎	生化学Ⅰ 生化学Ⅱ	酵素化学 分子生物学 応用微生物学 細胞工学		生化学(選)		生化学特論(選)	細胞工学(選)
		プロセス系		化学工学基礎	化学工学Ⅰ 化学工学Ⅱ	材料プロセス工学		化学工学(選)	化学工学特論(選)	分離工学(選)	分離工学(選)
物質工学系	物質工学概論		材料・生物工学概 情報工学Ⅰ	情報工学Ⅱ	機械工学概論 電気工学概論 生産工学				材料化学(選)		
応用力		物質工学基礎実験 物質工学創造実験	有機化学基礎実験 生化学・微生物学基礎実験	有機化学基礎実験 物理化学実験Ⅰ 物理化学実験Ⅱ		応用数学特論 有機化学特論 物理化学特論 有機化学(選) 無機化学(選) 生化学(選)	応用物理特論(選) 現代化学(選) 現代物理(選) 有機化学(選)	化学工学特論(選)	有機化学特論(選)		
発展力			基礎化学演習 分析化学基礎演習 生化学基礎演習	有機化学物理化学基礎演習 校外実習		物質工学基礎演習 物質工学特論	物理化学基礎演習 物理化学特論 有機化学特論 生化学特論		技術表現技法		
コミュニケーション力					卒業研究	インターンシップ 日本語表現法 環境科学特論 上級英語演習 専攻科英語演習 情報技術特論	知的財産権 技術表現技法 英語表現特論 英語表現特論 英語表現特論 英語表現特論 英語表現特論 英語表現特論		技術表現技法		
倫理力				環境科学基礎	環境科学 技術者倫理	環境科学特論 技術者倫理	人文社会特論 技術者倫理				
各学年における達成目標		1) 物質工学の概観を理解し、基礎科目である化学の内容を習得する。 2) 化学実験の基本的な操作及び実験技術を習得する。 3) フォトンを学習研究に活用するための基礎的な情報処理技術を習得する。		1) 物質工学の基礎専門科目に関する知識を身に付けることと、それらを問題解決に活用できる技術者を習得する。 2) 化学分析の原理を把握し、物質を分析する基礎的な情報処理技術を習得する。 3) フォトンを学習・研究に活用するための基礎的な情報処理技術を習得する。		1) 化学および生物工学分野の基礎的な知識を習得し、それらを問題解決のための計画立案ができる能力とする。 2) 環境・エネルギー問題を捉え、問題解決に資する基礎的な知識を習得する。 3) プラズマを用いた技術等の情報処理技術を習得する。 4) 化学および生物工学分野の専門知識および基礎的な技術を習得する。		1) 化学および生物工学分野の専門知識を体系的に収集できる。 2) 専門科目の知識を基に問題解決に資する能力を身に付け、解決方法を提出することができる。 3) 幅広い工学知識を統合させ、問題解決に資する能力を身に付ける。 4) 化学および生物工学分野の専門知識および基礎的な技術を習得する。		1) 幅広い工学知識を統合させ、創造的な解決方法を提出することができる。 2) 環境および資源に配慮した設計・デザインができる。 3) 問題解決へのプロセス及び結果を効果的に伝達するためのコミュニケーション能力を向上させる。 4) 地域や国土を尊重しつつ地域の発展に資する。社会に対して積極的な情報発信ができるようになる。	

(出典 専攻科資料)

資料5-5-①-6 建築学科—建築学専攻科目系統図

学習教育目標	細目	授業科目									
		1年	2年	3年	4年	5年	専攻科1年		専攻科2年		
							前期	後期	前期	後期	
基礎力	一般基礎知識				応用数学 応用物理		健康科学特論 現代化学	設計デザイン工学 現代物理			
	専門基礎知識	計画系の知識	デザイン基礎Ⅰ 設計製図Ⅰ	デザイン基礎Ⅱ 設計製図Ⅱ	デザイン基礎Ⅲ 設計製図Ⅲ	建築計画Ⅰ 建築史Ⅰ 都市計画Ⅰ	構造計画 建築計画Ⅱ 建築史Ⅱ 近代建築論 都市計画Ⅱ	地域施設設計 地域施設空間計画 建築生産技術史	建築・地域計画実習 保存・再生論		企画・デザイン
		構造系の知識	建築構造Ⅰ	建築構造Ⅱ	構造力学Ⅰ 構造力学Ⅱ	構造力学Ⅲ	構造解析 木質構造 鋼構造 鉄筋コンクリート構 基礎構造		構造解析学特 鉄筋コンクリート構造特論		計算力学 構造制振論
		環境・設備系の知識				建築環境	建築設備				建築・都市環境論
		生産・材料系の知識				建築材料	建築生産	建築材料実験	材料科学論		
		法規に関する知識					建築生産				
		情報処理に関する知識									
基礎の総合力	建築入門					創造実験・演習		情報デザイン論			
応用力				設計製図Ⅳ	設計製図Ⅴ 創造実験・演習	建築設計概論 応用数学特論 情報技術特論	創造設計概論 応用解析特論				
発展力				建築ゼミナール							
コミュニケーション力		設計製図Ⅰ	設計製図Ⅱ	設計製図Ⅲ	(自由選択) 設計製図Ⅳ	卒業研究 特別研究 インターンシップ 専攻科英語演習 上級英語演習 日本語表現法	知的財産権 技術表現技法 英語表現特論 英語表現特論 英語表現特論 英語表現特論 英語表現特論 英語表現特論		技術表現技法		
倫理力					環境科学 技術者倫理	環境科学特論 技術者倫理	人文社会特論 技術者倫理				
各学年における達成目標		1) 建築に興味を持つ。 2) 建築一歩構造の基礎を習得する。 3) 建築生産過程の基礎を習得する。		1) 建築設計手法を習得する。 2) 建築力学の基礎を習得する。 3) 建築に関する情報技術の基礎を習得する。		1) 歴史的背景を考慮しつつ都市・地域設計を行った建築設計手法の基礎を習得する。 2) 各種構造及び建築計画の基礎を習得する。 3) 建築生産に關する基礎的な知識・技術を習得する。 4) 建築環境に關する基礎を習得する。 5) 情報処理技術を総合的に活用する情報技術の応用技術を習得する。		1) 建築・都市・地域計画、建築環境及び建築生産・材料・生産といった建築学の幅広い知識を習得する。 2) 技術者として、自分の考えを日本語・英語によって効果的に表現できる傾聴感を身につける。 3) 建築生産の基礎となる現代科学の知識を習得する。 4) 社会における建築技術者に必要とされる倫理規範や目的意識を持つ。		1) 多方面にわたる専門知識・技術を統合し、建築の企画・デザイン・生産ができ、その結果を評価できるようになる。 2) 情報処理技術を基盤として、創造的な建築・都市空間の企画・デザイン・生産ができるようになる。 3) 問題を自ら発見し、その問題を理解し適切に対応できるようになる。 4) 地域や国土を尊重しつつ地域の発展に資する。社会に対して積極的な情報発信ができるようになる。	

(出典 専攻科資料)

(分析結果とその根拠理由)

生産システム工学専攻では機械工学系，電気情報工学系，電子制御工学系の専門を，物質工学専攻では物質工学系の専門を，また，建築学専攻では建築系の専門をさらに深める教育課程となっている。この観点から，専攻科は準学士課程の教育との連携を考慮した教育課程となっている。

**観点5-5-②：** 教育の目的に照らして，授業科目が適切に配置（例えば，必修科目，選択科目等の配当等が考えられる。）され，教育課程が体系的に編成されているか。また，授業の内容が，全体として教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

(観点到に係る状況)

専攻科及び各専攻の教育目標を資料1-1-②-3（8ページに前出），各専攻の課程表を資料5-5-②-1～3に示す。3専攻とも，一般科目，専門共通科目，専門科目に区別され，各専攻の教育目標が達成できるように，それぞれバランスよく配置している。また，教育目標を達成するために特に重要な科目は，すべて必修単位としている。

専攻科共通の教育目標からみると，「高度な専門知識の習得」を達成するために，各専攻とも専門分野による講義系科目を配置し，「高度な専門技術の習得」の達成には実験系科目を配置して対応している。「豊かな想像力の育成」を達成するために，演習及び実験系科目を多く配置している。「卓越した研究開発能力」を身に付けさせるために，2年間に及ぶ特別研究や技術表現技法等を実施している。

上述のように，本校専攻科の教育課程は，専攻科共通の教育目標を達成するだけでなく，各専攻の教育目標も達成できるよう，適切に配置されている。また，大学評価・学位授与機構の学位取得のための修得科目にも対応している。

資料 5-5-②-1 生産システム工学専攻課程表

生産システム工学専攻 教育課程

区分	必修・選択	授業科目	単位数	学年別開設単位数				講義実験演習の区別	備考	
				第1学年		第2学年				
				前期	後期	前期	後期			
一般科目	選択	コミュニケーション特論	2		2			講義		
		日本語表現法	2	2				講義		
		人文社会特論	2		2			講義		
		健康科学特論	2	2				講義		
	開設単位数		8	4	4	0	0			
履修単位数		4単位以上								
専門共通科目	必修	上級英語演習	2	1	1			演習		
		環境科学特論	2	2				講義		
		技術者倫理	2		2			講義		
		応用数学特論	2	2				講義		
		履修単位数		8	5	3	0	0		
	選択	応用解析特論	2		2			講義		
		知的財産権特論	2	1	1			講義		
		現代化学	2	2				講義		
		現代物理	2		2			講義		
		情報技術特論	2	2				講義		
		材料デザイン工学	2		2			講義		
	開設単位数		12	5	7	0	0			
	履修単位数		6単位以上							
	専門科目	必修	生産システム工学特別研究	16	2	2	6	6	実験	
			生産システム工学特別実験	2	2				実験	
創造・生産技術特別実験			2		2			実験		
専攻英語講読			2	1	1			講義		
技術表現技法			2		1		1	演習		
履修単位数		24	5	6	6	7				
選択		応用電磁工学	2	2				講義		
		回路網理論	2			2		講義		
		応用計測工学	2	2				講義		
		電力システム工学	2			2		講義		
		固体物性論	2	2				講義		
		量子電子工学	2				2	講義		
		光情報デバイス	2				2	講義		
		集積回路工学	2			2		講義		
		通信ネットワーク特論	2		2			講義		
		システム制御特論	2	2				講義		
		ソフトコンピューティング	2			2		講義		
		デジタル制御	2			2		講義		
		数値シミュレーション工学	2			2		講義		
		計算機システム工学	2		2			講義		
		オペレーティングシステム	2			2		講義		
		応用ソフトウェア開発	2				2	講義		
		画像処理	2				2	講義		
		音響振動工学	2				2	講義		
		弾塑性力学	2		2			講義		
		流体力学特論	2	2				講義		
		熱・物質移動論	2		2			講義		
		材料強度・材料組織学	2			2		講義		
		生産・精密加工工学	2		2			講義		
		トライボロジー・軸受特論	2			2		講義		
		品質管理工学	2			2		講義		
		インターンシップ	2	2				実習		
		開設単位数		52	12	10	20	10		
		履修単位数		20単位以上						

(出典 専攻科資料)

資料5-5-②-2 物質工学専攻課程表

## 物質工学専攻 教育課程

区分	必修・選択	授業科目	単位数	学年別開設単位数				講義実験 演習の区 別	備考	
				第1学年		第2学年				
				前期	後期	前期	後期			
一般科目	選択	コミュニケーション特論	2		2			講義		
		日本語表現法	2	2				講義		
		人文社会特論	2		2			講義		
		健康科学特論	2	2				講義		
		開設単位数	8	4	4	0	0			
	履修単位数	4単位以上								
専門共通科目	必修	上級英語演習	2	1	1			演習		
		環境科学特論	2	2				講義		
		技術者倫理	2		2			講義		
		応用数学特論	2	2				講義		
		履修単位数	8	5	3	0	0			
	選択	応用解析特論	2		2			講義		
		知的財産権特論	2	1	1			講義		
		現代化学	2	2				講義		
		現代物理	2		2			講義		
		情報技術特論	2	2				講義		
		材料デザイン工学	2		2			講義		
		開設単位数	12	5	7	0	0			
		履修単位数	6単位以上							
	専門科目	必修	物質工学特別研究	16	2	2	6	6	実験	
物質工学特別実験			2	1	1			実験		
物質工学創造演習			2	1	1			実験		
専攻英語講読			2	1	1			講義		
技術表現技法			2		1		1	演習		
		履修単位数	24	5	6	6	7			
選択		化学熱力学	2			2		講義		
		量子化学	2	2				講義		
		無機合成化学	2	2				講義		
		有機合成化学	2	2				講義		
		有機反応機構論	2				2	講義		
		分析化学特論	2		2			講義		
		環境分析化学	2			2		講義		
		生体物質化学	2	2				講義		
		化学反応工学	2		2			講義		
		粉体工学	2			2		講義		
		化学工学特論	2			2		講義		
		分離工学	2				2	講義		
		無機工業化学	2		2			講義		
		微生物工学	2		2			講義		
		材料化学	2		2			講義		
		セラミックス	2				2	講義		
		インターンシップ	2	2				実習		
		開設単位数	34	10	10	8	6			
	履修単位数	20単位以上								

(出典 専攻科資料)

資料5-5-②-3 建築学専攻課程表

区分	必修・選択	授業科目	単位数	学年別開設単位数				講義実験 演習の区 別	備考	
				第1学年		第2学年				
				前期	後期	前期	後期			
一般科目	選択	コミュニケーション特論	2		2			講義		
		日本語表現法	2	2				講義		
		人文社会特論	2		2			講義		
		健康科学特論	2	2				講義		
	開設単位数		8	4	4	0	0			
	履修単位数		4単位以上							
専門共通科目	必修	上級英語演習	2	1	1			演習		
		環境科学特論	2	2				講義		
		技術者倫理	2		2			講義		
		応用数学特論	2	2				講義		
	履修単位数		8	5	3	0	0			
	選択	応用解析特論	2		2			講義		
		知的財産権特論	2	1	1			講義		
		現代化学	2	2				講義		
		現代物理	2		2			講義		
		情報技術特論	2	2				講義		
		材料デザイン工学	2		2			講義		
	開設単位数		12	5	7	0	0			
	履修単位数		6単位以上							
	専門科目	必修	建築学特別研究	16	2	2	6	6	実験	
建築設計製図			2	2				実習		
創造設計実習			2		2			実習		
専攻英語講読			2	1	1			講義		
技術表現技法			2		1		1	演習		
履修単位数		24	5	6	6	7				
選択		地域居住空間計画	2	2				講義		
		保存再生論	2		2			講義		
		地域施設計画	2	2				講義		
		情報デザイン論	2		2			講義		
		企画デザイン論	2			2		講義		
		建築生産技術史	2	2				講義		
		建築・都市環境論	2			2		講義		
		計算力学	2			2		講義		
		鉄筋コンクリート構造特論	2		2			講義		
		構造制御論	2			2		講義		
		構造解析学特論	2		2			講義		
		材料学特論	2		2			講義		
択		建築・地域計画実習	2		2			実習		
		建築構造材料実験	2	2				実験		
		インターンシップ	2	2				実習		
		開設単位数		30	10	12	8	0		
	履修単位数		20単位以上							

(出典 専攻科資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校の専攻科教育目標に照らして、その目標を達成できるように、授業科目をバランスよく配置している。また、各専攻が定める教育目標も達成できるよう配慮しており、教育課程の体系的性が確保できている。さらに、この教育課程は学位(学士)取得のための修得科目にも対応している。

**観点5-5-③**： 学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成(例えば、他専攻の授業科目の履修、他高等教育機関との単位互換、インターンシップによる単位認定、補充教育の実施等が考えられる。)に配慮しているか。

(観点に係る状況)

他高等教育機関での履修・単位認定や他専攻の授業科目の修得については、「専攻科の授業科目の履修等に関する規則」を定めており、学習意欲のある学生に対応している(資料5-5-③-1)。

専攻科の第1学年では、専攻科設立時より夏季休業中などに長期インターンシップを実施しており、実働10日以上で2単位取得できる選択科目としている(資料5-5-③-2)。インターンシップの報告会は準学士課程第4学年の校外実習報告会と合同で開催し、公開して実施している。また、実習は県内外の企業をはじめ、大学等でも実施している。例として、平成18年度のインターンシップ実施先一覧を資料5-5-③-3に示す。

#### 資料5-5-③-1 専攻科授業科目の履修規則

##### ○米子工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則

(趣旨)

第1条 この規則は、米子工業高等専門学校学則(以下「学則」という。)第53条第2項及び第56条の規定に基づき、米子工業高等専門学校専攻科(以下「専攻科」という。)の授業科目の履修方法及び成績の評価並びに修了の認定に関し、必要な事項を定めるものとする。

(1単位当たりの授業時間)

第2条 1単位時間は、標準50分とし、単位制とする。

2 授業は、講義、演習、実験及び実習のいずれかにより、または、これらの併用により行うものとする。

3 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の各号の基準により単位数を計算するものとする。

(1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。

(2) 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。

(3) 実験及び実習については、45時間の授業をもって1単位とする。

(履修方法)

第3条 専攻科に開設する授業科目のうち選択科目の履修にあたっては、年度当初に別に定める「選択科目履修届」(別紙様式第1号)を所定の期日までに専攻科長へ提出しなければならない。

(指導教員)

第4条 特別研究の指導上、特に必要があると認められる場合、専攻科委員会は当該学生が在籍する専攻以外の教員を指導教員として指名することができる。

## (試験)

第5条 専攻科の試験は、定期試験及び追試験とする。

- 2 定期試験は、各学期末に実施する。なお、平素の成績により評価しうる授業科目については、この限りではない。
- 3 追試験は、病気その他やむを得ない事由により、定期試験を受験できなかった者に対し実施する。追試験を受けるものは、追試験受験願（別紙様式第2号）を所定の期日までに専攻科長へ提出し、許可を得なければならない。

## (成績評価)

第6条 授業科目の成績は、原則として当該科目担当教員が定期試験の成績その他を総合して100点法で評価するものとする。

2 学業成績を評語で表す必要がある場合は、次の基準による。

評	評点	100～80点	79～70点	69～60点	59点以下
価	評語	優	良	可	不可

- 3 欠課時数が年間授業数の3分の1を超える科目の学業成績評価はしないものとする。ただし、特別な状況にあると専攻科委員会で認められた場合はこの限りではない。

## (単位の認定)

第7条 学業成績の評価が60点以上と評価された授業科目については、当該科目を修得したものとして単位を認定する。

## (専攻科の修了要件)

第8条 専攻科の修了に必要な単位数は、62単位（一般科目4単位以上、専門共通科目14単位以上、専門科目44単位以上）とする。

## (他の教育機関等で履修した科目の単位認定)

第9条 他の高等専門学校の専攻科及び大学等（以下「大学等」という。）で開設されている授業科目の履修を希望する者は、あらかじめ大学等の許可を得た上、大学等履修届（別紙様式第3号）を、事前に専攻科長に提出しなければならない。なお、その授業科目を履修の上、60点以上と評価されて修得した単位は、6単位を超えない範囲で、専攻科における授業科目の履修とみなし、単位の修得を認定することができる。

## (他専攻の授業科目の修得)

第10条 本校の他の専攻で開設されている選択科目の履修を希望する者は、あらかじめ担当教員の許可を得た上で、選択科目履修届（別紙様式第1号）を専攻科長に提出し、その許可を得なければならない。ただし、第8条の修了要件には含めないものとする。

## (専攻科の修了認定)

第11条 専攻科の修了の認定は、本校学則及び本規程に基づき、専攻科修了認定

会議において審議の上、校長が行う

## (再履修)

第12条 第7条で単位修得を認定されなかった授業科目は、再履修することができる。

- 2 前項で定める再履修は、第3条の規定を準用する。

附則（記載省略）

（出典 平成19年度学生便覧）

## 資料 5-5-③-2 インターンシップのシラバス

対象学科・専攻	物質工学専攻				担当教員	■■■■
授業科目名	インターンシップ				科目コード	
学年	1年		2年			
開講時期	前期	後期	前期	後期	合計単位数	
単位数	2				2	
区分*	専門科目 選択				授業の形態*	実習
授業概要*	本科のインターンシップと同様に学校とは異なった環境である企業などでの実務を経験し、修得した知識や技術を再認識するとともに、技術の応用について学習する。また、技術者としての姿勢や社会人としての自覚も学ぶ。					
関連する本校の学習教育目標	(B)(C)(E)				関連するJABEE学習教育目標	(B)(C)(E)
到達目標*	(1)知識・技術の実用例を体験し、技術者としての姿勢を学ぶ (2)今後の進路選択に役立てる					
授業の進め方と アドバイス*	受け入れ先の企業などは、原則として個々の学生によって異なるので、学校での授業や実験・実習のように他の人に相談したり、聞いたりすることはできない。したがって、実習に参加する前には、一人一人がこれまで学習した教科内容のうち実習に関するものすべてを一度復習する必要がある。  服装、髪型などについては社会人として常識的なものとする。また、実習先への移動についても事故などないように十分注意すること。					
授業内容 スケジュール*	回数	授業内容				
	4月	インターンシップに関するガイダンス(期間、単位認定などについて) 実習希望の意思を物質工学専攻の実習担当教員(本科のインターンシップ担当教員)に伝達する				
	7月中旬～8月	企業などでの実習(10日間以上)				
	10月	実習報告会(本科4年生の報告会と一緒に進行) 実習報告書提出(*実習学生が作成し、提出する) 校外実習証明書受理(*実習先より提出される)				
	3月	単位認定				
教科書*	特になし(実習先から指定されることもある)					
参考書	特になし(実習先から指定されることもある)					
関連教科	関連教科すべて					
基礎知識						
成績の評価方法*	総合評価割合				実習報告書と実習報告会によって総合的(50点ずつ)に評価する。	
	定期試験			50%		
	レポート			50%		
	演習・小テスト			50%		
	その他			50%		
				100%		
備考						

(出典 平成 19 年度専攻科シラバス)



## 資料5-5-③-3 インターンシップ実施先一覧

## 平成18年度専攻科 インターンシップ先一覧

専攻	実習先	実習期間
生産システム専攻	(株)ジェイペック	8/21-9/1
	長岡技術科学大学	8/3-8/11
	(株)ケイズ	9/11-9/25
	(株)ジェイペック	8/21-9/1
	鳥取県産業技術センター 機械素材研究所	8/21-9/1
	鳥取三洋電機(株)	8/21-9/1
	長岡技術科学大学	8/3-8/11
	(株)ジェイペック	8/21-9/1
物質工学専攻	サンイン技術コンサルタント(株)	7/31-8/11
	米子市水道局	8/21-9/1
建築学専攻	美保テクノス(株)	7/31-8/11

(出典 平成18年度インターンシップ先一覧)

(分析結果とその根拠理由)

他高等教育機関で履修した科目の単位認定や他専攻の授業科目の修得など、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請などに対応した教育課程の編成に配慮している。また、専攻科設立時より長期インターンシップの単位認定を行うなど、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成となっている。

**観点5-6-①：** 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。(例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用等が考えられる。)

(観点に係る状況)

専攻科における授業科目と授業形態は資料5-5-②-1～3(111～113ページに前出)のようになっている。全専攻共通の目標としている「高専5年間の教育課程の上に、より高度な専門知識と技術を教授し、豊かな創造力と卓越した研究開発能力をもった高度実践的技術者を育成する」(資料1-2-①-5, 11ページに前出)を達成するために、技術者の根幹となる「環境科学特論」、「技術者倫理」などを専門共通科目の中で、必修科目として設けている。また、技術者としてのコミュニケーション力を養うために「専攻英語講読」や「技術表現技法」、創造力や技術力を養うために「特別研究」なども全専攻で設けている。

専攻科の履修単位は62単位以上であるが、そのうちの24単位以上が必修の研究・実験・演習科目となっており、選択科目も合わせると最大で30単位となる。割合で見ると、必修単位だけでも約40%であり、授業形態のバランスは適切である。

また、資料5-6-①-1のように各科目でそれぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫、例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用等を行っている。

## 資料5-6-①-1 授業の工夫

専攻科授業科目	実施授業数(のべ)	実施教員数
教材の工夫	32	19
少人数授業の実施	30	18
対話・討論型授業の実施	13	10
フィールド型授業	2	1
視聴覚機器の利用	26	18
基礎学力不足の学生への配慮	9	3

(出典 平成18年度シラバスより抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスは、教育の目的に照らして適切である。また、教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫を実施している。

**観点5-6-②： 創造性を育む教育方法（PBLなど）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。**

(観点に係る状況)

創造性の養成を実施している科目としては資料5-6-②-1に示すようなものがあり、資料5-6-①-1に示した授業方法の工夫と合わせて活用している。

また、専攻科では2週間以上のインターンシップを実施しており、異なる環境である企業などでの実務を経験することで、習得した知識や技術を再認識するとともに、技術の応用について学習している。さらに、この経験を通して、技術者としての姿勢や社会人としての自覚を学んでいる。

## 資料5-6-②-1 創造性を育む教育を実施している科目名

学年	科目名
1	コミュニケーション特論
1	生産システム工学特別実験
2	応用ソフトウェア開発
2	画像処理

(出典 平成18年度シラバスより抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

創造性の育成を試みている科目や授業の工夫を実施している科目が多数あり、それらは併用して活用している。また、インターンシップは教育課程の一環として実施しており、異なる環境での実務を通して、技術者としての自覚を再認識させている。

観点5-6-③： 教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示など内容が適切に整備され、活用されているか。

(観点に係る状況)

専攻科のシラバスは、準学士課程のシラバスシステムとは別に、印刷物として学生に配布してきた。また、シラバスの主な項目としては、授業概要、到達目標、学習上の留意点、授業内容とスケジュール、教科書・参考書、関連教科、成績の評価法であり、毎年改訂している。

平成19年度からは、準学士課程のシラバスシステムの更新に伴い、専攻科課程のシラバスを同じシステムで管理・公開することにした。また、これに伴い、関連する専攻科の学習教育目標、関連するJABEE学習教育目標、授業の進め方とアドバイスなどの項目を追加した(資料5-6-③-1)。

また、各科目とも、初回の授業では受講学生に対してガイダンスを行い、シラバスを用いた授業内容の説明を行っている。さらに、4月の専攻科ガイダンス時には、シラバスを用いて科目履修についての説明を行うとともに、履修の手引(資料5-6-③-2, 別添資料5-6-③-1)等を用いて、1単位当たりの学習時間の説明を行っている。

資料5-6-③-1 シラバス記入例

対象学科・専攻	生産システム工学専攻				担当教員	■■■■
授業科目名	固体物性論				科目コード	
学年	1年		2年			
開講時期	前期	後期	前期	後期	合計単位数	
単位数	2				2	
区分*	専門科目 選択				授業の形態*	講義
授業概要*	最初は結晶の一般的理解を助けるためX線回折を取り上げる。X線波の干渉でブラッグ反射、回折強度が表現される事を学ぶ。次に結晶中の光伝搬やエネルギー流(ポインティングベクトル)を調べる。光の振る舞いはマックスウェルの電磁方程式より記述される。最後は、磁性を扱い古典的な磁気では理解できない量子論的なスピン、角運動量を用いて鉄属の強磁性を解釈する。					
関連する本校の学習教育目標	(A)、(B)			関連するJABEE学習教育目標	(A)、(B)	
到達目標*	原子配列で散乱されたX線の干渉で回折パターンが決まることおよびそれによって格子定数、歪みが測定できることを理解する。結晶光学ではレーザ発振、光導波路の基礎となる光伝搬について、結晶中で波が分波して別々な速度伝搬することを理解する。磁性物性では、古典的なアンペールの法則が磁気モーメントに焼き直すされることを理解する。鉄、カドミウム等の磁気的な現象は、原子の許容される配位磁気量子数で決定されることを理解する。					
授業の進め方とアドバイス*	学科によって基礎的な力が異なるので、授業の始めには前回の授業の大切な点の要約を話す。授業にあっては関連する簡単な質問をして理解できているか確かめる。授業で説明や証明が難しい内容はレポートで学習させる。比較的高度な内容的で身につけるより理解することが重要になる。					
授業内容スケジュール*	回数	授業内容				
	第1週: 授業の進め方、評価のガイダンス、					
	第2週: 結晶構造					
	第3週: 原子列によるX線回折					
	第4週: 逆格子					
	第5週: 原子散乱因子					
	第6週: 結晶構造因子、ラウエ関数					
	第7週: 結晶光学					
	第8週: 前期中間試験					
	第9週: 異方性媒質内の光波					
	第10週: 波動方程式の導出					
	第11週: 平面波、球面波の表現					
	第12週: 固体の磁気的性質					
	第13週: 電子の回転運動					
	第14週: 軌道角運動量と量子的磁気モーメント					
	第15週: 鉄属の強磁性					
	前期期末試験					
教科書*	川端昭「電子材料・部品と計測」コロナ社					
参考書	応用物理光学懇話会編「結晶光学」森北出版、青木昌治「電子物性工学」コロナ社					
関連教科	電気電子材料、機械材料関連科目					
基礎知識	応用数学、電磁気学					
成績の評価方法*	総合評価割合				定期試験(2回)70点	
	定期試験			70%	レポート 20点(授業の理解のため)	
	レポート			20%	演習・口頭試問 10点(理解の確認)	
	演習・小テスト			10%		
	その他			0%		
					100%	
備考						

(出典 平成19年度シラバスより抜粋)

## 資料5-6-③-2 履修の手引

## 目 次

1. 専攻科概要	・・・ 1
2. 専攻科の教育方針等	・・・ 1
3. 専攻科研究スケジュール	・・・ 5
4. 科目履修の手引き	・・・ 6
5. 学位（学士）の取得	・・・ 11

## &lt;資料&gt;

資料1 米子工業高等専門学校学則（専攻科関連抜粋）

資料2 専攻科授業科目の履修等に関する規則

資料3 専攻科選択科目履修届

資料4 専攻科追試験受験願

資料5 大学等履修届

資料6 大学等における学修単位認定申請書

(出典 平成19年度履修の手引)

## (分析結果とその根拠理由)

専攻科のシラバスにおいても、全教科でシラバスを作成し、毎年改訂している。また、授業概要、到達目標、学習上の留意点、授業内容とスケジュール、成績の評価法なども明記しており、適切に整備している。さらに、シラバスは授業や専攻科ガイダンスで活用している。

**観点5-7-①：** 専攻科で修学するにふさわしい研究指導（例えば、技術職員などの教育的機能の活用、複数教員指導体制や研究テーマ決定に対する指導などが考えられる。）が行われているか。

## (観点到に係る状況)

専攻科での特別研究は、準学士課程で得た学識や技術及び卒業研究の成果を基礎として、広い視野

から理論的体系的かつ実践的に考察する能力と独創性を身につけることを目的とし、2年間にわたって実施している（資料5-7-①-1～3）。多くの学生は、専攻科進学後も準学士課程と同じ指導教員の研究室で研究を行うため、同じ研究テーマに3年間従事することが多い。研究室を変更した学生に対しては、指導教員が専攻科で修学するにふさわしい研究テーマをいくつか提示し、その中から学生が選択するようにしている。

指導体制は、研究テーマに類似した専門分野の研究を行っている教員と連携して、複数の教員による体制をとる場合もあるが、多くの場合は指導資格のある教員によるマンツーマンによるきめ細かい指導を心掛けている。また、研究成果については、ほとんどの学生が学会等で発表しており（資料5-7-①-4）、後援会及び同窓会による旅費の補助も行っている。

資料5-7-①-1 生産システム工学特別研究シラバス

対象学科・専攻	生産システム工学専攻			担当教員	■■■■■■■■■■ ■■■■
授業科目名	生産システム工学特別研究			科目コード	
学年	1年		2年		
開講時期	前期	後期	前期	後期	合計単位数
単位数	2	2	6	6	16
区分*	専門科目 必修			授業の形態*	その他
授業概要*	<p>担当教員の指導のもとに、広く文献を調べその専門的視野を広げ、観測・実験・シミュレーション・設計などを通じて、研究開発のための創造的問題解決能力を養う。その成果は論文としてまとめ、内容を公開する。</p> <p>研究内容については、各学年における成果発表と、学会などでの発表を原則として義務付ける。</p> <p>研究テーマは、各指導教員との綿密なディスカッションを行った上で決定する。</p>				
関連する本校の学習教育目標	C「社会と自らを高める発展力」 D「地球の一員としての倫理力」 E「社会と関わるためのコミュニケーション力」			関連するJABEE学習教育目標	(a),(b),(c),(d),(e),(f),(g),(h)
到達目標*	<p>(1) 研究課題の背景や目的を把握し、第三者に対してわかりやすく説明できる。</p> <p>(2) 研究を遂行する上で問題点を明らかにし、研究計画の立案が自主的にできる。</p> <p>(3) 研究成果を第三者にわかりやすく説明できる。</p> <p>(4) 特別研究論文として、得られた成果を適切な構成と文章で的確に記述できる。</p>				
授業の進め方とアドバイス*	本科の卒業論文と異なるのは、いかに自主的かつ自発的に研究に取り組むかである。計画・立案を自主的にして欲しい。研究の実施内容については活動記録に残すこと。				
授業内容スケジュール*	回数	授業内容			
	<p>1年目</p> <p>4月 ガイダンス、研究テーマの決定、資料収集(文献調査)、計画立案</p> <p>5月 研究開始</p> <p>1月～3月 中間発表会、中間報告書の提出</p> <p>2年目</p> <p>12月～2月 研究内容審査</p> <p>2月～3月 特別研究発表会、特別研究論文の提出</p>				
教科書*	各指導担当教員による				
参考書	各指導担当教員による				
関連教科	本科・専攻科の専門および一般教科すべて				
基礎知識	本科・専攻科の専門および一般教科すべて				
成績の評価方法*	総合評価割合				特別研究論文および審査発表会の内容で評価する。主査1名+副査による複数教員での審査を原則とする。
	定期試験			%	
	レポート			%	
	演習・小テスト			%	
	その他			100%	
備考					

(出典 平成19年度シラバス)

資料5-7-①-2 物質工学特別研究シラバス

対象学科・専攻	物質工学専攻				担当教員	■■■■■■■■■■
授業科目名	物質工学特別研究				科目コード	
学年	1年		2年			
開講時期	前期	後期	前期	後期	合計単位数	
単位数	2	2	6	6	16	
区分*	専門科目 必修				授業の形態*	その他
授業概要*	物質工学特別研究は、物質工学専攻における一般および専門教育科目の内容の集大成というべき科目である。本科における卒業研究を基礎として、より高度な物質工学分野の個別研究を指導教員の下で2年間にわたって自主的に調査・計画・実験・考察を繰り返し行い、専門知識の総合化と深化を図り、課題解決に向けて広い視野から理論的且つ実践的に取り組み解決する能力と独創性を育成する。					
関連する本校の学習教育目標	(A)(B)(C)(E)			関連するJABEE学習教育目標	(A)(B)(C)(E)	
到達目標*	(1) 研究課題の背景や目的を把握し、第三者に対してわかりやすく説明できる (2) 研究を遂行する上で問題点を明らかにし、研究計画の立案が自主的にできる (3) 研究成果を第三者にわかりやすく説明できる (4) 特別研究論文として、得られた成果を適切な構成と文章で的確に記述できる					
授業の進め方とアドバイス*	本科の卒業論文と異なるのは、いかに自主的かつ自発的に研究に取り組むかである。計画・立案を自主的にして欲しい。研究の実施内容については活動記録に残すこと。					
授業内容スケジュール*	回数	授業内容				
	1年目 4月 ガイダンス、研究課題の決定、資料収集(文献調査)、計画立案、予備実験 5月 実験開始 12月 中間発表会(本科の卒業研究発表会と同時)準備 1月 中間発表会 3月 中間報告書の提出  2年目 12月 修了発表会(本科の卒業研究発表会と同時)準備 1月 特別研究発表会、特別研究論文作成 2月 特別研究論文提出 3月 修了発表会(専攻科全体)					
教科書*	特になし					
参考書	特になし					
関連教科	本科・専攻科の専門および一般教科すべて					
基礎知識						
成績の評価方法*	総合評価割合				特別研究論文の内容で評価する。主査1名+副査2名による審査を原則とし、主査50点、副査25点×2名=50点、合計100点満点とする。	
	定期試験			%		
	レポート			%		
	演習・小テスト			%		
	その他			100%		
				100%		
備考						

(出典 平成19年度シラバス)

## 資料 5 - 7 - ① - 3 建築学特別研究シラバス

対象学科・専攻	建築学専攻		担当教員	■■■■
授業科目名	建築学特別研究		科目コード	
学年	1年		2年	
開講時期	前期	後期	前期	後期
単位数	2	2	6	6
区分*	専門科目 必修		授業の形態*	その他
授業概要*	<p>本科における卒業研究・卒業設計の経験を基礎として、建築学に関する個別分野でのさらにレベルの高い研究・設計を指導教員のもとで2年間行う。</p> <p>研究内容は、中間発表、最終発表および外部発表を行うものとする。</p>			
関連する本校の学習教育目標	(A)技術者としての基礎力 (B)持てる知識を使う応用力 (C)社会と自らを高める発展力 (D)地球の一員としての倫理力 (E)社会とかかわるためのコミュニケーション力		関連するJABEE学習教育目標	(a),(b),(c),(d),(e),(f),(g),(h)
到達目標*	<p>1)調査、数理解析、実験や調査を通じ専門知識の総合化と深化をはかることができる。</p> <p>2)問題解決に向けて広い視野から論理的、実践的に探究していくことができる。</p> <p>3)第三者に成果をプレゼンテーションすることができる。</p>			
授業の進め方とアドバイス*	得られた成果は論文あるいは設計図書として提出される。また、研究および設計の成果については、学会発表あるいは設計競技参加などを原則的に義務付ける。質問対応としての共通のオフィスアワーの設定はないので、各指導教員の指示によること。			
授業内容スケジュール*	回数	授業内容		
	<p>所属研究室ごとに内容が異なるので、詳細は指導教員の指示による。</p> <p>以下は特別研究に関する概略のスケジュールである。</p> <p>初年度はじめ(4月):ガイダンス(研究室ごとに実施) テーマの決定</p> <p>初年度末(2月):専攻科特別研究中間発表会</p> <p>初年度末~次年度はじめ:学会等での成果発表</p> <p>次年度(10月):大学評価学位授与機構へレポートの提出</p> <p>次年度末(2月):大学評価学位授与機構の審査結果発表 専攻科特別研究審査会(公聴会)</p> <p>(2月):専攻科特別研究発表会</p>			
教科書*	特別研究は専門知識の総合化と深化を目指している。参考資料等は研究内容によって異なる。			
参考書	指導教員の指示による。			
関連教科	全教科の内、各自の特別研究に対応する教科が主体となる。			
基礎知識	これまで学んだすべての事項			
成績の評価方法*	総合評価割合			<p>研究の立案・実施(作成)及び研究成果が適切な形式(論文・図面・模型など)で期限内に作成できたかどうか等を、主査1名(60%)、副査2名(20×2=40%)で評価する。評価の内訳は以下の通りである。</p> <p>到達目標(1)30パーセント</p> <p>到達目標(2)40パーセント</p> <p>到達目標(3)30パーセント</p>
	定期試験		%	
	レポート		%	
	演習・小テスト		%	
	その他		100%	
			100%	
備考				

(出典 平成 19 年度シラバス)



資料 5-7-①-4 平成 18 年度研究テーマ・指導教員・研究成果等一覧

特別研究テーマ	特別研究を行った期間	主査氏名	副査氏名	支援を受けた技術職員 の人数	卒研テーマとの 連続性	発表学会名(年度)	特別研究テーマ決定のための指導
超音波による焼結軸受の油膜厚さ測定	H18年度～	大塚茂	矢壁正樹	0	○	日本機械学会学生会卒業 研究発表講演会(H18年度)	本科卒業研究と連続して行う。
純Cu多結晶材の疲労初期の変形過程に及ぼす特殊Cuメッキの効果	H18年度～	大塚茂	河添久美		×		あり
強制加給による多孔ガスパーナートの加熱効率向上に関する研究	H18年度～	森田慎一	早水庸隆	2	無 専攻科より 当研究室に 配属された為	第43回日本伝熱シンポジウム(名古屋H18年度)	以下の指導後、テーマ決定している。 1.複数テーマから本人希望テーマの聴取 2.該当学生の適性および能力の把握 3.研究チームメンバーとの相性・適性の把握
回転する曲がり管内の流動挙動(テイラー・ディーン流れ)に関する研究	H18年度～	森田慎一	早水庸隆	3	○	1. 中・四国地区高専専攻科生研究交流会(H18年度) 2. 日本機械学会中国四国支部第45期総会・講演会(H18年度)	以下の指導後、テーマ決定している。 1. 該当学生の適性および能力の把握 2. 研究チームメンバーとの相性・適性の把握
半導体超格子の構造変調と特性改善の関係	H18年度～	松原孝史	浅倉邦彦 松本正己		○	1. 中四国地区専攻科生交流会(H18年度) 2. IEEE広島支部学生会シンポジウム(H18年度) 3. 高専シンポジウム(H18年度、投稿済、発表予定)	
分岐をもつフォトニック結晶光導波路の光波伝搬解析	H18年度～	松原孝史	浅倉邦彦 松本正己		×	高専シンポジウム(H18年度、投稿済、発表予定)	
クリティカル・パス・システムの構築支援に関する研究(仮)	H18年度～	松本正己	浅倉邦彦	0		未	本人の希望をふまえ、課題演習を行うことで適正を判断して決定
自己組織化マップを用いた加速度脈波による健康診断装置における診断部の開発	H18年度～	権田英功				高専シンポジウム(H18)	
加速度脈波分類における測定データの時系列フィット法	H18年度～	権田英功				高専シンポジウム(H18)	
自律型移動ロボットの姿勢制御	H18年度～	加納尚之	中山繁生	2	○	計測自動制御学会中国支部学術講演会(H18)	
流れ画像に対するブラインド信号処理	H18年度～	加納尚之	河野清尊	0	×	第15回計測自動制御学会中国支部学術講演会(平成18年度)	特になし
超指数法を用いた流れ画像のブラインド復元	H18年度～	加納尚之	河野清尊	0	×	第15回計測自動制御学会中国支部学術講演会(平成18年度)	特になし
鶏糞焼却灰の有効利用に関する研究	H18年度～	竹中敦司			○		
超音波による焼結軸受の油膜厚さ測定	H17年度～ H18年度	大塚茂	矢壁正樹	0	○	日本機械学会学生会卒業 研究発表講演会(H17年度)	本科卒業研究と連続して行う。
Pendubotの振り上げ安定化制御	H17年度～ H18年度	松本至	宮田仁志、池田英 広		○	1. 計測自動制御学会中国支部学術講演会(H17) 2. 中・四国地区高専専攻科生研究交流会(H18年度) 3. 計測自動制御学会中国支部学術講演会(H18)	あり
微細水の連続生成を目的とする過冷却解放に関する研究	H17年度～ H18年度	森田慎一	早水庸隆	2	無 専攻科より 当研究室に 配属された為	第43回日本伝熱シンポジウム(名古屋H18年度)	以下の指導後、テーマ決定している。 1.複数テーマから本人希望テーマの聴取 2.該当学生の適性および能力の把握
車両型移動ロボットの走行制御に関する研究	H17年度～ H18年度	宮田仁志	権田英功	0	○	1. 平成18年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会 2. 第8回IEEE学生会シンポジウム(H18)	
自己組織化マップを用いた大気汚染物質データからの知識抽出及び光化学オキシダント濃度予測	H17年度～	権田英功				高専シンポジウム(H17,H18)	

(出典 専攻科資料)

(分析結果とその根拠理由)

専攻科での特別研究は、広い視野から理論的体系的かつ実践的に考察する能力と独創性を身につけることを目的とし、2年間にわたって実施している。研究テーマによっては複数教員による指導体制をとる場合があるが、多くの場合はマンツーマンによるきめ細かい指導を心掛けている。また、研究成果は学会等で発表するように指導しており、専攻科で就学するにふさわしい研究指導を行っている。

**観点5-8-①： 成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されているか。**

(観点に係る状況)

専攻科での成績評価、単位認定、修了要件等は、「専攻科の授業科目の履修等に関する規則」(資料5-5-③-1, 114~115ページに前出)に定めており、専攻科の履修の手引及び学生便覧に掲載することによって周知している。また、4月の専攻科ガイダンス時においても、履修の手引を用いて説明している(資料5-8-①-1)。

成績評価については、シラバスに記載している評価法に基づいて実施しており、単位認定及び修了認定については、全教員が出席する進級認定会議により決定している。会議の席では、全学生の成績一覧を提示して審議しており、適切に実施している(資料5-8-①-2, 訪問調査時に提示)。

#### 資料5-8-①-1 専攻科ガイダンス資料

##### 専攻科・入学ガイダンス

専攻科棟2F オープンシアター

#### 1. 専攻科長あいさつ

スタッフ紹介

#### 2. 日程説明

11:20~ ガイダンス

13:00~ ネットの説明(第1端末室)

図書館ガイダンス(米子高専卒業生以外)

#### 3. 配布資料の説明(まずあることを確認)

通学方法届け(回覧するので、すぐ記入のこと)

個人記録(早めに事務に提出すること)

履修の手引き

科目履修については「専攻科履修の手引き」をよく読んで理解しておくこと。

(専攻によって専門科目が異なるので注意)

履修する科目は必ず最初の授業にでること。

履修の取りやめはできるだけないように(やめたらすぐに連絡すること)

1/3より多く欠席すると、単位が認められない

学位取得までの流れ

選択科目履修届2年間の単位取得計画を4/12(木)までに提出のこと

学生証

時間割

暫定版シラバス

学生便覧

実験実習安全必携(米子高专卒以外の学生)

情報端末パスワード

車両通学関連資料

#### 4. 諸連絡

総合連絡はシアター横の掲示板, または電光掲示により行う.

学生用メールボックスを1Fリフレッシュゾーンに用意する.

(個人向けの配布物を入れるのでこまめにチェックすること)

在学証明書は発行機で(パスワードは教務)

写真撮影4/6 10:30 ロータリー前

健康診断について

健康の日4/26(木)(3,4限の応用数学特論の時間に実施)

X線→身体計測(第2体育館)→視力(武道場)

内科検診5/10(水)5限(特別実験の開始を少し遅らす)大会議室

交流会4/28, 29

(出典 平成19年度専攻科・入学ガイダンス資料)

(分析結果とその根拠理由)

成績評価・単位認定規則・修了認定規則は、組織として制定しており、シラバスや学生便覧に掲載して学生に周知している。また、これらの規則に従って、成績評価、単位認定及び修了認定を適切に実施している。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### (優れた点)

準学士課程においては、教育目標をより適切に達成するために、教育課程を大幅に改訂して実施している。講義、演習、実験実習等の授業形態は、特定の学年に集中することなく第1学年から第5学年にわたってバランスよく配分しており、高専の特色である5年間一貫教育システムを十分に活かした教育を実践している。低学年の数学系科目では、25年以上前から学生の習熟度に応じたクラス編成で授業を実施しており、学科間の枠にとらわれない編成によって教育効果を上げている。さらに、e-ラーニングや情報機器、視聴覚機器等の活用を積極的に行う等、学習指導法の工夫を実施している。

創造性の育成はあらゆる科目で配慮されており、ほぼ満足できる程度に実施している。インターンシップについてはその制度も確立され、十分活用できている。人間の素養の涵養については、ホームルームを中心とした特別活動、クラブ活動、外部講師による各種講話の実施などの多様で計画的な活動を通じて行っている。

専攻科課程においては、準学士課程の専門をさらに深める教育課程となっており、連携を考慮した教育課程としている。特に、技術者能力の根幹を成す科目、「技術者倫理」、「環境科学特論」、「特別研究」、「技術表現技法」等は、全専攻において必修科目であり、教育目標を適切に達成できるように配慮している。また、各科目でそれぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫を行っている。さらに、専攻科では実働10日以上インターンシップを実施しており、異なる環境である企業などでの実務を経験することで、習得した知識や技術を再認識するとともに、技術の応用について学習している。

専攻科での特別研究は、広い視野から理論的体系的かつ実践的に考察する能力と独創性を身につけることを目的とし、2年間にわたって実施している。また、研究成果は学会等で発表するように指導しており、専攻科で就学するにふさわしい研究指導を行っている。

### (改善を要する点)

特になし

## (3) 基準5の自己評価の概要

### <準学士課程>

教育の目的に照らして学科ごとに授業科目の系統図を作成し、その適切な配置や学年間での関連を考慮した教育課程を編成しており、教育内容の体系性を確保している。また、授業科目の内容も、全体として教育課程の編成の趣旨に沿っている。各学科の教育目標に照らして、専門科目を適切に配置している。シラバスは毎年更新しており、適切に整備・活用している。

各科目の授業形態は、特定の学年に集中することなくバランスよく配分しており、高専の特色である5年間一貫教育システムを十分に活かした教育を実践している。低学年の数学系科目では習熟度に応じたクラス編成で授業を実施しており、学科間の枠にとらわれない編成によって教育効果を上げている。さらに、e-ラーニングや情報機器、視聴覚機器等の活用を積極的に行う等、学習指導法の工夫を実施している。このほか、第4学年にはインターンシップとしての授業科目「校外実習」を実施し、その効果も認められる。

成績評価や進級・卒業認定に関する規則を制定し、学生便覧に記載することで学生への周知を十分行っている。また、全教員が出席する進級・卒業認定会議において、適切に成績評価・単位認定や

進級・卒業認定を行っている。

特別活動は、LHRと球技大会や高専祭などの学生会企画の行事に大別でき、その活動の中で得られる人間関係、社会との対応、自己研鑽など、人間的資質を涵養するにふさわしい体験ができる状況になっている。また、生活指導面における指導方針は統一されており、全教員は学生が人間としての基本的素養を身に付けることを目的として、日々の指導を行っている。さらに、外部講師による講演会も実施し、人間性の素養の涵養に努めている。クラブ活動については学生会が中心となり、指導教員が課外活動に関わることで、学生の人間教育に全校体制で取り組んでいる。

### <専攻科課程>

大学評価・学位授与機構の審査を受けて学位の取得ができ、出身学科の専門を深められるように科目を系統的に整備している。また、近隣の他大学等で開講している科目も受講できるよう、体制を整えている。講義形式の授業が半数強を占めるが、演習、実験、実習等とのバランスも適切である。また、技術者能力の根幹を成す科目として、「技術者倫理」、「環境科学特論」、「特別研究」、「技術表現技法」等は、全専攻において必修科目としている。これらの科目は、「より高度な専門的知識と技術を教授し、豊かな創造力と卓越した研究開発能力をもった高度実践技術者を育成する」を目指しており、また、社会の変化、学生の多様なニーズに対応したものである。

さらに、各科目でそれぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫、例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用等を行っている。また、専攻科では実働10日以上インターンシップを実施しており、異なる環境である企業などでの実務を経験することで、習得した知識や技術を再認識するとともに、技術の応用について学習している。

専攻科のシラバスにおいても、全教科でシラバスを作成し、毎年改訂している。また、授業概要、到達目標、学習上の留意点、授業内容とスケジュール、成績の評価法なども明記されており、適切に整備されている。さらに、シラバスは授業や専攻科ガイダンスで活用している。

専攻科での特別研究は、広い視野から理論的体系的かつ実践的に考察する能力と独創性を身につけることを目的とし、2年間にわたって実施している。研究テーマによっては複数教員による指導体制をとる場合があるが、多くの場合はマンツーマンによるきめ細かい指導を心掛けている。また、研究成果は学会等で発表するように指導しており、専攻科で就学するにふさわしい研究指導を行っている。

成績評価・単位認定規則・修了認定規則等は、組織として策定され、シラバスや「専攻科履修の手引き」で学生に周知している。また、これらの規則に従って、成績評価、単位認定、修了認定を適切に実施している。



## 基準6 教育の成果

### (1) 観点ごとの分析

**観点6-1-①：** 高等専門学校として、その目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

（観点到係る状況）

本校では、教育理念、養成すべき人材像、学習・教育目標を資料1-1-①-2（5～6ページに前出）のように定めており、これらの目的に沿った形で、準学士課程及び専攻科課程において、それぞれ適切な教育課程を構築している。学生が卒業・修了時に身に付ける具体的な達成目標は、資料1-1-①-2（5～6ページに前出）のように定めており、以下のように学生の目標の達成状況を把握し、その評価に基づいて卒業・修了の認定を行っている。

準学士課程では、全教員による進級認定会議及び卒業認定会議を年度末に開催し、進級や卒業認定について審議を行っている。卒業認定会議では、学生が卒業時に身に付ける資質・能力や養成している人物像に対する達成状況を踏まえて、学業成績や欠課時数一覧表などの資料から卒業要件（資料5-1-①-3、67ページに前出）について審議し、全教員の総意に基づき、校長が卒業認定を行っている。

専攻科課程では、全教員による修了認定会議を年度末に開催し、修了認定について審議を行っている。修了認定会議では、学生が修了時に身に付ける資質・能力や養成している人物像に対する達成状況を踏まえて、学業成績や欠課時数一覧表などの資料から修了要件（資料5-5-③-1、114～115ページに前出）について審議し、全教員の総意に基づき、校長が修了認定を行っている。

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程、専攻科課程ともに、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力、資質・能力及び養成する人材像等について明示している。その達成状況は、卒業認定会議、修了認定会議などにおいて把握・評価しており、適切な取組を行っている。

**観点6-1-②：** 各学年や卒業（修了）時などにおいて学生が身に付ける学力や資質・能力について、単位修得状況、進級の状況、卒業（修了）時の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業研究、卒業制作などの内容・水準から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点到係る状況）

本校は創立以来、「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する」ことを目的とした5年制の高等教育機関として、教育効果の高い教育を行い、教養と専門の知識・技術を身に付けたエンジニアを養成している。

最近3年間の単位取得率及び留年者数、休学・退学者数を資料6-1-②-1～2に示す。少人数の留年者、休学・退学者は毎年認められるが、単位取得率は向上傾向にある。進級率、卒業・修了率、資格取得に伴う単位認定者率について、資料6-1-②-3～5に示す。毎年、学生の学力・資質・能力などを考慮した指導を行っており、ほぼ一定の学力水準を保っている。

卒業研究や特別研究のテーマは、学術研究から授業方法の改善に関する研究まで幅広い分野にわたっているとともに、環境・福祉問題を背景とした地域や社会貢献を目指したものが多い。例として、平成18年度の特設研究論文題目一覧表を資料6-1-②-6に示す。これらの成果は公開発表会を開催して、その内容や水準を問うている。また、学会等にも積極的に参加し、学生の資質向上を図っている（資料6-1-②-7）。さらに、本校学生は、準学士課程・専攻科課程を問わず各種コンペティション等にも参加し、優秀な成績を収めている（資料6-1-②-8）。

資料6-1-②-1 単位取得率

年度	学科	1年		2年		3年		4年		5年		合計	
		一般科目	専門科目	一般科目	専門科目	一般科目	専門科目	一般科目	専門科目	一般科目	専門科目	一般科目	専門科目
H16年度	M	98.29	95.73	96.88	97.44	92.42	90.00	97.20	91.50	100	97.25	96.96	94.38
	E		97.62		95.73		90.48		94.60		99.28		95.54
	D		100		96.67		91.87		87.84		99.79		95.23
	C		100		95.00		96.05		97.30		99.68		97.61
	A		97.50		99.53		92.19		97.24		99.57		97.21
	Ave.		98.19		96.88		92.17		94.28		99.26		96.16
H17年度	M	97.96	99.40	97.68	100	97.84	98.23	98.70	94.90	99.34	99.00	98.30	98.31
	E		95.51		100		92.99		95.56		96.01		96.01
	D		100		97.22		91.16		93.49		98.50		96.07
	C		100		95.24		97.11		97.77		99.27		97.88
	A		99.40		100		94.57		93.98		98.22		97.23
	Ave.		98.71		98.36		95.32		95.73		98.39		97.30
H18年度	M	96.02	96.43	96.14	98.78	98.69	99.28	97.27	96.84	98.01	98.71	97.23	98.01
	E		95.45		100		99.48		98.39		98.71		98.41
	D		95.24		98.78		98.07		99.62		97.89		97.92
	C		100		94.50		99.23		95.18		98.74		97.53
	A		100		100		98.54		96.33		99.78		98.93
	Ave.		97.19		98.03		98.88		97.27		98.64		98.00

注)休学・退学による単位未修得者を除く

(出典 成績評価資料より算出)

資料6-1-②-2 留年者数、休学・退学者数

年度	学科	1年		2年		3年		4年		5年		合計	
		留年者	退学・休学者	留年者	退学・休学者	留年者	退学・休学者	留年者	退学・休学者	留年者	退学・休学者	留年者	退学・休学者
H16年度	M	2		1		7	1	2				12	1
	E			1		4		2				7	0
	D		1	2		4		4	2			10	3
	C			4		1			1			5	1
	A	2			1	5			1			7	2
	Total	4	1	8	1	21	1	8	4	0	0	41	7
H17年度	M	1	2	1	2			1				3	4
	E	1	2			3		1	1			5	3
	D	1				3		2	1			6	1
	C	1		3		1		2	1			7	1
	A				1	3		1				4	1
	Total	4	4	4	3	10	0	7	3	0	0	25	10
H18年度	M	3	3	1	1			1	1			5	5
	E	2	2	2				1	1	1	1	6	4
	D	3	2			1	1		1			4	4
	C	4	1	5		2		4				15	1
	A	1				1		1	2			3	2
	Total	13	8	8	1	4	1	7	5	1	1	33	16

年度	専攻	1年		2年		合計	
		留年者	退学・休学者	留年者	退学・休学者	留年者	退学・休学者
H16年度	生産						
	物質						
	建築						
Total	0	0			0	0	
H17年度	生産			1		1	1
	物質						
	建築		1			0	1
Total	0	1	1	1	1	2	
H18年度	生産						
	物質		1			0	1
	建築				1	0	1
Total	0	1	2	1	2	2	

(出典 進級認定会議資料より算出)



資料6-1-②-3 進級率

年度	学科	1年			2年			3年			4年			5年			合計		
		在籍数	進級数	進級率	在籍数	進級数	進級率	在籍数	進級数	進級率	在籍数	進級数	進級率	在籍数	進級数	進級率	在籍数	進級数	進級率
H14年度	M	44	42	95.45	39	36	92.31	44	40	90.91	46	46	100.00	27	27	100.00	200	191	95.50
	E	42	40	95.24	42	42	100.00	42	34	80.95	40	39	97.50	37	37	100.00	203	192	94.58
	D	41	39	95.12	46	43	93.48	38	35	92.11	42	42	100.00	37	37	100.00	204	196	96.08
	C	44	37	84.09	43	41	95.35	36	33	91.67	31	30	96.77	34	34	100.00	188	175	93.09
	A	40	37	92.50	39	39	100.00	43	41	95.35	45	44	97.78	39	39	100.00	206	200	97.09
	Total	211	195	92.42	209	201	96.17	203	183	90.15	204	201	98.53	174	174	100.00	1001	954	95.30
H15年度	M	43	39	90.70	45	41	91.11	38	36	94.74	39	34	87.18	46	46	100.00	211	196	92.89
	E	44	40	90.91	40	39	97.50	46	39	84.78	35	31	88.57	38	38	100.00	203	187	92.12
	D	50	45	90.00	40	40	100.00	44	43	97.73	36	32	88.89	42	42	100.00	212	202	95.28
	C	48	48	100.00	39	38	97.44	42	37	88.10	35	33	94.29	30	30	100.00	194	186	95.88
	A	46	44	95.65	37	37	100.00	40	39	97.50	42	41	97.62	44	44	100.00	209	205	98.09
	Total	231	216	93.51	201	195	97.01	210	194	92.38	187	171	91.44	200	200	100.00	1029	976	94.85
H16年度	M	41	39	95.12	39	38	97.44	41	33	80.49	42	40	95.24	34	34	100.00	197	184	93.40
	E	42	42	100.00	41	40	97.56	42	38	90.48	41	39	95.12	31	31	100.00	197	190	96.45
	D	45	44	97.78	45	43	95.56	41	37	90.24	45	39	86.67	32	32	100.00	208	195	93.75
	C	40	40	100.00	48	44	91.67	38	37	97.37	40	39	97.50	33	33	100.00	199	193	96.98
	A	40	38	95.00	44	43	97.73	37	32	86.49	40	39	97.50	41	41	100.00	202	193	95.54
	Total	208	203	97.60	217	208	95.85	199	177	88.94	208	196	94.23	171	171	100.00	1003	955	95.21
H17年度	M	44	41	93.18	40	37	92.50	41	41	100.00	35	34	97.14	40	40	100.00	200	193	96.50
	E	41	38	92.68	42	42	100.00	41	38	92.68	38	36	94.74	39	39	100.00	201	193	96.02
	D	42	41	97.62	45	45	100.00	44	41	93.18	40	37	92.50	39	39	100.00	210	203	96.67
	C	40	39	97.50	42	39	92.86	45	44	97.78	40	37	92.50	39	39	100.00	206	198	96.12
	A	42	42	100.00	38	37	97.37	45	42	93.33	36	35	97.22	39	39	100.00	200	195	97.50
	Total	209	201	96.17	207	200	96.62	216	206	95.37	189	179	94.71	196	196	100.00	1017	982	96.56
H18年度	M	45	39	86.67	42	40	95.24	38	38	100.00	44	42	95.45	34	34	100.00	203	193	95.07
	E	46	42	91.30	38	36	94.74	43	43	100.00	41	39	95.12	36	34	94.44	204	194	95.10
	D	44	39	88.64	41	41	100.00	47	45	95.74	42	41	97.62	37	37	100.00	211	203	96.21
	C	49	44	89.80	40	35	87.50	39	37	94.87	45	41	91.11	37	37	100.00	210	194	92.38
	A	45	44	97.78	42	42	100.00	38	37	97.37	45	42	93.33	35	35	100.00	205	200	97.56
	Total	229	208	90.83	203	194	95.57	205	200	97.56	217	205	94.47	179	177	98.88	1033	984	95.26

年度	専攻	1年			2年			合計		
		在籍数	進級数	進級率	在籍数	進級数	進級率	在籍数	進級数	進級率
H16年度	生産	14	14	100.00				14	14	100.00
	物質	3	3	100.00				3	3	100.00
	建築	5	5	100.00				5	5	100.00
	Total	22	22	100.00				22	22	100.00
H17年度	生産	12	12	100.00	14	12	85.71	26	24	92.31
	物質	7	7	100.00	3	3	100.00	10	10	100.00
	建築	7	6	85.71	5	5	100.00	12	11	91.67
	Total	26	25	96.15	22	20	90.91	48	45	93.75
H18年度	生産	13	13	100.00	14	12	85.71	27	25	92.59
	物質	3	2	66.67	7	7	100.00	10	9	90.00
	建築	2	2	100.00	6	5	83.33	8	7	87.50
	Total	18	17	94.44	27	24	88.89	45	41	91.11

注) 進級後、進路変更した学生も進級者数に含む。

(出典 進級認定会議資料より算出)

資料6-1-②-4 卒業・修了率

本科							専攻科				
H12年度入学生	40	42	41	39	41	203					
H14年度留学生	1	1			1	3					
H15年度編入学生		1	1	1	2	5					
H16年度卒業生	34	31	32	33	41	171					
H16年度卒業生 (留年生除く)	32	31	32	33	41	169					
卒業率	78.05	70.45	76.19	82.50	93.18	80.09		生産	物質	建築	合計
H13年度入学生	41	40	45	40	39	205	H16年度入学生	14	3	5	22
H15年度留学生	1		1		1	3					
H16年度編入学生	2			2	1	5	H17年度修了生	12	3	5	20
H17年度卒業生	40	39	39	39	39	196					
H17年度卒業生 (留年生除く)	37	34	37	34	39	181					
卒業率	84.09	85.00	80.43	80.95	95.12	84.98	修了率	85.71	100.00	100.00	90.91
H14年度入学生	42	41	40	43	39	205					
H16年度留学生			1			1	H17年度入学生	12	7	7	26
H17年度編入学生	2	1	1	3	4	11					
H18年度卒業生	34	34	37	37	35	177	H18年度修了生	12	7	5	24
H18年度卒業生 (留年生除く)	32	33	36	35	35	171	H18年度修了生 (留年生除く)	11	7	5	23
卒業率	72.73	78.57	85.71	76.09	81.40	78.80	修了率	91.67	100.00	71.43	88.46

(出典 進級認定会議資料より算出)

## 資料 6-1-②-5 資格取得に伴う単位認定者率

試験の種類	級・得点	単位数	H16年度	H17年度	H18年度	合計
実用英語技能検定	2級	3		3		3
	準2級	2	15	6	3	24
工業英語能力検定	3級	2	4		1	5
	4級	1	38	92	57	187
TOEIC	400～499点	2	9	2	3	14
	500～599点	3			1	1

(出典 教員会議資料より算出)

## 資料 6-1-②-6 特別研究論文題目一覧表

## 平成 18 年度特別研究論文題目一覧

専攻名	特別研究論文題目
生産システム工学 専攻	微細氷の連続生成を目的とした過冷却解放に関する研究
	超音波による焼結軸受の油膜厚さ測定
	2つのリンクをほぼ一直線状に拘束したPendubotの振り上げ安定化制御
	インペラ型磁気アクチュエータの基本特性及び応用開発
	自己組織化マップを用いた光化学オキシダント濃度予測に関する研究
	iアプリを用いた画像サーバシステムの構築
	生体の視覚系に学んだ速度検出アナログ回路の構築とその物体追跡システムへの応用
	車輪型移動ロボットの走行制御
	〇言語教育支援システムの開発 ～プログラム診断機能～
	偏光を用いた生体内の光多重散乱の解析とその鮮度
物質工学専攻	窒素化合物処理による可視光応答型光触媒の合成
	酢酸-無水酢酸混合液中におけるリン酸2水素塩の縮合反応
	プロモフェノールブルーとキトサン溶液を用いる界面活性剤の簡易定量法の開発
	中海に対するノンポイント汚濁の影響
	固体高分子電解質膜を用いたオゾン発生素子の開発
	糖鎖高分子の熱的性質の改善
建築学専攻	ウニ殻の水酸アパタイト化
	新潟県中越地震における住宅再建の公的支援についての評価に関する研究
	施設利用者の地域行動からみた文化施設の中心市街地活性化における役割
	実物大で体感できる建築デザインツールの可能性について -150mm角のキューブを使ったワークショップを通じて-
木質ブロックを用いた組積壁の構造実験について	
曲線材の解析に関する研究	

(出典 平成 18 年度特別研究論文集)

## 資料 6-1-②-7 専攻科生学会等発表実績

## 専攻科生学会等発表実績 (平成 18 年度)

発表学会名等	開催地	件数
日本機械学会中国四国支部 第45期総会・講演会	徳島市	1
日本機械学会中国四国学生会 第36回学生員卒業研究発表講演会	東広島市	1
第15回計測自動制御学会中国支部 学術講演会	岡山市	4
第43回日本伝熱シンポジウム	名古屋市	2
第8回IEEE広島支部学生シンポジウム	広島市	2
平成18年度電気・情報関連学会中国支部 第57回連合大会	岡山市	1
日本分析化学会 第55年会	豊中市	1
日本化学会 第86春季年会	吹田市	2
第12回高専シンポジウム	三島市	6
中国四国地区高専専攻科生研究交流会	阿南市	5
平成18年度日本建築学会中国支部研究報告会	鳥取市	5
産官学連携フェスティバル2006	鳥取市	2

(出典 平成 18 年度専攻科生学会等発表実績)

## 資料6-1-②-8 各種コンペティション等実績

## 各種コンペティション等実績(平成18年度)

コンペティション等の名称	結果
高等専門学校連合会「全国高専デザインコンペティション2006 in 都城」	優秀賞 他
平成18年度「鳥取県青少年建築アイデアコンテスト」	最優秀賞, 優秀賞, 特別賞, 奨励賞
高専ロボコン2006中国大会	特別賞(本田技研工業株)
第8回LSI IPデザイン・アワード	開発奨励賞
第8回IEEE広島支部学生シンポジウム	プレゼンテーション賞

(出典 平成18年度各種コンペティション等実績)

(分析結果とその根拠理由)

学生の学力・資質・能力などを考慮し、教育の成果や効率を上げるための指導を心掛けているため、一定の学力水準を保っている。卒業(修了)時の状況としては、卒業研究や特別研究の成果を校内外に公開することにより、その内容や水準を高めている。また、学生の資質向上を目指し、学会や各種コンペティションにも積極的に参加しており、優秀な成績を収めている。

**観点6-1-③：** 教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業(修了)後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

卒業(修了)生の進路状況については、求人数と合わせて資料6-1-③-1に示す。就職者数と進学者数の割合は、学科によって多少異なるが、概ね就職者数の方が多い。この就職状況について産業別に見ると、建築学科で建設業、その他の4学科で製造業に偏っている傾向が認められる(資料6-1-③-2)。本校において養成しようとする人材像は、基準1で述べた通り「ものづくりの基盤技術を支える創造性に富んだ技術者の養成」としていることから、求人数及び就職実績はこの目標を達成していることを証明している。

大学等への編入学者数について、資料6-1-③-3に示す。本校に専攻科が設置された年度より急激に進学者数が増加しており、本校専攻科への進学割合が多いことが認められる。これは、本校準学士課程を卒業後も本校専攻科でさらに学びたいという学生の意欲を示しており、教育成果の向上による結果であるといえる。

## 資料 6-1-③-1 平成 18 年度求人及び進路状況

	卒業生数 Number of Graduates	就職者数 Number of employed graduates	進学者数 Number of entrants into Univ.	その他 Others	求人数 Number of Job Offered	求人倍率 Rate of Post Offered
機械工学科 Mechanical Eng.	34	22	11	1	621	28.2
電気工学科 Electrical Eng.	34 (3)	21 (3)	13		591	28.1
電子制御工学科 Electronic Control Eng.	37 (8)①	25 (7)	12 (1)①		524	21.0
物質工学科 Materials Science	37(16)	15 (9)	20 (5)	2 (2)	263	16.4
建築学科 Architecture	35(12)	18 (6)	17 (6)		260	14.4
計 Total	177(39)①	101(25)	73(12)①	3 (2)	2,259	22.1

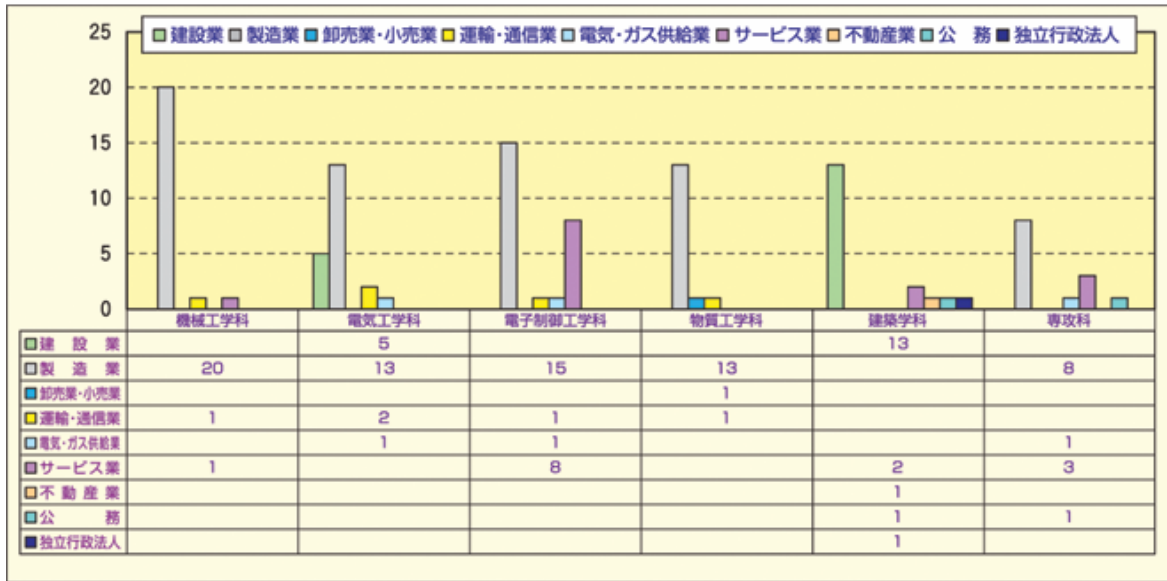
	修了者数 Number of Graduates from Advanced Course	就職者数 Number of employed graduates	進学者数 Number of entrants into Univ.	その他 Others	求人数 Number of Job Offered	求人倍率 Rate of Post Offered
専攻科 Advanced Engineering Course	24(5)	13 (4)	11 (1)		805	57.5

( )は女子内数:Girl Students    ①は外国人留学生内数:Foreign Students    ※社会人の専攻科生を含む

(出典 平成 19 年度学校要覧 p. 31)

資料 6-1-③-2 平成 18 年度就職状況

平成18年度業種別就職状況



平成18年度 就職先

	機械	電気	電子	物質	建築	専攻科
〈建設業〉		5			13	
(株)アキュラホーム					1	
(株)新井組					1	
(株)大本組					1	
(株)金田工務店					1	
(株)浦池組					1	
(株)センチュリーホーム					1	
曾我工業(株)					1	
(株)タウンハウス					1	
大塚建設(株)					1	
大和ハウス工業(株)					1	
高松建設(株)					1	
美保テクノス(株)					1	
(株)きんでん		1				
(株)中電工		2				
(株)中電プラント		1				
日本オーテス・エレベータ(株)				1		
三菱電機ビルテクノサービス(株)		1				
〈製造業〉	20	13	15	13		8
昭和産業(株)		1				
大山ハム(株)		1				
森永製菓(株)			1			
山崎製パン(株)			1			
理研ビタミン(株)	1					
東レ(株)	2					
王子製紙(株)春日井工場	1					
王子エンジニアリング(株)米子事業所	1					
大阪シーリング印刷(株)	1					
旭化成(株)	1		2			
花王(株)			2			
甲種ケミカル(株)			1			
新日本石油化学(株)			1			
日東電工(株)			1			
日本ゼオン(株)水島工場			1			
三菱化学エンジニアリング(株)			1			
ユニチカ(株)				2		
和光純薬工業(株)						1
JFEスチール(株)西日本製鉄所	1					
東邦チタニウム(株)	1					
鳥取ロプスターツール(株)	1					
日立メタルプレジジョン(株)			1			
(株)イトーキ	1					
(株)エクセディ	1					
(株)ゴール	1					
神鋼テクノ(株)			1			
ダイキン工業(株)				1		
ダイヤ精工(株)	1					
(株)中野金型			1			
ファミリー(株)		1				1
三浦工業(株)	1					
村田機械(株)			1			
wave technology(株)			1			
オムロン倉吉(株)	1	1				1

	機械	電気	電子	物質	建築	専攻科
倉吉尾池工業(株)						1
シャープ米子(株)	1	1				
(株)神鋼エンジニアリング&メンテナンス		1	1			
ソニー・イーエスシーエス(株)木更津テック			1			
鳥取三洋電機(株)		1				1
トミタ電機(株)		1				
日新電機(株)		1				
日本セラミック(株)		1	1			1
富士レビオ(株)						1
日本マイクロシステムズ(株)					1	
日本モレックス(株)					1	
富士フィルムメディカル西日本(株)		1				
三菱電機(株)福山製作所		1				
三菱電機エンジニアリング(株)			1			
(株)川崎造船	1					
ススキ(株)			1			
デンソーテクノ(株)						1
本田技研工業(株)		1	1			
三菱重工業(株)長崎造船所	1					
三菱重工業(株)名古屋航空宇宙システム製作所			1			
(株)ニコン			1			
〈卸売業・小売業〉						1
(株)林薬品						1
〈運輸・通信業〉	1	2	1	1		
(株)JAL航空機整備成田	1					
JR西日本旅客鉄道(株)		1		1		
日本海テレビジョン放送(株)			1			
日本貨物鉄道(株)関西支社			1			
〈電気・ガス・水道・熱供給業〉		1	1			1
大阪ガス(株)						1
関西電力株式会社		1				
米子瓦斯(株)			1			
〈サービス業〉	1		8		2	3
(株)エス・イー・シー・ハイテック			1			
NECネットエスアイ・エンジニアリング(株)			2			1
(株)日立国際電気サービス			1			
三菱電機インフォメーションテクノロジー(株)			1			
リコーテクノシステムズ(株)			1			
井戸垣産業(株)						1
(株)神鋼エンジニアリング&メンテナンス						1
住友金属テクノロジー(株)						1
戸田テクノロジーサービス(株)						1
安川エンジニアリング(株)			1			
(株)カンセツ	1					
山陰信販(株)			1			
鳥取県西部農業(協)						1
〈不動産業〉						1
住友不動産(株)						1
〈公務〉						1 1
京都市役所						
鳥取大学						1 1
〈独立行政法人〉						1
(独)国立印刷局						1

(出典 平成 19 年度学校要覧 p. 32)

## 資料 6 - 1 - ③ - 3 大学等への編入学者数

## 【大学編入学】

学校名		'03	'04	'05	'06	'07
国立 大学	室蘭工業大学 Muroran Institute of Technology		1		1	
	岩手大学 Iwate Univ.				1	
	秋田大学 Akita Univ.					1
	筑波大学 Tsukuba Univ.			1		1
	宇都宮大学 Utsunomiya Univ.				1	1
	千葉大学 Chiba Univ.			1		
	東京工業大学 Tokyo Institute of Technology	1	1			
	電気通信大学 The Univ. of Electro-Communications			1		1
	長岡技術科学大学 Nagaoka Univ. of Technology	2	3	1	2	2
	富山大学 Toyama Univ.		1		1	
	山梨大学 Yamanashi Univ.	1			1	
	信州大学 Shinshu Univ.					2
	名古屋工業大学 Nagoya Institute of Technology		1	1		
	豊橋技術科学大学 Toyohashi Univ. of Technology	1	7	3	3	4
	三重大学 Mie Univ.	1	3			
	京都工芸繊維大学 Kyoto Institute of Technology	2		1	2	1
	神戸大学 Kobe Univ.		1	1		
	奈良女子大学 Nara Women's Univ.	1				
	和歌山大学 Wakayama Univ.	2	2		2	2
	鳥取大学 Tottori Univ.	4	1	2		1
	島根大学 Shimane Univ.	5	5	2	4	3
	岡山大学 Okayama Univ.	1	2	4	7	5
	広島大学 Hiroshima Univ.	3	5	5	4	5
	山口大学 Yamaguchi Univ.	3	5	1	1	
	徳島大学 Tokushima Univ.	1	2		3	1
	香川大学 Kagawa Univ.	2	1	1	1	1
	愛媛大学 Ehime Univ.		1			1
	九州工業大学 Kyushu Institute of Technology	1	1	4		1
	長崎大学 Nagasaki Univ.	1	1			
	熊本大学 Kumamoto Univ.	2	1	2		
大分大学 Oita Univ.		1				
鹿児島大学 Kagoshima Univ.	1					
琉球大学 Ryukyu Univ.		1		1		
公立 大学	前橋工科大学 Maebashi Institute of Technology					1
	滋賀県立大学 The Univ. of Shiga Prefecture	1	1	1		
	岡山県立大学 Okayama Prefectural Univ.					1
	山口県立大学 Yamaguchi Prefectural Univ.	1				
	熊本県立大学 Prefectural Univ. of Kumamoto					1
私立 大学	東京工芸大学 Tokyo Polytechnic Univ.				1	
	豊田工業大学 Toyota Technological Institute	2				
	日本福祉大学 Nihon Fukushi Univ.		1			
	京都外国語大学 Kyoto Univ. of Foreign Studies	1				
	京都精華大学 Kyoto Seika Univ.	1				1
	大阪芸術大学 Osaka Univ. of Arts			1		
	関西学院大学 Kansei Gakuin Univ.				1	
	鳥取環境大学 Tottori Univ. of Environmental Studies	1				
広島国際大学 Hiroshima International Univ.			1			
高専	舞鶴高専専攻科 Post-graduate Courses of Maizuru National College of Technology	1				
	明石高専専攻科 Post-graduate Courses of Akashi National College of Technology				1	
	米子高専専攻科 Post-graduate Courses of Yonago National College of Technology		14	23	13	35
計		43	63	57	53	70

## 【大学院入学】

学校名		'03	'04	'05	'06	'07
国立 大学	長岡技術科学大学 Nagaoka Univ. of Technology					2
	大阪大学 Osaka Univ.					2
	神戸大学 Kobe Univ.					1
	奈良先端科学技術大学院大学 Nara Institute of Science & Technology				1	
	和歌山大学 Wakayama Univ.					1
	鳥取大学 Tottori Univ.					1
	島根大学 Shimane Univ.				1	
九州工業大学 Kyushu Institute of Technology				2	2	
私立 大学	近畿大学 Kinki Univ.				1	
計					5	9

(出典 平成 19 年度学校要覧 p. 33)

(分析結果とその根拠理由)

多くの学生が「ものづくり」に関する産業に就職しており、これらの産業で活躍できる技術者の養成が、本校の養成しようとする人材像に合致していることから、教育成果や効果が上がっていると判断できる。また、本校専攻科への進学者が多いことは、学生の向上心が高まっている証拠であり、教育成果の向上による結果であるといえる。

**観点 6-1-④： 学生が行う学習達成度評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。**

(観点に係る状況)

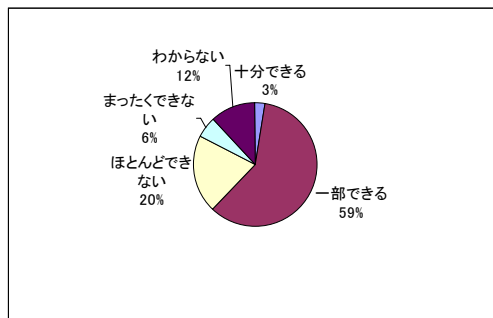
本校において、学生が行う学習達成度評価とは、準学士課程卒業予定者及び専攻科課程修了予定者に行ったアンケートが該当する。また、準学士課程卒業及び専攻科課程修了時での到達目標は資料 1-1-①-2 (5～6 ページに前出) に示すとおりである。

準学士課程卒業予定者のアンケート結果より、6つの達成目標の全てで、過半数の学生が“一部できる”と回答している(資料 6-1-④-1)。また、“十分できる”と回答した学生数と合わせると、全ての項目で約60%となり、学校が意図する教育の成果や効果が得られている。

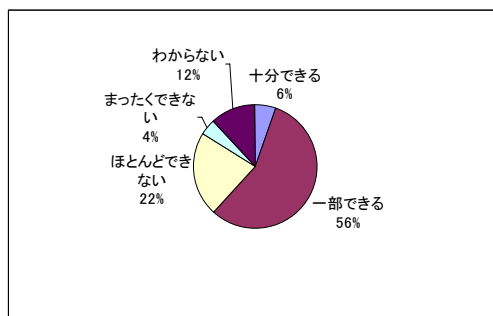
専攻科課程修了予定者のアンケート結果より、ほとんどの項目で“一部できる”あるいは“十分できる”と回答した学生が約70～80%であった(資料 6-1-④-2)。特に、地球環境への配慮、資料の読解力、プレゼンテーション能力に関する目標については、非常に達成度が高かった。これらのことから、学校が意図する教育の成果や効果は十分に得られている。

資料 6-1-④-1 本校の達成度に関するアンケート (本科卒業予定者)

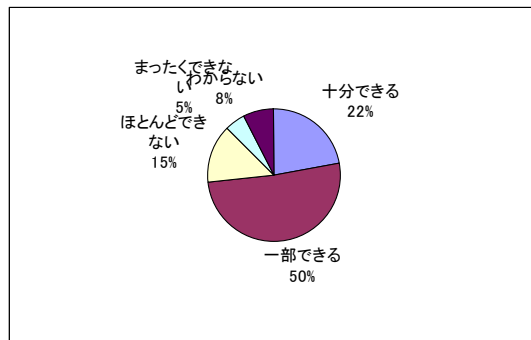
11. 学び習得した知識を適切に表現し、活用することができると思いますか？



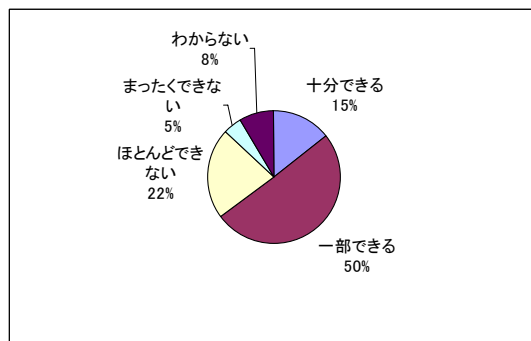
12. 実験等で得られた結果について、すでに学んだ知識をもとに分析し、報告することが出来ると思いますか？



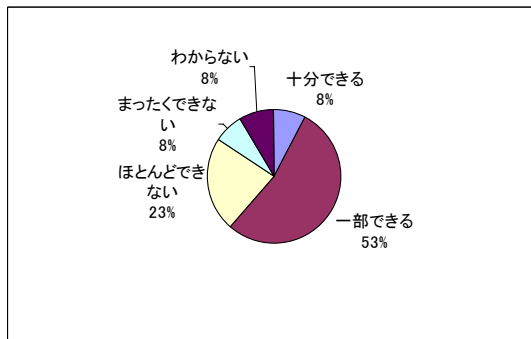
13. 関心のある分野について継続的に学習していくことが出来るようになりましたか？



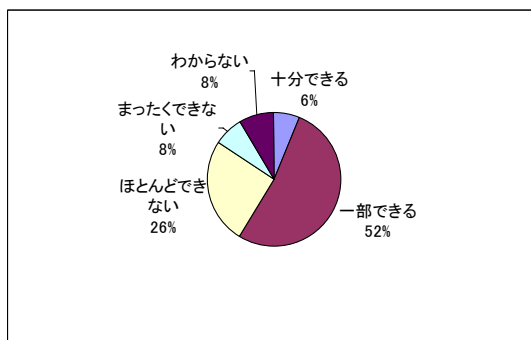
14. 地球や地域の環境保全を念頭に置きながら、社会生活を送ることができるようになりましたか？



15. 日本語および英語の資料等を読み、適切に理解できるようになりましたか？



16. 自らの考え等について分かりやすく関係者に説明できるようになりましたか？

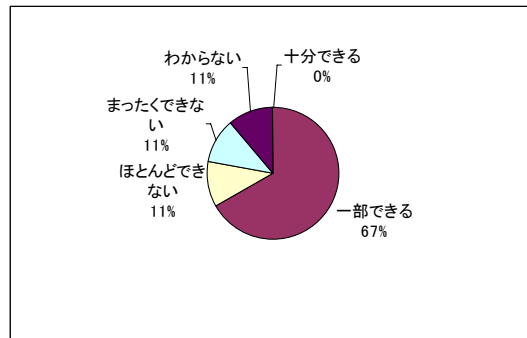


(出典 本校の達成度に関するアンケート結果より抜粋)

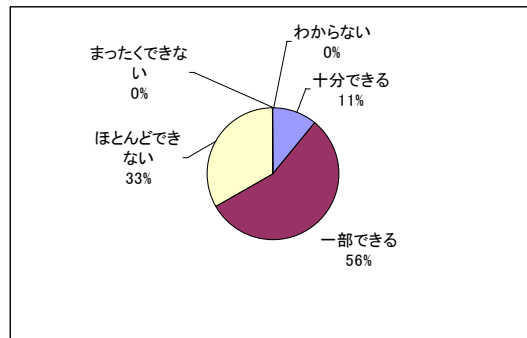


資料 6-1-④-2 本校の達成度に関するアンケート（専攻科修了予定者）

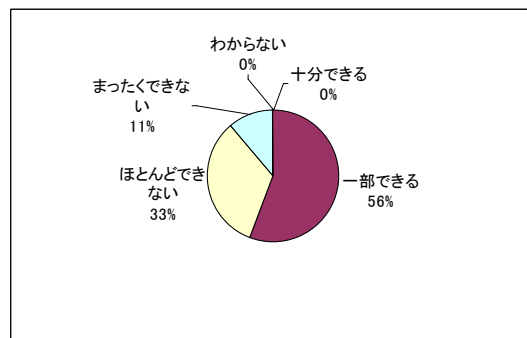
1.1. 工学に関する様々な問題等を自ら発見することができるようになったと思いますか？



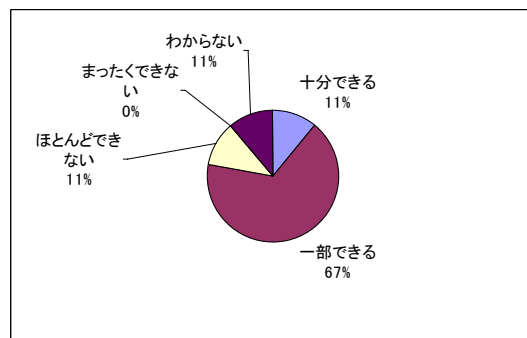
1.2. 発見した問題を解析し、自ら設定した行動計画のもとに解決することができるようになったと思いますか？



1.3. 専門的な英語の文献等を読み、理解することができるようになりましたか？

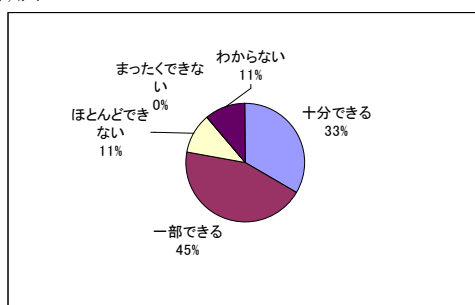


1.4. 自らの専門的知識・技術および関連する分野の知識について、時代の進展に対応し、フォローアップすることができるようになったと思いますか？

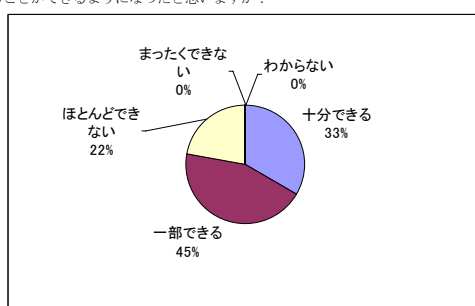


## (資料 6-1-④-2 本校の達成度に関するアンケート (専攻科修了予定者))

15. 持続可能な社会を念頭に置きながら、仕事その他の社会生活を送ることができるようになったと思いますか？



16. 問題解決に向けて、チームの中で自己の意見を述べ、また他者の意見を聞きながら適切に作業を進めることができるようになったと思いますか？



(出典 本校の達成度に関するアンケート結果より抜粋)

## (分析結果とその根拠理由)

準学士課程卒業予定者及び専攻科課程修了予定者に行った達成度アンケートの結果から、教育の効果が上がっていると判断できる。特に、専攻科課程修了時には、学校が意図する教育の成果や効果が十分に得られている。

**観点 6-1-⑤：** 卒業（修了）生や進路先などの関係者から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取するなどの取組を実施しているか。また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

## (観点に係る状況)

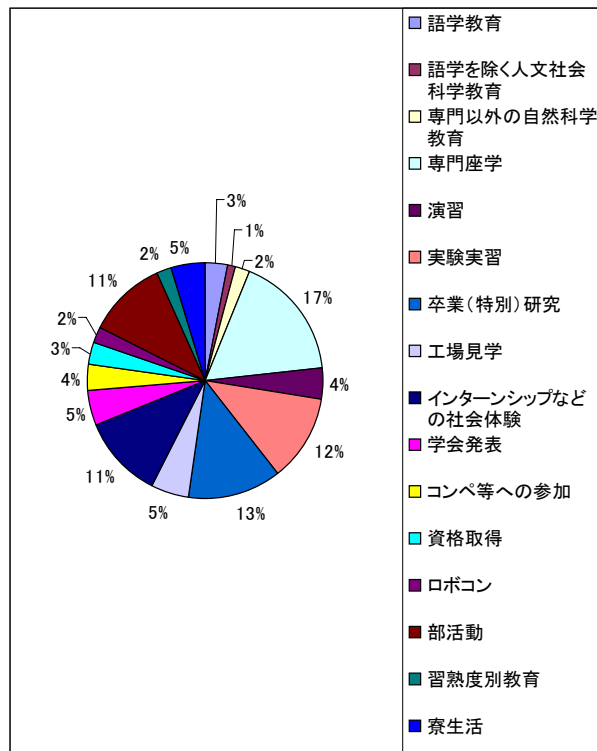
既卒業（修了）生及び採用実績のある企業に対し、在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見聴取としてアンケートを実施している。

既卒業（修了）生に対するアンケート結果を資料 6-1-⑤-1 に示す。卒業してから役に立ったものとして、専門座学、実験実習、演習、卒業（特別）研究、インターンシップ経験などが上位に挙がっている。これらは本校でも特に力を入れている科目等であり、教育の成果や効果が十分上がっている。

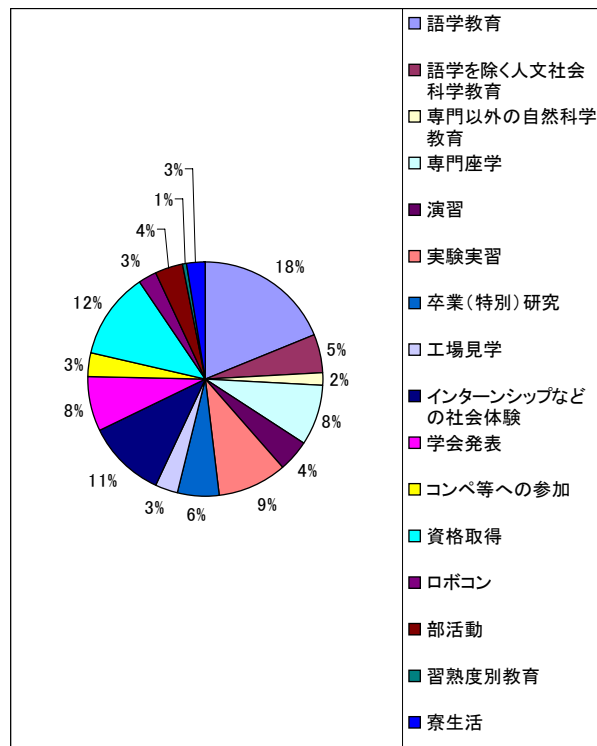
採用実績のある企業に対するアンケート結果を資料 6-1-⑤-2 に示す。“まったくできない”あるいは“ほとんどできない”という回答はほとんどなく、本校卒業（修了）生が社会で十分活躍していることを示している。

資料 6-1-⑤-1 既卒業（修了）生に対するアンケート結果

5. 卒業（修了）してから役に立ったとお考えの項目を次から選んでください（複数回答可）



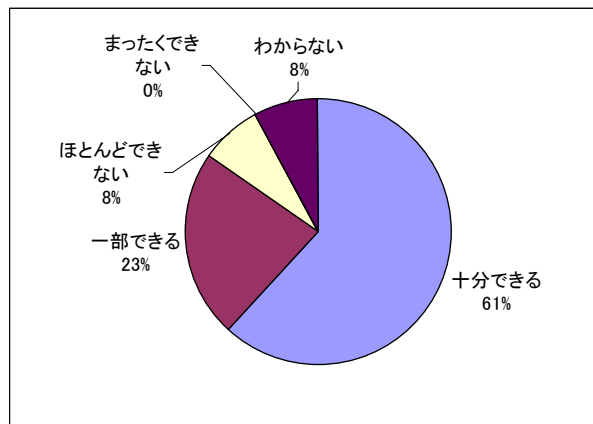
6. 本校がより充実すべきとお考えの項目を選んでください（複数回答可）



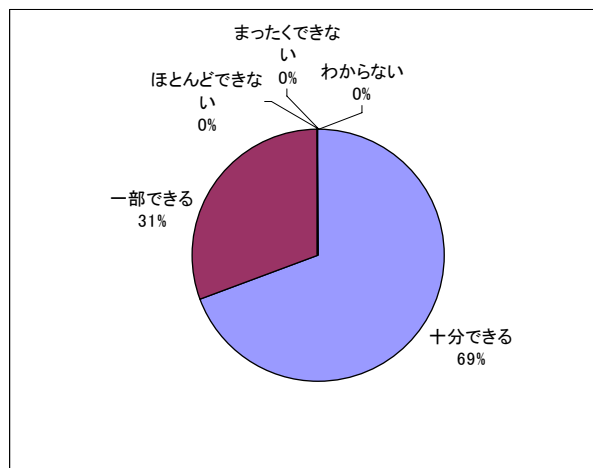
(出典 既卒業（修了）生に対するアンケート結果より抜粋)

資料 6 - 1 - ⑤ - 2 採用実績のある企業に対するアンケート結果

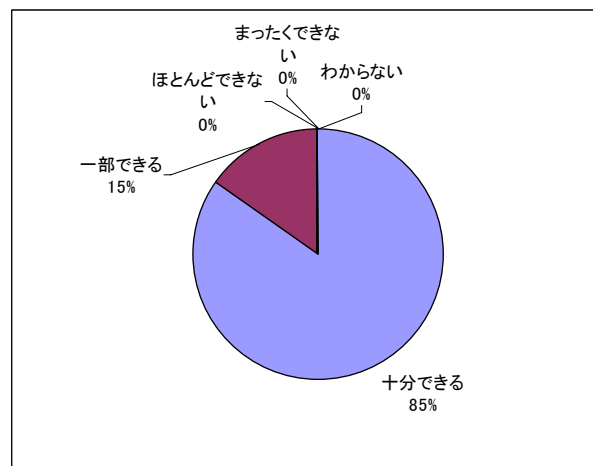
6. 本校の卒業生は、学び習得した知識を適切に表現し、活用する資質を備えているとお考えでしょうか？



7. 本校の卒業生は、実験等で得られた結果について、すでに学んだ知識をもとに分析し、報告することができる資質を備えているとお考えでしょうか？

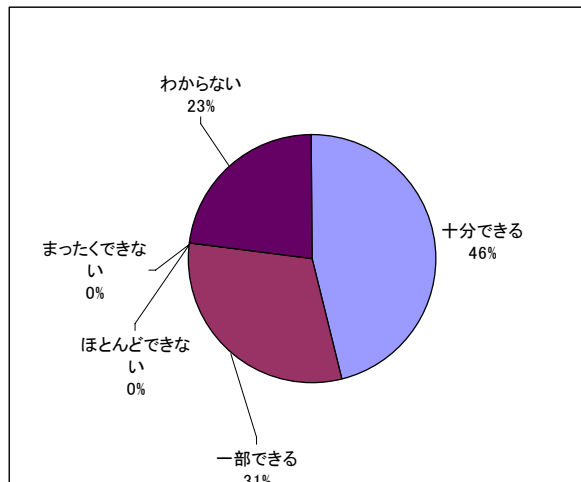


8. 本校の卒業生は、本人が関心のある分野について継続的に学習していくことができる資質を備えているとお考えでしょうか？

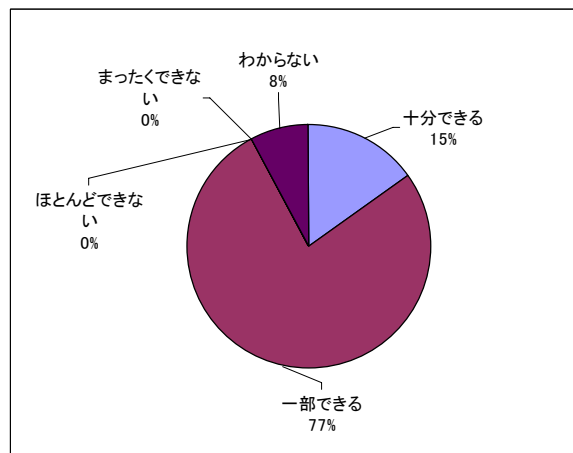


(資料 6-1-⑤-2 採用実績のある企業に対するアンケート結果)

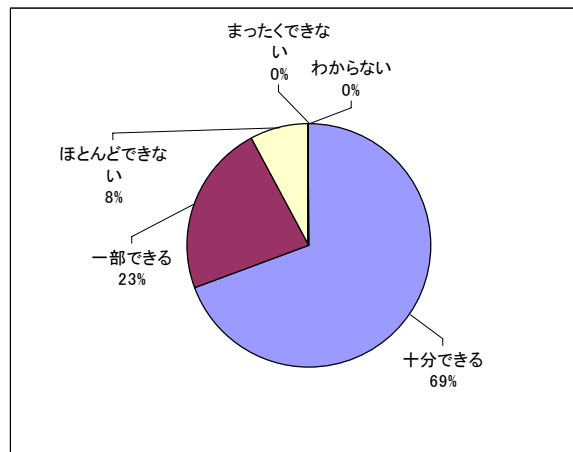
9. 本校の卒業生は、地球や地域の環境保全を念頭に置きながら、社会生活を送ることができる資質を備えているとお考えでしょうか？



10. 本校の卒業生は、日本語および英語の資料等を読み、適切に理解することができる資質を備えているとお考えでしょうか？



11. 本校の卒業生は、自らの考え等について分かりやすく関係者に説明することができる資質を備えているとお考えでしょうか？



(出典 採用実績のある企業に対するアンケート結果より抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

既卒業（修了）生及び採用実績のある企業に対してアンケート調査を実施しており、その結果は概ね良好である。このことは、本校卒業（修了）生が社会で十分活躍していることを示しており、教育の成果や効果が十分上がっていると判断できる。

## （2）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

準学士課程、専攻科課程ともに、卒業・修了時の達成状況は、それぞれ卒業認定会議及び修了認定会議により把握・評価している。また、学生の資質向上を目指し、学会や各種コンペティションにも積極的に参加しており、優秀な成績を収めている。さらに、卒業（修了）後は多くの学生が「ものづくり」に関する産業に従事しており、これらの産業で活躍できる技術者の養成が、本校の養成しようとする人材像に合致している。

準学士課程卒業予定者及び専攻科課程修了予定者に行った達成度アンケートの結果から、特に、専攻科課程修了時には、学校が意図する教育の成果や効果が十分に得られている。また、既卒業（修了）生及び採用実績のある企業に対してもアンケート調査を実施しており、その結果は概ね良好である。

（改善を要する点）

該当なし

## （3）基準6の自己評価の概要

準学士課程、専攻科課程ともに、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力、資質・能力及び養成する人材像等について明示している。その達成状況は、卒業認定会議及び修了認定会議により把握・評価しており、適切な取組を行っている。卒業（修了）時の状況としては、卒業研究や特別研究の成果を校内外に公開することにより、その内容や水準を高めている。また、学生の資質向上を目指し、学会や各種コンペティションにも積極的に参加しており、優秀な成績を収めている。さらに、卒業（修了）後は多くの学生が「ものづくり」に関する産業に従事しており、これらの産業で活躍できる技術者の養成が、本校の養成しようとする人材像に合致している。

準学士課程卒業予定者及び専攻科課程修了予定者に行った達成度アンケートの結果から、特に、専攻科課程修了時には、学校が意図する教育の成果や効果が十分に得られている。また、既卒業（修了）生及び採用実績のある企業に対してもアンケート調査を実施しており、その結果は概ね良好である。このことは、本校卒業（修了）生が社会で十分活躍していることを示している。

以上のことから、教育の成果や効果が上がっているといえる。

## 基準7 学生支援等

### (1) 観点ごとの分析

観点7-1-①： 学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されているか。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

準学士課程においては、入学生に対してオリエンテーションを実施している(資料1-2-①-7, 11ページに前出)。また、LHRにおいて、教務主事が学習についての説明を行っている(資料5-4-①-1, 98ページに前出)。第4学年への編入学生に対しても、入学前に教務主事と各学科の教員がガイダンスを行っている(資料5-3-①-2, 97ページに前出)。特に、学習については、自学用の課題プリントを配布して事前学習を義務付けている教科もある。専攻科課程においても、入学式後にガイダンスを行っている(資料5-8-①-1, 126~127ページに前出)。

準学士課程では、クラス毎に担任をおき(観点2-2-③参照)、学生の学習活動や生活指導にあたり、種々の相談に応じている。また、各科目の担当教員は、年度最初にシラバスに基づいて学習についてのアドバイスをを行っている。学生からの質問に対しては、全教員がオフィスアワー等で対応している(資料5-1-②-3, 83ページに前出)。

学生相談室(資料2-1-③-4, 19ページに前出)は、常勤教職員を中心に6名で構成している。常勤教職員の他に精神科医1名と臨床心理士1名が来校し、相談に当たっている(資料7-1-①1)。このうち、相談員1名、看護師、臨床心理士の計3名は女性である。学生相談室では、資料7-1-①-2に示す「学生相談室の手引き」を全学生に配布し、利用を呼びかけている。また、校内の3箇所を設置した相談箱やメールによる匿名の相談も受け付け、気軽に相談できるように配慮している。資料7-1-①-3に最近の相談件数を示す。相談内容は、学業、進路、対人関係、恋愛、心身の健康に関する問題等々、多岐にわたっている。

資料 7-1-①-1 学生相談室の担当予定表・スタッフ

日	曜	担 当	場 所	日	曜	担 当	場 所
1	金			16	土		
2	土			17	日		
3	日			18	月	校 外 カウンセラー	相談室
4	月	校 外 カウンセラー	保健室	19	火	校 外 カウンセラー	相談室
5	火	和田	相談室又は 研究室	20	水		
6	水			21	木		
7	木			22	金	田 原	相談室又は 研究室
8	金			23	土		
9	土		試験中	24	日		
10	日			25	月	校 外 カウンセラー	相談室
11	月			26	火	川 端	相談室又は 研究室
12	火			27	水		
13	水			28	木		
14	木			29	金	大 原	相談室又は 研究室
15	金	田 原	相談室又は 研究室	30	土		
				31	日		

相談時間  
・校内相談員は、15時00分からです。  
・校外カウンセラーは、15時00分からです。

- 平成18年度学生相談室スタッフ**
- 学生相談室長 大原啓道 (一般科目)
  - 学生相談員 澤 洋征 (物質工学科)
  - 学生相談員 田原麻里 (物質工学科)
  - 看護師 三澤美千子 (保健室)
  - 校外カウンセラー  
宮城徹朗 (精神科医)  
権代直子 (カウンセラー)

(出典 学生相談室前掲示板・学生相談室の手引き)



資料 7-1-①-2 「学生相談室の手引き」

## 学生相談室の手引き

困ったときは相談室へ来てね

- ◇進学の計画が、進路のことで迷っている
- ◇自分の性格を知りたい
- ◇寮生活になじめない
- ◇友人関係のことで悩んでいる
- ◇今のままでいいのかわからず不安である
- ◇家庭のことで悩んでいる
- ◇金銭的なことを考えると不安である
- ◇将来のことを考えると悩んでいる
- ◇勉強が身に入らない
- ◇部活動のことで悩んでいる
- ◇部活動の意欲がわかない
- ◇同世代の悩みがわからない
- ◇ネットトラブルで困っている
- ◇その他

**相談室入口**  
電話・メールなどによる受付。相談室にこない場合は、次のような窓口からも相談の受付ができます。

**相談時間**  
毎週 月・火・金曜日 15:00~  
★教員スタッフルームの相談は保健室で予約してください。  
★教員スタッフルームの相談時間は保健室前に掲示しています。

**直通電話による受付:**  
0859-24-5262  
受付時間: 月曜日から金曜日 9:00~17:00

**手紙による受付:** 〒683-8502 鳥取県米子市鹿名町444B 米子工業高等専門学校 相談室  
★封筒に宛先住所と氏名を記入してください。  
★Eメールによる受付: sodan@yonago-k.ac.jp  
匿名での相談も受け付けています。

**プライバシーについて**  
相談した内容の秘密は守ります。もちろんあなたが話したことをあなたの同意なしに担任や保護者に伝えることはありません。

(出典 学生相談室の手引き)

## 資料7-1-①-3 学生相談室相談件数

学生相談室 相談件数			
年度	実数	のべ人数	メール利用実数(のべ人数)
平成16年度	30	54	9(35)
平成17年度	41	125	10(46)
平成18年度	65	110	10(52)

(出典 学生相談室資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校では学習を進める上でのガイダンスを整備し、適切に実施している。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制も整備しており、機能している。

その理由は、各課程の入学時にオリエンテーション、ガイダンス及び説明会を実施している点である。また、担任制があり、担任は学生の指導を行っている。さらに、自学自習を支援するための補習やオフィスアワーの制度も整備し実施している。学生相談室も気軽に利用できるように配慮している。

**観点7-1-②：** 自主的学習環境（例えば、自主学習スペース、図書館等が考えられる。）及び厚生施設、コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され、効果的に利用されているか。

(観点到に係る状況)

本校では、以下に示す自主的学習環境及び厚生施設、コミュニケーションスペース等を整備している。

## 1) 図書館情報センター（図書館）

閲覧室には、各学科の専門を考慮して様々な分野の図書や専門雑誌、調査・研究に必要な資料等を配架している。平日に利用できるのはもとより、土曜日や長期休暇中も利用することができる。また、パソコンコーナーも設置しており、インターネットを利用することができる。その他AVコーナーも整備しており、ビデオやDVD等を視聴することができる。これらの利用規則は資料7-1-②-1のように定めている。資料7-1-②-2に過去3年間の利用実績を示す。

## 2) 図書館情報センター（情報処理教育施設）

本施設は低学年の情報リテラシ等の情報処理基礎教育や、各専門学科の応用情報処理教育等を行うための全校的な共用施設である。第1、第2端末室にはそれぞれ、50台、45台の端末を設置し、A4印刷対応のレーザプリンタを各室2台設置している。インターネットルームには、13台の端末とプリンタを1台設置している。端末室及びインターネットルームは、昼休みや放課後にも利用できる。図書館情報センターのホームページに、本施設の利用案内と設備一覧（資料7-1-②-3）を掲載している。

## 3) e-L教室（語学教育施設）

専用の端末を各自一台ずつ割り当てることができ、英語学習ソフトを利用してリスニング、スピーキング、リーディングの学習が可能である。管理棟3階に設置している。

## 4) 学習アトリエ等

各学科棟には、学習アトリエを設けており、自習スペースとして、放課後の学習、課題製作などの場として有効に利用している（資料7-1-②-4）。授業に使用する教室や製図室・実験室等も放課後は利用可能である。

## 5) コラボレーションゾーン

各学科棟の教員室前の廊下には、コラボレーションゾーンを設けており、授業や研究の合間のゆとりの空間としての役割を果たしている（資料7-1-②-4）。また、管理棟と各学科棟を繋ぐ2階中央廊下は、全学科共通のコラボレーションゾーンとなっており、学生の情報交換スペースとして機能している。一般科目の教員室前も、リフレッシュ談話コーナーとなっている。専攻科棟の各階にあるリフレッシュコーナーは、専攻科生が利用している。

## 6) 白砂会館

福利厚生施設として白砂会館があり、一階に談話室、食堂を配置している（資料7-1-②-4）。2階には音楽練習室、和室、合同研修室、課外活動研修室などがあり、課外活動などに有効に利用している。長期休業中には、クラブ活動等の宿泊施設（合宿）としても利用している。

## 7) 売店

中庭のオープンカフェテラスに売店を設置しており、学生は休み時間や昼食時に利用している（資料7-1-②-4）。

## 資料7-1-②-1 米子工業高等専門学校図書館利用規則（開館時間等）

（前略）

（休館日）

第3条 休館日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日
- (3) 月の末日
- (4) 12月28日から翌年1月4日

2 前項の規定にかかわらず、図書館情報センター長が必要と認めたときは、臨時に休館することがある。

（開館時間）

第4条 開館時間は、次のとおりとする。

- 平日 午前9時から午後8時まで  
 ただし、本校学生の休業日は、午前9時から午後5時まで  
 土曜日 午前10時から午後3時まで

2 前項の規定にかかわらず、図書館情報センター長が必要と認めたときは、開館時間を変更することがある。

（後略）

（出典 図書館利用規則より抜粋）

## 資料 7-1-②-2 図書館情報センター利用実績

## 図書館利用者数・貸出図書数の推移

年 度	H 1 6	H 1 7	H 1 8
入館者数 (人)	47,009	46,411	44,500
貸出冊数 (冊)	13,122	11,184	10,171

(出典 図書館情報センター資料)

## 資料 7-1-②-3 図書館情報センター利用案内

利用時間は、原則として 8 : 45 ~ 17 : 00 とします。

機器の利用方法、設定方法等に関する詳細は[情報教育施設の校内向けホームページ](#)をご覧ください。**第 1 端末室・第 2 端末室・インターネットルーム****8 時 45 分～17 時 00 分の利用**

時間割上空いていれば、各自が受講している授業以外の時間でも利用可能です。

使用する場合は、管理室前に設置してある端末より、「オープン利用願」を申請してください。

\*「オープン利用願」を提出しないと端末にログオンできません。

**教科担当教官の立会い・監督があれば**、利用可能です。

端末室は施錠していますが、教科担当教官へ鍵を貸し出します。

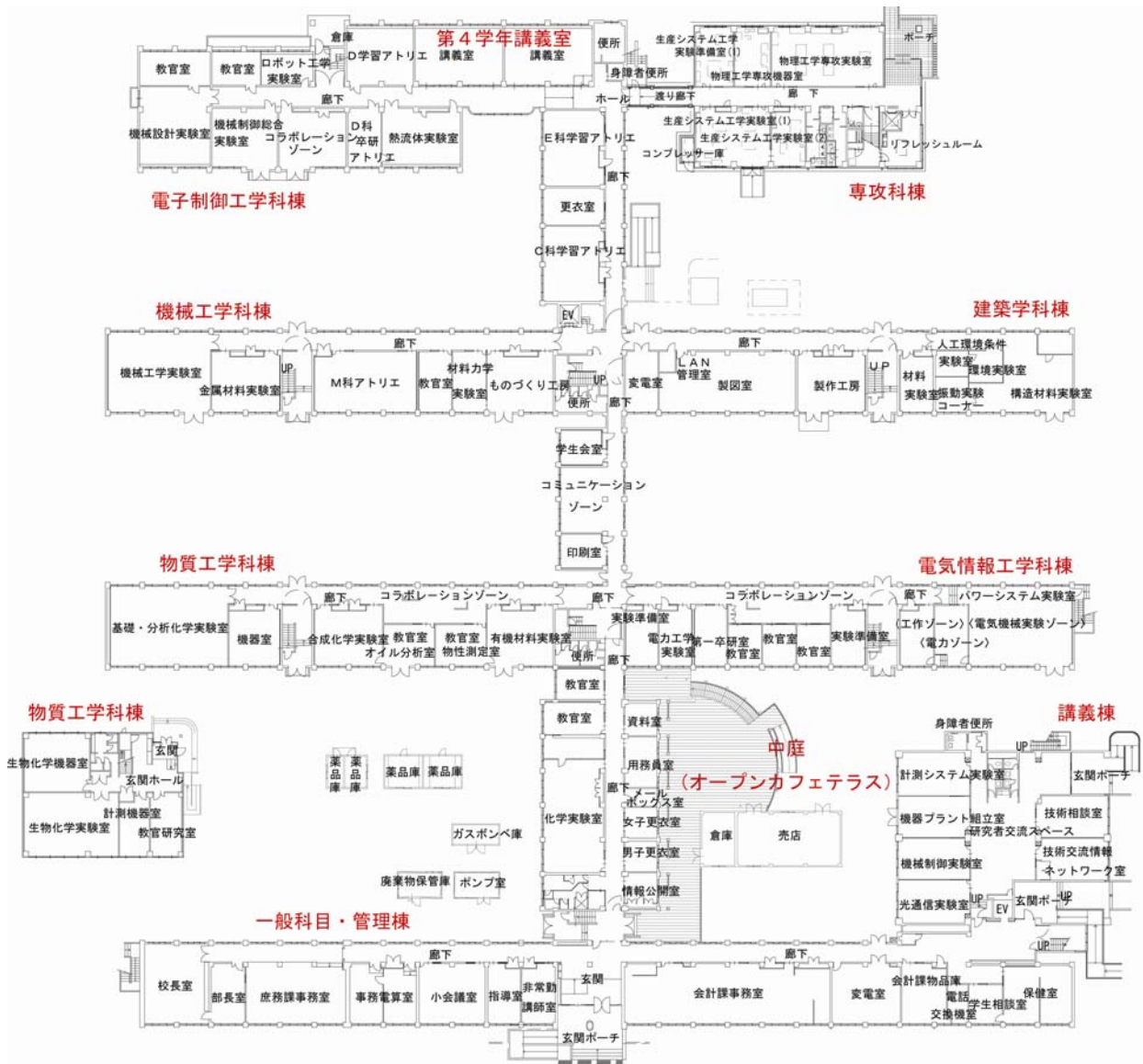
担当教官は利用予定を、あらかじめ管理室までお知らせください。

**マルチメディアルーム**

教科担当教官が 利用 1 週間前までに校内ホームページから予約して下さい。教科担当教官へ部屋の鍵を貸し出します。

(出典 校内 Web ページ)

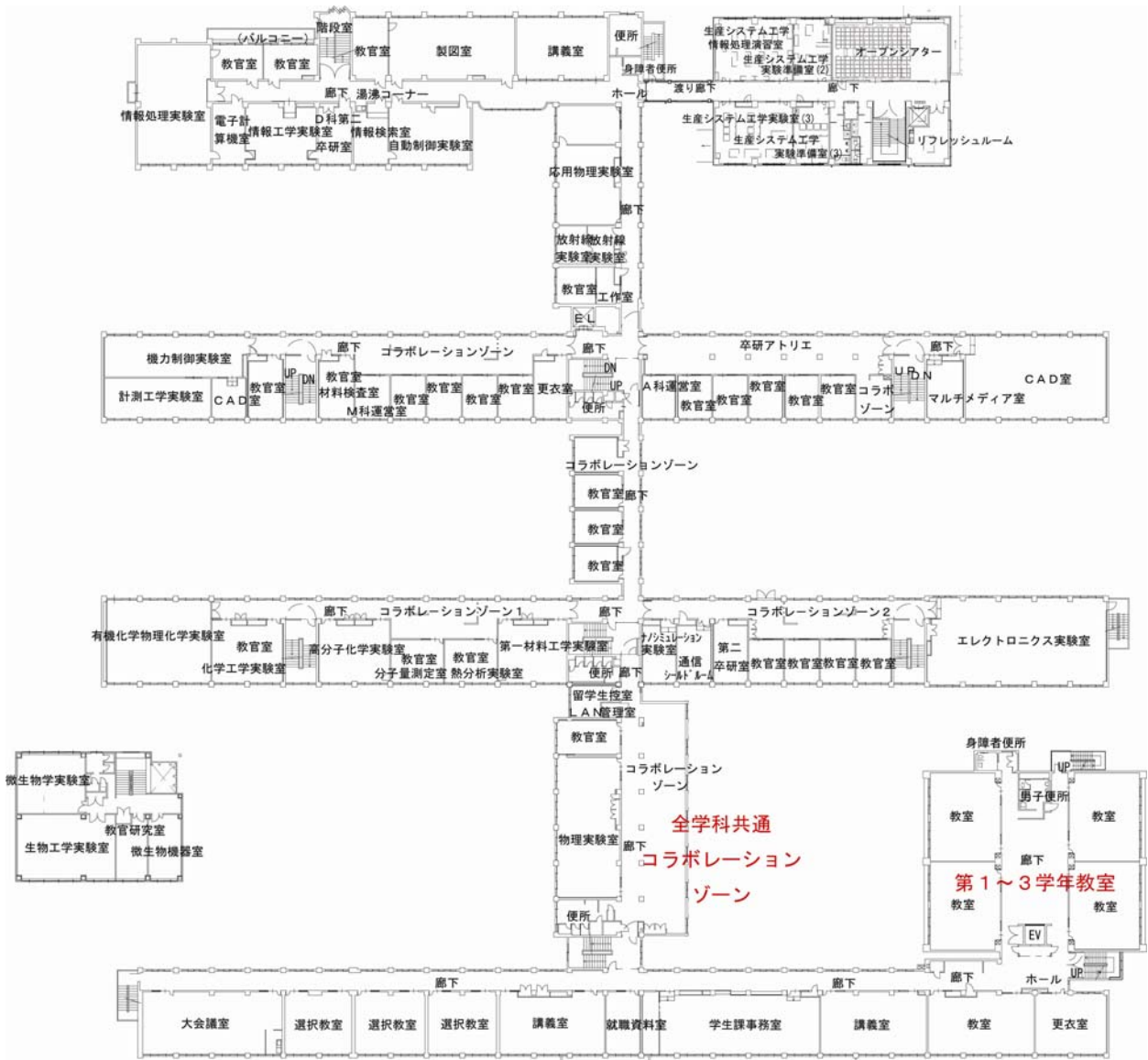
資料7-1-②-4 各施設の配置



1階平面図

(出典 総務課施設係Webページ)

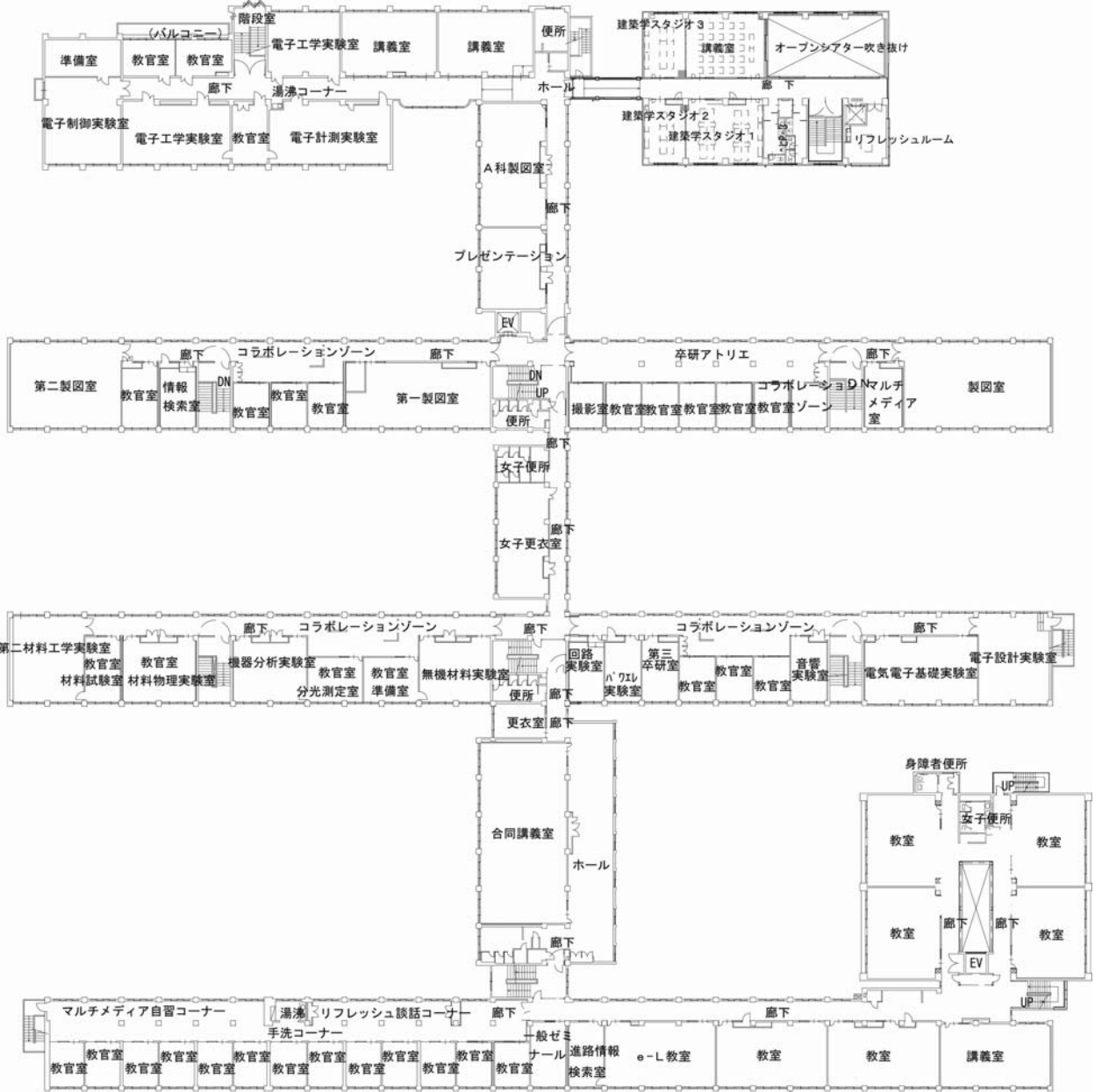
(資料7-1-②-4 各施設の配置)



2階平面図

(出典 総務課施設係Webページ)

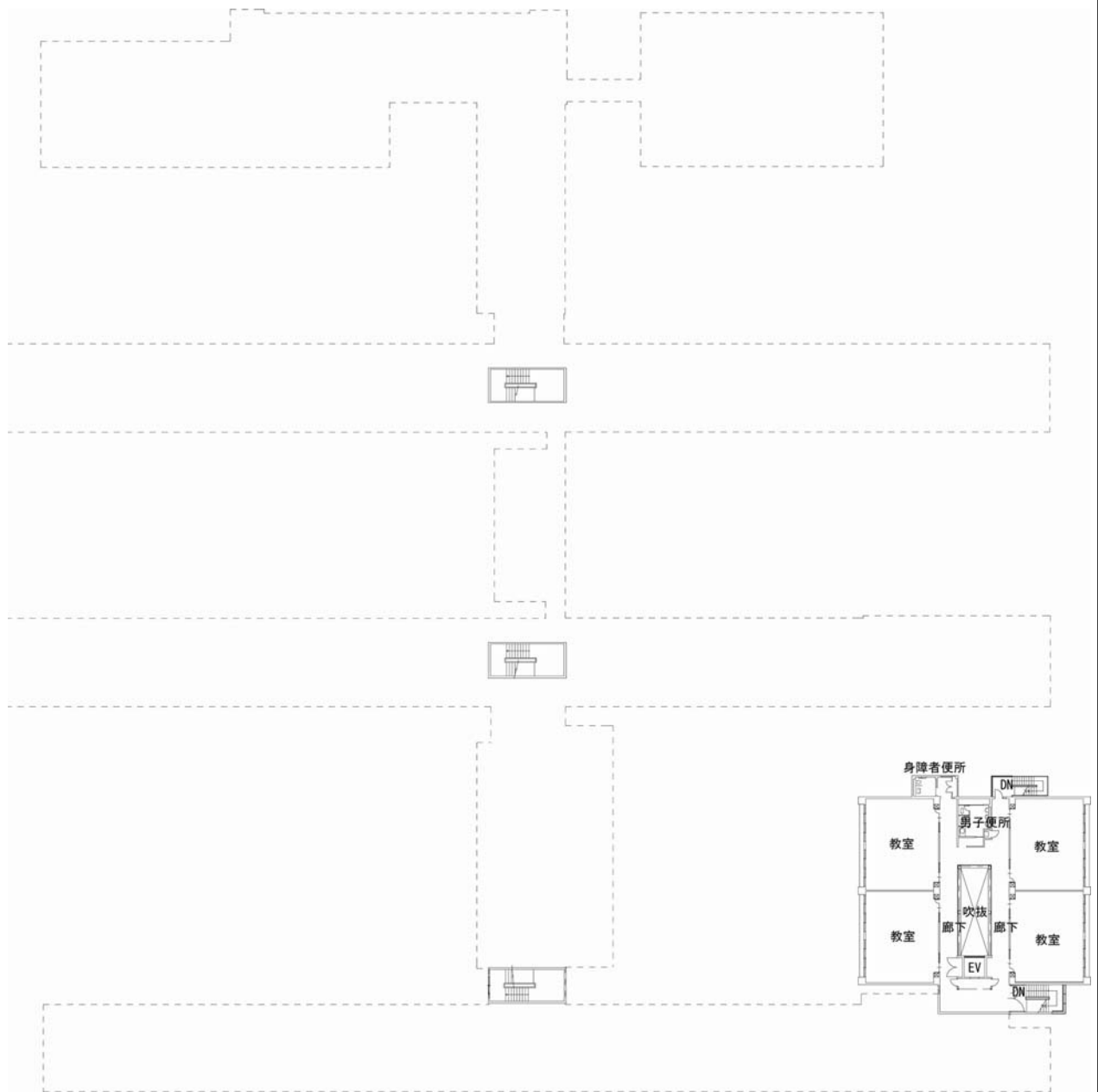
(資料7-1-②-4 各施設の配置)



3階平面図

(出典 総務課施設係Webページ)

(資料 7-1-②-4 各施設の配置)



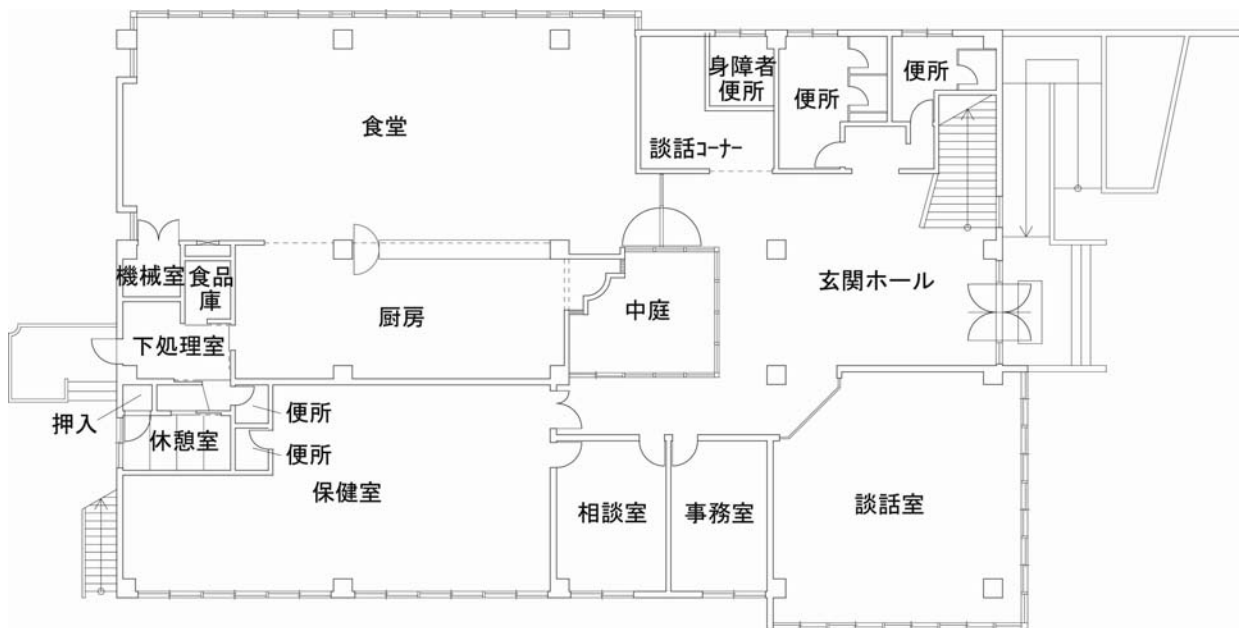
4階平面図

(出典 総務課施設係 Web ページ)

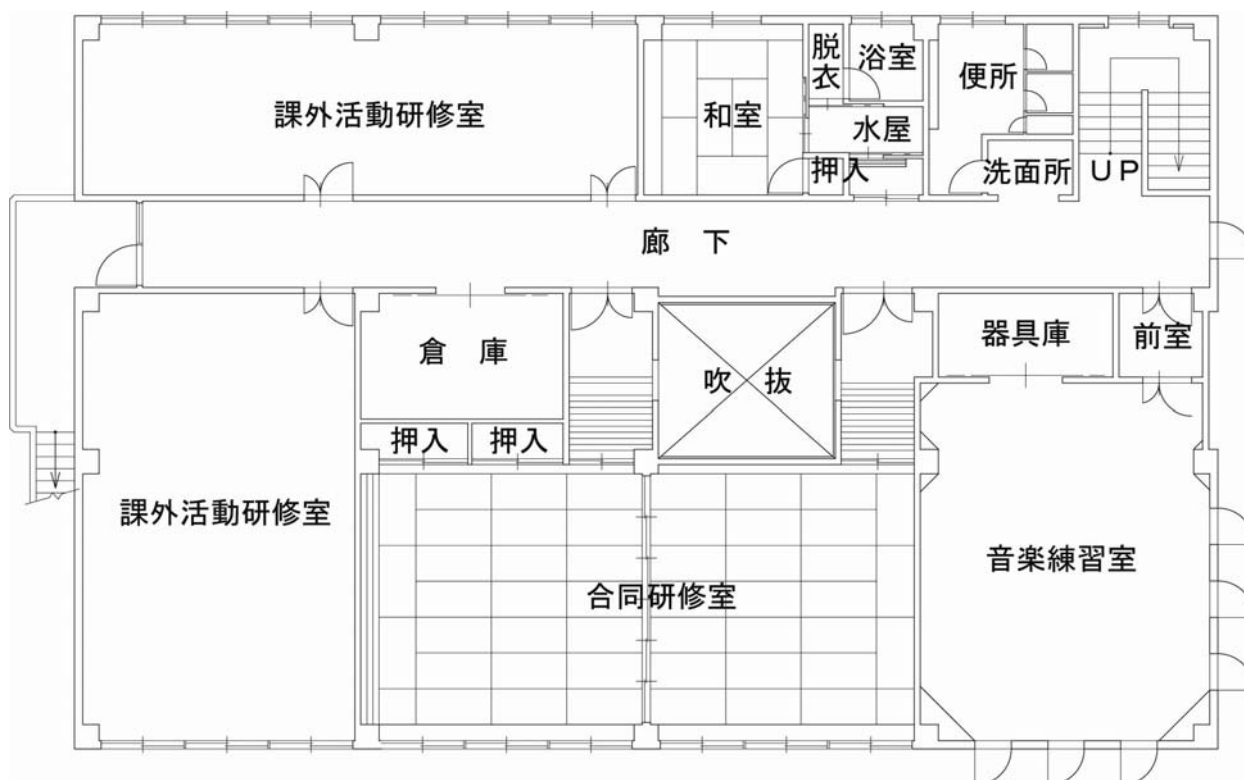


(資料7-1-②-4 各施設の配置)

白砂会館



1階平面図



2階平面図

(出典 総務課施設係 Web ページ)

(分析結果とその根拠理由)

自主的学習環境及び厚生施設、コミュニケーションスペース等のキャンパスの生活環境を整備しており、学生が有効に利用している。

自主的学習施設として図書館情報センター、学習アトリエ、各学科製図室・演習室等を整備しており、放課後利用する学生も多い。また、白砂会館、食堂、図書館ロビー、コラボレーションゾーン、中庭、売店等の厚生施設も有効に利用している。特にコラボレーションゾーンは、その多くを各科の教員研究室の前に設置しており、厚生施設としてだけではなく、自主的学習施設としてあるいは、教員との交流の場として機能している。

**観点7-1-③： 学習支援に関する学生のニーズ（例えば、資格試験や検定試験受講、外国留学等に関する学習支援等が考えられる。）が適切に把握されているか。**

(観点に係る状況)

学生の要望を聞くため、準学士課程と専攻科課程の学生に対して授業評価アンケートを実施している。その結果や学生から出された要望は学内専用のWebページで公開しており、全教職員・学生に開示している。また、実用英検、TOEIC、工業英検、及び電気技術者資格試験、情報処理技術者試験等の資格試験について、各学科・科目の担当教員が受験案内を行っている。加えて、補習を実施するなど、受験の便宜を図って学生の要望に応じている。外国留学に関しては、学級担任が学生の要望を把握し指導・助言を行うように努めている。この他に、「相談箱」を校内に3カ所設置している。

(分析結果とその根拠理由)

授業評価や学習環境に関するアンケートにより、学生のニーズの把握に努めている。また、学習支援に関する学生のニーズは、教科担当や担任が、授業、ホームルームの際に把握するよう努めている。これらの事実から、学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されていると判断する。

**観点7-1-④： 資格試験や検定試験受講、外国留学のための支援体制が整備され、機能しているか。**

(観点に係る状況)

資格試験や検定試験に関する案内は、掲示物で行ったり、学科の担当教員が学生に直接行ったりしている。TOEIC、実用英語技能検定試験、工業英語能力検定試験に関しては年数回のIP試験を実施し、受験の便宜を図っている。これらの試験に合格または好成績を修め、申請があった場合は、英語自由選択の修得単位として認定している（資料5-1-②-4、83～85ページに前出）。また、各学科で重視している資格・検定試験については、補習を実施するなど受験を奨励している。資料7-1-④-1に示すように多くの学生が資格・検定試験に合格している。外国留学については、外国の高等学校または大学において良好に学習したと認める場合には、30単位を超えない範囲で単位の修得を認定する制度がある（資料5-1-②-2、82～83ページに前出）。

## 資料7-1-④-1 資格試験の合格状況

## 平成18年度

工業英語検定： 4級 57名  
                   3級 1名  
 実用英語検定： 準2級 3名  
 TOEIC： 4名（単位申請者）  
 基本情報技術者試験： 3名  
 ソフトウェア開発技術者試験： 1名  
 危険物取扱者乙種： 28名

## 平成17年度

工業英語検定： 4級 92名  
 実用英語検定： 2級 3名  
                   準2級 6名  
 TOEIC： 2名（単位申請者）  
 基本情報技術者試験： 4名  
 初級システムアドミニストレータ試験： 5名  
 ソフトウェア開発技術者試験： 1名  
  
 危険物取扱者乙種： 13名  
 二級ボイラー技師： 2名

## 平成16年度

工業英語検定： 4級 38名  
                   3級 4名  
 実用英語検定： 準2級 16名  
 TOEIC： 9名（単位申請者）  
 基本情報技術者試験： 9名  
 初級システムアドミニストレータ試験： 3名  
 ソフトウェア開発技術者試験： 1名  
 二級ボイラー技師： 15名

（出典 学生課及び各学科資料）

## （分析結果とその根拠理由）

資格試験や検定試験受講，外国留学のための支援体制を整備しており機能している。

資格試験や検定試験の受験案内を行うとともに，学校を会場として提供することで受験を促している。実用英検，TOEIC，工業英検試験では単位修得の認定を行っている。さらに，外国留学に関する規則を設けており，外国の大学等の単位を修得単位として認める制度がある。

観点7-1-⑤： 特別な支援を行うことが必要と考えられる者（例えば、留学生、編入学生、社会人学生、障害のある学生等が考えられる。）への学習支援体制が整備されているか。また、必要に応じて学習支援が行われているか。

（観点に係る状況）

資料7-1-⑤-1に示すように、留学生が毎年在籍している。留学生の教育・生活指導は、留学生指導教員が中心となって「留学生指導の手引」をもとに当たっている（資料7-1-⑤-2）。また、同じクラスの学生をチュータとして配置し、学習及び日常生活の支援を行っている（資料7-1-⑤-3）。また、留学生に対する教育課程上の配慮として、第3学年で「日本語教育」週2時間を実施している（資料7-1-⑤-4）。

編入学生については、担任や教科担当者が必要に応じて学習指導に当たっており、数学科では補習授業も行っている。生活面については担任が相談、指導を行っている。

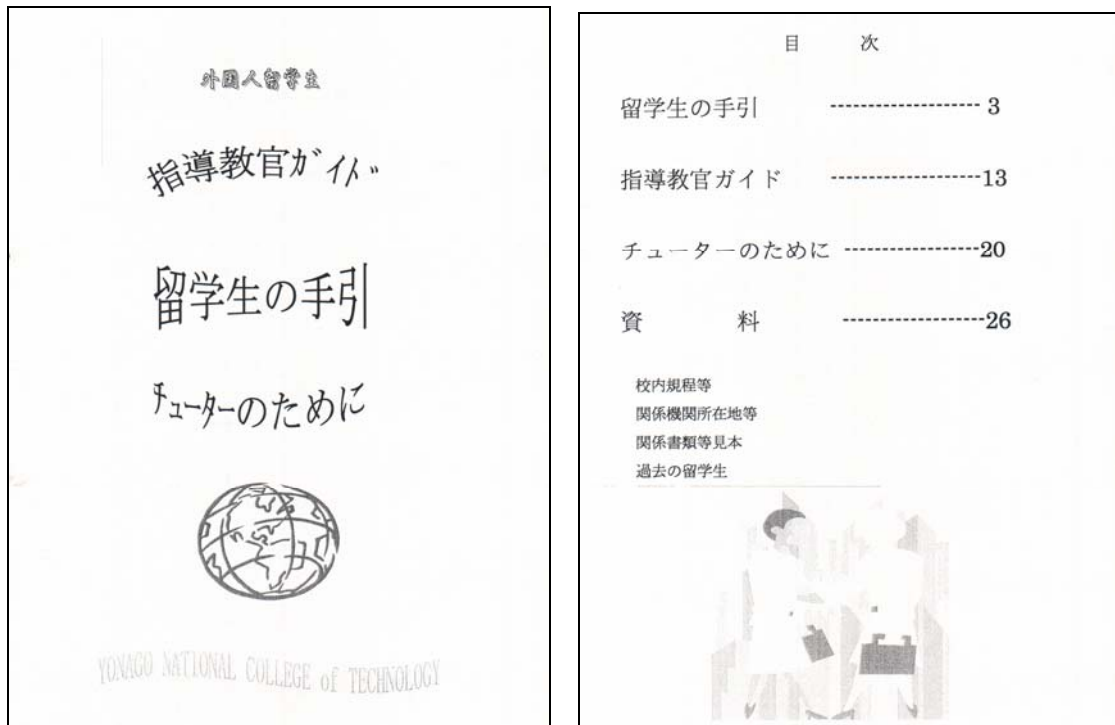
現在、車椅子利用の学生1名が専攻科第1学年に在籍している。車椅子に乗ったままでも、問題なく校内を移動でき、学習に支障がないようにエレベータ、スロープ等バリアフリー化を図っている（資料7-1-⑤-5）。

資料7-1-⑤-1 留学生の入学数

	H13	H14	H15	H16	H17	H18
機械工学科	0	1	1	0	1	1
電気情報工学科	0	1	0	0	1	0
電子制御工学科	1	0	1	1	1	0
物質工学科	0	0	0	0	0	0
建築学科	0	1	1	0	0	1
合計	1	3	3	1	3	2

（出典 学生課資料）

資料 7-1-⑤-2 留学生の手引



(出典 留学生の手引)

資料 7-1-⑤-3 チューターの人数

	H14	H15	H16	H17	H18
機械工学科	1	2	1	1	2
電気情報工学科	1	1	0	1	1
電子制御工学科	1	1	2	2	1
物質工学科	0	0	0	0	0
建築学科	1	1	1	0	1
合計	4	5	4	4	5

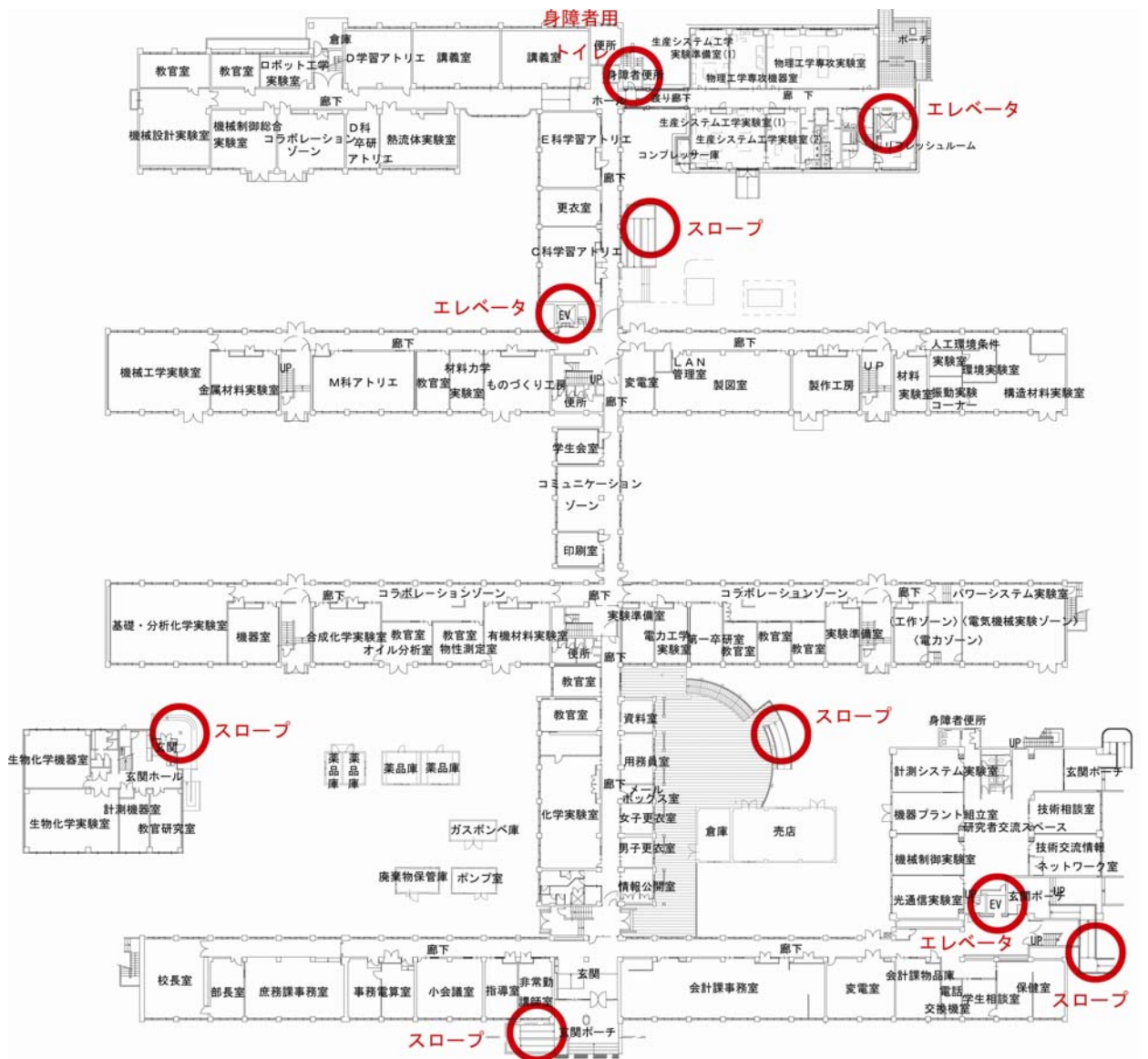
(出典 学生課資料)

## 資料 7-1-⑤-4 「日本語教育」シラバス

科目コード		授業科目	国語(日本語教育)	担当教官	■■■■■
対象学生	留学生 3 学年			開講学期	通年
				必・選 単 位 数	必修 2 単位
授業概要	日本初級コースを終了した留学生を対象とし、さらに日本語能力を発展させることを目指す。ある程度の読解はできるが、話す能力はまだ低い学生が多いので、できる限り発言の機会を与え日本語に慣れてもらう。従って、教授法は日本語を日本語で教えるダイレクトメソッドを採用する。				
到達目標	1) 日本語能力検定試験2級の合格を目指すこと 2) 日本語能力試験1級を受験する実力を培うこと 3) ニュースや新聞の日本語が理解出来ること 4) 日本人と意見交換ができるだけの日本語能力をつけること				
授業の進め方と アドバイス	毎回問題集を中心にいろいろな日本語を扱い、問題演習と共に、高等で自分の意見を効果的かつ論理的に述べる練習をする。英語での解説はできるだけ少なくし、原則として日本語を使って教授する。				
授業内容 スケジュール	回数	授業内容			
		第 1週:漢字 読み方 1 第 2週:漢字 読み方 2 第 3週:漢字 読み方 3 第 4週:漢字 書き方 1 第 5週:漢字 書き方 2 第 6週:漢字 書き方 3 第 7週:語彙 適語の選択 1 第 8週:語彙 適語の選択 2 第 9週:語彙 適語の選択 3 第 10週:語彙 単語の意味 1 第 11週:語彙 単語の意味 2 第 12週:語彙 単語の意味 3 第 13週:読解 同義文 1 第 14週:読解 同義文 2 第 15週:読解 同義文 3 前期末試験	第16週:読解 要旨の把握 1 第17週:読解 要旨の把握 2 第18週:読解 要旨の把握 3 第19週:読解 長文の総合問題 1 第20週:読解 長文の総合問題 2 第21週:読解 長文の総合問題 3 第22週:読解 長文の総合問題 4 第23週:読解 長文の総合問題 5 第24週:文法 穴埋め問題 1 第25週:文法 穴埋め問題 2 第26週:文法 文章完成問題 1 第27週:文法 文章完成問題 2 第28週:総合演習 1 第29週:総合演習 2 第30週:総合演習 3 学年末試験		
教科書	毎回プリントを配付				
参考書	日本語能力試験2級、1級問題集 (アルク)				
関連教科	英語 日本語 社会				
基礎知識	日本語基礎文法				
成績の評価方法	総合評価割合			その他は授業参加の積極性、態度、発言、理解度などを総合的に評価する。	
	定期試験		50%		
	レポート		%		
	演習・小テスト		%		
	その他		50%		
			100 %		

(出典 米子高専シラバスシステム)

資料 7-1-⑤-5 エレベータ，スロープ等の配置図



(出典 会計課施設係 Web ページ)

(分析結果とその根拠理由)

特別な学習支援が必要な者に対して学習支援体制があり、機能している。

留学生に対する教育指導と生活指導は、主に留学生指導教員と学生のチュータが行っている。また、「日本語」を教育課程に組み込んでいる。第4学年への編入生に対しては、入学前の事前指導や入学後の学習指導を適宜行っている。さらに、障害を持つ学生に対しては、設備的な対応を図ると共に学級担任を中心とする支援体制を整備している。

観点7-1-⑥： 学生のクラブ活動や学生会等の課外活動に対する支援体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

本校の課外活動には、学生会を中心とする学生会活動及びクラブ・同好会活動の他に、ロボットコンテスト等各種コンテストのために組織されたグループによる課外活動がある。いずれも、学生主事を中心とする教職員による助言・指導体制を整えている。資金面では、学生会費及び後援会の諸大会の助成費から、参加費・登録料、各種大会等への参加旅費などの補助が行われている。資料7-1-⑥-1に学生会会則を、資料5-4-②-5(105ページに前出)に組織図を示す。

1) 学生会活動に対する支援

学生会には、組織として執行委員会があり、行事・予算等を企画・立案し、評議員会を経て学生総会に諮っている。学生会行事として、球技大会や高専祭があり、執行委員会は必要に応じて実行委員会を組織し、学生部と密接な連携をとりながら、企画・運営を行っている(資料7-1-⑥-2)。

2) クラブ活動に対する支援

本校には、20の文化系クラブ・同好会と18の運動系クラブ・同好会がある。観点2-2-③で述べたようにクラブ活動に対する支援として、全クラブ・同好会に指導教員を配置している。特に、体育系クラブには複数の指導教員を配置し、必要に応じて外部コーチも導入している(資料2-2-③-1, 31ページに前出)。また、各クラブ・同好会における指導的立場にある学生を対象とするリーダー研修会(資料7-1-⑥-3)を行っている。各クラブには、活動場所と部室を確保しており、円滑な活動を促進している。また、長期休業中の閉寮期間には、寮生の宿泊場所を校内に用意し、その活動を支援している。

3) 各種コンテスト活動に対する支援

ロボットコンテスト・プログラミングコンテスト・デザインコンペティションの活動は、原則的に学科に帰属するため、担当学科で選ばれた教職員が指導・助言を行う体制を取っている。また、ロボットコンテストの校内大会の際には、必要な物品、競技フィールドの作成等を、ものづくりセンターが支援している。長期休業中の閉寮期間には、クラブ活動と同様、校内に寮生の宿泊場所を用意している。



資料 7 - 1 - ⑥ - 1 学生会会則

1 1. 米子工業高等専門学校学生会規約

**第 1 章 総則**

**(名称)**

**第 1 条** 本会は米子工業高等専門学校学生会と称する。

**(目的)**

**第 2 条** 本会は自由と責任の尊重を基調として、学生生活の充実を図り、民主的な学校生活の推進に協力し、教育目的達成に資すると共に会員相互の親睦と心身の向上を図るをもって目的とする。

**(会員)**

**第 3 条** 本校の学生は全て本会の会員となる。

**(会員の権利と義務)**

**第 4 条** 本会の会員は、第 2 条の目的を達成するために、この規約に定められてある権利と義務を有する。

**(機関)**

**第 5 条** 本会を円滑に運営するため次の機関をおく。

- (1) 総会
- (2) 評議会
- (3) 執行委員会
- (4) 学級会
- (5) 部
- (6) 監査委員
- (7) 選挙管理委員会

**第 2 章 総会**

**(権限)**

**第 6 条** 総会は本会の最高議決機関とする。

**(定期総会)**

**第 7 条** 定期総会は年 1 回とし原則として 4 月に開かれる。

**(臨時総会)**

**第 8 条** 臨時総会は次の場合に開かれる。

- (1) 会員の 4 分の 1 以上の署名による要求があった場合
- (2) 評議会の要求があった場合
- (3) 会長がその必要を認めた場合

(後略)

(出典 平成 18 年度学生便覧 p. 76)

資料 7-1-⑥-2 学生部教員の役割分担

1. 職務の主な担当者

山藤	総括
河野・大庭	学生会、プロコン
平澤・松本	学校行事、デザコン、生活指導・支援（全員）
蔵岡・中島	指導連盟、車両通学、女子学生指導
権田・西尾	クラブ関係、ロボコン
※ 校外補導	全員で分担

(後略)

(出典 学生会会議事録 H18. 3. 22)

資料 7-1-⑥-3 リーダー研修会の資料

平成 18 年度クラブ・同好会リーダー研修会実施要項

1. 目的 リーダーとしての意識を高め、課外活動を行うために必要な知識と具体的な手法を習得する。
2. 日時 平成 18 年 6 月 20 日（火）16 時 30 分～17 時 50 分
3. 場所 合同講義室
4. 講演 組織（クラブ）をまとめていくためのリーダーの役割（仮）  
講師 松江工業高等専門学校 人文科学科 教授 河原健次氏
5. 対象者 体育系クラブ・同好会  
キャプテン・3～5 年生のリーダー、及びマネージャー計 3 名以上  
指導教員（希望者）  
学生会体育局長  
文化系クラブ・同好会  
キャプテン・3～5 年生のリーダー、及びマネージャー計 2 名以上  
指導教員（希望者）  
学生会文化局長
6. その他 参加者は筆記用具を持参すること。

(出典 学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校での学生の課外活動の支援は、学生主事を中心とする教職員による助言・指導体制で行われており、機能している。また、クラブ・同好会及び各種コンテストに対する活動に対しても指導教員を配置している。このように本校では、学生のクラブ活動や学生会等の課外活動に対する支援体制を特に整備し、充実させている。さらに、長期休業中の閉寮期間には、クラブ・同好会及び各種コンテストの活動に参加する寮生のために、校内に宿泊場所を用意して支援している。

**観点7-2-①： 学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。**

(観点に係る状況)

学生の厚生補導、保健衛生などの学生の生活面に係わる指導・相談・助言については、その必要事項について学生委員会（資料2-2-①-8，27ページに前出）で審議し、決定する。また、学級担任は「学生生活指導の手引」（別添資料2-2-③-2）に基づき、対象学生の把握と指導・相談・助言を行っている。観点7-1-①に記したとおり、学生の生活面での相談は学生相談室（資料2-1-③-4，19ページに前出）で積極的に受けており、学級担任との連携はもとより専門の医師やカウンセラーによる相談体制も整えている（資料7-1-①-1，148ページに前出）。また、保健室には看護師が常駐しており、学生への健康相談や怪我などの応急処置ができる体制を整えている。セクシャル・ハラスメントについても、その防止及び苦情相談を受ける体制を整えている（資料7-2-①-1）。

入学料及び授業料免除、奨学金などの学生の経済面における指導・相談・助言についても、その必要事項について学生委員会で審議し、決めている。また、学級担任は「学生生活指導の手引」に基づき、対象学生を把握して学習、生活面に関する指導・相談・助言を行っている。学生課学生係は、これらの制度について学生への周知を掲示や説明会等で行っている。資料7-2-①-2に授業料の免除を受けた学生数、資料7-2-①-3に奨学金利用学生数を示す。この他にも鳥取県等の奨学金制度についても掲示により周知しており、利用する学生もいる。

資料7-2-①-1 セクシュアル・ハラスメントの防止等に関する規則

米子工業高等専門学校におけるセクシュアル・ハラスメントの防止等に関する細則

(趣旨)

第1条 米子工業高等専門学校(以下「本校」という。)におけるセクシュアル・ハラスメントの防止等については、独立行政法人国立高等専門学校機構セクシュアル・ハラスメント防止等に関する規則(平成16年4月1日独立行政法人国立高等専門学校機構規則第26号)及び他の法令等に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

(防止等対策)

第2条 本校におけるセクシュアル・ハラスメントの防止等に関し適切な対策を講じるため、運営会議において次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 防止及び排除に関すること。
- (2) 苦情相談体制に関すること。
- (3) 事実関係の調査に関すること。
- (4) 加害者に関する指導等に関すること。
- (5) 被害者に関するカウンセリングに関すること。

(調査委員会の設置)

第3条 校長は、セクシュアル・ハラスメントの事実関係等の調査を行うため、セクシュアル・ハラスメント調査委員会(以下「調査委員会」という。)を必要に応じ、設置する。

2 調査委員会の委員は、校長がその都度指名する。委員には、外部の者を指名することができる。

(後略)

(出典 米子工業高等専門学校規則集データベース)

資料7-2-①-2 授業料免除者数

年度	区分	在学生数	申請者数	全額免除	半額免除	否免除者	比率%	収入予定額	免除可能額	実施額	免除率
16	(前期)	1,020	122	37	40	45	7.5	116,280,000	6,162,840	6,198,000	5.33
	(後期)	1,014	103	40	46	17	8.5	115,596,000	6,126,588	7,182,000	6.21
17	(前期)	1,058	108	45	22	41	6.3	124,103,400	6,577,480	6,568,800	5.29
	(後期)	1,050	86	45	32	9	7.3	123,165,000	6,527,745	7,155,300	5.81
18	(前期)	1,070	122	41	42	39	7.8	125,511,000	6,652,083	7,272,600	5.79
	(後期)	1,062	116	47	60	9	10.1	124,572,600	6,602,348	9,032,100	7.25

(出典 学生課資料)

資料7-2-①-3 日本学生支援機構奨学金利用学生数

## 5 日本学生支援機構奨学生数 Scholarship Students

平成19年3月現在 As of March, 2007

種別	学年	第一種奨学金		第二種奨学金	計	在籍学生数	在籍学生に 対する比率 %
		自宅通学	自宅外通学				
本科	1 学年	9	12		21	221	9.5
	2 学年	8	6		14	202	6.9
	3 学年	16	14		30	204	14.7
	4 学年	19	4	4	27	214	12.6
	5 学年	24	13	3 (2)	40 (2)	178	22.5
専攻科	1 学年	1	3	1 (1)	5 (1)	18	27.8
	2 学年	3	3	2	8	27	29.6
計		80	55	10 (3)	145(3)	1,064	13.6

( )は第一種奨学生で第二種奨学生であるもの

(出典 平成19年度学校要覧 p.30)

(分析結果とその根拠理由)

学生の生活や経済面での指導・相談・助言は、基本的には学生委員会が中心となって行っている。さらに身近な相談窓口としては担任制が機能している。生活面での複雑な相談については、学生相談室や保健室が対応している。この他にセクシャル・ハラスメントの防止及び苦情相談を受ける体制も整えている。入学料及び授業料免除制度と日本学生支援機構奨学制度を学生に周知し説明会等により利用を促している。以上のように、学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備されており、機能している。

観点7-2-②： 特別な支援を行うことが必要と考えられる者（例えば、留学生、障害のある学生等が考えられる。）への生活支援等を適切に行うことができる状況にあるか。  
また、必要に応じて生活支援等が行われているか。

(観点に係る状況)

前述の通り、留学生の生活支援のため、留学生の指導教員とチュータ（学生）を配置している。また、留学生のために特別に補食室やシャワー室及びインターネット環境を整えている。毎年3月に留学生交流会を開催し、生活状況等の情報交換を行っている。

学校内にはスロープ、エレベータや障害者用トイレなどバリアフリー化しており（資料7-1-⑤-5、163ページに前出）、障害を持つ学生に対して施設の運用面でも配慮している。同時に通学や教室等の移動など生活面での支援も行っている。

(分析結果とその根拠理由)

特別な支援が必要な学生に対して生活面での支援が適切に行われている。留学生に対しては指導教員とチュータ(学生)を配置している。障害を持つ学生に対して、学校内をバリアフリー化しており、通学や教室等の移動を容易にして学習に支障がないよう配慮している。

**観点7-2-③： 学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。**

(観点に係る状況)

本校の学生寮には男子寮(高砂寮)と女子寮(白鳥寮)がある。各棟の部屋数、定員、居室面積を資料7-2-③-1に示す。寮内の施設設備として食堂、浴室、洗濯場、物干し場などの付属建物、補食室(各階に1~2室)、集会所、談話室、居室を転用したパソコン室・製図室などを設置している。セキュリティの面から、寮玄関及び廊下には防犯カメラを設置し、女子寮には外周センサーや指紋認証による入退寮システムを導入し、外部不審者に対する安全管理を十分に確保している。

寮生の指導は寮務部教員(寮務主事、寮務主事補)及び当直教員(男性教員1名)により行っている。寮生指導に関わる重要事項は、寮務委員会で審議決定する。資料7-2-③-2に寮の運営組織を示す。寮内においては、朝と夜に在室確認の点呼を実施している。授業日の朝には寮務部教員、寮務係職員が全ての寮生の居室を巡回し、寮生の生活状況を把握するように努めている(資料7-2-③-3)。さらに、当直教員は適宜寮内を巡回して寮生を指導し、指導日誌に必要事項を記入して、寮生指導に役立てている。寮務部教員のほか、寮務係の職員2名は事務的な仕事のほかに病気の学生などの対応もしている。さらに、女子寮については寮母3名を配置し、寮の巡回、点呼等の仕事以外に女子寮生の相談にも関わっている。

男子、女子寮ともに、寮生会を中心に第1学年の学生に対し寮内自習時間に自室で自習をするよう指導している。また、当直教員も質問に訪れる寮生に個別に対応している。さらに平成19年度からは、新たな試みとして寮務関係教員と高学年の補助学生による第1学年の学生に対する学習支援を実践している。

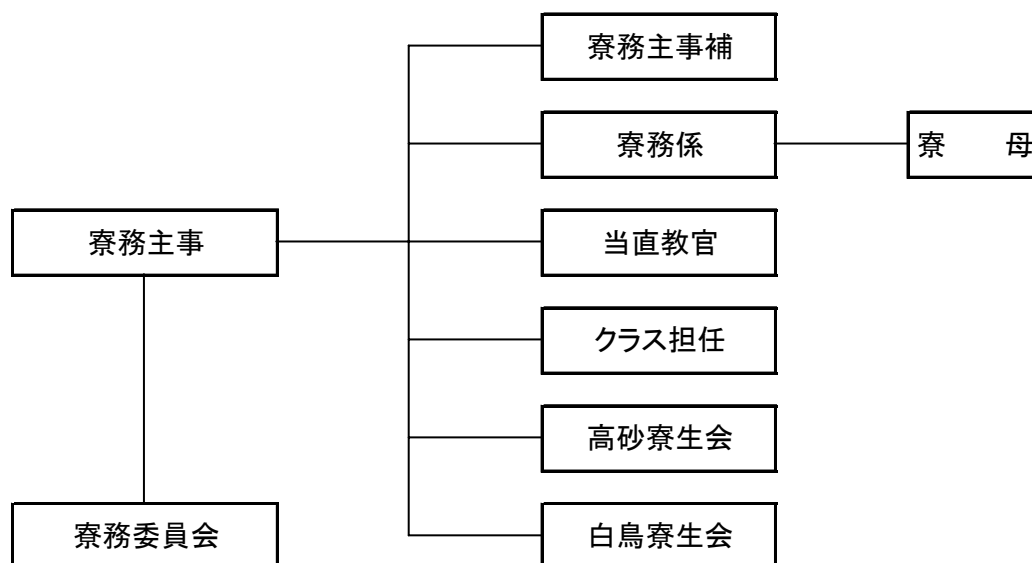
寮生は寮生会組織を中心に、清掃・点呼などの実質的な寮運営にあたっている(資料7-2-③-4)。年2回(年度当初と後期最初)寮生会の役員は役員研修会に参加し、低学年への指導、生活環境、年間行事などについて寮務部教員の助言をもとに研修を受けている。寮の年間行事も寮生会が中心となって実施している。また、役員及び一部の寮生は障害者施設への支援活動、近隣神社の清掃奉仕活動を行っている。

資料7-2-③-1 棟別居室数一覧表

寄宿舍名		対 象 学部等	男子 定員	女子 定員	総定員
にしりょう 西 寮	3名×33室	全学生	(0)	(0)	(0)
新規格寮 複	S38.39.45年度設置 RC-3 1,381m <sup>2</sup>		99人	0人	99人
ひがしりょう 東 寮	1名×15室	全学生	(7)	(0)	(7)
混住寮 個	S40年度設置 RC-3 326m <sup>2</sup>		15人	0人	15人
みなみりょう 南 寮	1名×25室 2名×23室	全学生	(0)	(0)	(0)
新規格寮	S44年度設置 RC-4 1,166m <sup>2</sup>		71人	0人	71人
しんなりりょう 新 南 寮	1名×66室	全学生	(7)	(0)	(7)
新寮、混住寮 (個)	H4年度設置 RC-4 868m <sup>2</sup>		66人	0人	66人
あさぎりりょう あさぎり寮	1名×24室 2名×6室	全学生	(0)	(0)	(0)
新寮 (個・複)	H4年度設置 RC-4 738m <sup>2</sup>		0人	36人	36人
ゆうぎりりょう ゆうぎり寮	1名×7室 2名×20室	全学生	(0)	(0)	(0)
新規格寮	S40年度設置 RC-3 913m <sup>2</sup>		0人	47人	47人
合 計	1名137室 2名×49室 3名×33室	全学生	(14) 251人	(0) 83人	(14) 334人

(出典 学生課寮務係保存資料)

資料7-2-③-2 寮の運営組織



(出典 寮生手帳 p.1)

資料 7 - 2 - ③ - 3 巡回記録

## 巡回記録

平成    年    月    日 (    )

寮務主事

項 目	南寮(巡回者 )		西(巡回者 )	
	部屋番号	学科・学年・氏名	部屋番号	学科・学年・氏名
寝 坊				
ドア鍵閉め忘れ				
窓鍵閉め忘れ				
電灯消し忘れ				
スイッチ切り忘れ				
清掃状況不良				
禁止物品持込み				
そ の 他				

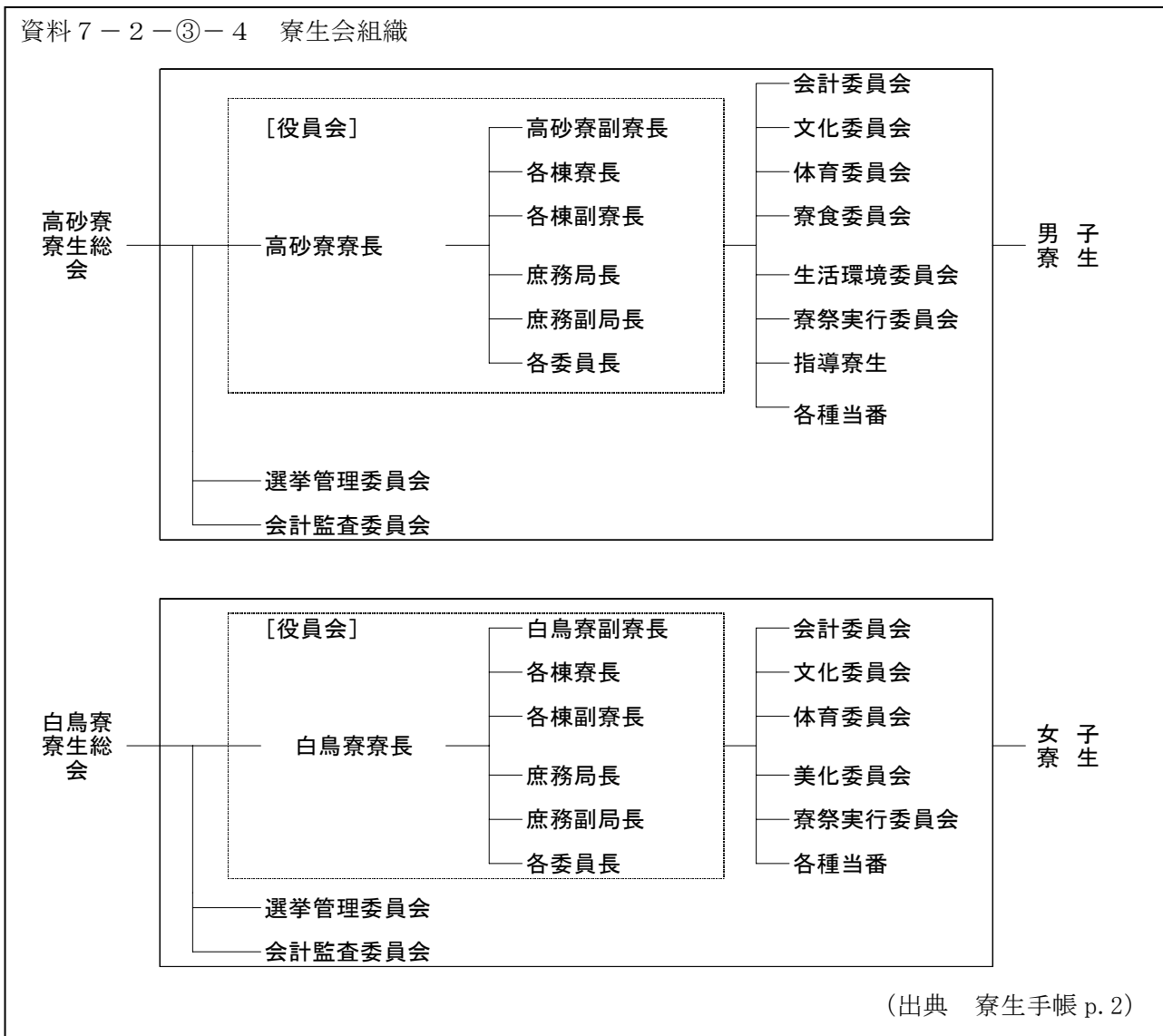
共同利用場所の状況 ◎良い ○普通 △やや悪い ×悪い

南寮				西寮			
1F 玄関		3F 廊下		1F 玄関		3F 廊下	
	廊下		補食室		廊下		補食室
	補食室		洗面所		補食室		洗面所
	洗面所				洗面所		4F 廊下
2F 廊下				2F 廊下			補食室
	補食室				補食室		洗面所
	洗面所				洗面所		

(出典 学生課寮務係保存資料)



資料7-2-③-4 寮生会組織



(分析結果とその根拠理由)

本校には学生寮を整備しており、学生の生活及び勉学の場として有効に機能している。寮内には食堂をはじめ種々の施設を整備し、居室にも学習と生活のための備品を設置しており、寮生が活用している。運用面での学習・生活支援として、寮生の自主学習制度、教員による寮生の学習・生活の指導体制があり、機能している。学生の組織としては寮生会役員を組織し、寮務主事と連携しながら規律ある寮生活を送るための活動を行っている。

観点7-2-④： 就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

学生の就職や進学に関する指導は、主として第5学年の学生に行っている。各学科の第5学年担任が、学生や保護者との懇談(資料4-3-①-3, 61ページに前出)を通して学生の希望を基に進路先の紹介や斡旋等、適切な進路指導を行っている。また、学科長と連絡を密に取りながら、新規就職先の開拓や確保の業務等、就職活動における窓口としての任務も行っている。また、第4学年の学生

においても、学級担任が適宜、就職担当から得た情報を学生に提供するなど、進路決定に向けて意識を高めさせている。さらに、第4学年の学生を対象にした就職セミナーを実施し、社会人になるにあたっての心構えと就職面接対策について考えさせる機会を与えている。資料7-2-④-2に事後に実施されたアンケート結果を示す。

各学科では求人等に関する就職情報や大学編入等の進学情報は各学科の掲示板に掲載され、また、進学に関する資料も学生課横の資料室に置かれており、学生は自由に閲覧することができる。

資料7-2-④-2 平成18年度「就職セミナー」アンケート集計結果

1. 大変参考になった	60人
2. ある程度参考になった	54人
3. あまり参考にならなかった	4人
4. 参考にならなかった	5人

(出典 学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

就職や進学などの進路指導を行う体制を整備しており、それらが機能している。その理由として、学校として統一的に行う進路指導や進路先企業の開拓、就職状況等の把握は第5学年担任と学生課が緊密に連絡を行いながら実施している。特に第4学年の学生に対しては、春休み中(3月)に実施する就職懇談会で、担任が学生や保護者からの個別相談に応じている。各学科でも就職・進学に関する、様々な資料を配布して学生の適性にあつた進路指導を行っている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

一般科目棟を含む学科棟のコラボレーションゾーンやマルチメディア自習コーナーを教員研究室前の廊下に配置しており、教員の指導・助言が受けやすく、学生の自主的学習にふさわしい環境になっている。また、進路指導についても、個別の相談に応じる体制が整っている。

本校には電動車椅子を使用する重度の障害者が在籍しているが、各施設をはじめ敷地内はバリアフリーとし、各施設には自動ドア、スロープ、エレベータ、障害者用トイレ等を設置して、学校内における学習や基本的な生活のための体制を整えている。

(改善を要する点)

該当なし

## (3) 基準7の自己評価の概要

本校では学習支援体制、課外活動に対する支援体制及び生活や経済面並びに就職活動等に関する支援体制を整備しており、それらが機能している。

学習を進める上でのガイダンスは、準学士課程においては新入生オリエンテーションを実施している。また、年度始めのLHRにおいても指導を行っている。さらに、各教科の最初の授業時間には、シ

ラバスを基にガイダンスを行っている。学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行うための学習支援として、クラス担任による様々な相談への対応、学生相談室での対応、補習・オフィスアワーによる支援等を行っている。

学生の自主的学習環境については、図書館及び情報教育施設、各専門科目棟の製図室・CAD室や学習アトリエのほか、一般科目棟を含む学科棟の教員研究室前の廊下にはコラボレーションゾーンやマルチメディア自習コーナーを整備している。厚生施設としては、食堂、売店、保健室、学生会室のほか、クラブや各種コンテスト参加学生の合宿等に利用できる宿泊施設として高砂会館、白砂会館がある。

資格試験に対する支援としては、資格試験の合格者に対して単位を認定する制度がある。外国人留学生に対する支援については、指導教員と学生のチュータ制度があり、学習面や生活面での相談に応じている。学生の課外活動に関しては、学生会規約を整備するとともに、クラブ指導教員や外部コーチが指導・運営に当たるほか、クラブ・同好会リーダー研修会を行うなど、課外活動充実のための支援体制を整備している。

学生の生活面の指導・相談・助言は、学生委員会、担任、学生相談室及び保健室が対応している。学生の経済的支援には、授業料免除や奨学金を斡旋する制度がある。各施設をはじめ敷地内はバリアフリーとし、各施設にはスロープ、エレベータ、障害者用トイレ等を設置している。

学生寮には共用施設として食堂、浴場、洗濯室、補食室、研修室を整備している。寮務主事の指導の下に寮生会による寮運営が行われ、規則正しい寮生活を送れる体制を整えている。

就職指導については、就職セミナー、進路懇談会が実施され、新たな就職先の開拓と確保等の活動も行っている。また、進路指導については第5学年担任を中心に行っている。



## 基準 8 施設・設備

### (1) 観点ごとの分析

観点 8-1-①： 学校において編成された教育課程の実現にふさわしい施設・設備（例えば、校地、運動場、体育館、教室、研究室、実験・実習室、演習室、情報処理学習のための施設、語学学習のための施設、図書館等、実験・実習工場さらには職業教育のための練習船等の設備等が考えられる。）が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備のバリアフリー化への配慮がなされているか。

（観点到に係る状況）

本校は、昭和 39 年の創設以来、高等専門学校設置基準第 22 条～第 27 条における施設、設備の基準を十分に満たしつつ、設置目的及び教育課程に対応して必要と考えられる施設、設備の充実、整備を計画的に行ってきた。

#### 1) 校地と校舎

本校の敷地面積及び校舎面積を、資料 8-1-①-1 に示す。設置基準による基準面積に比し、十分にその基準を満たしている（資料 8-1-①-2）。

#### 2) 運動場等

運動場等は、校舎と同一の敷地内にあり、サッカー・ラグビー場・400m陸上トラック、野球場、ハンドボールコート、テニスコート、プールを備え、授業や課外活動等に利用している（資料 8-1-①-3）。

#### 3) 体育館・武道場

第一体育館、第二体育館及び武道場を備え、授業や課外活動に利用している（資料 8-1-①-3）。第一体育館は、全校的な式典及び集会等に利用している。第二体育館には、筋力トレーニング設備も設置している。

#### 4) 教室

教室は、合同講義室等を含み 30 室あり、すべて空調機器を設置している（資料 8-1-①-4～6）。1～4 年生には、ホームルームを指定している。5 年生については、ホームルームを指定せず、必要な場合は、その都度選択教室等を割り振って使用している。生活・修学上の指導が異なる低学年と高学年とで生活空間をある程度分離するために、1～3 年生の教室は、管理棟北側の講義棟に配置し、4 年生のホームルームは、電子制御工学科棟の 1～3 階に配置している（資料 7-1-②-4, 153～157 ページに前出）ホームルームには、机、椅子、連絡用掲示板を備えている。一学年（200 名）収容可能な合同講義室及び選択教室、講義室 1, 2, 3 には、視聴覚設備を設置している。また、専攻科棟には、視聴覚機器を備えたオープンシアターを設置している。

#### 5) 実験室・演習室・研究室

一般科目の授業用に物理及び化学実験室（資料 8-1-①-7）を設置している。専門の教育研究に必要な実験室や演習室は、学科毎に配置している（資料 7-1-②-4, 153～157 ページに前出）。これらのほかに、全学科共用の応用物理実験室を設けている（資料 8-1-①-8）。

各学科には、学習アトリエ（資料 8-1-①-9）を設置している。これは、レポート作成や卒業研究等を行うための部屋で、机・椅子・パソコンを備えている。

一般科目教員室前、物理実験室前及び各専門学科には、コラボレーションゾーン（資料 8-1-①-9）を設置している。そこには机と椅子が整備され、自主学習や教員との交流の場として機能している。建築学科では、コラボレーションゾーンを活用して各種ゼミナールや卒業研究を行なっ

ている（資料 8-1-①-9）。

#### 6) 情報教育施設

情報教育施設は、資料 8-1-①-10~11のように整備している（観点 7-1-②参照、資料 7-1-②-3、152ページに前出）。また、本施設は、学内LAN幹線接続拠点であるとともに、インターネット受発信の窓口機能を有し、本校の情報通信上、重要な役割を果たしている。

#### 7) 語学学習のための施設

英語学習ソフトを利用してリスニング、スピーキング、リーディングの学習を行うためのe-L教室を、管理棟3階に設置している（資料 8-1-①-12）。

#### 8) 図書館

閲覧室、視聴覚教室、ゼミナール室、書庫を備えた図書館を設置している（資料 8-1-①-13、観点 7-1-②参照）。その他、視聴覚教材、インターネットを利用した学習や文献検索も利用できる。

#### 9) ものづくりセンター

本センターは、機械加工及び熱造形エリアにゾーンニングされ、テクニカルサポートルーム、旋盤、フライス盤等の工作機械、アーク溶接機等の溶接機械を備えている。本センターは、専門学科の実験実習、教材製作、ロボコンマシン製作の他、地域連携にも利用している。利用状況を資料 8-1-①-14~15に示す。

#### 10) 地域共同テクノセンター

リエゾン室や技術相談室、共同研究に利用可能な実験室を備えた地域共同テクノセンター（資料 8-1-①-16）を設置し、産官学連携の推進と共同研究を通して卒業研究並びに特別研究の活性化を図っている。資料 8-1-①-17に利用実績を示す。

#### 11) 福利厚生施設

福利厚生施設として、食堂を配置した白砂会館と高砂会館を備えている（資料 8-1-①-18）。これらは、職員の厚生施設として整備されたものであるが、クラブ・同好会の課外活動等の合宿場所等として有効に利用している（資料 8-1-①-19）。しかしながら、高砂会館は老朽化しており、運営会議の整備計画の中で検討している。飲料、軽食、文房具を販売する売店は講義棟近くの中庭に設置し、学生の利便を図っている（資料 8-1-①-18）。

#### 12) 自習・休憩設備

学生の自習学習や休憩場所として、前述のコラボレーションゾーン、図書館情報センターを開放している。

#### 13) 施設のバリアフリー化

校内の必要箇所にスロープ、エレベータ及び身体障害者用トイレ等を設置している（資料 8-1-①-20）。

#### 14) 施設・設備の管理

運営会議の決定事項を基に、総務課が施設関連予算の要求・施設改修・修理業務を行っている。また、法令等に基づく施設・設備の点検及び本校職員等による、清掃、自主点検を行っている。

資料 8-1-①-1

高等専門学校設置基準との比較

		基準面積	本校面積
校地	定員上の学生1人当たり 10 m <sup>2</sup>	10,000 m <sup>2</sup>	95,558 m <sup>2</sup>
校舎	入学定員を5学級に編成する場合	8265 m <sup>2</sup>	44916 m <sup>2</sup>

(出典 施設係資料)

資料 8-1-①-2

本館



新講義棟



専攻科棟



(出典 総務部資料)

資料 8-1-①-3

陸上競技場



野球場



ハンドボールコート



テニスコート



プール



第一体育館



第二体育館



武道場



(出典 総務部資料)

資料 8 - 1 - ① - 4

教室



合同講義室



(出典 総務部資料)



## 資料 8-1-①-5 合同講義室 (備品リスト)

設置場所	資産名称	規格
合同講義室	液晶プロジェクタ	マツタデンキ TH-L797JX
	機器収納ラック	マツタデンキ EIA-1400HE
	ミキサー	マツタデンキ WR-X02
	MDデッキ	松下 SJ-MD150
	カセットデッキ	ヤマハ KX-T900
	受信機	マツタWX-4020, WX-D4000
	A Vセレクタ	松下 RP-AV600
	ビデオ再生装置	松下 NV-HS10
	DVD再生装置	松下 DVD-RV35K
	LDデッキ	パナソニック CLD-313
	電源制御ユニット	松下 WU-L61
	アンプ	マツタデンキ WP-C104
	アナログプレーヤー	ビクター QL-Y44F
	ワイヤレスマイクロホン	パナソニック WX-4212
	ワイヤレスマイクロホン	パナソニック WX-4212
	マイクロホン	パナソニック WX-4300B
	マイクロホンスタンド	TOA ST-310F
	マイクロホンスタンド	松下 WN-275
	教壇	ライオン 2020*1220*200
	教壇	ライオン 2020*1220*200
	教壇	ライオン 2020*1220*200
	教壇	ライオン 2020*1220*200
	教壇	ライオン 2020*1220*200
	教壇	ライオン 2020*1220*200
	学生机	AICHI SCM-220-1T
	教卓	ライオン 516-23 No.136
	講演台	ライオン 516-27 No.105
	OHP	3M 2770T
	OHP台	ウチダ OT-100S
	音楽用五線紙黒板	パナソニック 片面グリーン5 線譜4段 片面無地ホワイト 900×1800
	メインスピーカー	パナソニック WS-AT80
	メインスピーカー	パナソニック WS-AT80
	ピアノ	ヤマハ G3E
	ピアノ	ローランド KR-577
	保管庫	1700X1250X1600
	保管庫	1700X1250X1600
	保管庫	1700X1250X1600
	保管庫	1700X1250X1600
	保管庫	ギター用 2450X450X1800

(出典 学生課教務係資料)

## 資料 8-1-①-6 選択教室, 講義室 (備品リスト)

設置場所	機器等名称	規格
選択教室 1	液晶プロジェクタ	ナショナル TH-750
	A V ラック	パナ工業 CQ-8031
	ビデオデッキ	ビクター HRDS1
選択教室 2	液晶プロジェクタ	ナショナル TH-750
	A V ラック	パナ工業 CQ-8031
	ビデオデッキ	ビクター HRDS1
選択教室 3	液晶プロジェクタ	ナショナル TH-750
	A V ラック	パナ工業 CQ-8031
	ビデオデッキ	ビクター HRDS1
講義室 1	液晶プロジェクタ	マツダデンキ TH-L501J
	ラック	マツダデンキ KB-1200
	ビデオデッキ	東芝 A-JS9
	LD デッキ	パナソニック LD-W1
	DVD 再生装置	松下 DVD-RV35K
	A V コントロールアンプ	パナソニック SU-AV100
	A V セレクタ	パナソニック RP-AV600
	OHP	3M 2770T
講義室 2	液晶プロジェクタ	ナショナル TH-750
	テレビ	東芝 29S77
	ラック	マツダデンキ KB-1200
	ミキシングパワーアンプ	パナソニック SU-AV505Z
	ビデオデッキ	東芝 A-J7
	DVD 再生装置	松下 DVD-RV35K
	メインスピーカ	パナソニック WS-AT80
	メインスピーカ	パナソニック WS-AT80
講義室 3	液晶プロジェクタ	ナショナル TH-750
	テレビ	東芝 29S77
	A V ラック	オーロラ
	ビデオデッキ	パナソニック NV-VP51S-S
	OHP	コクヨ J-HP-A103
	OHP 台	ウチタ 0T-100S

(出典 学生課教務係資料)

資料 8 - 1 - ① - 7

物理実験室



化学実験室



(出典 総務部資料)

資料 8 - 1 - ① - 8 応用物理実験室



(出典 総務部資料)

資料 8-1-①-9 コラボレーションゾーン，学習アトリエ等の配置

学習アトリエ



コラボレーションゾーン



卒研アトリエ (建築学科)



(出典 総務部資料)

資料 8-1-①-10 図書館・情報教育センター端末室



第1端末室  
Terminal Room 1



第2端末室  
Terminal Room 2

(出典 平成 18 年度学校要覧)

## 資料 8-1-①-11 図書館・情報センター

設置場所	機器名称	台数
第一端末室	教師用端末, DELL DIMENSION 4300S	1台
	学生用端末, 富士通FMV-C600	50台
	液晶プロジェクタ, DELL 5100MP	1台
	A4モノクロレーザープリンタ, 富士通 Printia LASER XL-5350	2台
第二端末室	教師用端末, DELL DIMENSION 4300S	1台
	学生用端末, 富士通FMV-C600	45台
	液晶プロジェクタ, SANYO LP-XG250	1台
	A4モノクロレーザープリンタ, 富士通 Printia LASER XL-5350	2台
インターネットルーム	学生用端末, DELL OptiPlex GX520	13台
	A4レーザープリンター, EPSON LP-1900	1台
マルチメディアルーム	デスクトップパソコン, DELL DIMENSION 8400	1台
	ノートパソコン, SONY PCG-F57 BP	1台
	Apple iBook M8599J-C	1台
	A0インクジェットプリンタ, CANON ImagePROGRAF AW7200	1台
	A3カラーレーザープリンタ, RICOH IPSiO Color 5100	1台
	A3スキャナ, EPSON ES-6000H	1台
	液晶プロジェクタ, 三菱 LVP-X300	1台
	80インチ電動スクリーン	1台
	HDD&DVDレコーダ, NEC AX300	1台
	DV&S-VHSビデオデッキ, SONY WV-DR9	1台
	DVD-RW/Rデッキ, Pioneer DVR-1000	1台
	Hi8ビデオデッキ, SONY EV-PR2	1台
MDレコーダ, SONY MDS-DL1	1台	
ホストマシン室	UNIX ユーザー認証, Fujitsu Sseries	1台
	メールサーバ, Fujitsu	1台
	NAS, DELL Power Vault 745N	1台
	DNSサーバ, SUN Microsystems COBALT QUBE3	1台

(出典 図書館情報センター資料)

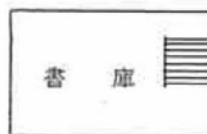
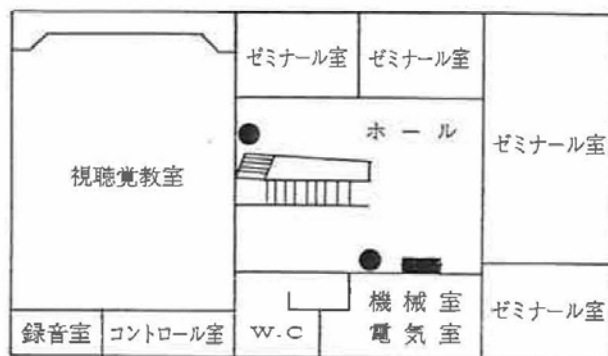
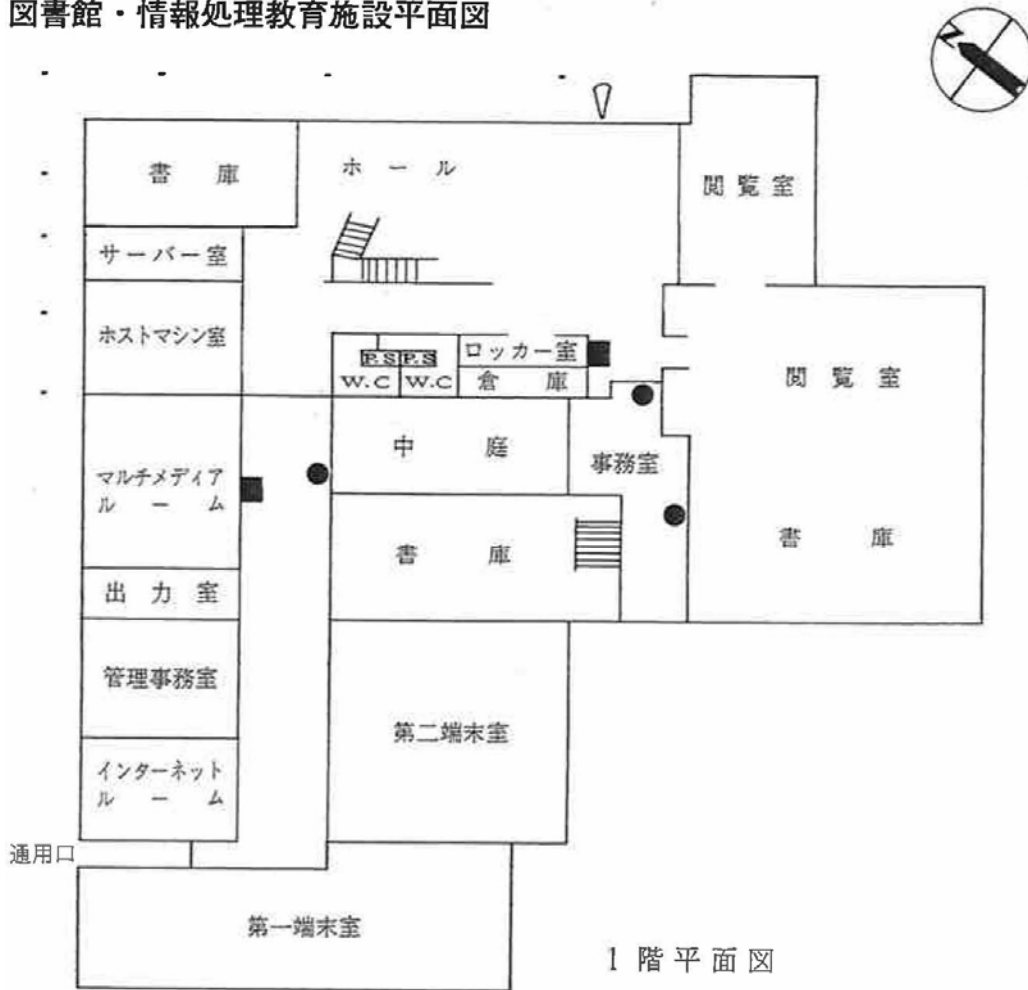
## 資料 8-1-①-12 e-L 教室 (設備リスト)

品 名	規 格	数 量	備 考
教師用端末	DELL OPTIPREX GX520	1 台	
学生用端末	DELL OPTIPLEX 745	4 9 台	
プロジェクター・スクリーン	SANYO PROxtraX	1 式	
スピーカー	TOA Wireless Amplifier	1 台	
使用ソフト	アルク・ネット・アカデミー 「スーパー・スタンダード・ コース」 (アルク社)		センター内 のサーバー 上にある 英語学習用 ソフト

(出典 総務課企画協力係資料)

資料 8 - 1 - ① - 13 図書館平面図

図書館・情報処理教育施設平面図



(出典 平成 18 年度学生便覧 p. 98)

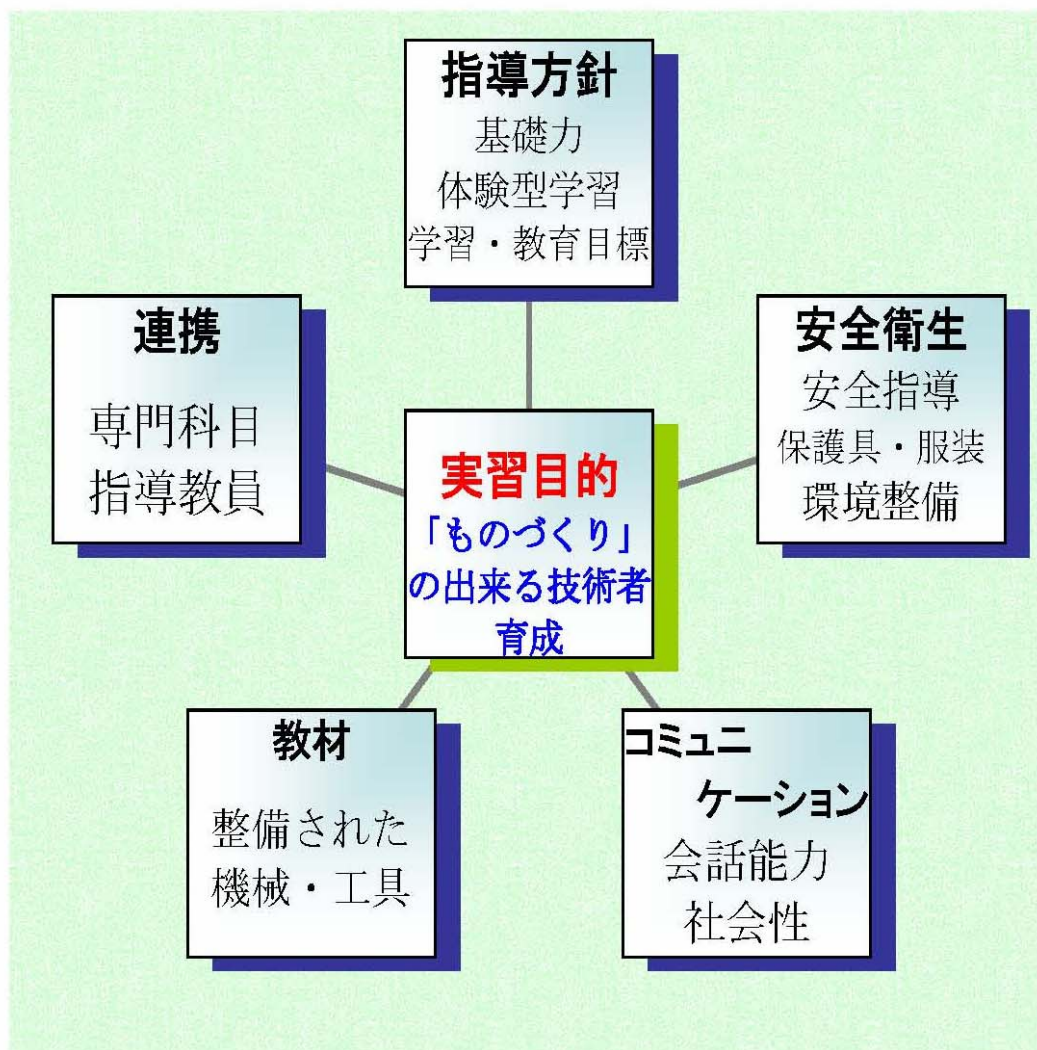
資料 8-1-①-14 ものづくりセンターの支援体制

【実験実習授業支援の進め方】

機械工作実習授業支援実施学科学年

機械工学科 1年生（通年）	電気情報工学科 1年生（前期）
機械工学科 2年生（通年）	
機械工学科 3年生（通年）	電子制御工学科 2年生（通年）
機械工学科 4年生（年間・随時）	

実験実習授業担当教員との、実習計画・テキスト・ガイダンス・安全等について連携確認を行い、「実習目的」を達成できるように教育支援、技術指導を実施しています。



(出典 ものづくりセンターレポート p.5, H.19. 3)



資料 8-1-①-15 ものづくりセンターの実習内容

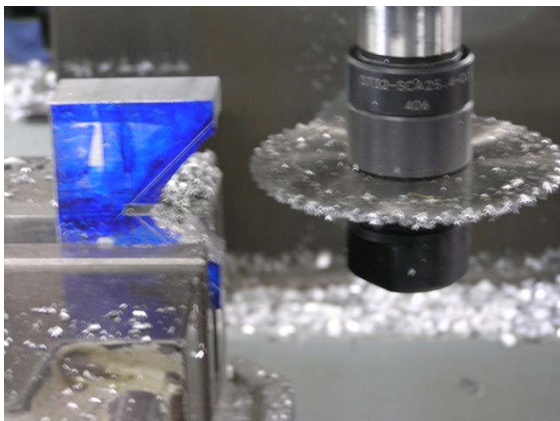
【機械工学科 2 年生 機械工作実習】

こんな実習テーマを実施しています

- ・ アーク溶接 強度試験片
- ・ TIG 溶接
- ・ 手仕上げ 定盤のすり合わせ
- ・ 測定 各種測定器の扱い
- ・ 電気実験 回路等
- ・ 旋盤 ネジ切削 ボルト, ナット
- ・ NCフライス盤
- ・ 総合実習 トースカン (設計~製作)



旋盤四ツ爪チャック芯出し作業



メタルソーによる溝入れ加工



TIG 溶接 (アルミ溶接)



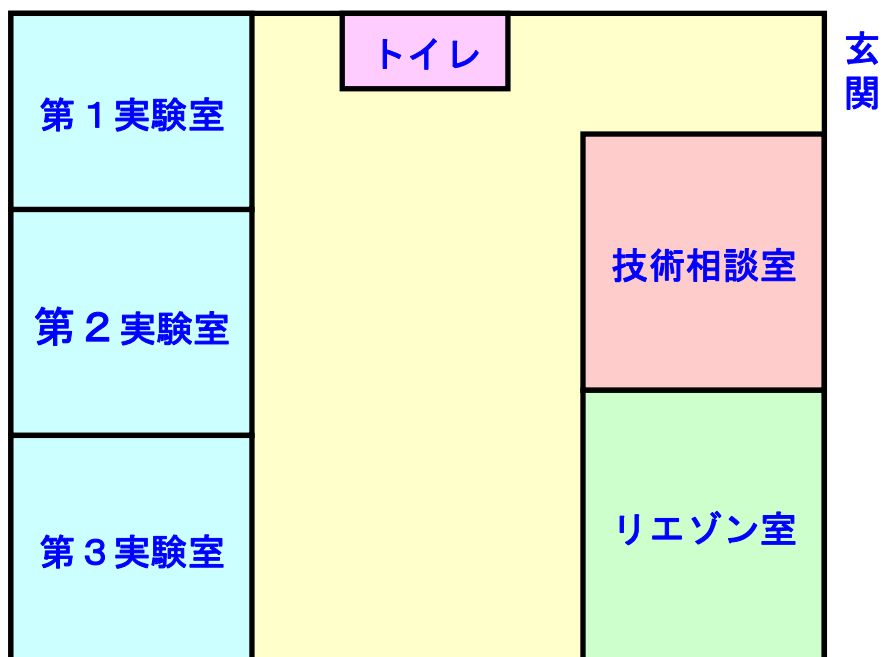
鍛造による野書き針製作



(出典 ものづくりセンターレポート p.9, H.19. 3)

資料 8 - 1 - ① - 16 地域共同テクノセンター

実験室等の配置



備品リスト

写真機	ビデオカメラ
ファックス	パーソナルコンピュータ
ビデオカメラ	三次元測定機
オーバーヘッドプロジェクター	非接触三次元形状入力機
プロジェクター	ハイビジョンビデオサーバ
ビデオコーダー	センサー制御装置
カラーディスプレイ	モータライズ回転ステージ
スクリーン	モータライズ直動機構
両袖机	映像入力装置
OA机	マルチフィーラ計測メカ装置
フィーラ式変位センサ	ハイビジョン監視装置
リモート I/O	映像出力装置
ビデオカメラ	リモートコントロール制御装置
開発用ハードウェア	赤外線熱画像処理装置
ディバグ	プロジェクター
HDVハイビジョンカメラ	プリンター
リモート I/O	電子計算機
制御専用PC	液晶プロジェクタ
制御回路モジュール	テレビ
液晶プロジェクションテレビ	カラーディスプレイ

(出典 米子高専 Web ページ, 総務部資料 )

## 資料 8-1-①-17 地域共同テクノセンターの利用実績

## 18年度の利用状況

月	テクノセンター関係	校内会議	その他
4	3	32	1
5			
6	1	1	
7	2		2
8	2	1	1
9	1		
10		1	1
11			
12		1	5
1	2		2
2	1		1
3	1		5
計	13	36	18

(出典 地域共同テクノセンター資料)

資料 8 - 1 - ① - 18 福利厚生施設

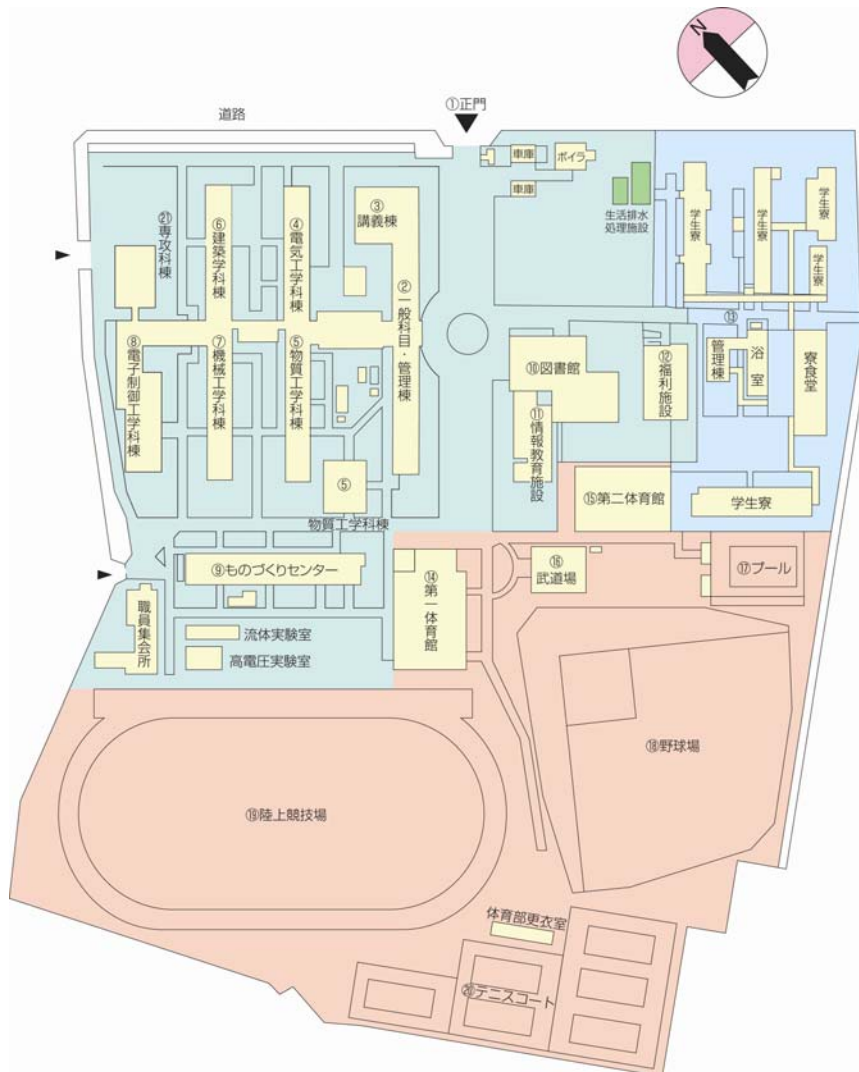
白砂会館



高砂会館



売店



①	Main Gate	⑪	Computer Center
②	Administration Office & General Education Building	⑫	Welfare Facilities
③	Lecture Building	⑬	Dormitory
④	Electrical Engineering Building	⑭	Gymnasium 1
⑤	Materials Science Building	⑮	Gymnasium 2
⑥	Architecture Building	⑯	Gym for Martial Arts
⑦	Mechanical Engineering Building	⑰	Swimming Pool
⑧	Electronic Control Engineering Building	⑱	Baseball Ground
⑨	Mechanical Practice Training Center	⑲	Track & Field
⑩	Library	⑳	Tennis Court
		㉑	Advanced Engineering Course Building

(出典 会計課施設係 Web ページ)

## 資料 8 - 1 - ① - 19 福利厚生施設の利用実績

## 合宿人数一覧表 (GW) 平成18年度 (4/29~5/6)

	宿泊場所	4/29	4/30	5/1	5/2	5/3	5/4	5/5	5/6		合計
バレーボール	白砂1B	4	5	5	5	6	6	6	6		43
山本英・松本正											
バスケットボール	白砂3・4	11	11	10	10	10	10				62
西尾・森田											
ソフトテニス	高砂3	5	5	5	5	5	5	5	5		40
越智・湯原・大塚宏											
卓球	高砂1	18	18	19	18	19	18	14	13		137
河野・山本幸・松本幸・											
野球(高野)	白砂1A		5	5	5	5	5	5	5		35
藤田・浅倉・能登路・北林・大庭											
サッカー	白砂1A	4	4	4	2	2	2	4	4		26
田中・兼子・千葉											
ラグビフットボール	白砂2	12	12	12	12	11					59
宮田・河添・岡部											
ハンドボール	高砂12	2	2	2	2	2	2	2	2		16
蔵岡・権田・小川和											
テニス	白砂1B	1	1	1	1	1	1	1	1		8
香川・足立新・池田彰											
バドミントン	白砂1B	1	1	1	1	1	1	1	1		8
川邊・藤田・矢壁											
合計		58	64	64	61	62	50	38	37		434

(出典 学生課学生係資料)

## 資料 8 - 1 - ① - 20 施設のバリアフリー化

車椅子対応エレベータ



身障者用トイレ



玄関前スロープ



(出典 総務部資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校が編成した教育課程の実現にふさわしい施設・設備を整備し、有効に活用している。その根拠として、校地、体育施設、教室等必要な施設を計画的に整備している。また、設備に関しては、授業の方法を工夫しやすいように、スクリーン、プロジェクタ等の視聴覚設備を備えた教室を多数に整備している。さらに、校内の必要箇所にはスロープ、エレベータ及び身体障害者用トイレ等を整備し、バリアフリー化している。一方、福利厚生施設である高砂会館は老朽化が進んでおり、整備計画の中で改築等の対策を講じる必要がある。

**観点 8-1-②： 教育内容、方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。**

(観点に係る状況)

情報教育施設を拠点に、校内ギガビットネットワークを敷設、全室に100Mbpsの情報コンセントを設置し、教職員や学生が情報ネットワークを利用できるようにしている。教育電算システムとして、OSにMicrosoft Windows XP Professional、ソフトウェアとしてMicrosoft Officeほか教育に必要なソフトウェアをバンドルしたPCを中心とするシステムを備えている(資料8-1-①-11, 185ページに前出)。

また、図書館においては、マルチメディアルーム、インターネットルームや図書館閲覧室内に常時使用可能な情報検索用PCを設置して学生の利便を図っている(観点7-1-②参照)。

平成18年度に、情報セキュリティの包括的なガイドラインとなる『米子工業高等専門学校情報セキュリティポリシー』(資料8-1-②-1, 別添資料8-1-②-1)を策定し、最高情報セキュリティ責任者である校長の下に、情報セキュリティ委員会を設置した。各部署単位で資料8-1-②-2のように組織化し、情報に関する安全確保を行なっている。

本年度中には、ネットワーク関連ハードウェアを全面的にリプレイスし、ネットワーク環境を整備する予定である(資料8-1-②-3)。

毎年4月に、新入生及び編入学生に対して、情報教育施設の利用方法の説明とネチケット教育を実施している(資料8-1-②-4)。低学年において情報基礎の授業を情報教育施設内で行うほか、学生の自習など授業時間外にも情報教育施設を開放して対応している(資料8-1-②-5)。また、長岡技術科学大学の電子ジャーナルデータベースコンソーシアムに参加し、卒業・特別研究学生が文献検索を自ら行うことができるように環境を整えている(資料8-1-②-6)。そのほか、ネットワークを利用して、シラバスの公開、成績報告等の教育情報の交換、各種事務処理やメールによる各種連絡等を行なっている。

資料 8-1-②-1 情報セキュリティポリシー

## 第 1 部 総則

### 1.1 ポリシーの位置付け

#### (1) ポリシーの位置付け

本ポリシーは、「政府機関の情報セキュリティ対策の強化に関する基本方針（平成17年9月15日付情報セキュリティ政策会議決定）」に基づき、米子工業高等専門学校（以下「本校」という。）が情報セキュリティの確保のために採るべき対策、及びその水準を更に高めるための対策の基準を定めたものである。

情報セキュリティ対策の包括的な規定として、本校の情報資産をあらゆる脅威から守るために必要な情報セキュリティの確保に最大限取り組むこととする。また、本校の全ての教職員（常勤職員、非常勤職員及び派遣職員等）は、この目的を果たすため、ポリシーの実施に責任を負うとともに、ポリシーを尊重し、遵守しなければならない。

#### (2) ポリシーの改訂

情報セキュリティの水準を適切に維持していくためには、状況の変化を的確にとらえ、それに応じて情報セキュリティ対策の見直しを図ることが重要である。このため、本ポリシーの見直しを定期的に行い、必要に応じて項目の追加やその内容の充実等を行うことによって、その適用性を将来にわたり維持するものとする。また、政府機関の統一基準が更新された場合、その内容を本校の対策基準に適切に反映させるものとする。

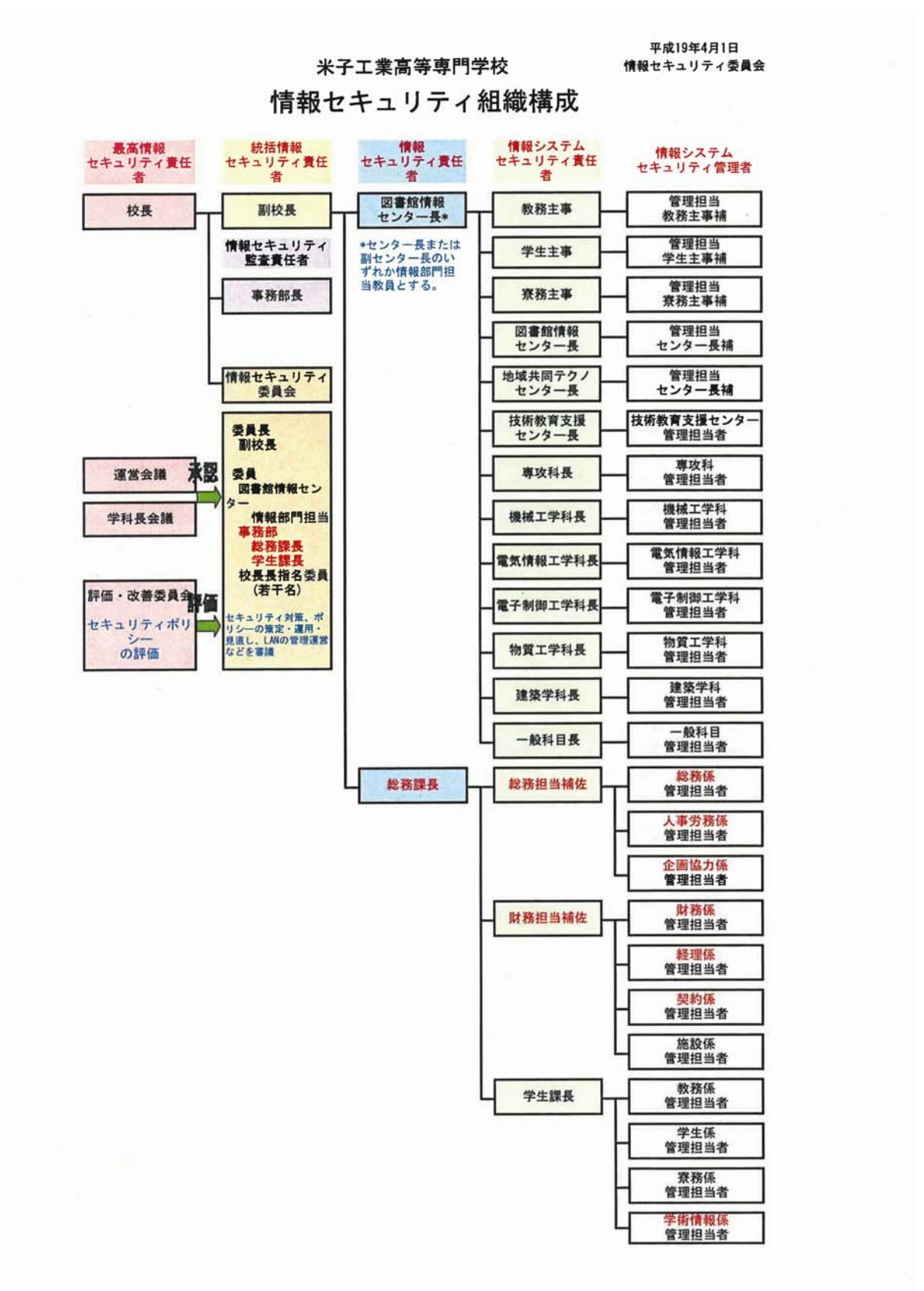
#### (3) 法令等の遵守

情報及び情報システムの取扱いに関しては、法令及び規制等（以下「関連法令等」という。）においても規定されているため、情報セキュリティ対策を実施する際には、本ポリシーのほか関連法令等を遵守しなければならない。なお、これらの関係法令等は情報セキュリティ対策にかかわらず当然に遵守すべきものであるため、本ポリシーでは、あえて関連法令等の遵守について明記していない。また、情報セキュリティ対策に係る内容について定めた既存の政府決定等についても同様に遵守すること。

（後略）

（出典 情報セキュリティポリシー）

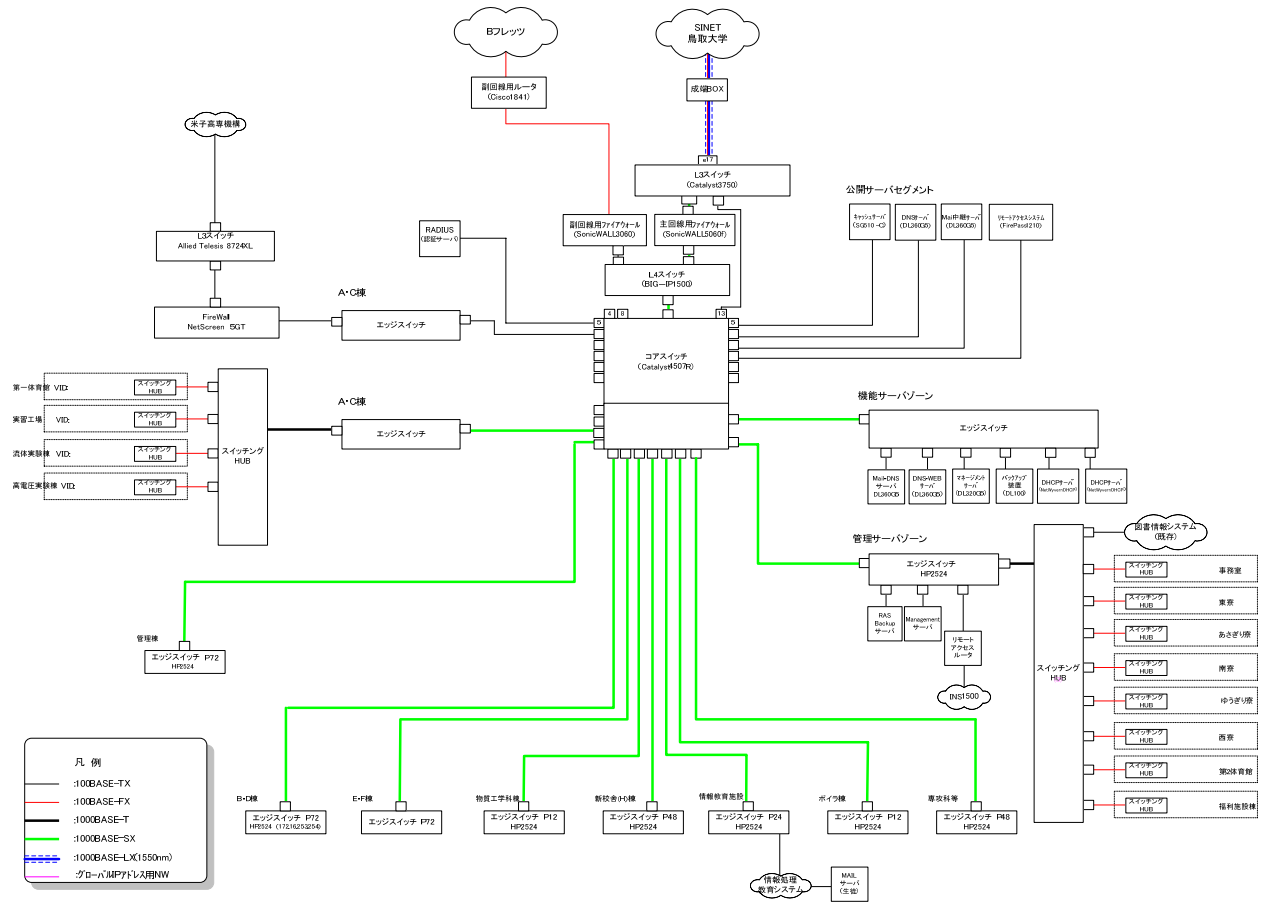
資料 8-1-②-2 情報セキュリティに関わる組織図



(出典 情報セキュリティポリシー)



資料 8-1-②-3 平成 19 年度導入予定のネットワーク構成図



(出典 図書館情報センター資料)

資料 8 - 1 - ② - 4 利用方法説明の際の配布書類

### 図書館情報センター情報教育施設利用の手引き

図書館情報センター（以下センター）では、情報処理（プログラミングや設計製図、情報検索など）の授業を行う施設を維持、管理しています。また学習目的である場合、授業時間外においても学生が施設を利用することができます。この手引きではセンターの施設利用に関して必要最低限の規則と手順について説明します。

#### 1. センター施設利用の規則

センターの施設は教育・研究の目的で利用するものですから、以下の行為は禁止します。よく熟読し、遺漏のないよう心がけて下さい。仮に以下の事項に違反するような重大な事故があった場合は、対象学生のアカウントの使用停止などの措置をとることもあります。その場合、情報処理関連授業の単位取得などに支障をきたしますので、十分に注意してください。

- ユーザ ID の第三者への譲渡、貸与
- パスワードの第三者への開示
- プライバシー及び第三者の名譽を傷つける行為
- 虚偽の情報の公開
- 他人を誹謗する行為
- ネットワークの運用に支障を及ぼすような行為
- システムの不正な利用または、それを助ける行為
- 計算機資源を不当に占有または、浪費する行為
- 他者のプログラムやデータ等を改変または破壊する行為
- 公序良俗に反する行為
- 営利を目的とした行為
- 通信販売を利用する行為
- 著作権等の法令に定める権利の侵害
- その他法令および社会慣行に反する行為

#### 2. パソコンのログイン・シャットダウン

##### 2.1. ログイン ID 及びパスワードの交付

センターでは、皆さんが本校へ入学された時点でセンターの施設を利用するためのログイン ID とパスワードを準備し、交付します。皆さんには卒業までの間、この ID とパスワードを使って施設を利用してもらいますが、交付した直後から ID とパスワードの管理責任は学生本人に移行します。パスワードは管理者でも復旧出来ませんので、忘失しないように十分注意してください。

##### 2.2. パソコンのログイン

パソコンの電源を投入するとログイン画面（写真

1)が表示されます。ユーザー名(U)及びパスワード(P)のテキストボックスに、交付されたログインIDとパスワードを入力して下さい。次にログオン先(L)が「JOHO」と表示されていることを確認し、「OK」ボタンをクリックしてログインしてください。

##### 2.3. パソコンのシャットダウン

端末を使用した後は必ず電源を切ってください。Windows XP のスタートメニュー（写真 2）から「シャットダウン」ボタンをクリックして、シャットダウンの画面を表示します。「実行する操作・・・」が「シャットダウン」になっていることを確認して、「OK」ボタンをクリックしてください。自動的に電源が切れます。




写真 1. センター端末のログイン画面




写真 2. スタートメニュー




写真 3. センター端末のシャットダウン画面

#### 3. 時間外の施設利用法

##### 3.1. 利用可能な時間

正規の授業以外の時間でセンター施設が利用可能な時間は、原則的に平日の昼休憩と放課後です。また、この時間内でもセンター施設を使った授業が実施されている場合は、利用できません。

##### 3.2. 時間外利用登録

センターの端末は常時、管理者の管理下にあり、正規の授業時間以外は下記の時間外利用登録をしないと端末へログイン出来ません。時間外に端末を利用する場合は、必ず時間外利用登録の手続きを行ってください。

センター管理室前の廊下に設置された端末（写真 4）から登録を行います。まず利用したい端末室が空いていることを確認します。以下は第一端末室の端末を利用する場合について説明します。

利用登録のトップページ（写真 5）から「第一端末室」のボタンをクリックすると、端末室のレイアウト画面（写真 6）が表示されます。利用可能な端末のボタンをクリックして、登録画面（写真 7）を開きます。登録画面の「利用番号」のテキストボックス内に交付された ID を入力し、適切な「使用終了予定時刻」をプルダウンから選択し、「使用申請」ボタンをクリックしてください。以上で手続きは完了です。

##### 4. その他

##### 4.1. メール利用について

センターでは学術的な利用を目的として学生にメールアドレスも交付しています。その理由により、商用サイトのユーザー登録等に使うことは禁止されています。

##### 4.2. ファイル共有ソフトなどの使用禁止

近年、Windy などのファイル共有ソフトの利用により個人情報や機密情報の漏洩や端末のウイルス感染など重大

事故が発生しています。本校のネットワークは学術目的のインフラを通じてインターネットに接続しており、利用方法も随時監視されています。ファイル共有ソフトの使用は禁止していますので、これを厳守してください。また、外部からのデータを利用する場合は、ウイルス等を持ち込まないように、入念にチェックしてください。




写真 5. 時間外利用申請トップページ




写真 6. 第一端末室のレイアウト画面




写真 4. 時間外利用登録用端末

#### 4.3. 参考

不明な点などは以下のサイトを参考にしてください。サイトを確認しても解決しない場合は、学級担任や指導教官を通じて、図書館情報センタースタッフに問い合わせをしてください。

校内ホームページ  
**【端末室からアクセスする場合】**  
<http://www.student.yonago-k.ac.jp/>  
**【研究室などからアクセスする場合】**  
<http://hohokyouku.yonago-k.ac.jp/>

（出典 図書館情報センター資料）

## 資料 8 - 1 - ② - 5 センター時間外利用案内

---

**端末室等利用上の注意**


---

平成15年4月17日  
米子高専 システム化技術教育・開発センター  
情報教育部門

---

**利用時間と利用申請方法**

原則として 8:45～17:00

**第一端末室・第二端末室**

## ● 8:45～17:00

時間割上空いていれば、受講している授業以外の時間でも利用可能です。使用する場合は、利用学生が「オープン利用願」を管理室宛に提出して下さい。  
「オープン利用願」は、情報教育センター廊下に設置された専用マシンか、右下のリンクから利用申請してください。

「オープン利用願」を提出するには → [ここをクリック](#)  
\*「オープン利用願」を提出しないと端末にログオンできません。

## ● 17:00～22:00

教科担当教官の立会い・監督があれば、利用可能です。  
端末室は施錠していますが、教科担当教官へ鍵を貸し出します。担当教官は利用予定を、あらかじめ管理室までお知らせください。

**マルチメディアルーム・インターネットルーム**

教科担当教官が利用1週間前までに校内ホームページから予約して下さい。教科担当教官へ部屋の鍵を貸し出します。

**鍵の貸し出し・管理について**

以下の要領で各部屋などの鍵を教科担当教官へ貸し出します。

**廊下にある保管庫の鍵**

フロッピーディスク用の保管庫の鍵は、管理室から担当教官へ貸し出します。

**第一端末室、第二端末室の鍵****17:00以降に利用する場合****8:45～17:00は開錠・17:00以降は施錠**

- 管理室から担当教官へ鍵を貸し出します。
- 担当教官の立会い・監督のもとに利用願います。
- 利用は22時までとし、それ以降の利用を禁じます。
- 使用後は担当教官が端末室と建屋の出入口の施錠をしてください。
- 鍵の返却は翌日をお願いします。

**マルチメディアルーム・インターネットルームの鍵****終日施錠**

- 管理室から担当教官へ鍵を貸し出します。
- 使用後は施錠してください。
- 機器の持ち出しは厳禁です。

**17:00以降に利用する場合**

- 担当教官は、利用者の監督および建屋出入口の施錠もお願いします。
  - 利用は22時までとし、それ以降の利用を禁じます。
  - 鍵の返却は翌日をお願いします。
- 

(出典 図書館情報センターWeb ページ)

## 資料 8-1-②-6 図書館情報センター 蔵書検索サイト一覧

## 論文検索等のサイト一覧

- 論文検索
  - GeNii 国立情報学研究所 学術コンテンツポータル
  - CiNii\* NII 論文情報ナビゲータ
  - WebcatPlus NII 電子図書館
  - KAKEN 科学研究費成果公開サービス
  - NII-DBR 学術研究データベース・リポジトリ
  - KANON\* 長岡技科大 新外国雑誌目次データベース
  - 国会図書館 雑誌記事索引
  
- 電子ジャーナル
  - Science Direct\* 科学系雑誌の電子ジャーナル
  - JDreamII\* 科学技術・医学電子データベース
  - J-STAGE JST (科学技術振興機構)
  
- データベース
  - JISC-日本工業標準調査会
  - 失敗知識データベース
  - 日本統計協会

(出典 図書館情報センター資料)

## (分析結果とその根拠理由)

教育，研究に利用される情報ネットワークを適切に整備し，十分なセキュリティを確保している。その根拠として，高速ネットワークを全校に構築し，情報セキュリティポリシーに基づいて安全性を確保した上で，情報インフラを用いた研究・教育を行っている。一例として，情報処理教育，学内の掲示，シラバス等の教育情報の閲覧，成績報告などに情報ネットワークを利用している。

**観点 8-2-①：** 図書，学術雑誌，視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され，有効に活用されているか。

## (観点に係る状況)

本校には，学生の学習用から研究用まで多くの図書と，約200点の視聴覚資料を備えている。また，書庫には，多くの学術雑誌を所蔵している。資料 8-2-①-1 に蔵書冊数及び分野別一覧を示す。蔵書は，専門分野毎に系統的に整備している。各種利用統計を資料 8-2-①-2 に示す。図書貸出数も学生 1 人当たり約10冊であり，有効に利用している。新刊図書の購入は，教職員・学生からの希望

図書申込や図書委員の学生が定期的実施するブックハンティングを中心に行なっている（資料 8-2-①-3）。また、図書館情報総合管理システムにより、図書の貸出・返却を行うとともに、オンライン検索も整備し、ILLによる図書の相互貸借や文献複写を可能としている。

学生便覧に「図書館の利用」を記載し（資料 8-2-①-4）、第 1 学年の学生に対しオリエンテーション（資料 8-2-①-5）を行って、利用方法・文献資料検索等について説明を行なっている。

図書館情報センターでは、図書館のPRを目的に「としょぶらり」（資料 8-2-①-6）を年 2～3 回発行するとともに、「米子工業高等専門学校研究報告」（資料 8-2-①-7）を編集発行している。研究報告については、投稿規程を定めている（資料 8-2-①-8）。また、学生が図書に触れる機会を作るために、校内読書感想文・エッセイコンクール（資料 8-2-①-9）を行っている。

一方、本校の図書館建屋は昭和 48 年に建造したもので老朽化が進んでおり、蔵書の増大に伴い書庫が不足するなど狭隘化が進んでいる。平成 15 年に専門図書を中心に内容が陳腐化するなど学生教育に相応しくない図書を廃棄することにより、書庫不足に関する当面の問題を解決した。なお、老朽化や今後の蔵書の増大による狭隘化の対策は運営会議の整備計画の中で検討している。

資料 8-2-①-1 蔵書冊数及び分野別一覧

平成 18 年 3 月 31 日現在

区 分		総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	技術	産業	芸術	言語	文学	計
図書の冊数	和書	3286	3535	6505	6573	7785	14529	817	2289	2654	10898	58871
	洋書	313	485	209	151	193	333	9	68	629	2356	4746
	計	3599	4020	6714	6724	7978	14862	826	2357	3283	13254	63617
年度受入冊数	和書	39	88	68	130	257	326	9	60	64	224	1265
	洋書	0	23	0	2	2	0	0	0	0	5	32
	計	39	111	68	132	259	326	9	60	64	229	1297

(出典 図書館情報センター資料)

資料 8-2-①-2 平成 17 年度図書館統計

**図 書 館 統 計**

1. 平成17年度利用状況

(1) 開館日数230日(時間内204日・時間外192日)

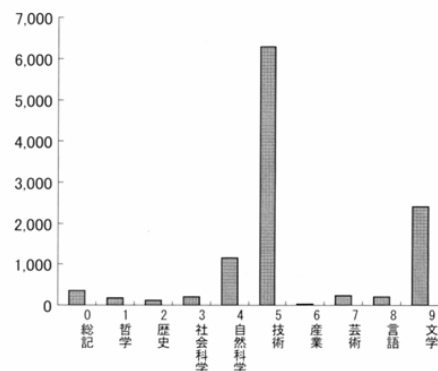
(2)入館者数・貸出者数・貸出冊数

区 分	学 生	職 員	校外者	合 計
学生・教職員数	1,056 人	127 人	29 人	1,212 人
入 館 者 数	46,175 人		236 人	46,411 人
図 書 貸 出 者 数	5,594 人	202 人	128 人	5,924 人
図 書 貸 出 冊 数	10,324 冊	417 冊	443 冊	11,184 冊



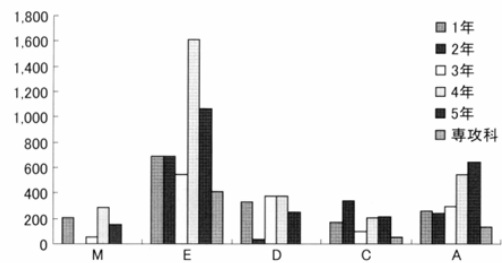
2. NDC分類別貸出冊数・貸出率

分 類	貸出冊数	順位	分 類	貸出率(%)
0 総記	339	1 位	5 技術	56.4%
1 哲学	184	2 位	9 文学	21.4%
2 歴史	125	3 位	4 自然科学	10.3%
3 社会科学	209	4 位	0 総記	3.0%
4 自然科学	1,150	5 位	7 芸術	2.1%
5 技術	6,308	6 位	8 言語	1.9%
6 産業	21	7 位	3 社会科学	1.9%
7 芸術	233	8 位	1 哲学	1.6%
8 言語	217	9 位	2 歴史	1.1%
9 文学	2,398	10 位	6 産業	0.2%
合 計	11,184	合 計		100.0%



3. 平成17年度学生利用状況(学年・学科別貸出冊数)

	M	E	D	C	A	合計
1 年	204	690	332	166	264	1,656
2 年	2	693	39	341	243	1,318
3 年	57	548	380	100	294	1,379
4 年	284	1,611	380	207	544	3,026
5 年	154	1,063	255	216	645	2,333
専攻科		416		58	138	612
合計	701	5,021	1,386	1,088	2,128	10,324



4. 平成17年度学生利用冊数ベスト3

順 位	貸出回数	書 名	著 者	出版社
1 位	23	灼眼のシャナ 1-10巻、0巻(電撃文庫)	高橋弥七郎	メディアワークス
2 位	17	空の境界 上・下巻(講談社ノベルス)	奈須きのこ	講談社
3 位	15	Missing: 合わせ鏡の物語(電撃文庫)	甲田学人	メディアワークス

(出典 平成 18 年度「としょぶらり」81 号 p.7)

資料 8-2-①-3 ブックハンティング

毎年、学生図書委員(25名)によるブックハンティングを5月に開催している。学生は本の学校(今井書店)にて、17時から1時間ほど書店内を回り、図書館に置いてほしい本を自由に選んでいる。予算は10万円としている。ブックハンティングで購入した本はすべて図書館に寄贈している。

ブックハンティング冊数

平成 18 年度

区 分	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	技術	産業	芸術	言語	文学	計	
図書の冊数	和書	2	0	0	6	11	8	0	0	2	51	80

(出典 図書館情報センター資料)

資料 8-2-①-4 図書館利用案内

Ⅷ 図書館の利用

図書館は、皆さんのための施設です。図書館を有効に利用してください。

開館時間と休館日

平日 9時～20時（休業日は9時から17時）

土曜日 10時～15時（休業日は休館）

休館日 日曜日、国民の祝日、毎月末（図書整理日）、

年末・年始（12月28日～1月4日）

（閲覧室入口の図書館カレンダーを参考にしてください。）

閲覧

閲覧室では、閲覧室内の資料を閲覧できます。

貸出し

資料の貸出しを希望するときは、「学生証」を添えてカウンターで貸出しの手続きをしてください。

貸出冊数は1人3冊まで、期間は1週間以内です。ただし禁帯出ラベルの図書は貸出しできません。

夏季休業等長期休業のとき、あるいは卒研等で必要なときは特別貸出しを行います。

鳥取県立図書館及び米子市立図書館で所蔵する図書の利用

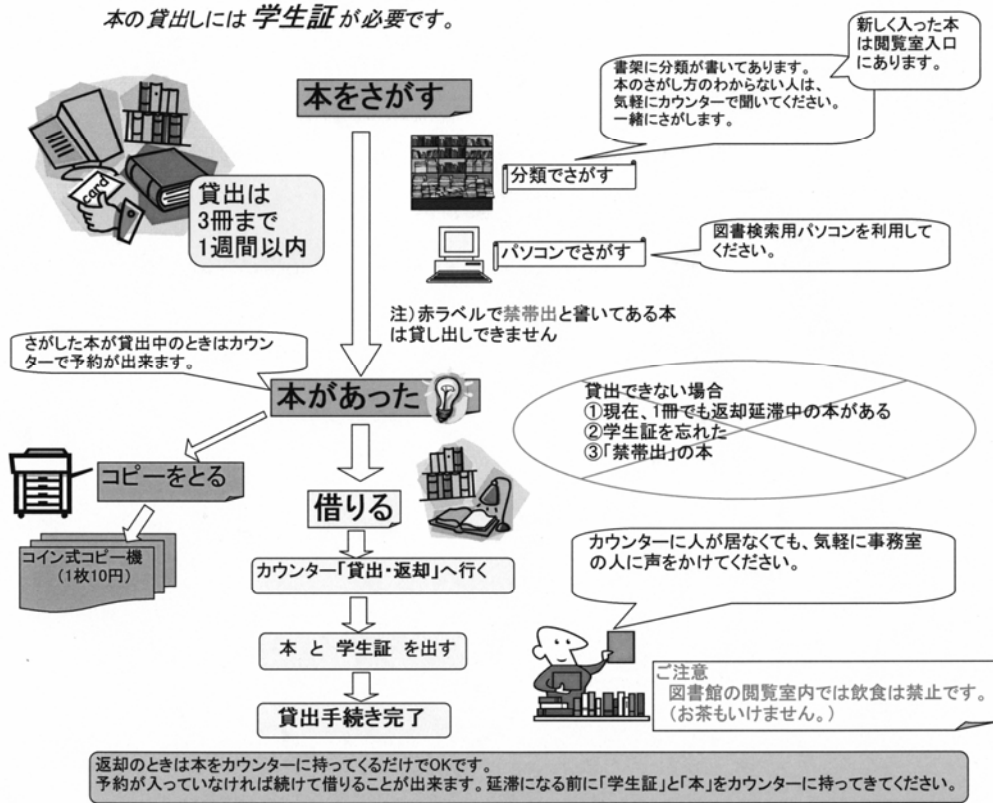
本校図書館を通じて、鳥取県立図書館及び米子市立図書館で所蔵する図書を借りることができます。借用を希望する人は、カウンターに申し込んでください。

（出典 平成18年度 学生便覧 p.18）

資料 8-2-①-5 1年次図書館利用オリエンテーション資料

新入生の皆さん 図書館へようこそ

本の貸出しには **学生証** が必要です。



# としょぶらり

米子高専図書館情報センター報

ISSN 1344-5634

第 82 号

平成 19 年 1 月 31 日発行  
米子工業高等専門学校  
図書館情報センター

## 平成18年(第33回)校内読書・エッセイコンクール優秀作品発表

### 〈読書感想文の部〉

最優秀賞	建築学科3年	山本 麻実	「雪とパイナップル」から学んだこと
優 秀 賞	機械工学科5年	吉次 峻平	「猫の事務所」を読んで
〃	物質工学科5年	松原 祥子	「あめなる花をほしと云いこの世の星を花という」 ～ひのきとひなげし～
佳 作	電気情報工学科1年	岡本 俊樹	「僕の生きる道」を読んで
〃	物質工学科1年	上小谷 瞳	「ホスピス通りの四季」を読んで
〃	物質工学科1年	間瀬 一馬	「ありがとうは祈りの言葉」
〃	建築学科1年	香川恵理子	「自殺って言えなかった。」
〃	建築学科1年	山本 桃璃	「イツモ。イツマデモ。」

### 〈エッセイの部〉

最優秀賞	電子制御工学科1年	伊藤 夏織	私と筆
優 秀 賞	電気情報工学科1年	造田 美咲	その周りを
〃	電子制御工学科1年	関本 美咲	理想のレシピ～勉強編～
佳 作	物質工学科1年	福田 真菜	『「障害者」と街で出会ったら』
〃	建築学科1年	住友 美香	一人一人の大切さ
〃	建築学科1年	萩原 由也	尊敬

## 読 書 感 想 文 の 部

### 最優秀賞

#### 「雪とパイナップル」から 学んだこと

建築学科3年 山本 麻実

命って何？

「生きる」ってどういうこと？

この「雪とパイナップル」という本を読んで、私は深く感銘を受けた。命の尊さと大切さを感じずにはいられなかったからだ。

私はこの春、大切な友人を交通事故で失った。そのことをきっかけに、「命の大切さ」について

深く考えるようになってはいたのだが、この本を読んで、さらにたくさんの事を考えさせられた。

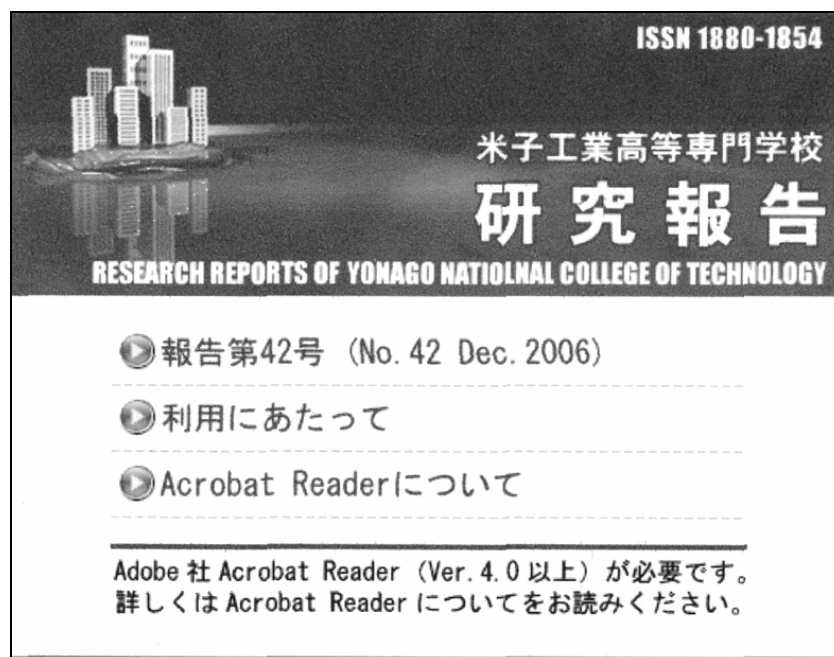
人ってなんてちっぽけな存在なんだろう。人間一人の命の重みなんて、大きな地球から考えてみれば、ほんの虫ケラぐらいでしかない。本の中で、チェルノブイリで起こった原発被害だって、ほとんどの者は知らなかったり、知らされていなかった。黒い雨の正体さえも、そこで暮らしている人々には知らされていなかったのだ。

実際、私の身近での出来事を考えても、そのことは感じられる。私の友人が交通事故にあった場所は、私の家からほど近いため、よく通る機会がある。私は、その場所を目にするたびに、その友人のことを思い出し、心が痛む。しかし、何も聞かされていない人々にとって、その場所は何の変哲もない場所であり、ガードレールが不自然に曲がっている理由なんて、気に掛ける人はいないのだろう。身近な例を挙げて考えると、悲しく寂し

(出典 平成18年度「としょぶらり」第82号 p.1)



## 資料 8-2-①-7 米子工業高等専門学校研究報告



(出典 米子工業高等専門学校研究報告第 42 号)

## 資料 8-2-①-8 米子工業高等専門学校研究報告投稿規程

## 米子工業高等専門学校研究報告に関する要項

(目的)

第 1 条 米子工業高等専門学校における学術研究及び調査に関する論文、資料を発表するため「米子工業高等専門学校研究報告」(以下「研究報告」という。)を発行する。

(発行)

第 2 条 研究報告は、原則として年 1 回発行するものとする。

2 研究報告の体裁は、A4 版、2 段横組(和文・欧文)、2 段縦組(和文)の混合編成とする。

(投稿資格)

第 3 条 投稿者は本校教職員を原則とする。

(投稿申込)

第 4 条 投稿を希望する者は、米子工業高等専門学校研究報告投稿申込書(別紙様式 1)を図書館情報センターに提出するものとする。

(公開)

第 5 条 研究報告は、電子媒体によって公開する。

(著作権)

第 6 条 掲載された論文及び資料の著作権は、原則として米子工業高等専門学校に帰属する。

2 著者が掲載された論文及び資料を利用する場合は、前項の規定に関わらず利用できるものとする。

3 前項の規定により著者が掲載された論文及び資料を利用する場合は、事前に利用申請書(別紙様式 2)を提出するものとする。

(著作者の責任)

第 7 条 掲載された論文及び資料の内容については、著者が一切の責任を負う。

(投稿原稿)

第 8 条 投稿原稿は原則として電子データによるものとする。

2 投稿原稿の種類は、論文及び資料とする。

(1) 論文とは、学生指導を含む教育、科学技術、人文、社会分野に関する研究成果を考察を交えて記述したもの。

(2) 資料とは、学生指導を含む教育、科学技術、人文、社会分野に関する事例、調査結果、試験結果、試作等得られたデータで資料的価値を有するもの。

3 投稿原稿は、他の著作物の著作権を侵害するものであってはならない。

4 投稿原稿に、引用(転載)許諾を要する場合には、引用(転載)許諾請求処理の完了を証する書類を添付しなければならない。

5 許諾が有償の場合は著者の負担とする。

6 投稿原稿は、図書館情報センターへ提出するものとする。

(後略)

(出典 図書館情報センターWeb ページ)

## 資料 8-2-①-9 校内読書感想文・エッセイコンクール募集要項

NO.81 としよぶらり

平成 18 年度 (33 回)

## 校内読書・エッセイコンクール応募要項

●米子高専の学生であれば「読書感想文の部」「エッセイの部」いずれにも応募できます。  
●読書感想文、エッセイともこれ以外の項目でもかまいません。

☆読書感想文の部

推薦図書

大江 健三郎	芽むしり仔撃ち	新潮文庫	宗田 理	ぼくらの七日間戦争	角川文庫
沢木 耕太郎	深夜特急	新潮文庫	宮沢 賢治	銀河鉄道の夜	角川文庫
M・ミッチェル	風と共に去りぬ	新潮文庫	坂口 安吾	墮落論	角川文庫
シェークスピア	ロミオとジュリエット	岩波文庫	壺井 栄	二十四の瞳	角川文庫
辻 仁成	ピアノシモ	集英社文庫	宮本 輝	蛍川	角川文庫
吉本 ばなな	キッチン	福武文庫	山崎 豊子	大地の子	文春文庫
高 史明	生きることの意味	ちくま文庫	司馬 遼太郎	竜馬がゆく	文春文庫
*重松 清	その日のまえに	文藝春秋	*ケヴィン・ヘクス	オリーブの海	白水社
*木村 元彦	オシムの言葉： フィールドの向こうに人生が見える	集英社			

\*第 52 回青少年読書感想文コンクール課題図書

☆エッセイの部

以下の項目から一つ選んで、日頃自分が考えたり、思ったりしていることを自由な発想で書いて下さい。

- 少年犯罪について
- 日本の外交
- 個人情報保護法は必要か
- 和の心
- マスコミについて思うこと
- 尊敬する人間
- 現代の価値観
- インターネットの危険性
- ゲーム脳と子供たち
- 教科書問題

実施期間：夏休み  
字 数：両部門とも縦書き原稿用紙(400 字詰) 5 枚以内  
縮 切：9 月 1 日(金)  
提 出 先：各クラス図書委員が集めて担任へ(専攻科生は直接図書館まで)  
審 査：第 1 次(～9 月 8 日(金))：クラス担任より部門ごとに 3 編以内を選定  
：第 2 次(～9 月 15 日(金))：図書館情報センター委員会において最優秀・優秀作品を決定  
審査委員：図書館情報センター長、副センター長、センター長補、図書館情報センター委員、国語科教員  
表 彰：部門ごとに、最優秀賞 1 編、優秀賞 2 編、佳作数編  
賞状および副賞として図書券：最優秀賞 5 千円券、優秀賞 3 千円券、佳作 1 千 5 百円券  
表 彰 式：11 月中  
作品提示：優秀作品は「としよぶらり」誌(82 号)に掲載

☆ 1～3 年のうち、読書感想文の優秀作品は全国学校図書館協議会および毎日新聞社主催「第 52 回青少年読書感想文コンクール」の地方審査への応募も兼ねています。地方審査で優秀作品に選ばれれば中央審査委員会で審査を受けることになります。

対象図書  
(フィクション)：童話、小説、民話、神話、伝説、戯曲、詩歌など。  
(ノンフィクション)：哲学、歴史、地誌、社会科学、自然科学、産業、芸術、スポーツ、語学、評論、伝記、随筆、紀行、生活記録、作文集、年鑑など。  
(主催者の指定した図書)：上記の推薦図書のうち、\*がついたもの。  
☆ エッセイの部の優秀作品は、校外コンクールに応募することもあります。

= 8

(出典 平成 18 年度「としよぶらり」81 号 p. 8)

(分析結果とその根拠理由)

図書館では、一般及び専門図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を系統的に整備し、充実を図っている。学生に対して利用法についてのガイダンス、図書館報の発行、校内読書・エッセイコンクールなどにより利用を促進している。また、図書館を地域住民に開放するとともに、蔵書検索システムの導入、夜間や休日の開館により、利便性を図っている。また、ブックハンティングや希望図書の要望を取り入れるなど、学生の要求に沿った運営を心がけている。その結果、利用も活発に行われている。一方、図書館では施設面での老朽化や蔵書増による狭隘化といった問題があり、

運営会議の整備計画の中で検討している。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

各学科・科目の建屋に学生・教職員ともに自由に使用できるコラボレーションゾーンを設置し、学生教育に活用している。

バリアフリーを実現し、身体に障害を持つ学生の就学に影響が出ないように配慮している。

(改善を要する点)

福利厚生施設の高砂会館の老朽化及び図書館の老朽化，狭隘化が進んでいる。

## (3) 基準 8 の自己評価の概要

各学科の教育を円滑に行うため，教室・実験室・演習室・研究室等を，目的に応じてゾーンニングし，機能的な教育を行うことができるように配慮している。

校内各所に配置したコラボレーションゾーンは特筆に値するものであり，学生教育・自習・休憩スペースとして利活用している。

図書館，情報教育施設等では，情報ネットワークを活用することにより，利用しやすい環境を整えている。また，授業のほか課外活動に利用するための運動場・体育館・福利厚生施設等を充実させている。

地域連携拠点として地域共同テクノセンターを整備し，各種会議等に使用している。図書館は，各学科・科目・学生の意見を取り入れながら，学生教育及び教員の研究に必要な水準の図書・雑誌を整備するとともに，蔵書検索システムを整備している。また，夜間及び土曜開館を行うとともに，地域住民に開放するなど，施設を有効活用している。

情報システムについては，情報教育施設を中心に校内LANを整備し，各教室，各教職員間にネットワークを形成して，学生教育や学生の自学自習等に利用している。情報セキュリティについては，セキュリティポリシーを策定して啓蒙を行い，情報技術の有効活用を教授している。

身体障害者も支障なく就学できるよう，駐車場から各教室，研究室，図書館等に至る動線をバリアフリー化している。



## 基準 9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

## (1) 観点ごとの分析

観点 9-1-①: 教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

(観点到に係る状況)

準学士課程及び専攻科課程の学生の成績表や進級、卒業(修了)判定資料、授業評価アンケート結果などは、教務係が収集・保存しており、これらの資料は教務主事及び専攻科長が中心となり点検している。この資料を基に、認定会議で進級、卒業(終了)認定を行っている。また、答案など科目ごとの単位認定に関わる資料は、平成17年度は資料室に別途収集し、平成18年度からは電子データで収集するシステムを構築しており、学生の指導改善や成績評価に関する質問などに対応できるようにしている。これらの資料は評価・改善委員会委員長(副校長)が中心となり点検している。これらの点検結果は、評価・改善委員会等で評価し、評議員会で検証している。

各教員の教育活動の実態は、教員業績データベース(資料9-1-①-1)による教員業績調査(資料3-2-②-1~2, 44~45ページに前出)により把握している。入力されたデータは、校長、評価・改善委員会委員長等が閲覧可能となっており、これらのデータに基づいて教育に関する教員の活動状況の把握、検討、評価を行う体制を整備している。

## 資料 9-1-①-1

## 業績等データベース運用に関する要項

(設置)

第1 本校に、教職員データベース、シラバスデータベース及び業績データベース(以下「業績等データベース」という。)を置く。

(目的)

第2 業績等データベースは次の目的のために使用するものとし、他の目的に使用してはならない。

1 教職員データベース

教職員の担当学科及び職種等を管理する。

2 シラバスデータベース

本科及び専攻科のシラバスを管理、運営する。

3 業績データベース

(1) 本校教職員が行う教育活動の情報収集、企画立案、評価、改善に利用する。

(2) 本校教職員が行った学生指導の内容を把握する。

(3) 本校教職員が行った研究活動の内容を把握、公表する。

(4) 本校教職員が行った産官民学連携活動の内容を把握、公表する。

(5) 外部評価機関に対する報告を行うために利用する。

(設置及び管理)

第3 業績等データベースを運用するサーバは企画室に設置し、企画室長がこれを管理する。

(運営管理)

第4 業績等データベースの運営管理は、次の者が行う。

(1) 教職員データベース : 校長、事務部長、庶務課長及び人事係長

(2) シラバスデータベース : 校長、教務主事、学生課長及び教務係長

(3) 業績データベース : 校長及び副校長

(教職員評価)

第5 校長は、業績データベースの入力データを閲覧、抽出し、評価を行うことができる。

(業績データ抽出)

第6 第2項の目的のため業績データベースの入力データを閲覧及び抽出し、使用することができる者は次に掲げる者とする。

(1) 校長

(2) 副校長

(3) 教務主事

(4) 評価・改善委員会委員長

(5) 事務部長

(6) 庶務課長

(7) 人事係長

(細則)

第7 その他、詳細な事項については、別に定める。

(出典 米子工業高等専門学校規則集データベース)

(分析結果とその根拠理由)

科目ごとの成績評価に関わる資料は電子データ等で収集、保管し、学生の指導改善や成績評価に関する質問などに対応できるようにしている。科目ごとの成績評価関連資料以外の資料については、事務部を中心に収集、保存している。また、教員の教育活動の実態を示す様々なデータ等は教員業績データベースにより適切に収集・蓄積し、評価・改善委員会により活動状況の把握、検討、評価を行う体制を整備している。

以上のことから、教育の状況について、教育活動の実態を示すデータを適切に収集、蓄積している。また、評価に当たっては、評価・改善委員会によって適切に実施する体制を整備し、自己点検等を実施している。

**観点 9-1-②：** 学生の意見の聴取（例えば、授業評価、満足度評価、学習環境評価等が考えられる。）が行なわれており、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

(観点到に係る状況)

授業評価アンケートを12月頃に実施し、授業内容、授業方法、授業への取り組み方等について学生から意見を聴取している。このアンケートの形式は授業の形態によって、講義科目用、実験・実習・製図科目用、体育用、数学一習熟度別用の4種類があり、アンケートの結果は各教員に個別に周知するとともに、学内ホームページに掲載され、教員業績データベース上での教員の自己点検や授業改善に利用されている（資料9-1-②-1～3）。

授業評価アンケート以外の学生の意見を聴くシステムとしては、平成18年度から評価・改善委員会が実施した学習生活環境アンケートがある（資料9-1-②-4）。この結果についての自己点検や改善方法については、現在検討中である。

アンケート以外に学生の意見を聴取する手段としては、学級担任（準学士課程）や特別研究指導教員（専攻科課程）に口頭で伝えられるほか、学生相談室への相談などがある。これらの学生の意見については、必要に応じて科会や各種委員会で議論されている（資料9-1-②-5）。

資料 9 - 1 - ② - 1 授業評価アンケート設問用紙

形式1 授業に関するアンケート（講義科目用）

学年	1	2	3	4	5	6
学期	1	2	3	4	5	6
担当教員	教員コード 01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60					
科目名	科目コード M 01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60					

回答選択肢 該当する部分の下の長方形を塗りつぶしてください。

(1) 全体として  
この授業はあなたの勉学の役に立っ  
たと思いますか

(2) 授業内容  
2 授業の難易度はどうでしたか  
3 授業内容の量はどの程度でしたか  
4 授業の進み具合はどの程度でしたか

(3) 授業方法  
5 教員の教え方はどの程度でしたか  
6 使用した教科書・プリントは適切で  
したか  
7 教員の話し方は明確で聞き取り  
やすいか  
8 黒板などで文字・図表の書き方は分  
かりやすかったか  
9 ノートに書き写すための時間は適切  
でしたか

(4) あなたの取り組み方  
10 授業に熱心に取り組めましたか  
11 疑問点、不明点の質問はしましたか  
12 予習、復習はしましたか

(5) この授業に対して、あなたの感じていること、希望などあれば書いてください。

形式2 授業に関するアンケート（実験・演習・製図科目用）

学年	1	2	3	4	5	6
学期	1	2	3	4	5	6
担当教員	教員コード 01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60					
科目名	科目コード M 01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60					

回答選択肢 該当する部分の下の長方形を塗りつぶしてください。

(1) 全体として  
この授業はあなたの勉学の役に立っ  
たと思いますか

(2) 授業内容  
2 授業の難易度はどうでしたか  
3 授業内容の量はどの程度でしたか  
4 授業の進み具合はどの程度でしたか

(3) 授業方法  
5 この授業は準備が十分で、教員の教  
える意図が感じられましたか  
6 使用した教科書・プリントは適切でし  
たか  
7 授業前・授業中の説明は学生の理解  
の程度を考えた、わかりやすいもので  
したか  
8 授業中の指導に対し、どう感じまし  
たか  
9 レポート・課題の評価は適切であると  
感じましたか

(4) あなたの取り組み方  
10 授業に熱心に取り組めましたか  
11 疑問点、不明点の質問はしましたか  
12 レポート・課題はしっかり作成しまし  
たか

(5) この授業に対して、あなたの感じていること、希望などあれば書いてください。

形式3 授業に関するアンケート（体育用）

学年	1	2	3	4	5	6
学期	1	2	3	4	5	6
担当教員	教員コード 01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60					
科目名	科目コード M 01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60					

回答選択肢 該当する部分の下の長方形を塗りつぶしてください。

(1) 全体として  
この授業はあなたにとって有意義で  
あったと思いますか

(2) 授業内容  
2 運動の内容はどの程度でしたか  
3 運動の量はどの程度でしたか  
4 授業で行った運動種目(教材)や運動  
課題の内容は妥当でしたか

(3) 授業方法  
5 授業に対する教員の熱意や工夫が感  
じられましたか  
6 教員は学生を積極的に授業に参加さ  
せようとしていましたか  
7 授業中の説明はわかりやすいもので  
したか

(4) あなたの取り組み方  
8 授業に対して意欲的に取り組みまし  
たか  
9 服装や指導者からの指示や課題を  
守って授業に参加できましたか

(5) この授業に対して、あなたの感じていること、希望などあれば書いてください。

形式4 授業に関するアンケート（数学一習熟度別用）

クラス	1a	1b	1c	1d	1e	1f
学年	1	2	3	4	5	6
担当教員	教員コード 01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60					
科目名	科目コード M 01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60					

回答選択肢 該当する部分の下の長方形を塗りつぶしてください。

(1) 全体として  
この授業はあなたの勉学の役に立っ  
たと思いますか

(2) 授業内容  
2 授業の難易度はどの程度でしたか  
3 授業内容の量はどの程度でしたか  
4 授業の進み具合はどの程度でしたか

(3) 授業方法  
5 習熟度別授業は有益ですか  
6 習熟度別授業は継続すべきですか  
7 自分のクラス分けは適切でしたか  
8 友人関係などが気になりましたか  
9 使用した教科書は適切でしたか

(4) あなたの取り組み方  
10 授業に熱心に取り組めましたか  
11 疑問点、不明点の質問はしましたか  
12 予習、復習はしましたか

(5) この授業に対して、あなたの感じていること、希望などあれば書いてください。

(出典 校内Web ページ)

資料 9-1-②-2 授業評価アンケート結果通知のメール

平成18年度の学生による授業評価アンケートの個人別集計結果をお送りします。

★集計結果の見方 各教員の担当する科目ごとに以下の表・グラフが示されます。

・左側の表 各設問に対する各選択肢の評価数を合計したもの

・右側の表 上記の表の数値を%表示したもの

右側の表の右欄外にある点数の計算法

設問 2, 3, 4 以外 (形式 4 については 3 以外)

選択肢 1 ~ 5 に点数 5, 4, 3, 2, 1 を与えた加重平均

設問 2, 3, 4 (形式 4 では 3 のみ)

選択肢 3 に 5 点, 選択肢 2, 4 に 3 点, 選択肢 1, 5 に 1 点を与えた加重平均

・左側のグラフ 左の表を棒グラフ化したもの

・右側のグラフ 右の表をレーダーグラフ化したもの

・同一の科目を複数のクラスで担当している場合には、全体の集計結果も示されます。

★各科目の表・グラフの下に自由記述欄に記入されていたコメントを記入しています。

★ 学校全体、学科ごとの平均は校内ホームページに掲載しています。

☆ データは Excel 形式です。

読めない方はお知らせください。Pdf 形式に変化して再送信します

(出典 平成 19 年 2 月 14 日メール)

資料 9-1-②-3 授業評価アンケート集計結果画面

平成18年度 学生による授業評価アンケート 集計結果  
(現在のデータはExcel形式のみです。pdf形式のデータの公開はもう少しお待ち下さい。)

【1】授業評価アンケート票  
(1)形式1(演習科目用)  
(2)形式2(奉教・演習・実習科目用)  
(3)形式3(体育科目用)  
(4)形式4(数学一習熟度別用)

【2】学科別・学校全体の集計  
(1)形式1の学校全体の集計  
(2)形式1の学科別集計  
(3)形式2の学校全体の集計  
(4)形式2の学科別集計  
(5)形式3の学校全体の集計  
(6)形式4の学校全体の集計

【3】各教員ごとの集計  
・G1などが各教員を表す記号です。その教員が担当する科目の集計結果が表示されます。  
★集計結果の見方 各教員の担当する科目ごとに以下の表・グラフが示されます。  
・左側の表 各設問に対する各選択肢の評価数を合計したもの  
・右側の表 上記の表の数値を%表示したもの  
右側の表の右欄外にある点数の計算法  
設問 2, 3, 4 以外 (形式 4 については 3 以外)  
選択肢 1 ~ 5 に点数 5, 4, 3, 2, 1 を与えた加重平均  
設問 2, 3, 4 (形式 4 では 3 のみ)  
選択肢 3 に 5 点, 選択肢 2, 4 に 3 点, 選択肢 1, 5 に 1 点を与えた加重平均  
・左側のグラフ 左の表を棒グラフ化したもの  
・右側のグラフ 右の表をレーダーグラフ化したもの  
・同一の科目を複数のクラスで担当している場合には、全体の集計結果も示されます。

一般科目	G1	G2	G3	G4	G5	G6	G7	G8	G9	G10
	G11	G12	G13	G14	G15	G16	G17	G18	G19	G20
	G21	G22	G23	G24	G25					
一般科目非常勤	G101	G102	G103	G104	G105	G106	G107	G108	G109	G110
	G111	G112	G113	G114	G115	G116	G117	G118		
機械工学科	M1	M2	M3	M4	M5	M6	M7	M8	M9	M10
機械工学科非常勤	M101	M102	M103	M104	M105					
電気情報工学科	E1	E2	E3	E4	E5	E6	E7	E8	E9	E10
	E11									
電気情報工学科非常勤	E101	E102	E103							
電子制御工学科	D1	D2	D3	D4	D5	D6	D7	D8	D9	D10
電子制御工学科非常勤	D101									
物質工学科	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	C9	C10
	C11	C12								
物質工学科非常勤	C101	C102	C103	C104	C105	C106	C107			
建築学科	A1	A2	A3	A4	A5	A6	A7	A8	A9	A10
建築学科非常勤	A101	A102	A103	A104	A105	A106	A107	A108	A109	A110
	A111	A112	A113	A114	A115	A116				

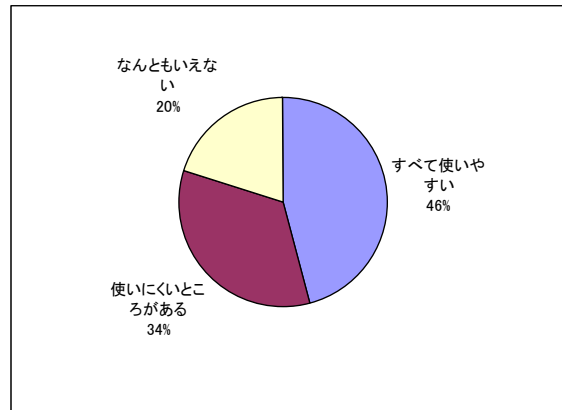
(出典 校内 Web ページ)



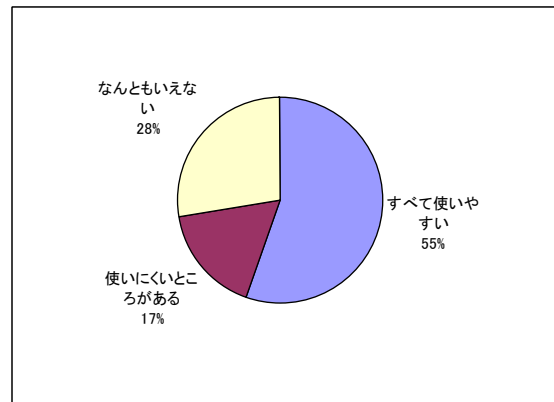
資料 9-1-②-4 学習生活環境アンケート

1年	51名	計366名
2年	48名	
3年	49名	
4年	47名	
5年	149名	
S1	13名	
S2	9名	

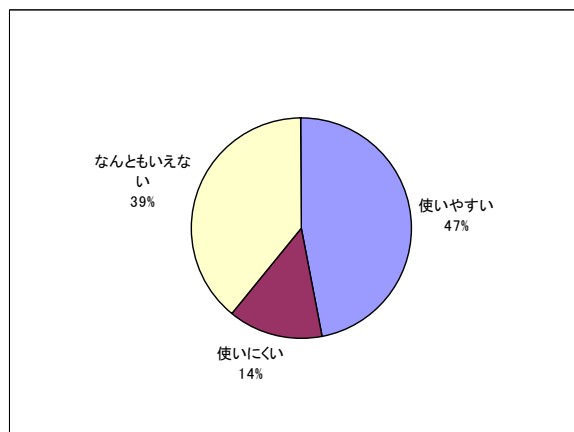
授業（実験・実習を除く）を受けている教室は使いやすいですか？



学生実験や実習に使用している実験・実習室（卒業研究及び専攻特別研究に使用している部屋は除く）は、実験機器・器具等も含めて使いやすいですか？



情報処理センターの端末室及び端末は使いやすいですか？授業以外の場合も含めてお答えください



(出典 本校の学習生活環境アンケート結果より抜粋)

## 資料 9-1-②-5 学生の意見の検討例

平成 17 年度第 9 回電子制御工学科科会議事録

電子制御工学科

1. 日時：平成 18 年 1 月 20 日（金）16:10～18:00
2. 場所：電子棟コラボ室
3. 出席者：11 名（欠席：香川）

## 2. 審議事項

## 2) 車椅子学生の対応

専攻科棟の通用口のスロープ、休日のエレベータ使用について学科として申し込み副校長より前向きな回答があった。しかし、香川先生が指摘された介護者が必要であることを確認。研究室配属に関しても、車椅子学生、その介護者を優先して配属することを了承。

議論の中で、休日の介護者の問題に並んで選択科目の移動が大変で、学科として、5 年 D 科教室を固定して貰うようお願いする。

(出典 平成 17 年度電子制御工学科科会議事録)

## 第 6 回科会議事録

日時 平成 18 年 6 月 1 日（木）16:30～20:45

場所 建築スタジオ 3

出席者 川端、和田、片木、熊谷、山田、稲田、西川、田口、白枝、景山

欠席者 松本、上田、（高増）、（兼子）

記録者 田口

## 4. 岡本喜八プロジェクトについて（熊谷）

7/1（土）目覚ましテレビ

学科の取組とする。

400～500 人を集めるための情報の流し方をコントロールする。

混乱を避けるために、学生、保護者、南高校から 400～500 人集める方向で検討する。

現代 GP の取組とするために、将来的には 4 年生全員がプロジェクトに参加する。

(出典 平成 18 年度建築学科科会議事録)

## 運営会議議事概要

1 日時 平成 18 年 6 月 7 日（水）9:45～11:50

2 議事

【その他】

(1) 「喜八プロジェクト」について

副校長から、「米子信用金庫地域活性化ファンドチャレンジ 21」に採択された「喜八プロジェクト」（本校建築学科学生 3 名が参画）に係る広報イベント「にゃんこザムービー」（主催：フジテレビ、運営：モードツー）の対応状況について報告があり、今後同プロジェクトに対しては、副校長を対外的な窓口とし本校で調整・対応していくこととなった。

(出典 平成 18 年度運営会議議事録)

(分析結果とその根拠理由)

学生に対する授業評価アンケート、学習環境アンケートや学級担任、学生相談室などで学生の意見や要望等を聞いて、改善に反映させている。よって学生の意見の聴取が行われており、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されていると判断する。

**観点 9-1-③：** 学外関係者（例えば、卒業（修了）生、就職先等の関係者等が考えられる。）の意見が、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

(観点に係る状況)

学外関係者の意見を聴取する仕組みとしては、外部評価委員会、評議員会、企業・卒業生へのアンケート等がある。

外部評価委員会は、教育・研究・管理運営等について外部の有識者による検証を行い、本校の教育研究体制等の改善に資することを目的とし、平成 14 年 1 月に評価を実施した（資料 9-1-③-1）。評議員会は、教育研究活動・地域貢献活動・その他運営に関する重要事項について審議する際、

外部からの意見を聞くために組織している（資料 2-2-①-10, 27 ページに前出）。評議員会は、平成 16 年度より年間 2～3 回開催され、その議事要旨及び資料は Web ページ等で開示・公開している（資料 9-1-③-2）。

企業・卒業生への意見聴取については、平成 4 年 3 月に卒業生へのアンケートを実施し、自己点検及び評価を行っている。その後、組織的な意見聴取は行われていなかったが、平成 18 年度に本校卒業生（資料 6-1-⑤-1, 143 ページに前出）及び卒業生の採用実績がある企業（資料 6-1-⑤-2, 144～145 ページに前出）に本校の教育に関するアンケートを実施した。今後もこのアンケートは定期的にも実施していく予定にしている。

#### 資料 9-1-③-1 外部評価委員会実施要項

### 3) 平成 13 年度外部評価委員会実施要項

#### 1 趣 旨

米子工業高等専門学校（以下「本校」という。）の点検・評価の一環として、教育・研究並びに管理運営等について外部の有識者による検証（以下「外部評価」という。）を行い、本校の教育研究体制等の改善に資することを目的とする。

#### 2 評価項目

- ① 教育理念及び目標に関すること。
- ② 教育活動に関すること。
- ③ その他必要と認める事項

#### 3 評価方法

- ① 資料（下記のとおり）による評価
- ② 実地調査・ヒアリングによる評価
- ③ 上記の評価等による総合的評価

4 実施期日 平成 14 年 1 月 16 日（水）～1 月 17 日（木）

5 日 程 別紙（1）のとおり

#### 6 出席者

- ・外部評価委員会委員
  - ・本校関係者
- } 別紙（2）のとおり

7 会 場 米子工業高等専門学校小会議室他

#### 8 配布資料（事前に送付）

- ① 平成 13 年度「現状と課題」
- ② 学校要覧（平成 13 年度）
- ③ 学生便覧（平成 13 年度）
- ④ シラバス（平成 13 年度）各学科 1 部
- ⑤ 寮生手帳
- ⑥ 前期・後期時間割
- ⑦ 学校案内（中学生向け、企業向け）

（出典 米子高専 Web ページ）

## 資料 9-1-③-2 評議員会構成員・議事要旨

## 米子工業高等専門学校 評議員会 構成員

1. 米子工業高等専門学校後援会長
2. 米子工業高等専門学校同窓会長
3. (大学関係者)  
鳥取大学工学部長
4. (鳥取県教育関係者)  
鳥取県教育委員会事務局高等学校課長
5. (米子市関係者)  
米子市収入役
6. (地元企業代表)  
米子高専振興協力会会長
7. (鳥取県商工労働部関係者)  
財団法人鳥取県産業振興機構・理事長

## 平成 18 年度 第 1 回 米子工業高等専門学校評議員会議事要旨 (抜粋)

日 時 平成 18 年 11 月 10 日 (金) 14 時 00 分～16 時 20 分

場 所 米子ワシントンホテルプラザ

出席者 委員：金田 昭 副井 裕 藤田教正 森脇 孝 矢倉敏久 矢末 誠 山口和彦

本 校：校長 水島和夫 副校長 小田耕平

教務主事 香川 律 学生主事 山藤良治 寮務主事 竹中敦司

事務部長 松本 勤

庶務課長 渡邊正則 会計課長 阿部秀一 学生課長 山根茂雄

テーマ 「平成 17 年度 第 1 回 (高専の地域貢献) ・第 2 回 (学生指導と課外活動) ・第 3 回 (教育研究活動) 評議員会の意見・提言に対する対応状況等」

1. 会長選出 (委員任期 2 年)

米子工業高等専門学校評議員会規則第 5 条により、鳥取大学工学部長の副井 裕委員が会長に再選された。

(後略)

(出典 米子高専 Web ページ)

(分析結果とその根拠理由)

学外関係者の意見は自己点検・評価に適切な形で反映されている。卒業生、企業を対象としたアンケートの実施ならびに評議員会等による外部評価を実施しており、教育に関する意見を聴取し Web ページ等で開示・公開している。

**観点 9-1-④：** 各種の評価 (例えば、自己点検・評価、教員の教育活動に関する評価、学生による達成度評価等が考えられる。) の結果を教育の質の向上、改善に結び付けられるようなシステムが整備され、教育課程の見直しなど具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

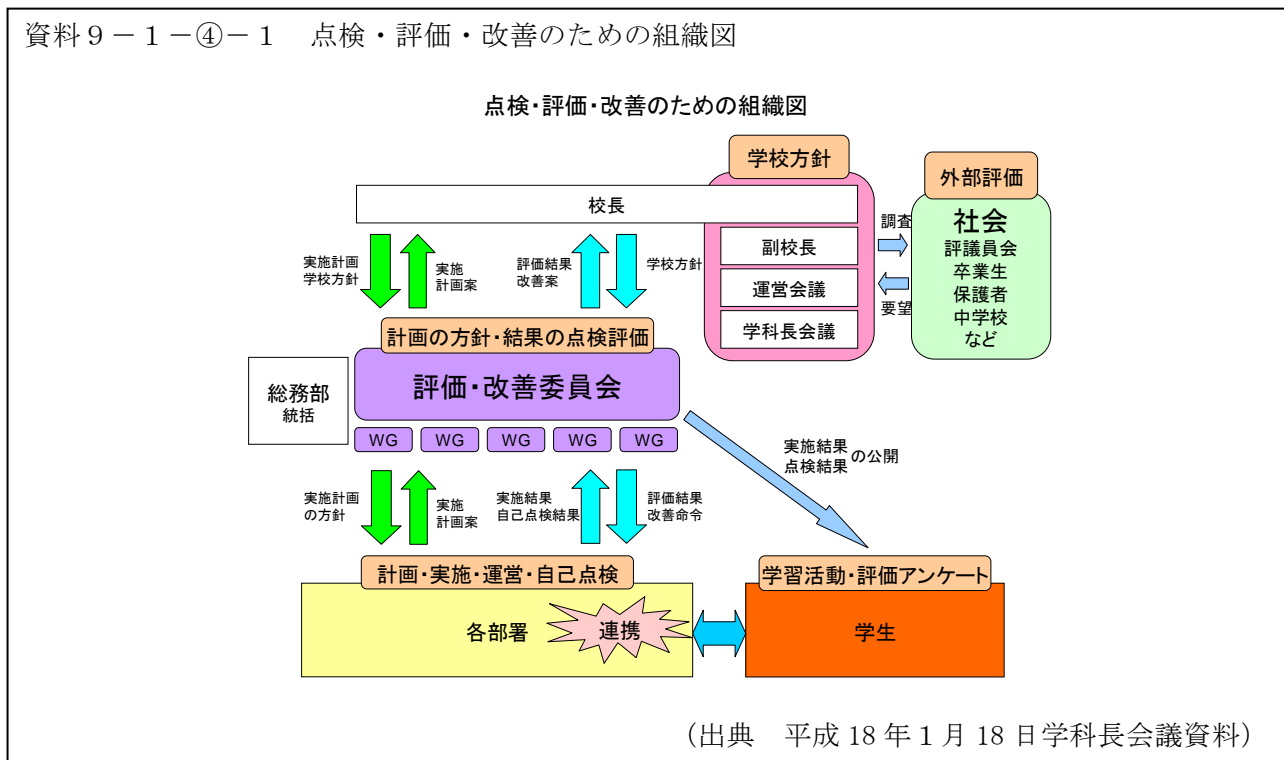
(観点に係る状況)

教員の教育活動に関しては、総務部、教務部、評価・改善委員会が中心となって、「教員業績データベース」、「卒業 (修了) 生・採用企業アンケート」、「授業評価アンケート」等をまとめるシステムが整備されている。それらの結果を受けて、評価・改善委員会等が改善策を提案し、運営会議等で学校方針を決定し、評価・改善委員会から各部署へ改善命令を行うシステムが整備されている (資料 9-1-④-1)。

高等専門学校設置基準の改正により、高等専門学校準学士課程でも学修単位の導入が可能となったことを契機に、本校でも学修単位の導入による教育効果の向上を図った。平成 17 年度からカリキュラム検討委員会により本格的に検討を始め、平成 18 年 7 月には「本科カリキュラム改訂答申」をまとめた (別添資料 5-1-①-1)。答申については教務委員会で審議を重ね、平成 19 年 4 月より

新カリキュラムの導入を行った。カリキュラムについては、今後も5年ごとに見直しを行う予定である。

資料9-1-④-1 点検・評価・改善のための組織図



(分析結果とその根拠理由)

各種の自己点検結果等を受けて、評価・改善委員会等が改善策を提案し、運営会議等で学校方針を決定し、評価・改善委員会から各部署へ改善命令を行うシステムを整備している。具体的には、教育課程を見直し、改定した新カリキュラムの導入を行う等、継続的な方策を講じている。

観点9-1-⑤： 個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。また、個々の教員の改善活動状況を、学校として把握しているか。

(観点に係る状況)

授業評価アンケートの結果を受けて、各教員は全ての担当科目に対して「教員業績データベース」の項目の1つである「授業アンケート結果」を入力することになっている（資料9-1-⑤-1）。入力項目としては、授業内容、授業方法、学生の取り組み方、その他のコメントに対して自己分析及び今後の課題を記入するようになっている。なお、これらの入力されたデータは、校長、副校長、教務主事、評価・改善委員会委員長等が閲覧可能となっており、学校として把握している。また、授業評価アンケートの結果に基づき、学内の教員が講師となって教育の質の向上を目指したFD等も実施している（資料9-2-①-2, 222ページで後出）。これらの活動の結果、授業内容、教材、教授技術等で改善を行っている教員数は、常勤、非常勤教員をあわせて60%（43名）であり、科目数は142科目である（資料9-1-⑤-2）。

## 資料 9-1-⑤-1 授業アンケート結果入力画面

<b>担当授業(本科)</b>	
担当学年	<input type="text"/>
担当学科	<input type="text"/>
科目名	<input type="text"/>
開講期間	<input type="text"/>
必修・選択の別	<input checked="" type="radio"/> 必修 <input type="radio"/> 選択
単位数	<input type="text"/>
<b>自己分析結果</b>	
授業の形態(アンケート形式)	講義科目 <input type="text"/> (形式1) <input type="button" value="v"/>
「全体として」の項目に対して改善の必要がありますか	<input checked="" type="radio"/> ある <input type="radio"/> ない
自己分析および今後の課題	<input type="text"/>
「授業の内容」の項目に対して改善の必要がありますか(形式2は不要)	<input checked="" type="radio"/> ある <input type="radio"/> ない
自己分析および今後の課題	<input type="text"/>
「授業方法」の項目に対して改善の必要はありますか	<input checked="" type="radio"/> ある <input type="radio"/> ない
自己分析および今後の課題	<input type="text"/>
「取り組み方」の項目に対して改善の必要はありますか	<input checked="" type="radio"/> ある <input type="radio"/> ない
自己分析および	<input type="text"/>

(出典 校内 Web ページ)

資料 9-1-⑤-2 教材の工夫等を行っている科目

準学士課程

学年	学科	科目名	学年	学科	科目名	学年	学科	科目名
1	全	英語総合	3	E	プログラミングⅡ	4	C	物理化学Ⅰ
1	M, D, C, A	物理	3	E	電気回路Ⅱ	4	C	分子生物学
1	M, D, A	保健・体育	3	D	工学実験実習	4	A	CAD
1	M	ものづくりワークショップ	3	D	材料力学	4	A	英語講読
1	M	機械工学実験実習	3	D	電磁気学	4	A	建築ゼミ
1	M	図形情報ワークショップ	3	C	生化学実験	5	人文選	地理歴史特論
1	E	情報処理	3	C	微生物学	5	人文選	文学Ⅱ
1	E	電気数学	3	C	物質工学演習	5	外選	英語演習
1	D, C	国語	3	C	物理化学基礎Ⅱ	5	外選	英語会話
1	D	工学実験実習	3	A	デザイン基礎	5	外選	英米文学
1	C	基礎化学	3	A	環境工学	5	M, D, A	保健・体育
1	C	基礎化学実験	3	A	建築構造力学Ⅰ	5	M	アクチュエータ工学
1	C	物質工学概論	3	A	建築構造力学Ⅱ	5	M	エネルギー機械
1	A	デザイン基礎	3	A	情報処理	5	M	機械工学演習
1	A	建築構造	4	人文選	地理歴史特論	5	M	機械工学実験実習
1	A	建築材料	4	M, E, D	保健・体育	5	M	工業英語
2	M, E, A	保健・体育	4	M	メカトロニクス	5	M	材料工学
2	M, C, A	物理	4	M	機械工学実験実習	5	M	熱工学
2	M	化学Ⅱ	4	M	機械材料学	5	E	情報処理システム
2	M	基礎製図Ⅱ	4	M	機械設計法	5	E	電気工学実験Ⅰ
2	M	機械工学実験実習	4	M	工業熱力学	5	E	電気工学実験Ⅱ
2	E	プログラミングⅠ	4	M	設計製図	5	E	電子計算機
2	E	国語	4	E	デジタル回路	5	D	エネルギー工学
2	E	電気回路Ⅰ	4	E	電気回路	5	D	システム工学
2	D	工学実験実習	4	E	電気工学演習	5	D	ロボット工学
2	D	電磁気学	4	E	電子回路	5	D	機器制御
2	C, A	英語総合	4	E	電子工学	5	D	計算機工学
2	C	微生物学	4	D	機械運動学	5	D	工学実験実習
2	C	分析化学	4	D	機械設計法	5	D	情報伝送
2	C	分析化学実験	4	D	計算機工学	5	D	電気電子材料
2	A	建築構造	4	D	工学実験実習	5	D	電子制御設計
2	A	建築材料	4	D	自動制御	5	C	細胞工学
2	A	情報処理	4	D	電気回路	5	C	天然物化学
3	全	政治・経済	4	D	電子制御回路	5	C	物質工学特論
3	M, E, A	保健・体育	4	C	高分子化学	5	C	有機材料化学
3	M, E	英語総合	4	C	材料工学実験	5	A	建築構造力学Ⅴ
3	M	機械工学実験実習	4	C	生物工学実験	5	A	建築生産
3	M	機械材料学	4	C	総合演習ⅡⅢ	5	A	建築設計製図Ⅰ
3	M	機構学	4	C	総合演習ⅢⅣ	5	A	建築設計製図Ⅱ
3	E	デジタル回路	4	C	物質工学実験	5	A	建築設備

専攻科課程

学年	学科	科目名	学年	学科	科目名	学年	学科	科目名
1	S	コミュニケーション特論	1	S	生産システム工学特別実験	2	S	オペレーティングシステム
1	S	システム制御特論	1	S	生体物質化学	2	S	デジタル制御
1	S	応用数学特論	1	S	創造・生産技術特別実験	2	S	トライボロジー・軸受特論
1	S	計算機システム工学	1	S	弾塑性力学	2	S	応用ソフトウェア開発
1	S	健康科学特論	1	S	知的財産権特論	2	S	音響振動工学
1	S	建築・地域計画演習	1	S	地域施設計画	2	S	画像処理
1	S	現代化学	1	S	通信ネットワーク特論	2	S	回路網理論
1	S	材料デザイン工学	1	S	日本語表現法	2	S	企画デザイン論
1	S	上級英語演習	1	S	微生物工学	2	S	材料強度・材料組織学
1	S	情報技術特論	1	S	物質工学特別実験	2	S	数値シミュレーション工学
1	S	人文社会特論				2	S	量子電子工学

(出典 教務部資料)

(分析結果とその根拠理由)

個々の教員が各種の評価項目に基づいた自己点検を行い、結果を教員業績データベースに入力している。教員業績データベースのデータは、校長を始め必要部署の長が閲覧できることから、学校として改善状況を把握している。教員及び部署の長は過去のデータの閲覧も可能であるため、継続的な授業改善等の把握も可能である。また、授業評価アンケートの結果に基づき、教育の質の向上を目指したFD等も実施しており、多くの教員が授業等の改善を行っている。

### 観点 9-1-⑥： 研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

(観点に係る状況)

各教員は授業アンケートや教育方法等の研究を通して教育の改善点を把握し、自作のテキストや教材を用いる等新たな工夫を行っている(資料9-1-⑤-2, 219 ページに前述)。これらの教育方法の改善に関する成果は、米子工業高等専門学校研究報告等で報告されている(資料9-1-⑥-1)。また、卒業研究や特別研究のほかに、課外活動等を通して研究を実施している事例もある。教員自身の専門研究は、学生の卒業研究のテーマとして一部が設定されていることが多く、学生は卒業研究等を通して各教員の専門研究等を体験できる(資料9-1-⑥-2)。また、各教員の研究内容が専門の授業にも活かされる例は多い。

教員と学生が共同して行う卒業研究や特別研究については、共同研究等を含めた各教員の専門分野の研究を通して企業が行う実際の開発過程を体験することができ、実際に企業と教員と学生が共同研究を行っている例もある。さらに、学生の発表技術を向上させるため、上記の研究成果を高専シンポジウム等で学外発表している例も多い。

資料 9-1-⑥-1 研究活動の教育改善に関する成果例

号(発行月)	著者名	題目
第34号(平成10年12月)	松本 至・足立新治 六宮光郎・山口顕司・谷本明逸	求められる機械技術者教育について コンピュータ支援NC工作機械プログラミング教育環境の開発
第35号(平成11年12月)	松本正己	人工現実感創造・教育システムの構築と運用
第36号(平成12年12月)	青柳 敏 中井大造	教室内LANを用いたCAIシステムの開発 言語学習における異文化理解
第37号(平成13年12月)	河添久美・山内義一・杉谷洋一・谷本明逸・足立俊幸・小口英樹・岸 悠・山口顕司 山内義一・山口顕司・谷本明逸・足立俊幸・小口英樹・岸 悠・杉谷洋一 青柳 敏	機械工作実習授業の現状と学生アンケート実施結果 機械工学科における総合実習授業の試み(第2報 簡易自動搬送機械の設計・製作実習の実施とその教育的効果) 教室内LANを用いたCAIシステムの開発(2)
第38号(平成14年12月)	河添久美・松本昭平・山口顕司 新田陽一 倉田久靖・田中立造・梶川雄二・藤田忠義・杉山光則・佐藤純一	機械工学科低学年における創成科目の実施(第1報 ものづくりワークショップ開設の経緯と実施状況) 電気回路の授業におけるプレゼンテーションツール利用の効果 数学の習熟度別授業の実践報告
第39号(平成15年12月)	平田佐保子・原明亜矢子・森次奈津子・阿部勝世・高見直道・竹内彰継・田中立造 足立新治・松本昭平・山口顕司 山口顕司	太陽彩層高度の極：赤道差の検出の試み(第1回科学部研究報告) シーケンス制御実習システムの構築と機械工学実験授業への導入 NC旋盤プログラミング教授法に関する一考察
第40号(平成16年12月)	青木良枝・大島由也・木村 宗・角田俊一・松本 卓・竹内彰継	太陽スピキュールの運動の研究(第2回科学部研究報告)
第41号(平成17年12月)	青木良枝・大島由也・角田俊一・松本 卓・中江祥平・竹内彰継	コロナホールはH $\alpha$ 線で見えるか?(第3回科学部研究報告)
第42号(平成18年12月)	大島由也・角田俊一・松本 卓・青木良枝・中江祥平・小松紀由・和田泰治・近藤直弥・山本耕平・竹内彰継	ライト効果は本当か?(第4回科学部研究報告)

(出典 米子工業高等専門学校 研究報告)



## 資料 9-1-⑥-2 卒業研究テーマ (抜粋)

1. 情報ネットワークを活用した災害時避難誘導システムの開発  
ー強化学習を用いたNNによる探索エンジンの再構築ー
2. 情報ネットワークを活用した災害時避難誘導システムの開発  
ーGaによる多層建築物を対象とした避難経路探索ー
3. 磁気アクチュエータを用いた管内検査装置の開発  
ーインペラ型アクチュエータの推力特性ー
4. スパイラル型磁気アクチュエータの始動特性と始動制御
5. 気液混合ジェットノズルを用いた推力推進システムに関する研究
6. 地域共同研究に基づくロボットシステムの構築 (1)  
ーおみくじロボットの土台機構及び首挿げ替え機構の開発ー
7. 地域共同研究に基づくロボットシステムの構築 (2)  
ーおみくじロボットの本体機構の開発及び制御システムの構築ー

(出典 平成 18 年度電子制御工学科卒業研究発表会プログラム)

(分析結果とその根拠理由)

研究活動は教育の質の改善に寄与している。自作のテキストを用いた授業が行われている等、研究内容を教育の改善に役立っている。また、学生、教員及び企業との共同研究や学生の学外発表などの研究活動は、実践的技術者の育成に直接寄与している。

観点 9-2-①： ファカルティ・ディベロップメントについて、組織として適切な方法で実施されているか。

(観点に係る状況)

ファカルティ・ディベロップメントについては、主に総務部が総括しており、1年間に数回のFD研修会等を実施している。平成16年度は「高等専門学校をめぐる評価について」というテーマで、平成17年度は「教育改善についてーより良い授業を目指してー」というテーマでそれぞれ4回実施し、学外からの講師による講演と討議や学内講師による実践事例報告と討議等を行い、個々の教員及び学校組織としての教育の質の向上を図っている(資料 9-2-①-1~2)。

平成18年度は、総務部で実施しているFD研修会のほかに学生の育成と対応という観点から、学生相談室が中心となって研修会を実施している(資料 9-2-①-3)。

## 資料 9-2-①-1 平成 16 年度 FD 研修会一覧表

研修会名	担当	日付	時間	演題	講師
第1回FD研修会	総務部	H16.8.2	14:00 ~ 16:00	大学評価・学位授与機構による機関認証評価について	大学評価・学位授与機構 評価研究部長 教授 川口 昭彦 先生
第2回FD研修会	総務部	H16.9.16	14:00 ~ 16:00	津山高専におけるJABEEの認定について	津山高専教務主事 機械工学科 教授 福田 昌准 先生
第3回FD研修会	総務部	H16.10.18	15:50 ~ 17:50	大学教員の教育研究業績評価について	鳥取大学副学長 地域学部 教授 中村 宗和 先生
第4回FD研修会	総務部	H16.11.25	15:50 ~ 17:50	高等学校の教員評価について	鳥取県教育委員会事務局 高等学校課長 中永 廣樹 氏

(出典 総務課資料)

資料 9-2-①-2 平成 17 年度 FD 研修会一覧表

研修会名	担当	日付	時間	演題	講師
第1回FD研修会	総務部	H17.7.26	13:30 ~ 15:30	授業アンケートの有効活用について	奈良高専 教授 泉 生一郎 先生
第2回FD研修会	総務部	H17.8.1	13:30 ~ 15:30	公開授業(3年国語)と意見交換会	非常勤講師 生田 真 先生
第3回FD研修会	総務部	H17.8.22	13:30 ~ 16:00	米子高専における学生の学力の現状と教育改善の実例 入学試験結果の分析からわかること 電気情報工学科における教育改善の一例 プレゼンテーションツールとチャトルカードの活用	教務主事補 倉田 久靖 先生 電気情報工学科 新田 陽一 先生
第4回FD研修会	総務部	H18.3.14	13:00 ~ 15:00	学生にわかりやすい授業について 学生のアンケートで評価の高かった授業の紹介 モノの動きがわかる授業を目指す 学生のやる気を引き出そう!! 学生の作文の現場から	電子制御工学科 中山 繁生 先生 一般科(理系) 竹内 彰継 先生 一般科(文系) 平澤 信一 先生

(出典 総務課資料)

資料 9-2-①-3 平成 18 年度 FD 研修会一覧表

研修会名	担当	日付	時間	演題	講師
第1回 学生の育成・ 対応研修会	学生相談室	H18.6.23	15:50 ~ 17:30	「学生を育てる視点」での学生対応について	広島経済大学 学生相談室専任カウンセラー 助教授 森田 裕司 先生
第1回FD研修会	総務部	H18.7.6	15:00 ~ 17:00	学位授与事業について	大学評価・学位授与機構 学位審査研究部 教授 六車 正章 先生
第2回FD研修会	総務部	H18.7.14	14:00 ~ 16:00	技術者教育認定制度について —工学教育改革・改善に向けて一人ひとりがなすべきこと—	日本工学教育協会 専務理事 椿原 治 氏
第2回 学生の育成・ 対応研修会	学生相談室	H18.7.21	15:20 ~ 16:45	発達障害について	鳥取県立精神保健福祉センター 所長 原田 豊 氏
第3回FD研修会	総務部	H18.8.28	14:00 ~ 16:00	「やる気」を育てる環境教育	鳥取環境大学 環境情報学部情報システム学科 教授 鷲野 翔一 先生
第4回FD研修会	総務部	H18.3.14	14:00 ~ 16:00	情報セキュリティについて	有限会社 システムネットワーク 取締役社長 鈴山 有史 氏

(出典 総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

ファカルティ・ディベロップメントは、総務部や学生相談室が中心となり、組織として研修会形式を中心に実施されている。

観点 9-2-②： ファカルティ・ディベロップメントが、教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

(観点に係る状況)

本校で実施したファカルティ・ディベロップメントについては、年度末にアンケートを実施し、研修会で学んだことや今後の在り方について、教員の意見を聴取している(資料 9-2-②-1~2)。アンケートの集計結果から、教育の改善に対する意識が高まってきている。また、授業方法や教材について工夫を行っている教員が 60%いることから(資料 9-1-⑤-2, 219 ページに前出), FD が授業の質の向上等に結びついている。

## 資料 9-2-②-1 平成 16 年度 FD アンケート調査結果

**5. 今後の展開について**

- ・学生指導というか、学生の質が変わってきていることに対する道德教育のあり方など。常識教育をしなければ就職して社会に出ていった時に、学生たち自身も困るし、今後の社会にも問題が。
- ・実際に現場で苦勞している教職員の生の声（例えば松江高専の人）も聞きたい
- ・授業そのものの評価に関するFDを行って欲しい。
- ・他高専，他大学の評価システムの具体例をもっと知りたい。

**6. 来年度以降のテーマについて**

- ・教務担当分野になりますが、授業改善のための実地研修  
(学外の授業力のある人による公開授業を高専内で行ってもらうなど)
- ・それぞれの専門（機械，電気，化学，建築系）の企業の方から，高専や専攻科卒の学生に求める教養範囲について，ご講演いただきたいです。もちろん，アンケート調査は行いますが，生の声の方が建前ではなく本音の部分が聞けると思います。
- ・高等教育機関において重要な教員の研究能力・研究実績の向上のために，他高専では学校としてどのような努力をされているのかを知りたいです。
- ・授業改善について。
- ・授業改善に役立つテーマ（具体的実施例を含め，学生に自主的・継続的な勉学を行わせる方策など）
- ・テーマはともかく，回数（講演会が多い）と時期を見直していただきたい。
  - 1) 授業改善に関する内容（大学や他高専での取り組み，公開授業，授業評価の取り組み）
  - 2) 学生指導や学生相談に関する内容（例．担任業務の見直しや指導内容・学生支援の統一化など）
- ・FDを組織的な活動として実施している先進校の実例
- ・課外活動（特にクラブ指導）と評価について
- ・厚生補導，HR運営関係
- ・高専のあるべき学校像について
- ・現場の先生の苦勞話をもっと聞きたかった。

（出典 平成 17 年 3 月 23 日全教職員宛メール添付ファイル）

## 資料9-2-②-2 平成17年度FDアンケート調査結果

## 5. 今年度実施のFDについて

- ・意図が明確で、実務的だったので、良かったと思います。
- ・校内の先生方の話しが聞けてよかったですと思います。
- ・今年度のFDは前年よりも実際の参考になる部分が多かった。ただ授業アンケートの取り扱いについては、今後学校（教務）としての方針を明確にする必要があると感じた。
- ・事実上廃れている公開授業を積極的に行う必要がある。全教員に年1回以上の公開授業を義務づけるなど。倉吉地区の全中学校で行われている“授業公開週間”などがあっても良い。（すべての授業を1週間に渡って外部の人にも公開する制度）
- ・今後の教育改善につながる良いテーマであったと思います。
- ・テーマ及び内容も良く、非常に参考となりました。
- ・内容に関して非常にバランスが良かったと思います。
- ・とても良かった。これからもどんどん行ってもらいたい。
- ・参考になりました。
- ・非常に良かったですが、授業参観があるともっと良いと思いました。
- ・とても参考になる講演が多く聞けて参考になりました。その中で少し気になった点を書かせていただきます。

当たり前のように「『わかりやすい』授業」を題目に掲げた講演が多く、お話の中でも何度も「わかりやすい」が繰り返されていましたが、「わかりやすい」ことだけに偏重した態度は大変危険ではないかと思えます。まず、わかりやすさは「易しさ」に繋がり、内容の低下を引き起こす危険があるのではないのでしょうか。また、わかりやすさは学生の努力や学習時間の減少も引き起こしかねません。私達が授業を通じて教え（伝え）なければならないことは、知識に限りません。知識のみを伝えればよいのであれば（内容を低下させないならば）わかりやすい授業でよいと思います。しかし、学生の将来を考えれば、「『学習の仕方』の学習」も必要なことではないでしょうか。学生が「わからないことは誰かがわかりやすく説明してくれる」状況に慣れることに私は危険性を感じます。

学生が「理解」に至る過程での、教員の努力（負担）分と学生自身の努力（負担）分の割合はとても難しい問題ではないかと思っています。分かり易さを目指す一方で、教員ばかりが努力して学生が努力せずに理解できてしまう状況にならないようにする配慮も必要なのではないでしょうか。

- ・具体的な話がが多く、参考になりました。
- ・いろいろな先生の授業に対する話を聞けるのは参考になる。

## 6. 来年度以降のテーマについて

- ・今年度テーマの発展で良いかと思えます。例：「教育改善についてーより良い授業の実施に向けてー」
- ・教育改善については、継続して取り組んでもらいたいです。
- ・授業アンケートの分析など、実際のデータを活用したFDがよいのではないのでしょうか。
- ・本日の質問にもあったが、授業方法の基本を教えてください。またさらに授業改善に役立つ内容を希望
- ・講演会形式のもの、年2~4回程度でよいと思われるが、公開授業も含めた小規模なFDがさらに必要と思えます。
- ・教育には各教員の人生観みたいなものが非常に重要になってくると思えます。そこで、「人としての生き方」に関するようなテーマを希望します。
- ・卒業生、企業の方の求める学生像
- ・学生にわかりやすい授業はテーマだけでも関心があります。引続き同様のテーマも取り入れて下さい。
- ・JABEEや認証評価の先進校のお話をもっと聞ければと思います。
- ・どんなテーマでも勉強になるので良いが、現代若者の現代気質と精神構造などについて
- ・FDに馴染む内容であるのか分かりませんが、授業内外における「学生の生活指導について」取り上げることはできないでしょうか。教員により、対応や考え方に大きな違いがあるように感じています。また、いずれのテーマにせよ、非常勤の先生方にもアナウンスして、希望される先生方にも参加して頂けると良いのですが…。低学年では、非常勤の先生が担当される授業が大変多いので、常勤のみレベルアップしても効果は半分となってしまいます。
- ・今後も「授業改善」にすべきと考えます。
- ・社会や企業が求める高専生について
- ・「分かりやすい授業をめざして」でいいと思います。

（出典 総務部資料）

## （分析結果とその根拠理由）

FD研修会の実施後、アンケートによる教員の意識調査を実施している。アンケートの集計結果及び授業の工夫を行っている教員の数等から、教育の改善に対する意識が高まってきており授業改善に結びついている。

## （2）優れた点及び改善を要する点

## （優れた点）

教員自身に対しては、各種の評価の結果に基づき、教員業績データベースに自己分析と今後の課題を入力しており、学校として把握するシステムが出来上がっている。

(改善を要する点)

該当なし

### (3) 基準9の自己評価の概要

本校では、平成15年から教員業績データベースを運用し、教育活動の実態を示すデータや資料を適切に収集・蓄積している。各種の自己点検結果等を受けて、評価・改善委員会等が改善策を提案し、運営会議等で学校方針を決定し、評価・改善委員会から各部署へ改善命令を行うシステムを整備している。

学生の意見の聴取については、授業評価アンケートを行い、校内ホームページを利用して報告している。また、外部の意見として、卒業生、修了生、企業を対象として教育の状況に関する意見の聴取、評議員会等による外部評価などを実施している。それらの結果については、Webページ等で公開している。

教員は各種の評価の結果に基づき、教員業績データベースに自己分析と今後の課題を入力しており、学校として把握するシステムが出来上がっている。教員の教育・専門研究、学生との共同研究は、教育活動に活かされており、教育の質の改善に寄与している。学生、教員及び企業との共同研究や学生の学外発表などの研究活動は、実践的技術者の育成に直接寄与している。

ファカルティ・ディベロップメントは、総務部や学生相談室等が中心となり、組織として適切な方法で実施している。



## 基準10 財務

## (1) 観点ごとの分析

観点10-1-①： 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。  
また、債務が過大ではないか。

(観点到に係る状況)

本校は独立行政法人国立高等専門学校機構が設置する高等専門学校であり、その資産は約47億7千万円である(資料10-1-①-1)。これらの資産は独立行政法人となる平成16年4月に、それまでの学校運営に使用してきた資産のほとんどが国から出資されたもので法人化前の資産状態をそのまま継続している(資料10-1-①-2)。

本校の運営資金のほとんどは国立高等専門学校機構本部(以下「機構本部」という)から配分される運営費交付金であり、そのほかに授業料等の収入及び外部資金が挙げられる。平成18年度の貸借対照表の概要より、負債は資産の8%となっている(資料10-1-①-1)。

なお、平成16~18年度の貸借対照表、原価償却総括表の全体を別添資料10-1-①-1に示す。

資料10-1-①-1 平成18年度の貸借対照表(抜粋)

## 資産及び負債に関する資料

資産の部		債務及び資本の部	
科目	金額(円)	科目	金額(円)
[資産の部]	4,771,460,519	[負債の部]	358,740,575
流動資産	267,973,167	流動負債	291,946,722
固定資産	4,503,487,352	固定負債	66,793,853
[本支店勘定]	44,732	[資本の部]	
		資本金	3,197,667,106
		資本剰余金	2,006,069,414

(出典 貸借対照表(抄))

資料10-1-①-2

## 主な資産の目録

区分	土地		建物	
	面積(m <sup>2</sup> )	価格(円)	面積(m <sup>2</sup> )	価格(円)
彦名地区	95,558	2,150,000,000	30,332	2,295,793,125

(出典 平成16年4月 継承資産リスト(抄))

(分析結果とその根拠理由)

本校は、教育研究活動を安定して遂行できる十分な資産を有し、債務は適正な範囲である。その理由は、本校の資産は総額で約48億円であり、債務は資産の8%である。

観点10-1-②： 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保されているか。

(観点に係る状況)

本校の教育研究活動遂行のための経常的収入は、運営費交付金、授業料・入学料・検定料、地域連携に係る収入及び科学研究費である。

本校の基本的な運営費は、機構本部から配分される運営費交付金である。平成18年度は、人件費等を含め約12億円が配分された。この運営費交付金は、学校運営のための基本的な経費をまかなうものである(資料10-1-②-1)。運営費交付金については、国から機構本部を通じて継続的に交付されるものである。

運営費交付金に次ぐ経常的収入としては、授業料、入学料及び入学検定料がある。これら授業料等の単価は、国が定めた基準額を適用している。平成18年度の授業料等の収入金額は約2億7000万円である(資料10-1-②-2)。入学志願者を増やし、適正な学生数とするため平成18年度より学校見学会を2回開催し、中学校連絡専門部会(資料4-2-②-4, 59ページに前出)を立ち上げるなどの対応を行っている。また、専攻科の広報活動を活性化するなどの活動を行っている(資料4-3-①-3~4, 61~62ページに前出)。

国立高専は、従来の教育及び研究に加え、研究の成果や教職員の知的資産を活用して地域と連携し、社会貢献をすることが求められている。それらの社会貢献を通じて得られる収入に、産学連携の経費、公開講座の受講料などがある。

本校では、地域に親しまれ、頼りにされる高専を目指して、全国に先駆けて特に地域連携に力を入れてきた。中でも産学連携については民間企業等との共同研究や受託研究を重視し、件数、金額ともに増加している(資料10-1-②-3)。また、競争的研究資金の代表である科学研究費補助金については、全校を挙げて申請件数の増加に取り組み、件数、金額共に増加傾向にある。(資料10-1-②-4)。

資料10-1-②-1

運営費交付金

平成18年度支出総額示達額	1,462,704,491円
平成18年度収入総額示達額	246,487,600円
入学料及び授業料免除額分	16,304,700円
計	1,199,912,191円
平成18年度資金送金総額	1,198,256,962円
日本スポーツ振興センター	1,632,480円
未払い消費税額分	22,749円
計	1,199,912,191円

(出典 平成18年度運営費交付金決算)

資料10-1-②-2

過去5ヶ年の検定料、入学料及び授業料の収入の変遷

区分	検定料・入学料	授業料	計
平成14年度	35,193,300円	203,237,400円	238,430,700円
平成15年度	27,219,600円	216,871,800円	244,091,400円
平成16年度	31,672,500円	232,004,694円	263,676,994円
平成17年度	29,683,800円	247,440,350円	277,124,150円
平成18年度	30,197,770円	243,439,821円	273,637,521円

(出典 損益計算書等)



## 資料10-1-②-3

## 地域連携に伴う収入の推移

区分	共同研究		受託研究		講習料 (千円)	寄附金 (千円)
	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)		
平成14年度	8	4,170	4	5,984	484	4,954
平成15年度	11	5,200	4	4,472	667	7,290
平成16年度	8	4,500	3	3,943	606	5,335
平成17年度	14	8,849	5	6,230	538	10,513
平成18年度	16	6,999	7	11,387	314	7,557

(出典 損益計算書等)

## 資料10-1-②-4

## 科学研究費補助金の申請、採択状況

区分	申請件数	採択件数	採択金額(千円)
平成14年度	26	4	4,400
平成15年度	28	4	4,900
平成16年度	30	6	8,500
平成17年度	42	9	11,800
平成18年度	41	10	7,100

(出典 学校要覧より抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

本校は、本校の目的に沿った教育研究活動を安定的に遂行するために必要な経常的収入を継続的に確保している。その根拠は、運営費交付金により、学校運営に必要な基本的な経費を確保していること、授業料、検定料、入学金などの経常的な収入を確保していること、産学連携及び寄附金が増加しており研究経費の重要な収入源となっていること、競争的資金である科学研究費補助金への申請件数も増加傾向にあること、などである。

観点10-2-①： 学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。

(観点に係る状況)

給与、光熱水料等の義務的・経常的経費については、機構本部から分配される運営費交付金を基準または実績に応じて分配している。また、教育研究に使用する経費の配分については、学科長会議で積算内訳と前年度実績を比較する資料を示し、校内での配分案検討の基礎資料としている(資料10-2-①-1)。

## 資料10-2-①-1 教育研究に関する予算の計画

## 学科長会議議事概要

- 1 日時 平成18年6月21日(水) 16:30~17:30
- 2 場所 小会議室
- 3 議題

(中略)

(4)平成18年度当初予算配分(案)について

会計課長から、資料4(平成18年度当初予算配分、学科等配分案)に基づき、昨年度より1,790千円圧縮した予算総額251,422千円の配分(案)について、審議過程、配分内訳及び今後の申合せ制定等について説明があり、質疑応答を経て、了承された。

(後略)

(出典 平成18年度6月21日学科長会議議事録)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、本校の目的を達成するための活動の財政上の基礎として、収支に係る計画を策定し、関係者に明示している。

**観点10-2-②： 収支の状況において、過大な支出超過となっていないか。**

(観点に係る状況)

本校の平成18年度の収支は資料10-2-②-1のとおりであり、収支はほぼ均衡している。このことは、独立行政法人は公共的な性格を有し、利益獲得を目的としない損益均衡の会計を原則としているためである。

なお、平成16～18年度の損益計算書の全体を別添資料10-2-②-1に示す。

経常費用		経常収益		経常利益
区分	金額(円)	区分	金額(円)	
業務費		運営費交付金	1,197,217,891	
教育研究経費	268,643,513	授業料収益	243,439,821	
教育研究支援経費	25,136,020	入学金収益	21,817,500	
受託研究経費	16,110,800	検定料収益	8,380,200	
教員人件費	768,202,155	受託研究等収益	18,386,000	
職員人件費	440,280,985	補助金等収益	0	
一般管理費	41,820,304	寄附金収益	11,367,847	
		施設費収益	23,100,000	
		資産見返負債戻入	23,434,419	
		財務収益	26	
		雑益	5,812,091	
計	1,560,193,777	計	1,552,955,795	-734,344

(出典 平成18年度損益計算書等(抄))

(分析結果とその根拠理由)

本校の収支は資料のとおりほぼ均衡しており、過大な支出超過とはなっていない。

**観点10-2-③： 学校の目的を達成するため、教育研究活動(必要な施設・設備の整備を含む)に対し、適切な資源配分がなされているか。**

(観点に係る状況)

本校では、給与、光熱水料等の義務的・経常的経費については、機構本部から配分される運営費交付金を、基準又は実績に応じて配分している。教育・研究活動に直接必要な資源の配分方針については、従来国の予算から運営費交付金に引き継がれた積算根拠を参考にして財源を確認し、学生数に比例する積算方法等に従って教員毎に配分している。

施設の営繕、改修については、校内からの申請に基づき校長裁量経費から配分する方法や、営繕のための経費から整備計画に沿って校長の判断により配分する方法、大規模な施設整備については予算要求を行う方法、などがある。大型設備の導入・更新については、導入を希望する教員又は学科からの経費を運営会議に諮り校長が配分決定をしている。

配分方針の決定方法について、教育研究に直接使用する経費の配分については、学科等経費（教育、学生指導、学科運営に係る経費）、研究のための経費、設備維持運営費、附属施設経費などの費目毎に、運営会議及び学科長会議で配分計画を審議している（資料10-2-①-1、229ページに前出）。

（分析結果とその根拠理由）

本校の目的を達成するため、教育研究活動に対して適切な資源配分を行っている。その根拠は、次のような資源配分の実績があるからである。

- 1) 給与、光熱水料等の義務的・経常的経費については、基準又は実績に応じて配分している。
- 2) 教育研究のための資源は、運営会議及び学科長会議の審議を経て積算方式と実績を基準に配分している。また、教育研究活性化経費としてプール予算を確保し研究実績や計画に応じた傾斜配分を行うなど、より効果的で活性化を図れる方式を採用している。
- 3) 施設・設備等の整備については、整備計画を基に、財源の種類・規模に応じて、緊急性、校内のバランス等を勘案して総合的に配分している。

**観点10-3-①： 学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。**

（観点到に係る状況）

高専機構は、発足と同時に全国55高専を一つにまとめた財務会計システムを構築している。各高専は統一された勘定科目・仕訳により財務会計処理を行っており、事業年度毎に年度末決算後、この財務会計システムにより財務諸表等を作成している。

高専機構理事長は、高専機構会計規則第44条により、当該年度末における資産・負債の残高並びに当該期間における損益に関し真正な数値を把握するため各帳簿の締切を行い、資産の評価、債権・債務の整理、その他決算整理を的確に行って、所定の手続きに従って決算数値を確定し、翌事業年度5月末日までに財務諸表を作成し公表することとなっている。

本校では高専機構会計規則第44条により、当該年度末における資産・負債の残高並びに損益に関し各帳簿の締切を行い、所定の手続きに従って決算数値を確定し機構本部に報告している。

（分析結果とその根拠理由）

本校を設置する法人の予算・収支計画、資金計画はWebページ上に公表しており、財務諸表は文部科学省での審査を経て公表済みである。

**観点10-3-②： 財務に対して、会計監査等が適正に行われているか。**

（観点到に係る状況）

財務に関する監査については、独立行政法人通則法第39条により、会計監査人の監査が明確に規定されているとともに、高専機構会計規則第45条及び第46条により、内部監査並びに会計機関の義務及び責任を規定している。

外部監査としては、会計検査院による会計実地検査及び会計監査人による各監査（期中・期末）が予定されている。また、内部監査は高専機構が計画し順次実施しており、監査を受ける予定である。

(分析結果とその根拠理由)

本校においては、財務に関して適正な会計監査を行っている。その理由は、本校を含めた法人全体について監査法人による監査が行われているからである。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

該当なし

(改善を要する点)

該当なし

## (3) 基準10の自己評価の概要

本校は、平成 16 年度当初に、独立行政法人国立高等専門学校機構が設立する国立の高等専門学校として、独立行政法人に移行した。この移行に際し、国の機関であったときの財産等について国から出資を受け、本校の教育研究に必要な基本財産を確保している。また債務は資産の約 8 % であり、適正な範囲である。

毎年の教育研究に必要な基本的な経費は機構本部から運営費交付金として配分を受け、授業料、入学金等を加えて運営している。

収入としては、この運営費交付金、授業料等のほかに、産学連携経費（受託研究、共同研究など）を受け入れるとともに、科学研究費補助金に代表される競争的資金を獲得して研究の充実に充てている。

年間の収支については、運営費交付金及び授業料収入等を基に、大きな費目ごとに前年度の実績との比較表により収支の概要を校内に示して、それを基に校内の予算配分の検討を行っている。

平成 18 年度の損益計算書によると、収支の状態は適正である。

人件費や光熱水料などの義務的経費又は経常経費を除いたもののうち、教育研究に直接使用する経費については、従来の実績を参考にしながら、校内の運営会議及び学科長会議で配分方針を検討し、その検討結果に従って適切に配分し、執行している。さらに、その内容を公開し、本校の構成員で共有している。また、教育研究用の施設・設備についても計画的に整備している。

このような方針で運用した結果については、本校の実績を含めた法人全体として監査法人の監査を受けたところであり、平成 17 年度の結果については文部科学省の審査を経て高専機構の Web ページに公表されている。

## 基準11 管理運営

### (1) 観点ごとの分析

観点11-1-①： 学校の目的を達成するために、校長、各主事、委員会等の役割が明確になっており、校長のリーダーシップの下で、効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

(観点到に係る状況)

平成19年度の本校全体の管理運営体制の組織図は資料3-3-①-4(49ページに前出)に示すとおりであり、平成19年度より事務組織を2課体制としたため、平成18年度以前(資料3-3-①-2, 48ページに前出)と事務組織が異なっているが、各主事及び委員会等の役割について変更はない。委員会組織は資料2-2-①-1(24ページに前出)に示すとおりである。本校では、校長を補佐する体制の強化を図るため、副校長を設け、校長補佐として教務主事、学生主事、寮務主事を充て、それらの役割は規則で明確に定めている(資料11-1-①-1)。

本校の意志決定体制は次のようになっている。校長、副校長、校長補佐、事務部長、各課長で構成する運営会議(資料2-2-①-2, 25ページに前出)が、本校の重要事項について審議すると共に学校全体の連絡調整を図る。さらに、各学科長、専攻科長、一般科目長及び各センター長を加えた学科長会議(資料2-2-①-5, 26ページに前出)が本校の教育・研究に関する重要事項の審議を行い、校長が最終決定をするシステムとなっている。また、本校運営上の諸問題については、各種委員会で審議した結果の報告を受けて、校長が全体を把握し最終決定を行う仕組みとなっている。

#### 資料11-1-①-1 校長等の責務

第8条 本校の職員は、校長、教授、准教授、講師、助教、事務職員及び技術職員とする。

2 職員の職務は、学校教育法その他法令の定めるところによる。

第9条 本校に、副校長、教務主事、学生主事及び寮務主事を置く。

2 副校長は、校長の命を受け、校務を整理するとともに、渉外等に関することを掌理する。

3 教務主事は、校長の命を受け、教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。

4 学生主事は、校長の命を受け、学生の厚生補導に関すること(寮務主事の所掌に属するものを除く。)を掌理する。

5 寮務主事は、校長の命を受け、寄宿舎における学生の厚生補導に関することを掌理する。

(出典 米子工業高等専門学校学則)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、校長を中心として、副校長、各主事(校長補佐)及び各種委員会を配置し、それらの役割を明確に規定している。また、各々を組織化し学校運営を行っている。したがって、効果的な意思決定を行うことができる体制になっている。

観点11-1-②： 管理運営に関する各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。

(観点到に係る状況)

本校の管理運営に関する各種委員会の審議事項及び構成員を委員会規則等に定めており、それらの委員会は資料2-2-①-1(24ページに前出)のとおり役割を分担している。また、それぞれの委員会の委員長には校長、副校長、各主事、各センター長等を充てており、効果的に活動できる体制になっている。運営会議、学科長会議は毎月定期的(資料2-2-①-11, 28ページに前出)に及び臨

時に開催し、教務委員会、学生委員会、寮務委員会、専攻科委員会も定期的に開催している。その他の委員会等は必要に応じて開催し、その審議内容は校長に報告している。これらの委員会の活動状況の例は資料11-1-②-1に示すとおりで、機能的に活動している。

また、事務組織については、平成18年度までは事務部長の下に、庶務課、会計課、学生課を配置していた（資料3-3-①-2、48ページに前出）。平成19年度からは2課体制に変更し、事務部長の下に、総務課、学生課を配置し（資料3-3-①-4、49ページに前出）、事務部組織規則に各課及び各係等の業務分掌を定めている（資料11-1-②-2）。各委員会には、事務職員が出席して委員会の事務を補佐し、教員と連携し活動している（資料11-1-②-3）。

資料 11-1-②-1 委員会の活動状況例

平成18年7月		米子工業高等専門学校報	
4月 校内会議			
月日	会議名	主な議題等	
4.03	運営会議	校長会議（3/24）について 平成18年度校務分掌について 入学式について 専攻科の運営組織について 専攻科棟竣工記念式典について 教員の兼帯について 中後アダプトプログラム事業への参加について 専攻科の欠員対策について	
4.03	教員会議	新任教職員の紹介及び挨拶 年度当初に当たって 給費式当日の日程について 入学式当日の日程について 新入生オリエンテーション日程について 留年学生等一覧表について 在籍学生数について 教室の配置について 学生部年度当初の連絡簿について 学生数について 健康の実施計画について 学生寮前の校内掃り入れの指導について 退寮生について	
4.12	評価・改善委員会	平成18年度委員会委員の紹介・各委員の担当WGの確認・WGの進捗状況	
4.14	広報委員会	平成18年度広報委員会及び専門部会について、平成18年度広報活動について	
4.19	運営会議	米子工業高等専門学校セキュリティ規則（案）等について 専攻科「推薦による進級」に係る学内の基準について 平成18年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」の申請について 専攻科棟竣工記念式典等の実施について 平成18年度科学研究費の申請・採択等の状況について 卒業成績の滞り人について 年度前充熟練者・今後の「進級状況」・今後の行事予定について	
4.19	学科長会議	校長会議（3/24）について 平成18年度校務分掌について 専攻科の運営組織について 専攻科棟竣工記念式典等の実施について 米子工業高等専門学校情報セキュリティ規則（案）等について 平成18年度科学研究費の申請・採択等の状況について 平成18年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」の申請について 平成18年度外部資金等受入審査状況について 平成18年度編入学試験について 専攻科「推薦による進級」に係る学内の基準について 平成19年度特別教育研究費の申請について 校舎内禁煙に伴う喫煙場所の設置について 専攻科生研究交流会について ホームページに掲載の本校規程について 教員会議の報告事項について 退寮生について	
4.26	寮務委員会	遠征点数の連絡について 平成18年度前期高砂寮・日身寮委員退任について 平成18年度前期高砂寮・日身寮行事予定について	
4.27	安全衛生委員会	委員の紹介 平成18年度方針について 労働安全衛生法の改正について 委員会議事録の教職員への周知について 教職員に対する禁煙講習会の実施について	

(出典 学校報 No. 168)

資料 11-1-②-1 委員会の活動状況例

平成18年7月		米子工業高等専門学校報	(8)
<b>5月 校内会議</b>			
月日	会議名	主な議題等	
5.10	運営会議	平成18年度印活動(案)について 平成18年度評議員会実施計画(案)について 平成19年度教員の高専交流について 教員の学生に対する下適切発言について 専攻科棟竣工式具の教職員健金(案)について 国立高等専門学校機構中期目標、中期計画及び平成18年度計画について 教職員に対する禁煙講習会の実施について	
5.10	教員会議	平成18年度「入学生に対するアンケート調査」の分析結果について 卒業成績の誤記等について 就学上の留意事項について 緊急時連絡先(保護者)一覧表について 平成18年度追認試験について 学生の改姓について 学生の異動について 学生会の諸行事について 学生事故について 車両通学について 対給付高専定期職について 退寮生について 5月の寮行事等について 専攻科生の休学について 平成18年度専攻科生交流会報告について 臨時職員定額(2006・2007・2008年度)について	
5.11	情報セキュリティ委員会	平成18年度情報セキュリティ委員会について 平成18年度情報セキュリティ委員会活動について	
5.17	運営会議	専攻科棟竣工記念式典の実施計画(案)について 平成17年度当初予算決算(案)について 平成18年度当初予算配分方針(案)について 平成19年度概算要求事項(案)について	
5.17	学科長会議	国立高等専門学校機構中期目標、中期計画及び平成18年度計画について 平成18年度印研修会(案)について 自己点検書の作成について 平成19年度高専間交流の推進について 専攻科棟竣工記念式典の実施計画(案)について 平成17年度当初予算決算(案)について 平成18年度当初予算配分方針(案)について 平成19年度概算要求事項(案)について 平成18年度外部資金等受入審査状況について 電子掲示板の運用について ネットワーク機器の更新について	
5.31	寮務委員会	退寮生について 当直免除者について 6月の寮行事について	
<b>6月 校内会議</b>			
月日	会議名	主な議題等	
6.07	運営会議	高等教育振興の連携(北東アジア地方教育大学教授協会の構成・運営(案))に関する打ち合わせについて 教員表彰について 平成18年度当初配分予算(案)について 平成18年度教育研究活性化配分予算(案)について 校舎冷暖房装置の使用について 後援会役員との懇談会について 専攻科棟竣工記念式典及び祝賀並びに祝賀金について	

(出典 学校報 No.168)

## 資料 11-1-②-2

## ○米子工業高等専門学校事務部組織規則（抜粋）

（趣旨）

第1条 この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則（平成16年4月1日独立行政法人国立高等専門学校機構規則第4号）第9条第3項及び米子工業高等専門学校学則第11条の規定に基づき、事務部の組織及びその所掌事務を定める。

（事務部長）

第2条 事務部に、事務部長を置く。

2 事務部長は、校長の命を受け、事務部の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

（課長）

第3条 総務課及び学生課に、課長を置く。

2 課長は、上司の命を受け、課の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

（課長補佐）

第4条 総務課に総務担当及び財務担当課長補佐並びに学生課に学生担当課長補佐を置く。

2 課長補佐は、上司の命を受け、当該課の所掌事務のうち高度の専門的知識又は経験を必要とする特定の分野の事務を直接処理するとともに専門的見地から課長を補佐し、課の事務を整理する。

（係及び係長）

第5条 総務課に総務係、人事労務係、企画協力係、財務係、経理係、契約係及び施設係を、学生課に教務係、学生係、寮務係及び学術情報係を置き、財務係を除く各係に係長を置く。

2 係長は、上司の命を受け、係の事務を処理する。

（主任）

第6条 係に主任を置くことができる。

2 主任は、上司の命を受け、係の事務のうち特定の事務を処理する。

（事務分掌）

第7条 総務課の事務を次のとおり分掌する。

2 総務担当課長補佐は、次の事務をつかさどる。

（1）将来構想に関すること。

（2）自己点検・評価及び外部評価に関すること。

（3）広報に関すること。

（4）情報セキュリティに関すること。

3 財務担当課長補佐は、次の事務をつかさどる。

（1）予算に関すること。

（2）財務係の所掌事務に関すること。

4 総務係においては、次の事務をつかさどる。

（1）学校の事務に関し、総括し及び連絡調整すること。

（2）機密に関すること。

（3）儀式その他会議に関すること。

（4）学則その他諸規程の制定及び改廃に関すること。

（5）渉外に関すること。

（6）情報公開に関すること。

（7）文書類の接受及び保管等に関すること。

（8）公印を管守すること。

（9）教職員の健康管理及び福祉に関すること。

（10）教職員の労働時間、休暇等に関すること。

（11）安全衛生管理に関すること。

（12）調査統計・その他諸報告に関すること。

（13）校内の警備取締に関すること。

（14）この課の会計事務を除く事務のうち他の係に属しない事務を処理すること。

（15）その他学生課の所掌に属しない事務を処理すること。

5 人事労務係においては、次の事務をつかさどる。

（1）教職員の任免及び就業（総務係の所掌に係るものを除く。）に関すること。

（2）教職員の給与に関すること。

（3）教職員の定員に関すること。

（4）教職員の研修及び勤務評定に関すること。

（5）教職員の災害補償に関すること。

（6）共済組合（経理係の所掌に係るものを除く。）に関すること。

（7）退職手当に関すること。

（8）所得税の徴収に関すること。

（9）栄典、表彰に関すること。

（10）教職員団体に関すること。

（11）教職員の労働条件に関すること。

（12）人事記録に関すること。

（13）その他人事に関すること。

（後略）

（出典 米子工業高等専門学校規則集データベース）



## 資料11-1-②-3 委員会と事務組織の連携例

## 米子工業高等専門学校学科長会議規則（抜粋）

（設置）

第1条 米子工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、米子工業高等専門学校学科長会議（以下「学科長会議」という。）を置く。

（目的）

第2条 学科長会議は、校長の諮問に応じ、本校の教育・研究に関する重要事項について審議することを目的とする。

（構成員）

第3条 学科長会議は、次の者をもって構成する。

- （1） 校長
- （2） 副校長
- （3） 教務主事、学生主事及び寮務主事
- （4） 専攻科長、各学科長及び一般科目長
- （5） 図書館情報センター長
- （6） 地域共同テクノセンター長
- （7） 技術教育支援センター長
- （8） 事務部長及び各課長

（中略）

（事務）

第7条 学科長会議の事務は、総務課において処理する。

（後略）

（出典 米子工業高等専門学校規則集データベース）

（分析結果とその根拠理由）

本校の管理運営に関する各種委員会の審議事項及び構成員を委員会規則等に定めており、役割を分担し効果的に活動できる体制になっている。各種委員会は、毎月定期的及び臨時に開催している。これらの委員会は、年間計画に基づいて機能的に活動している。

また、事務組織については規則に基づき、各課及び各係等の業務分掌を定めている。各委員会には、定められた事務職員が出席して委員会の事務を補佐し、教員と連携し活動している。

以上のことから、管理運営に関する各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動している。

**観点11-1-③： 管理運営の諸規定が整備されているか。**

（観点到に係る状況）

本校では、学則（資料11-1-①-1，233ページに前出）などにより各主事等の各役職者の配置や役割を定め、各種委員会等については規則により目的、審議事項、委員会構成などを定めている。事務組織については、事務部組織規則により事務部の配置や、各課や係等の業務範囲を定めている（資料11-1-②-2，236ページに前出）。また、これらの規則については、校内のWebページに整理し、閲覧が可能となっている（資料11-1-③-1）。

## 資料 11-1-③-1 管理運営の諸規定

規則名
米子工業高等専門学校学則
米子工業高等専門学校事務部組織規則
米子工業高等専門学校教務・厚生補導組織規則
米子工業高等専門学校図書館情報センター規則
米子工業高等専門学校地域共同テクノセンター規則
地域共同テクノセンター利用に関する申合せ
米子工業高等専門学校ネットワーク利用規則
米子工業高等専門学校学生相談室規則
米子工業高等専門学校寄宿舎規則
米子工業高等専門学校運営会議規則
米子工業高等専門学校学科長会議規則
米子工業高等専門学校教員会議規則
米子工業高等専門学校技術教育支援センター規則
米子工業高等専門学校情報セキュリティ規則
米子工業高等専門学校教員選考委員会規則
米子工業高等専門学校教員選考基準
米子工業高等専門学校教務委員会規則
米子工業高等専門学校入学試験委員会規則
米子工業高等専門学校学生委員会規則
米子工業高等専門学校寮務委員会規則
米子工業高等専門学校図書館情報センター運営委員会規則
米子工業高等専門学校広報委員会規則
米子工業高等専門学校評価・改善委員会規則
業務等データベース運用に関する要項
米子工業高等専門学校技術教育支援センター運営委員会規則

(出典 校内 Web ページ)

(分析結果とその根拠理由)

各役職者や各種委員会等については、学則及び各委員会規則等により配置や役割等を定め、事務組織については、事務部組織規則により配置や業務範囲を定めている。

観点11-2-①： 外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映されているか。

(観点に係る状況)

本校は、平成13年度に初めての外部評価を行った(資料9-1-③-1, 215ページに前出)。平成13年度自己点検・評価報告書(資料11-2-①-1)をもとに、外部評価委員に現状説明を行い、提言や意見を聴取した。それらを、外部評価報告書(資料11-2-①-2)としてまとめ、提言のうち解決できる課題を取り上げ実施に移した。

平成16年度からは、外部有識者による評議員会(資料9-1-③-2, 216ページに前出)を組織し、外部の意見を管理運営や教育研究施策に取り入れている。平成17年度は3回の評議員会を開き、その都度の議題にしたがって自己点検した結果について自己点検・評価結果としてまとめている。

(資料11-2-①-3)。また、平成18年度第1回評議員会では、それまでに評議員より受けた提言・意見の本校の対応状況をまとめ、報告している(資料11-2-①-4)。

資料 11-2-①-1 平成 13 年度自己点検・評価報告書（抜粋）

目 次

第1章 米子工業高等専門学校の現状と展望 ..... 1

1-1 本校の教育理念 ..... 1

1-2 本校の現状と課題 ..... 1

1-3 将来の展望 ..... 6

第2章 本校の教育と社会・国際化への貢献 ..... 7

2-1 本校の教育目標と教育システム ..... 7

2-1-1 教育目標 ..... 7

2-1-2 教育システム ..... 14

2-2 入学者と在籍状況 ..... 14

2-2-1 入学および編入学 ..... 14

2-2-2 在籍状況 ..... 16

2-3 卒業生の進路 ..... 16

2-3-1 進路の概要 ..... 17

2-3-2 就職・進学状況 ..... 17

2-4 学生生活への配慮 ..... 17

2-4-1 学校生活 ..... 17

2-4-2 学寮生活 ..... 17

2-4-3 学生相談室 ..... 17

2-5 国際交流 ..... 17

2-5-1 外国人留学生の受け入れ ..... 17

2-5-2 海外留学 ..... 17

2-5-3 海外専門派遣 ..... 17

( 資 料 )

第3章 本校の管理・運営と教育支援 ..... 32

3-1 組織 ..... 32

3-1-1 教職員組織 ..... 32

3-1-2 委員会 ..... 34

3-2 施設 ..... 34

3-3 施設・建物 ..... 35

3-4 図書館 ..... 37

3-4-1 図書館の整備状況と利用 ..... 37

3-4-2 地域とのかかわり ..... 37

3-4-3 今後の課題 ..... 37

( 資 料 )

3-5 システム化技術教育・開発センター ..... 43

3-5-1 情報処理教育とコンピュータネットワーク ..... 43

3-5-2 テクノセンター ..... 43

第1章 米子工業高等専門学校の現状と展望

【1-1 本校の教育理念】

本校の理念は国立学校として、「個人の尊厳を重んじ、真理と平和を希求する人間の育成を期するとともに、普遍的にしてしかも個性豊かな文化の創造をめざす教育を普及徹底すること」に尽きる。

これでは、抽象的すぎるので、具体的に述べると

(1) 高等教育機関に就学する機会に恵まれない地域において、中学校卒業者を対象にして、中学校教育を発展させ、さらに有為な社会的形成者になるための資質を高め、併せて、全国あるいは世界に通じる工業技術者としての基礎知識を授ける。

(2) 教育・研究の実践を通じて会得した知識を、広く地域社会に普及させ、文化の創造に資する。

という2点に要約される。

【1-2 本校の現状と課題】

1-2-1 現状

(1) 学生

1-1-(1)、1-1-(2)の理念を達成するためには、まず、資質の優れた学生を集める必要がある。本校の学生は鳥取県西部を中心に、鳥取県中・東部、鳥取県東部、広島県東北部、岡山県西北部、兵庫県西北部から進学している。入学生の学習成績は、各地区で、二を争う普通高校と同水準であり、比較的成绩上位の学生が入学している。入学生の確保のために、毎年、校長と中学校連絡委員（教官）が、時期をずらして、県下全部および周辺の中学校訪れ学校紹介を行っており、これまでのところ定員割れは起こしていない。しかし、上記の地域は人口希薄地域であり、数年先には少子化の影響をまともに受けることになる。

女子学生は1学年 40～50名であり、物質工学科と建築学科が多いが、これは米子周辺に女子短期大学がないために高専への就学率が高くなっているものと考えられる。

(2) 教官

学校教育の成果は、教官の資質によるところが大きい。本校の教官の数は表1の通りであり、総定員は充足され、欠員はこれまで1年以内に充足している。採用人事においては公募を原則とし、校内に設置した選考委員会の議を経て、校長が決定している。

問題は職制別定員で教授、助教役が少なく（充当率 82%、76%）講師をもってこれを補っている点があげられる。

（出典 平成 13 年度自己点検評価書）

資料 11-2-①-2 平成 13 年度外部評価報告書（抜粋）

和田 力 委員長

①本校の現状と課題

◆教育理念について：

(1) で「・・・の基礎知識を授ける」と書いてありますが、これは、正に上から下へ知識を授けることを表明していて、また「授業しつばなし」という語感を含んでいるようで好ましくないとします。

相手が幼いだけに、もっと「育てる」とか、「一緒に学ぶ」という姿勢があっても良いのではないのでしょうか。第2章の教育目標では、そのように述べてあります。

◆学生について：

全国でも有名な過疎地域にありながら、各学科とも受験倍率を2以上に維持していることは、関係者の並々ならぬご努力の結果と考え、大いに評価します。

今後の試みとして記述されている、人口密集地区からの特別推薦入学、1年生の全員入寮などは、興味深いものです。特に、1年生の全員入寮は、うまく運営されればすばらしい教育効果が期待できる反面、教官に過大な負担をかけることになりかねないと考えられますので、実施するに当たっては、予め校内で充分論議し、大半の教官の同意を得て置くことが必要であろうと考えます。

◆教官について：

高専の授業時間が多すぎることに同感です。初等中等教育における「ゆとり教育」や「独立行政法人化」がこの問題の解決に役立つことを願っています。

「創造力に富む人材の育成」のためには、授業を「伝授型」から「自己啓発型」に変える必要がある、との指摘には同感です。しかし、この点に関して教官の理解がなく、その実施は絶望的との指摘がありますが、既にこのことについて経験をお持ちの校長先生が模範授業をして、教官にその具体的方法と有効性を示されては如何でしょうか。

国専協を中心に新しい授業方法の開発を進めているのは名案ではありますが、その実現は前途多難と思われる。また、国専協が作った方法を研修によって導入するというのは、依然として、上で否定した「伝授型」に留まることにはならないかと恐れます。小さくても自分の足で一歩を進める方が確実で、しかも「自己啓発型」の実践になるのではないかと考えます。

特に、専攻科設置にどちらかと言えば否定的な考えが支配的な米子高専では、今後生き残るために、本科の教育でそれに代わる新機軸を出す必要があるのではないのでしょうか。課外活動が「創造力に富む人材」の育成に有効かも知れない、という考えには共感しま

5) 外部評価委員による提言に対する本校の取り組み

前章に示した委員の外部評価報告書の中からご提言を本校自己点検評価委員会のWGによって大変懇越ながら以下に示すようにまとめさせていただいた。このまとめを本校の各組織、各種委員会および各学科・科目に配布し、関係部分をピックアップしてそれに対する回答を求めているところである。

第1章 米子工業高等専門学校の現状と展望

1-1 本校の教育理念

事項	指摘内容
教育の姿勢	「もっと」「育てる」とか、「一緒に学ぶ」という姿勢があっても良い

1-2 本校の現状と課題

事項	指摘内容
(全体)	新課程対応 ・組織のトップから末端の職員までの認識を早く一致させておくことが緊急の課題 独自性創出 ・米子高専の独自性はどのように創出するのか、何を強いる目玉にするのか 特色化 ・他にない米子高専に入学したいと思う動機付けが必要になる

(学科)	指摘内容
産学連携の推進	・各学科の運営については、聖域化されており校長でさえも口出しできない仕組みは問題ではないか ・校長は直接現場とのやり取りが出来るように組織のシンプル化を図る

(教育)	指摘内容
自己啓発型授業	・授業を「伝授型」から「自己啓発型」に変える必要がある ・ひとこまを100分として授業をすれば、伝授型ではなく、自己啓発的な授業が出来て、ゆとりある、効果のある授業が出来る

専攻科に代わる新機軸創出	指摘内容
ゆとり教育	・特に、専攻科設置にどちらかと言えば否定的な考えが支配的な米子高専では、今後生き残るために、本科の教育でそれに代わる新機軸を出す必要がある

顧客満足度	指摘内容
顧客満足度	・顧客満足度を業務達成の目標にしなければならない

幅広い教養	指摘内容
幅広い教養	・大切な青少年期に・・・それに勝る精神的な強さをも年間で身に付けるように指導

(会議)	指摘内容
会議時間の短縮	・各種委員会の会議時間を短縮し、しかも実際の行動に結びつくような結論を出すことが大切

自己啓発	指摘内容
自己啓発	・FDの外に教官自身による自己点検も必要 ・教官人事の条件を明確にし、予め公表しておくことが必要 ・公正な昇格条件を制定し公表しておくことが必要

業績評価	指摘内容
業績評価	・今の世の中では能力主義はごく当たり前 ・「自己申告」や「自己評価」よりも最終的には「校長による外部評価」によるべき ・教官にも公正、公平で的確な厳しい評価をしなければならない ・教官の研究業績評価は、論文のみでなく特許の取得も奨励しこれも評価に加える

長期研修	指摘内容
長期研修	・自らの自己研鑽は言うに及ばず、数年に一度は長期の研修期間を研修 ・教官も高度な研修の機会を与える事も必要

任期制の導入	指摘内容
任期制の導入	・教官の任期制の導入も視野に入れるべき

（出典 平成 13 年度外部評価報告書）

資料 11-2-①-3 平成 17 年度評議員会及び自己点検・評価報告書（抜粋）

平成17年度 第3回 米子工業高等専門学校評議員会議事要旨

日 時 平成 18 年 3 月 30 日 (木) 15 時 10 分～17 時 35 分

場 所 米子ワシントンホテルプラザ

出席者 委員: 金田 昭 副井 裕 藤田敦正  
森脇 孝 矢倉敏久 矢末 誠

本校: 校 長 水島和夫 副校長 林 貞男  
教務主事 小田耕平 学生主事 山藤良治 寮務主事 足立新治  
事務部長 松本 勲  
庶務課長 田中 義 会計課長 阿部秀一 学生課長 渡邊正則

テーマ 「米子高専の教育研究活動」

1. 校長から、本校の教育理念・目標及び本科の教育活動について、資料に基づき説明があった。

◎各委員からの質疑及び提言  
(○印:各委員、●印:本校)

○ 教育目標の一つの感性と倫理観を養成する教育はどのように行っているのか。

● 技術者倫理科目をカリキュラムに入れたり、文科系、芸術系の課外活動や寮における集団生活、学生会活動等を通じた教育の場を設けている。平成18年度は新たな試みとして全学生の演劇鑑賞を計画している。

○ コミュニケーション能力、外国語力は重要と考えるがどのようになっているか。

● コミュニケーション能力の育成については、特に力を付けるようにしたいと思っている。また、本科の卒業研究発表会や専攻科の特別研究発表会では自分の考えを、思っていることをペーパーを見ないで場で考えてプレゼンできるような指導していきたい。

-1-

平成 17 年度  
自己点検・評価報告書

I 教育研究活動

II 学生指導と課外活動

III 地域貢献活動

平成18年3月  
米子工業高等専門学校

(出典 平成 17 年度第 3 回評議員会議事要旨及び平成 17 年度自己点検・評価書)

資料 11-2-①-4 評議員の意見に対する学校の対応

平成 18 年度 第 1 回 米子工業高等専門学校評議員会議事要旨	平成 17 年度 第 3 回評議員会	意見・提言	対 応	課題・問題点等
<p>日 時 平成 18 年 11 月 10 日 (金) 14 時 00 分～16 時 20 分</p> <p>場 所 米子ワシントンホテルプラザ</p> <p>出席者 委員: 金田 昭 副井 裕 藤田敦正 森脇 孝 矢倉敏久 矢末 誠 山口和彦</p> <p>本校: 校 長 水島和夫 副校長 小田耕平 教務主事 香川 隼 学生主事 山藤良治 寮務主事 竹中教司 事務部長 松本 勲 庶務課長 渡邊正則 会計課長 阿部秀一 学生課長 山根茂雄</p> <p>テーマ 「平成 17 年度 第 1 回 (高専の地域貢献)・第 2 回 (学生指導と課外活動)・第 3 回 (教育研究活動) 評議員会の意見・提言に対する対応状況等」</p> <p>1. 会長選出 (委員任期 2 年) 米子工業高等専門学校評議員会規則第 5 条により、鳥取大学工学部長の副井 裕委員が会長に再選された。</p> <p>2. 「国立高専の整備について新たな飛躍を目指して」 本題テーマの前に、高専を取り巻く内外の諸情勢が極めて厳しい現状において、今後高専をどのように整備していくべきかについて高専機構でまとめられた「国立高専の整備について新たな飛躍を目指して」と題した、資料について校長から説明があった。</p> <p>各委員からの質疑等 (○印:各委員、●印:本校)</p> <p>○ 学生の獲得ということで問題になるのが、教育の質の問題等があり、恐らく今の過渡期であろうと思うし、いろんな面で子供が育ってない状態にあると思う。学力もそうですが、それ以前の問題に対する高専の受け取る対応について、どのようなことを考えておられますか。</p>	<p>テーマ:「教育研究活動」 H18.3.30</p> <p>教育目標の一つの感性と倫理観を養成する教育はどのように行っているのか。</p> <p>コミュニケーション能力、外国語力は重要と考えるがどのようになっているのか。</p> <p>インターシッピング5日間では短いので長期のものを検討してほしい。また社会の中の見聞に入れて実践的なものづくり教育ができないか。</p> <p>実践的複合的なものづくり教育を是非お願いしたい。またインターシッピング受け入れ時の指導方法について問題点があれば伺いたい。</p> <p>他高専の専攻科社会人入学生のカリキュラムはどうかというのを、専攻科に多数の社会人を受け入れるため、柔軟な受け入れ検討をお願いします。</p> <p>専攻科への入学志願者が少ないのは、大学への編入者が多くこれがネックになっていると思うがどうか。</p>	<p>技術者倫理科目をカリキュラムに入れたり、文科系、芸術系の課外活動や寮における集団生活、学生会活動等を通して、そのような教育を行う場を設けている。平成18年度は新たな試みとして全学生の演劇鑑賞を計画している。</p> <p>コミュニケーション能力の育成については、特に力を付けるようにしたいと思っている。</p> <p>また、本科の卒業研究発表会や専攻科の特別研究発表会では自分の考えを、思っていることをペーパーを見ないで場で考えてプレゼンできるような指導していきたい。</p> <p>本専生全員の長期のインターシッピングは受け入れ難い事情もあり難しいが、先ず専攻科の実施に向けた検討を行ってきたい。</p> <p>問題点を与えてPBL教育等各学科で行っている。またロボコン、プロコン、デザコン等にも積極的に参加させ主体的複合的なものづくり教育の推進に努力している。</p> <p>社会人入学生のための特別のカリキュラムが組まれている例はこれまで聞いたことがない。但し、本校としても積極的に社会人を受け入れたらいいので、補講や集中講義など社会人入学生に対する柔軟な対応を今後検討していきたい。</p> <p>最近では、就職が不利、進学が不利であり、そのうち一部は専攻科に進学している。大都市圏の高専では本科卒業生の大部分が進学するという高専もあるが、本校の進学者は他校に比べれば低い。</p>	<p>インターシッピングについては、確かに企業によってはアルバイト的な対応をされることもある。少し配慮いただけたら有難いと考えている。</p>	

-1-

(出典 平成 18 年度第 1 回評議員会議事要旨)

(分析結果とその根拠理由)

本校は、外部有識者等の意見を取り入れる制度を整備し、得られた意見を管理運営に適切に反映するための仕組みを構築している。また、実際に意見を反映した改善を行っている。

**観点11-3-①： 自己点検・評価（や第三者評価）が高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ、かつ、それらの評価結果が公表されているか。**

(観点に係る状況)

本校では、これまでに学校の活動の総合的な状況について自己点検・評価を行い、平成4～5年度及び平成13年度に自己点検・評価報告書を作成した。平成13年度の自己点検・評価報告書（抜粋）を別添資料11-3-①-1に示す。また、平成16年度からは、外部有識者による評議員会（資料2-2-①-10, 27ページに前出）を開催し、その都度の議題にしたがって自己点検した内容及びその後の状況を平成17年度に学科長会議の下部組織である自己点検・評価報告書作成委員会が平成17年度自己点検・評価報告書としてまとめている（資料11-2-①-3, 240ページに前出）。平成16年度からの評議員会で使用した自己点検資料及び平成17年度自己点検・評価報告書は、本校のWebページに掲載している（資料11-3-①-1）。

資料 11-3-①-1 自己点検及び外部評価の掲載状況

独立行政法人 国立高等専門学校機構  
**高専 米子工業高等専門学校**  
 Yonago National College of Technology

▶ 入学を希望される方 ▶ 地域社会の方 ▶ 企業の方 ▶ 卒業生の方 ▶ 同窓会 ▶ 在学生の方

**CONTENTS**

- ▶ ホーム
- ▶ 学校案内
- ▶ 専攻科案内
- ▶ 学科案内
- ▶ 入学案内
- ▶ キャンパスライフ
- ▶ 各種講座案内
- ▶ 産学連携・地域サービス
- ▶ 後援会
- ▶ 同窓会
- ▶ 情報公開
- ▶ 教育・研究
- ▶ 外部評価・自己点検評価
- ▶ 施設
- ▶ 事務部案内
- ▶ 採用情報
- ▶ リンク集
- ▶ アクセス
- ▶ 利用者別メニュー

ホーム > 外部評価・自己点検評価

■ ■ 外部評価・自己点検評価 ■ ■

外部評価

自己点検評価

独立行政法人 国立高等専門学校機構  
**高専 米子工業高等専門学校**  
 Yonago National College of Technology

▶ 入学を希望される方 ▶ 地域社会の方 ▶ 企業の方 ▶ 卒業生の方 ▶ 同窓会 ▶ 在学生の方

**CONTENTS**

- ▶ ホーム
- ▶ 学校案内
- ▶ 専攻科案内
- ▶ 学科案内
- ▶ 入学案内
- ▶ キャンパスライフ
- ▶ 各種講座案内
- ▶ 産学連携・地域サービス
- ▶ 後援会
- ▶ 同窓会
- ▶ 情報公開
- ▶ 教育・研究
- ▶ 外部評価・自己点検評価
- ▶ 施設
- ▶ 事務部案内
- ▶ 採用情報
- ▶ リンク集
- ▶ アクセス
- ▶ 利用者別メニュー

ホーム > 外部評価・自己点検評価 > 外部評価

**外部評価**

■ 評議員会 議事要旨・資料

- 平成18年度第1回(H18.11.10)
- 平成17年度第3回(H18.3.30)
- 平成17年度第2回(H17.12.20)
- 平成17年度第1回(H17.7.14)
- 平成16年度第2回(H17.3.4)
- 平成16年度第1回(H16.7.13)

評議員会規則 評議員会委員選出基準

評議員会構成員

■ 外部評価報告書

- 平成13年度(H14.1.16)
- 1) 外部評価委員会委員の方々
- 2) 評 価 方 式
- 3) 平成13年度外部評価委員会実施要項
- 4) 評 価 報 告 書
- 5) 提言に対する本校の取り組み

(出典 米子高専 Web ページ)

(分析結果とその根拠理由)

本校の活動の総合的な状況について定期的に自己点検・評価を行い、必要に応じて外部の者による検証・評価を実施している。また、その結果を報告書等とするとともに、Webページに掲載・公表している。

**観点11-3-②： 評価結果がフィードバックされ、高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され、有効に運営されているか。**

(観点に係る状況)

自己点検結果及び外部評価結果は、資料11-3-①-1 (242ページに前出) のように公開しているとともに、運営会議で検討された後、運営を行う各部署に必要なに応じて周知している。各部署は、改善施策を立案・実行し、その結果について報告している。また、これらの改善の結果は評議員会資料としてまとめ、再度外部評価を受けている(資料11-2-①-4, 240ページに前出)。

(分析結果とその根拠理由)

本校は、自己点検評価や第三者評価の結果をフィードバックし、本校の目的の達成のための改善に結びつけるシステムを整備し、有効に運営している。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

定期的に総合的な項目について自己点検・評価を行い、それを基に学校運営の改善を行っている。また、自己点検結果を開示するとともに、外部有識者による評議員会を開催し、その意見を学校運営に反映している。

(改善を要する点)

該当なし

## (3) 基準11の自己評価の概要

本校は、校長、副校長、各主事の役割を学則に明確に規定し、周知している。各種委員会についても、位置づけ、所掌事項、構成員などを学内規程として定め、周知している。これらの管理運営の組織が必要に応じて連携し、学校運営上の課題等について活動案を作成し、スムーズに意思決定を行っている。

事務組織は、平成18年度までは庶務・学生・会計課の3課体制、平成19年度からは総務、学生課の2課体制で、それぞれに定められた内容の業務を行うことで、学校全体の円滑な運営に貢献している。

平成13年度及び平成17年度に総合的な自己点検・評価を行い、その結果を公表してきた。平成17年度実施分についてはWebページにも掲載している。また、本校では前述の自己点検結果を開示し、有識者、行政関係者、民間企業等の関係者などで構成する評議員会に本校の運営上の諸問題について意見を聴取している。